令和7年度 生建第2号 旧いきいきプラザ解体撤去工事

2025年7月

図　面　リ　ス　ト

表紙共　　枚

図面番号	図　面　名　称
KA-A 001	解体特記仕様書1
KA-A 002	解体特記仕様書2
KA-A 003	いきいきプラザ：解体配置図
KA-A 004	いきいきプラザ：求積図
KA-A 005	いきいきプラザ：仕上げ表　1A
KA-A 006	いきいきプラザ：仕上げ表　2A
KA-A 007	いきいきプラザ：地階平面図
KA-A 008	いきいきプラザ：１階平面図
KA-A 009	いきいきプラザ：２階平面図
KA-A 010	いきいきプラザ：３階平面図
KA-A 011	いきいきプラザ：４階平面図
KA-A 012	いきいきプラザ：屋上階平面図
KA-A 013	いきいきプラザ：西他立面図
KA-A 014	いきいきプラザ：北立面図
KA-A 015	いきいきプラザ：南立面図
KA-A 016	いきいきプラザ：断面図（１）
KA-A 017	いきいきプラザ：断面図（２）
KA-A 018	いきいきプラザ：階段群細図（１）
KA-A 019	いきいきプラザ：階段群細図（２）・EV図
KA-A 020	いきいきプラザ：矩計図（１）
KA-A 021	いきいきプラザ：矩計図（２）
KA-A 022	いきいきプラザ：断面群細図（１）
KA-A 023	いきいきプラザ：部分群細図（１）
KA-A 024	いきいきプラザ：部分群細図（２）
KA-A 025	いきいきプラザ：外構図
KA-B 101	旧越中屋本店： 配置図（参考）
KA-B 102	旧越中屋本店： 仕上表（参考）
KA-B 103	旧越中屋本店： Ｂ１・１階平面図（参考）
KA-B 104	旧越中屋本店： ２・３階平面図（参考）
KA-B 105	旧越中屋本店： ４・Ｐ・ＰＲ階平面図（参考）
KA-B 106	旧越中屋本店： 立面図（１）（参考）
KA-B 107	旧越中屋本店： 立面図（２）（参考）
KA-B 108	旧越中屋本店： 断面図（１）（参考）
KA-B 109	旧越中屋本店： 断面図（２）（参考）
KA-B 110	旧越中屋本店： 矩計図（１）（参考）
KA-B 111	旧越中屋本店： 矩計図（２）（参考）
KA-B 112	旧越中屋本店： エスカレーター廻り詳細図（参考）
KA-B 113	旧越中屋本店： 標準詳細図（参考）
KA-B 114	旧越中屋本店： 渡り廊下詳細図（参考）
KA-B 115	旧越中屋本店： Ｂ１階詳細図（参考）
KA-B 116	旧越中屋本店： ２・３階建具伏図（参考）
KA-B 117	旧越中屋本店： ４・Ｒ階建具伏図（参考）
KA-B 118	旧越中屋本店： 建具表（１）（参考）
KA-B 119	旧越中屋本店： 建具表（２）（参考）
KA-B 120	旧越中屋本店： 建具表（３）（参考）

図面番号	図　面　名　称
KA-SA 201	いきいきプラザ(構造)： 構造関係特記仕様書
KA-SA 202	いきいきプラザ(構造)： 鉄筋コンクリート構造配筋基準
KA-SA 203	いきいきプラザ(構造)： 溶接基準図
KA-SA 204	いきいきプラザ(構造)： 基礎・１階梁伏図
KA-SA 205	いきいきプラザ(構造)： 基礎リスト
KA-SA 206	いきいきプラザ(構造)： 各階伏図
KA-SA 207	いきいきプラザ(構造)： 軸組図
KA-SA 208	いきいきプラザ(構造)： 鉄骨部材・柱脚リスト
KA-SA 209	いきいきプラザ(構造)： 鉄骨詳細図
KA-SA 210	いきいきプラザ(構造)： 雑詳細図
KA-SA 211	いきいきプラザ(構造)： 外構アプローチ構造図
KA-SB 301	旧越中屋本店(構造)： 構造関係特記仕様書（１）（参考）
KA-SB 302	旧越中屋本店(構造)： 構造関係特記仕様書（２）（参考）
KA-SB 303	旧越中屋本店(構造)： ボーリング柱状図（参考）
KA-SB 304	旧越中屋本店(構造)： Ｂ１・１階伏図（参考）
KA-SB 305	旧越中屋本店(構造)： ２・３階伏図（参考）
KA-SB 306	旧越中屋本店(構造)： ４・Ｒ階伏図（参考）
KA-SB 307	旧越中屋本店(構造)： 大梁断面リスト（1）（参考）
KA-SB 308	旧越中屋本店(構造)： 大梁断面リスト（2）・柱断面リスト（参考）
KA-SB 309	旧越中屋本店(構造)： その他部材断面リスト（参考）
KA-SB 310	旧越中屋本店(構造)： 雑配筋図（参考）
KA-SB 311	旧越中屋本店(構造)： 既存部分補修要領（参考）

図面番号	図　面　名　称
KA-M 401	いきいきプラザ(設備)： 設備関係特記仕様書

図面番号	図　面　名　称
KA501	いきいきプラザ：解体ステップ図（参考）
KA502	いきいきプラザ：地下躯体解体ステップ図（参考）

KA-A　001～	解体図（意匠）	いきいきプラザ
KA-B　101～200		解体前いきいきプラザ（越中屋本店）
KA-SA 201～300	解体図（構造）	いきいきプラザ
KA-SB 301～400		解体前いきいきプラザ（越中屋本店）
KA-M　401～500	解体図（設備）	
KA　　501～600	その他	

※　旧越中屋本店（増築）　　S58(1998).10
　　いきいきプラザ（解体・増築・改修）　　H13(2001).07

設計者番号	工事名称：旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日：R4年12月
図面名：図面リスト		縮尺
代表となる設計者(総括)		図面番号：KA-000

解体特記仕様書(1)

建物概要

工事場所	新潟県妙高市朝日町１丁目他地内		
敷地面積	1,304.59 ㎡		
用　途	集会所		
構造・階数	鉄筋コンクリート造　地上4階、地下1階		
建築面積	748.78㎡ （うち解体　748.78㎡）	延べ面積	3,409.83㎡ （うち解体　3,409.83㎡）
区域区分	市街化区域	用途地域	商業地域
防火地域	準防火地域		
その他の区域	騒音規制法による規制　※あり（第3種区域）　・なし 振動規制法による規制　※あり（第2種区域）　・なし 景観計画地域（一般地域）		

施工条件

項　目	適 用 ・ 条 件 等
1 作業時間等	※指定あり　・指定なし （ありの場合の条件） ・騒音、振動規制法による作業禁止日、時間帯　（特定建設作業に限る。） ・夜間作業　㊗行わない　・ ・　・
2 駐車場その他	工事用車両の駐車場所　⊙場内（任意）　・図示　・ 資機材の置場所　⊙場内（任意）　・図示　・
3 着手前対応	※工事に先立ち、周辺住民に対して工事説明を行なう。(発注者同席予定) （説明会予定時期　・令和　年　月頃　⊙実施時期未定　）
	※建築物除却届　※必要（施工者作成とする。）　・
4 その他施工条件	（Ⅰは参考記載のため、各工事条件に併せて記述を変える。） ・本工事範囲は地下躯体の一部解体までとし、地下躯体を存置とする。 （詳細は図示。） ・本工事の後に、別途外構工事を予定している。

仕 様 書

Ⅰ　共通仕様

1.本共通仕様及び特記仕様に記載されていない事項は、「国土交通省大臣官房官庁営繕部制定　建築物解体工事共通仕様書　令和7年版」（以下「解体共仕」という。）により、解体共仕に記載されていない事項は、「国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和7年版」（以下「標仕」という。）による。

2.解体共仕に用いられている用語を、次のとおり読み替える。
(1)「工事請負契約書」を「妙高市財務規則（昭和58年10月7日規則第23号）別記（第181条関係）建設工事請負基準約款」（以下「約款」という。）に読み替える。
(2)「監督職員」を「監督員」に読み替える。
(3)「特記仕様書」を「特記仕様」に読み替える。

3.次の各号に該当する解体共仕の項目について、解体共仕の規定を別表に置き換えて適用する。
(1) 1章　1.1.2用語の定義の(ア)、(サ)及び(セ)
(2) 〃　1.6.1工事検査の(2)及び(3)

4.解体共仕の次の項目の規定は適用しない。
1章　1.1.2　用語の定義の(ソ)
〃　1.6.2　技術検査

別　表（建築工事）

号	項　目	置 き 換 え 後 の 解 体 共 仕 の 規 定
	1章　一般共通事項	
(1)	1.1.2 用語の定義	(ｱ)「監督員」とは、約款第10条の規定に基づき受注者に通知された者をいう。
		(ｻ)「書面」とは発行年月日が記載され、署名又は押印された文書をいう。
(1)	1.1.2 用語の定義	(ｾ)「工事検査」とは、約款に基づく次の各事項の確認をするために発注者又は検査職員が行う検査をいい、工事の施工体制、施工状況、出来形、品質及び出来ばえの検査（ただし、②に係る検査を除く。）を含む。 ①工事の完成(約款第32条) ②部分払の請求に係る出来形部分又は部分払指定工事材料等(約款第38条) ③部分引渡しの指定部分に係る工事の完成(約款第39条) ④契約の解除時における出来形部分(約款第49条) ⑤必要があると認めたときの臨時検査(約款第51条)
(2)	1.6.1 工事検査	(2) 約款に基づく部分払を請求する場合は、当該請求に係る出来形部分等の算出方法について監督員の指示を受けるものとする。 (3) (1)の通知又は(2)の請求に基づく検査並びに約款第49条及び第50条に規定する検査は、発注者から通知された検査日に受ける。

Ⅱ　特記仕様

1.項目は、番号に　◯印の付いたものを適用する。
2.特記事項は、⊙印の付いたものを適用する。
⊙印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
⊙印と㊗印の付いた場合は、共に適用する。
3.特記事項に記載の(　.　.　)内の表示番号は、解体共仕の当該項目、当該図または当該表を示す。
特記事項に記載の(標仕　.　.)内の表示番号は、標仕の当該項目、当該図または当該表を示す。
4.製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また(　)内は製品名を示す。

章	項　目	特　記　事　項
1 一般共通事項	1 工事実績情報の登録	※請負工事費 500万円以上の場合は登録する。　(1.1.4)
	2 監理技術者の要件	※建築工事に係る監理技術者証を有するもので、次のいずれかの要件を満たす監理技術者を専任で配置できること。 1　建築工事の施工に関し、１０年以上の実務経験を有すること。 2　一級建築士又は一級建築施工管理技士の資格取得後４年以上の実務経験を有すること。
	3 電気保安技術者	※要(　　)　(1.3.3)
	4 解体工事における監督者の要件	※解体工事の施工は、次のいずれかの者の監督の下で実施すること。 1　解体工事施工技士 2　解体工事の実務経験が１年半以上の者で、建設リサイクル法で定める「技術管理者」の資格要件を有する者。
	5 施工条件	※解体共仕によるほか、左記施工条件及び図示による。　(1.3.5)
	6 交通安全管理 （出入りの管理）	(1.3.7) ※工事現場への出入口には、解体工事期間中、交通誘導員等を配置し、公衆の交通に支障をあたえないようにしなければならない。又、近接して他の建設工事等が行われる場合には、施工者間で交通の誘導について十分な調整を行い、交通の安全を図らなくてはならない。 ※工事現場への車両等を出入りさせる場合には、道路構造物及び交通安全施設等に損害を与えることのないよう注意しなければならない。なお損傷させた場合は、直ちに当該管理者の指示により復旧しなければならない。
	（巡　　視）	※交通安全巡視員等により工事現場内及びその周辺の安全巡視を敢行し、事故防止設備の完備及びその維持管理に努めなければならない。
	7 周辺構造物対策	※工事にあたって、周辺地盤のゆるみ又は沈下、構造物の破損、汚損等に十分注意するとともに、必要に応じて構造物の補強又は養生等について、その構造物の管理者とあらかじめ協議し、危害防止のための措置を講じなければならない。
	8 公共設備等への対策	※工事による影響があると思われる範囲内の公共埋設物、架空線等の処理等について、十分配慮して工事しなければならない。 公共の埋設物、架空線等に接近して工事を施工する場合は、あらかじめその埋設物、架空線等の関係者と協議し、施工の各段階における保安上必要な措置、埋設物、架空線等の防護方法、立会の有無、緊急時の連絡先及び連絡方法等を決定しておかなければならない。
	9 発生材の処理	※構外搬出適切処理　(1.3.10) 発注者に引渡しを要する発生材 ・ＰＣＢ含有物　・金属類　・ 工事現場において再利用を図るもの及び再資源化を図るもの ・　・　・
	10 施工数量調査	調査範囲　⊙図示　・ダクトの保湿など　(1.4.2) 調査方法　・アスベスト含有調査
	11 完成図等	※下記のものを作成し提出する。作成方法・部数等は、監督員の指示による。 ⊙案内図及び配置図　⊙残置物等の配置図 ※竣工図　(A1　1部　A3　2部)　⊙ＣＡＤデータ ・下記図面をＣＡＤデータ化し電子媒体にて提出する。作成方法・媒体等は、監督員の指示による。 案内図、配置図、残置物等の配置図、その他監督員が指示した図面
	12 施工図等の取扱	施工図等の著作権に係る当該建築物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。
	13 工事完成写真	工事完了後、整理のうえ監督員に提出する。　※提出部数　1部
	14 工事施工状況写真	撮影は、工事に係る材料、施工状況が確認できるように行うものとし、「国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 営繕工事写真撮影要領(令和3年改定)・同解説 工事写真の撮り方 建築編」を参考に、撮影計画書を作成して監督員に提出する。 ただし、あらかじめ監督員の承諾を受けた場合は、撮影計画書の作成を省略できる。 ※提出部数　1部
2 仮設工事	1 騒音・粉じん等の対策	㊗防音パネル　※防音シート　・養生シート　(2.2.1) 防音パネルの設置範囲と高さ 設置範囲：図示 高　さ：図示
	2 足場その他	外部足場は枠組足場とする。　(2.2.2) 「手すり先行工法に関するｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ」に基づく足場の設置に当たっては、同ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝの別紙1「手すり先行工法による足場の組立等に関する基準」における2の(2)手すり据置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。 内部解体足場　⊙架台足場　⊙枠組棚足場　・枠組本足場　⊙脚立足場
	3 総合仮設計画	㊗現場作業の安全確保、及び第三者災害の防止を目的として総合仮設計画を作成し、監督員の承諾を受ける。
	4 監督員用事務所等	・監督員事務所　・10　⊙20　・35　・65　・　㎡程度を設ける。　(2.3.1) ・仮設事務所の中に監督員用空間を　㎡程度確保する。 ・監督員が使用できる備品として、下記のものを工事期間中現場に用意し、貸与する。 ・保護帽　ケ　・雨具　着　・長靴　足　・安全帯　組
	5 工事用水	構内既存の施設　㊗利用できない　・利用できる（※有償　・無償）
	6 工事用電力	構内既存の施設　㊗利用できない　・利用できる（※有償　・無償）
	7 仮設建物等	現場事務所、倉庫、下小屋等の仮設建物の位置はあらかじめ監督員の承諾を受ける。 トイレ（水洗）を設置する。
	8 山留めの撤去	埋め戻し　⊙砂　・　(2.4.3)
3 解体施工	1 事前措置	※浄化槽・排水槽等の汚水・汚物等を処理し、洗浄、消毒等を行う。　(3.2.1) ※オイルタンク、オイルサービスタンク及び配管内の廃油を処理し、洗浄等を行う。
	2 機器等の解体	※工事範囲内の機器類は、各種別ごとに分別解体する。　(3.4.1) 設備機器等は専門業者又はメーカーが解体し、バッテリー液・フロンガス等は関係法令に基づき適正に処分する。
	3 基礎及び杭	杭の撤去　※行う　⊙残置[地下及び基礎残置（図示）]　(3.9.2) 残置または一部撤去の場合の処理 ㊗杭種、杭径、位置、杭頂部高さ等の記録を整備し、監督員に提出する。 解体方法　※引抜き　・破砕　・杭頭はつり（図示） 引き抜いた杭の処理　・ 杭撤去跡の処理　・山砂　⊙流動化処理土　・セメントミルク　・ 杭の種類 ・遠心力鉄筋コンクリートくい　・高強度プレストレスコンクリートくい ・場所打ちコンクリートくい　・木ぐい ・ＲＣパイル　⊙鋼矢板
		建物名等 ｜ 杭径 ｜ 長さ ｜ 本数 ｜ 備　考
	4 さく、照明設備等の付属物	付属物の解体　・行わない　⊙行う（・　⊙図示）　(3.10.1)
	5 構内舗装等	樹木等の伐採・伐根　・行わない　⊙行う（・　・図示）　(3.11.1) 支障となる樹木の移植　・行わない　⊙行う（・　・図示）
	6 地下埋設物及び埋設配管	撤去する地下埋設物、埋設配管　(3.12.1) ⊙あり（⊙図示　・　）　・なし
	7 解体後の整地 （地下埋戻しを含む）	埋戻し及び盛土　⊙A種　・B種　・C種　・D種　(標仕3.2.3)(標仕表3.2.1) （砂質良質土又は流動化処理土） 発生土の処理　・構内指示の場所　（・敷均し　・堆積　）　(標仕3.2.5) ⊙構外搬出適切処理（指定場所：　） ・処分地未特定のため、場内仮置きとし契約後変更とする
	8 火気使用作業等	※解体工事時にガスバーナーでオイルタンクやアスファルト防水層の近くを切断する時、爆発や火災発生の危険性がある場合には、事前に所轄の消防署へ連絡し、適切な措置を講じて作業しなければならない。
4 建設廃棄物の処理	1 再資源化等	中間処理、再資源化施設　※「追加特記６ 建設廃棄物の処理」による。(4.4.1) 再資源化する建設廃棄物 ※建設リサイクル法による特定建設資材廃棄物　※金属類 ※資源有効利用促進法に基づく指定再資源化製品 ※資源有効利用促進法に基づく指定再利用促進製品 ・廃棄物処理法に基づく水銀使用製品産業廃棄物 ・硬質ポリ塩化ビニル管及び継手　・ガラス 指定建設資材廃棄物としての木材の縮減(焼却)　※不可　・可 再資源化して現場で利用する建設廃棄物 ・　・
	2 処理に注意を要する建設廃棄物	処理に注意を要する建設廃棄物　(4.5.1) ・せっこうボード(石綿含有)　・せっこうボード(ひ素･カドミウム含有) ・せっこうボード(上記以外) ・ＣＣＡ処理木材(クロム･銅･ひ素化合物系防腐処理木材) 処理の方法 ⊙解体共仕第４章５節による。 施工に先立ち、処理計画書を作成し、監督員の承諾を受けること。
5 特別管理産業廃棄物の処理	1 廃石綿等	※６　石綿含有建材の除去及び処理による。　(5.4.1(1))
	2 ＰＣＢ含有機器類	調査方法　・製造所、製造年、型式等による調査　(5.4.1(2)) ・専門分析機関による微量ＰＣＢ分析調査 調査対象　・　・ 上記のほかにも含有が疑われる機器があった場合は調査を行う。
	3 ＰＣＢ含有シーリング材	事前調査等　・行う(下記の要領で分析する)　⊙行わない　(5.4.1(3)) 現場においてｻﾝﾌﾟﾙを採集し、専門分析機関で分析を行う。 採取箇所　※外壁目地　・建具周囲目地　・図示 採取箇所数　・部材が異なる毎に1箇所　・図示 分析によりPCBの含有が確認された場合は、下記により施工調査等を行い、適切に処理を行う。 調査範囲　※工事範囲全て　・図示 調査内容　ｼｰﾘﾝｸﾞ使用部位及び長さの確認 施工範囲と工事監理区分の確認 仮設計画 廃棄物等の搬出方法
	4 廃　油	処理方法　・焼却処分　・中間処理施設による再生処理　(5.4.1(4)) ⊙処理業者に引渡し
	5 廃酸・廃アルカリ	処理方法　・中和処理　・焼却処分　(5.4.1(5)) ・中間処理施設による再生処理
	6 ダイオキシン類	サンプリング調査　・行う　⊙行わない　(5.4.1(6)) 材 料 名 ｜ 調査箇所 ｜ 測定方法 焼却施設の解体及び処分の方法　・ ダイオキシン類対策特別措置法施行令(平成11年政令第 433号)その他関係法令に従い、適切に処理すること。
6 石綿含有建材の除去及び処理	1 共通	※建築物の解体等工事、石綿除去について、以下の基準を適用する。 ・建築物等の解体等の作業及び労働者が石綿等にばく露するおそれがある建築物等における業務での労働者の石綿ばく露防止に関する技術上の指針 （平成26年3月31日付け　技術上の指針公示第21号） ・建築物の解体等工事における石綿粉じんへのばく露防止マニュアル （建設労働災害防止協会） ・建築物の解体等に係る石綿飛散防止対策マニュアル2014.6 （環境省水・大気環境局大気環境課） ・石綿含有仕上塗材の除去等作業における石綿飛散防止対策について （平成29年５月30日付け　環水大大発第1705301号） ・石綿含有仕大気汚染防止法の一部を改正する法律について （令和２年11月30日付け　環水大大発第2011301号） ・石綿障害予防規則等の一部を改正する省令等の施行について （令和２年８月４日付け　基発0804第８号）
	2 施工調査	工事着手に先立ち、目視及び貸与する設計図書等により石綿を含有している吹付材、成形板、建築材料等の使用の有無について調査する。　(6.1.3) 調査範囲　・　・図示 貸与資料　⊙分析報告書 分析による石綿含有の調査　⊙行う(下表による)　・行わない 材 料 名 ｜ 定性分析方法 ｜ 定量分析方法 吹付タイル ｜ ⊙　箇所 ｜ ・　箇所 ビニル床シート ｜ ⊙　箇所 ｜ ・　箇所 ソフト巾木 ｜ ⊙　箇所 ｜ ・　箇所 上記以外に調査が必要と思われる箇所があった場合は、監督員と協議すること。
	3 石綿粉じん濃度測定	石綿粉じん濃度測定　⊙行う　・行わない　[6.1.4] 測定時期、場所及び測定点 適用 ｜ 測定名称 ｜ 測定時期 ｜ 測定場所 ｜ 測定箇所数（各処理作業室ごと） ・ ｜ 測定 1 ｜ 処理作業前 ｜ 処理作業室内 ｜ ・(3)点 ・ ｜ 測定 2 ｜ ｜ 施工区画周辺又は敷地境界 ｜ ⊙4方向各1点　・(　)点 ・ ｜ 測定 3 ｜ 処理作業中 ｜ 処理作業室内 ｜ ・(3)点 ・ ｜ 測定 4 ｜ ｜ ｾｷｭﾘﾃｨｿﾞｰﾝ入口 ｜ ・(2)点 ・ ｜ 測定 5 ｜ ｜ 集じん・排気装置の排出口(処理作業室外の場合) ｜ ⊙出口吹出し風量 1m/s以下の位置各1点　・(　)点 ・ ｜ 測定 6 ｜ ｜ 施工区画周辺又は敷地境界 ｜ ⊙4方向各1点　・(　)点 ・ ｜ 測定 7 ｜ 処理作業後（隔離ｼｰﾄ撤去前） ｜ 処理作業室内 ｜ ・(3)点 ・ ｜ 測定 8 ｜ ｜ 施工区画周辺又は敷地境界 ｜ ⊙4方向各1点　・(　)点

設計番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名 解体特記仕様書（1）		縮尺
代表となる設計者(担当)		図面番号 KA-A001

6 石綿含有建材の除去及び処理

3 石綿粉じん濃度測定

測定方法

・自動測定器による測定

測定名称	測定方法
・測定 4 ・測定 5	粉じん相対濃度(ﾃﾞｼﾞﾀﾙ粉じん)計、ﾊﾟｰﾃｨｸﾙｶｳﾝﾀｰ、繊維状粒子自動測定器(ﾘｱﾙﾀｲﾑﾌｧｲﾊﾞｰﾓﾆﾀｰ)等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定

⊙JIS K 3850-1に基づいた測定

測定名称	ﾒﾝﾌﾞﾚﾝﾌｨﾙﾀ直径(mm)	試料の吸引流量(L/min)	試料の吸引時間(min)
・測定 4　・測定 5 ・	25	5	30
・測定　・	47	10	120
・測定　・	47	10	240
・測定　・			

⊙報告書の作成（記録すべき項目）

ｱ.測定結果

ｲ.測定時間

ｳ.測定位置（測定高さとともに図面上に記載）

ｴ.サンプリング条件（メンブレンフィルタ直径、吸引時間、吸引空気量）

ｵ.マウンティング方法

ｶ.顕微鏡視野面積、計数視野数

ｷ.測定時（各測定場所ごと天候、温度、湿度、外気の風速及び風向）

4 石綿含有吹付け材の除去

除去工法　(6.3.2)

※解体共仕第６章３節による。

・

5 石綿含有保温材等の除去

除去工法　(6.4.3)

※粉じん飛散抑制剤等による湿潤化の後、手ばらしで行う。

・掻き落し･破砕･切断等による除去を行う。

※「３　石綿含有吹付け材の除去」により、作業場を隔離する。

6 除去した石綿含有吹付け材等のこん包及び飛散防止

除去した石綿含有吹付け材・保温材等のこん包及び飛散防止　(6.3.2)(6.4.3)

※密封処理（二重袋梱包）

※湿潤化

・固型化（※セメント固化　・　　）

7 石綿含有成形板の除去

作業場の区画　(6.5.2)

建物内部で除去を行う場合、除去作業場所と他の場所を隔てるため、開閉部位（出入口、換気口、窓等）は閉とし、ガラスの破損箇所等で開となっている部位を養生ｼｰﾄ等で塞ぐ。

石綿含有成形板の種類

材料名	使用部位	厚さ(mm)	備考

※上記以外に石綿含有が疑われる建材があった場合は、速やかに監督員と協議すること。

8 除去した石綿含有吹付け材等の保管、運搬、処分等

除去した石綿等の処理　(6.3.3)(6.4.4)(6.5.4)

※各種廃棄物分類に応じた最終処分場で埋立処分

・中間処理

・アスベストの中間処理に適する溶融施設において溶融処理

・大臣認定を受けた無害化処理施設において無害化処理

7 追加特記

1 公共事業労務費調査への協力

※協力する

2 工事監理方式

共同監理　⊙ 有り　・ 無し

3 適用基準等

・営繕工事電子納品要領（国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課施設評価室監修）

※工事運行マニュアル（新潟県土木部都市局営繕課作成）

4 工事成績評定（対象外）

・受注者は、工事成績評定の対象となる工事施工において、自ら立案し実施した創意工夫や工事特性に関する項目、または地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、工事完了までに所定の様式により提出することができる。（様式等は、工事運行マニュアルによる。）

5 工事機械

（機械の選定）

※機械の選定に当たっては、地域の安全及び環境対策上、転倒、騒音、振動等について十分注意して行なわなければならない。また工事規模、施工方法等に見合った、安全な作業ができる能力をもった機械を選定しなければならない。機械の能力を十分に把握･検討し、その能力を超えて使用してはならない。

（組立及び解体）

※機械の組立及び解体に当たっては、機械に精通した者の直接の指導により、定められた手順を厳守しなければならない。

（使用及び移動）

※建設機械を使用し又は移動させる場合は、機械類に関する関係法令を厳守し、架線その他の構造物に接触し、若しくは定められた範囲以上に近接し、又は道路等に損害を与えることがないようにしなければならない。

※建設機械を作動させる範囲は、原則として工事現場内としなければならない。やむを得ず工事現場外で使用させる場合には、作業範囲内へ立ち入りを制限する等措置を講じなければならない。

※架線、構造物又は工事現場の境界に近接して建設機械を使用する場合には、車止めの措置、ブームの回転に対するストッパーの使用、近接電線に対する絶縁材の装着、見張り員の配置等の措置を講じなければならない。

（移動式クレーン）

※移動式クレーンの選定に当たっては、自立できるもので、施工条件、近隣環境等と施工計画との関連を検討して、安全な作業ができる能力を持った機械を選定しなければならない。

※移動式クレーンを使用する場合には、作業範囲、作業条件を考慮して、安定度接地圧、アウトリガーの反力等の検討・確認を行い、適切な作業地盤上で使用しなければならない。

※移動式クレーンを使用する場合には、高所及び敷地周辺から、吊荷、吊具等の落下、飛散等に十分注意すると共に、これらによる危害を防止するための措置を講じなければならない。

（排出ガス対策型等建設機械）

※共通事項特記仕様書　「排ガス対策型建設機械等に関する特記仕様書」による。

6 建設廃棄物の処理等

1 再生資材の利用

下記資材の使用に際し、再生資材を利用すること。

再生資材名	規格	使用箇所	再資源化施設名・所在地	備考

2 建設発生土の利用

盛土等に使用する発生土は、下記の工事からの建設発生土を利用すること。

発注機関	工事名	発生場所	施工会社名・連絡先	備考

3 建設発生土の搬出

工事の施工により発生する建設発生土は、下記の場所に搬出すること。

受入工事名／施設名称		
工事場所／施設所在地		
連絡先		
仮置場所の有無		
備考		

4 建設廃棄物の搬出

工事の施工により発生する廃棄物は、下記の場所に搬出するものとして積算している。

搬出する廃棄物名		
処理施設名称		
施設所在地		
連絡先		
備考		

搬出する廃棄物名		
処理施設名称		
施設所在地		
連絡先		
備考		

搬出する廃棄物名		
処理施設名称		
施設所在地		
連絡先		
備考		

上表は積算上の条件であり、処理施設を指定するものではない。

なお、受注者の提示する施設と異なる場合においても設計変更の対象としない。

ただし、現場条件や数量の変更等、受注者の責によるものでない事項についてはこの限りではない。

5 建設リサイクル法の対象建設工事において、特定建設資材廃棄物の再資源化等が完了したときは、同法第１８条に基づき再資源化等完了報告書を提出すること。

6 再生資源利用計画書を作成するものとする。

7 再生資源利用促進計画書を作成するものとする。

8 自ら産業廃棄物を運搬・処分する場合以外は、委託契約書の写しを提出すること。

9 特殊な副産物の処理等については、解体共仕第７章３節による。

10 協議について

建設工事発注後に明らかになったやむを得ない事情により、１～９の指定や条件によりがたい場合は、速やかに監督員に報告し、協議すること。

8 周辺建築物等調査

1 周辺建築物等調査（妙高市が実施する）

（調査）

1 調査は一般的事項調査、事前調査及び事後調査に区分して行うものとする。

（一般的事項）

1 事前調査の実施に当たっては、調査区域内に存する建物等につき、建物の所有者ごとに次の各号の調査を行うものとする。

一 建物の敷地ごとに建物等（主たる工作物）の敷地内の位置関係

二 建物ごとに実測による間取り平面及び立面

三 建物等の所在地及び地番並びに所有者の氏名及び住所

現地調査において所有者の氏名及び住所が確認できないときは、必要に応じて登記簿謄本等の閲覧等の方法により調査を行う。

四 その他調査書の作成に必要な事項

（事前調査）

1 受注者は、（一般的事項）の調査が完了したときは、当該建物等の既存の損傷箇所の調査を行うものとし、当該調査は、原則として、次の部位別に行うものとする。

一 基礎

二 軸部

三 開口部

四 床

五 天井

六 内壁

七 外壁

八 屋根

九 水回り

十 外構

2 建物の全体又は一部に傾斜又は沈下が発生しているときは、次の調査を行うものとする。

一 傾斜又は沈下の状況を把握するため、原則として、当該建物の四方向を水準測量又は傾斜計等で計測する。この場合において、事後調査の基準点とするため、沈下等のおそれのない堅固な物件を定めて併せて計測を行う。

二 コンクリート布基礎に亀裂が生じているときは、建物の外周について、発生箇所及び状況（最大幅、長さ）を計測する。

三 基礎のモルタル塗り部分に剥離又は浮き上がりが生じているときは、発生箇所及び状況（大きさ）を計測する。

四 計測の単位は幅についてはミリメートル、長さについてはセンチメートルとする。

3 軸部（柱及び敷居）に傾斜が発生しているときは、次の調査を行うものとする。

一 原則として、当該建物の工事箇所に最も接近する壁面の両端の柱及び建物中央部の柱を全体で３箇所程度計測する。

二 柱の傾斜の計測位置は、直交する二方向の床（敷居）から１メートルの高さの点とする。

三 敷居の傾斜の計測位置は、柱から１メートル離れた点とする。

四 計測の単位は、ミリメートルとする。

4 開口部（建具等）に建付不良が発生しているときは、次の調査行うものとする。

一 原則として、当該建物で建付不良となっている数量調査を行った後、主たる居室のうちから一室につき１箇所程度とし、全体で５箇所程度を計測する。

二 測定箇所は、柱又は窓枠と建具との隙間との最大値の点とする。

三 建具の開閉が滑らかに行えないもの、又は開閉不能及び施錠不良が生じているものは、その程度と数量を調査する。

四 計測の単位はミリメートルとする。

5 床に傾斜等が発生しているときは、次の調査を行うものとする。

一 えん甲板張り等の居室（敷居の居室を除く。）について、気泡水準器で直交する二方向の傾斜を計測する。

二 床仕上げ材に亀裂及び緩切れ又は剥離、破損が生じているときは、それらの箇所及び状況（最大幅、長さ又は大きさ）を計測する。

三 束又は大引、根太等床材に緩みが生じているときは、その程度を調査する。

四 計測の単位は、幅についてはミリメートル、長さ及び大きさについてはセンチメートルとする。

6 天井に亀裂、緩切れ、雨漏等のシミが発生しているときの調査は、内壁の調査に準じて行うものとする。

7 内壁にちり切れ（柱及び内法材と壁との分離）が発生しているときは、次の調査を行うものとする。

一 居室ごとに発生箇所数の調査を行った後、主たる居室のうちから一室につき１箇所、全体で６箇所程度計測する。

二 計測の単位は、幅についてはミリメートルとする。

8 内壁に亀裂が発生しているときは、次の調査を行うものとする。

一 原則として、すべて亀裂の計測をする。

二 計測の単位は、幅についてはミリメートル、長さについてはセンチメートルとする。

三 亀裂が一壁面に多数発生している場合にはその状態をスケッチするとともに、壁面に雨漏等のシミが生じているときは、その形状、大きさの調査をする。

9 外壁に亀裂が発生しているときは、次の調査を行うものとする。

一 四方向の立面に生じている亀裂等の数量、形状等をスケッチするとともに、一方向の最大の亀裂から２箇所程度を計測する。

二 計測の単位は、幅についてはミリメートルとし、長さについてはセンチメートルとする。

10 屋根（庇、雨樋を含む。）に亀裂又は損傷などが発生しているときは、当該建物の屋根伏図を作成し、次の調査を行うものとする。

一 仕上げ材ごとに、その損傷の程度を計測する。

二 計測の単位は、原則として、センチメートルとする。ただし、亀裂の幅についてはミリメートルとする。

11 水廻り（浴槽、台所、洗面所等）に亀裂、破損、漏水等が発生しているときは、次の調査を行うものとする。

一 浴槽、台所、洗面所等の床、腰、壁面のタイル張りに亀裂、剥離、目地切れ等は生じているときは、すべての損傷を第８項に準じて行う。

二 給水、排水などの配管に緩み、漏水等が生じているときは、その状況を調査する。

12 外構（テラス、コンクリート叩、ベランダ、犬走り、池、浄化槽、門柱、塀、擁壁等の屋外工作物）に損傷が発生しているときは、前１１項に準じて、その状況等の調査を行うものとする。この場合において、必要に応じ、当該工作物の平面図、立面図等を作成し、損傷箇所、状況等を記載する。

（写真撮影）

1 （事前調査）に掲げる建物等の各部位の調査に当たっては、計測箇所を次の各号により写真撮影するものとする。この場合において、写真撮影が困難な箇所又はスケッチによることが適当と認められる箇所については、スケッチによることができるものとする。

一 カラーフィルムを使用する。

二 撮影対象箇所数を指示棒等により指示し、次の事項を明示した黒板等と同時に撮影する。

（１）調査番号、建物番号及び建物所有者の氏名

（２）損傷名及び損傷の程度（計測）

（３）撮影年月日、撮影番号及び撮影対象箇所

（事後調査）

1 受注者は、事前調査を行った建物等について損傷箇所等の変化及び工事によって新たに発生した損傷について、その状態及び程度を調査するものとする。

2 事前調査の調査対象外であって、事後調査の対象となったものについては、（一般的事項）に準じた調査を行ったうえで損傷箇所の調査を行うものとする。

調査書の作成

（事前調査等の作成）

1 受注者は、次の各号の事前調査書及び図面を作成するものとする。

一 調査区域位置図

二 調査区域平面図

三 建物等調査一覧表

四 建物等調査書（平面図・立面図等）

五 損傷調査書

六 写真集

（事前調査書及び図面）

1 受注者は、事前調査事項及び図面を次の各号により作成するものとする。

一 調査区域位置図は、工事の工区単位ごとに作成するものとし、調査区域と工事箇所を併せて表示する。この場合の縮尺は、5,000分の1又は10,000分の1程度とする。

二 調査区域平面図は、調査区域内の建物の配置を示す平面図で工事の工区単位又は調査単位ごとに次により作成する。

（１）調査を実施した建物については、建物等調査一覧表で付した調査番号及び建物番号を記載し、建物の構造別に色分けし、建物の外枠（外壁）を着色する。この場合の構造別色分けは、木造を赤色、非木造を緑色とする。

（２）縮尺は、500分の1又は、1,000分の1程度とする。

三 建物等調査一覧表は、工事の工区単位又は調査単位ごとに調査を実施した建物等について調査番号、建物番号（同一所有者が２棟以上の建物等を所有している場合）の順に建物等の所在地及び番地、所有者並びに建物等の概要等必要な事項を記入する。

四 建物等調査図（平面図・立面図等）は、（一般的事項）及び（事前調査）の結果を基に建物等ごとに次により作成するものとする。

（１）建物平面図は、縮尺100分の1で作成し、写真撮影を行った位置を表示するとともに建物延べ面積、各階別面積及びこれらの計算式を記入する。

（２）建物立面図は、縮尺100分の1により、原則として、四面（東西南北）作成し、外壁の亀裂等の損傷位置を記入する。

（３）その他調査図（基礎伏図、屋根伏図及び展開図）は、発生している損傷を表示する必要がある場合に作成し、縮尺は100分の1又は10分の1程度とする。この場合において写真撮影が困難であり、又は鮮細（スケッチ）図を作成することが適当であると認めたものについては、スケッチによる調査図を作成する。

（４）工作物の調査図は、損傷の状況及び程度により建物に準じて作成する。

五 損傷調査書は一般的事項及び事前調査の結果に基づき、建物ごとに建物等の所有者名、建物の概要、名称（室名）、損傷の状況を記載して作成し、損傷の状況については、事前調査欄に損傷名（亀裂、沈下、傾斜等）及び程度（幅、長さ及び箇所数）を記載する。

六 写真は、撮影したものをカラーサービス判で焼付し、撮影箇所及び状況の記載を行ったうえでファイルする。

（事後調査書等の作成）

1 受注者は、事後調査を行ったときは、事前調査書及び図面を基に建物等の概要、損傷箇所の変化及び工事によって新たに発生した損傷について、事前調査等の作成の調査書及び図面を作成するものとする。

2 調査対象範囲

・ 配置図に対象エリアと建物リスト等の記載による。

⊙ KA504 家屋調査：家屋調査範囲図・調査対象リスト(参考)による。

3 近隣に対する措置

1 周辺建物調査データ（妙高市実施）

⊙貸与する。

※調査範囲外の事項について調査が必要な場合は監督員と協議の上、決定する。

2 工事の影響度調査等

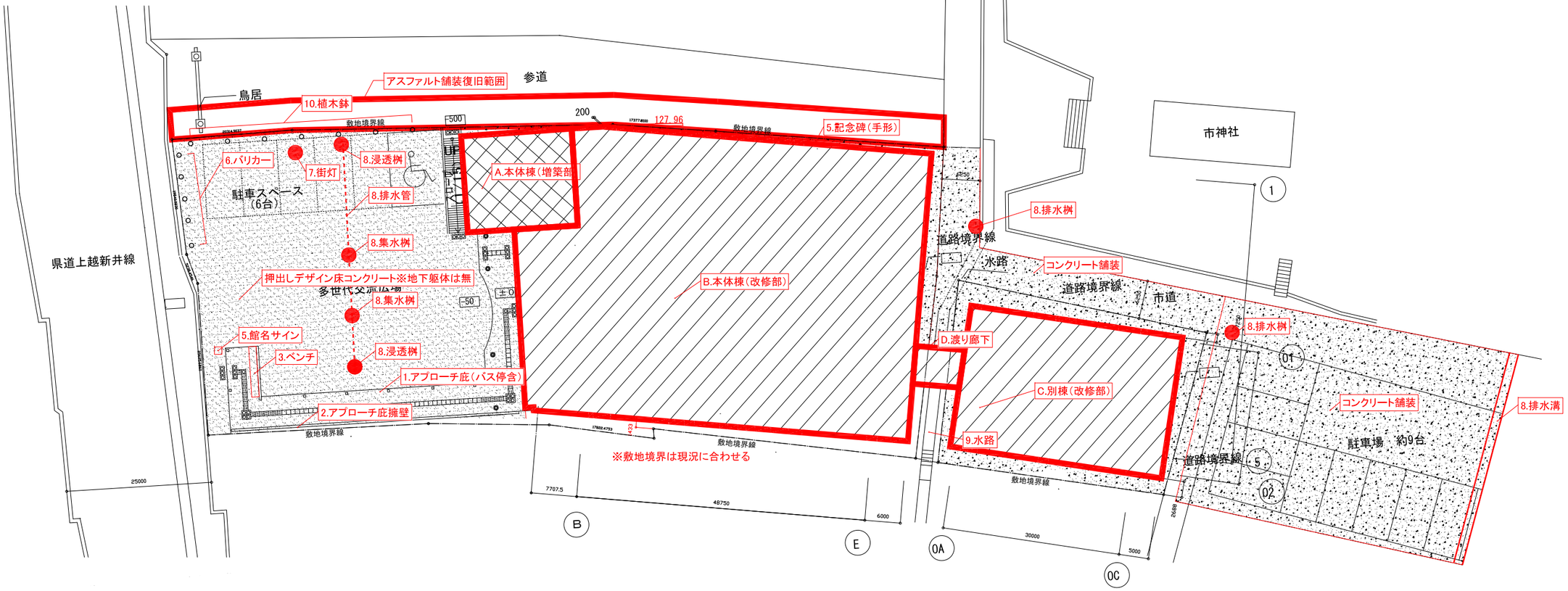
⊙工事中（または施工後）周辺住民等から工事の影響等について申し出があった場合は、速やかに監督員に報告する。

⊙施工者は監督員との協議に基づき、影響度確認調査を行い、被害の程度、範囲等を具体的な数値を示した報告書を監督員に提出する。

3 工事により、近隣家屋等に損傷を与えたことが明らかな場合は、受注者の責任において損傷箇所の補修又は復旧を行うこと。

設計番号	工事名称：旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日：R4年12月
図面名：解体特記仕様書（2）		縮尺：－
代表となる設計者(総括)		図面番号：KA-A002

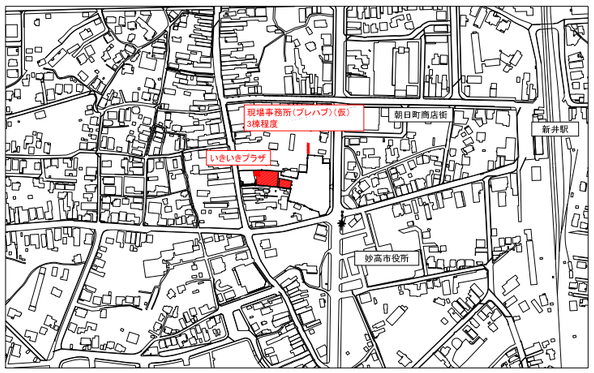
現いきいきプラザ配置図　S=1/150



床面積表

	本体棟			別棟	渡り廊下	合　計
	B.既存改修面積	A.増築面積	計	C.増築なし改修のみ	D.増築なし改修のみ	
R　階	154.04㎡		154.04㎡	40.83㎡		194.87㎡
4　階	498.23㎡	47.89㎡	546.12㎡	58.15㎡	8.10㎡	612.37㎡
3　階	498.23㎡	47.89㎡	546.12㎡	134.43㎡	8.18㎡	688.73㎡
2　階	498.23㎡	47.89㎡	546.12㎡	134.43㎡	8.18㎡	688.73㎡
1　階	467.81㎡	47.89㎡	515.70㎡	117.89㎡	8.25㎡	641.84㎡
地　階	466.88㎡		466.88㎡	116.41㎡		583.29㎡
計	2583.42㎡	191.56㎡	2774.98㎡	602.14㎡	32.71㎡	3409.83㎡

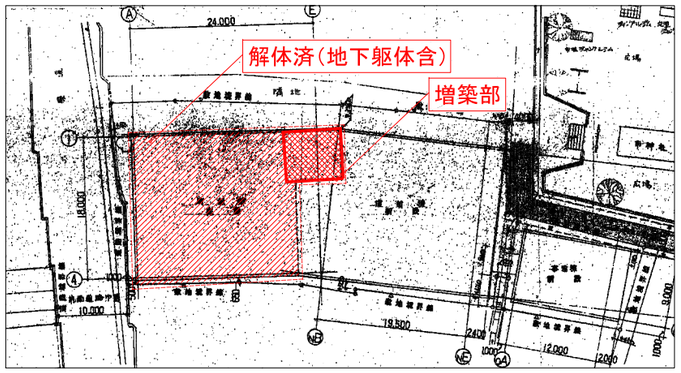
案内図　S=1/4000



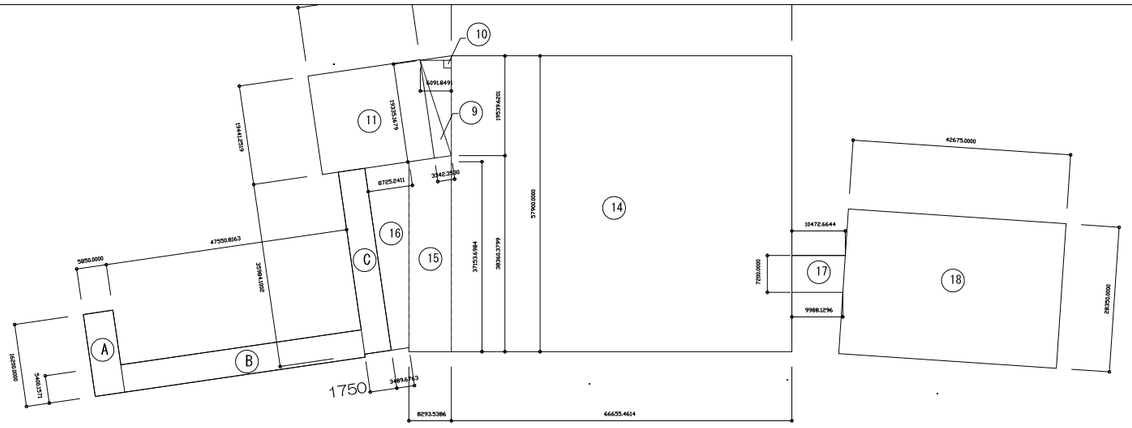
解体物リスト

解体物リスト				
No.	名称	場所	取り扱い	仕様
A	本体棟（増築部）	敷地内西側	撤去	
B	本体棟（改修部）	敷地内中央	撤去	
C	別棟（改修部）	敷地内中央	撤去	
D	渡り廊下	敷地内中央	撤去	
1	アプローチ庇（バス停含）	敷地内西側	撤去	金属屋根
2	アプローチ庇擁壁	敷地内北西側	撤去	高さ2.5m程度
3	ベンチ	敷地内西側	撤去	2台（コンクリート製・木製 W1.0m×D0.8m程度）
4	館名サイン	敷地内西側	要協議	
5	記念碑（手形）	敷地内北西側	要協議	
6	バリカー	敷地内西側	撤去	5本程度（鋼製 H400mm 500mmφ程度）
7	街灯	敷地内西側	撤去	高さ5m程度（鋼製）
8	排水溝・排水桝・集水桝・浸透桝など	複数	撤去	図示
9	水路	敷地内中央	残置	
10	植木鉢	敷地内西側	撤去	6個（木製 W1.0m×D1.0m×H0.5m程度）

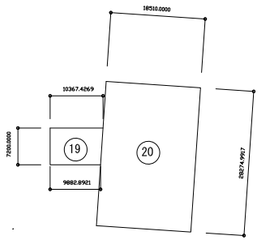
旧越中屋本店　S=1/400



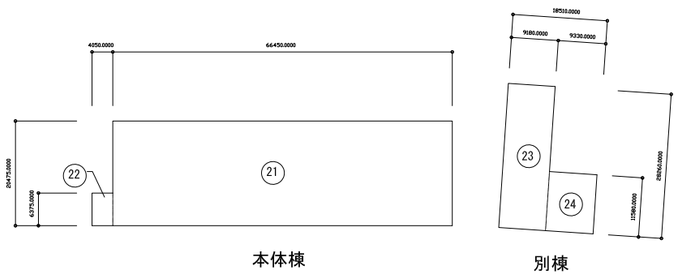
設計番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事		作成日 R4年12月
図面名 いきいきプラザ：解体配置図		1:150(A1) 1:300(A3)	縮尺
代表となる設計者(総括)			図面番号 KA-A003



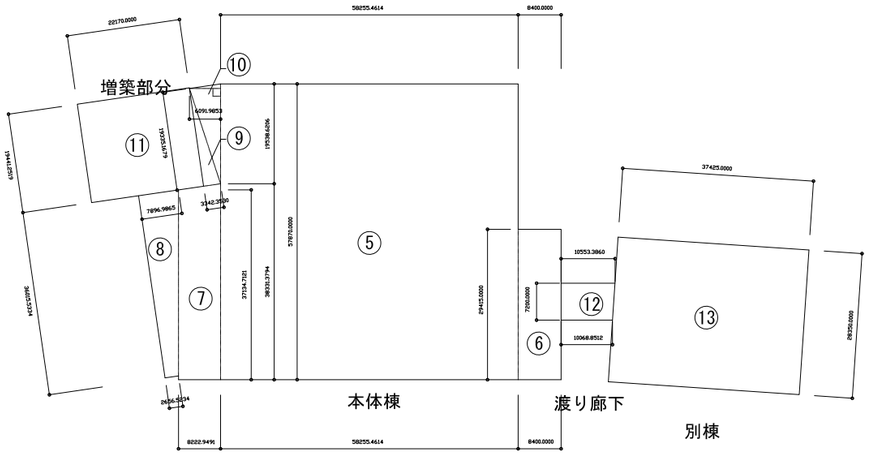
２、３階求積図　1:200



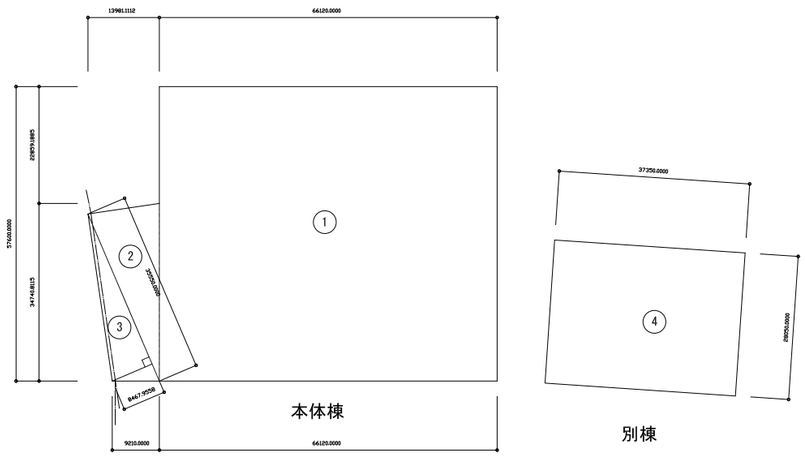
4階求積図　1:200
（本体棟部分は２階求積図に倣う）



R階求積図　1:200



１階求積図　1:200



地階求積図　1:200

本体棟　既存改修面積求積表

号階記		計算式			面積(㎡)
地階	①	19.200×22.040	＝	423.17	466.88
	②	11.580× 4.660×0.5	＝	26.98	
	③	11.850× 2.823×0.5	＝	16.73	
1階	⑤	19.290×19.418	＝	374.57	467.81
	⑥	9.805× 2.800	＝	27.45	
	⑦	(12.378+12.777)× 2.741×0.5	＝	34.47	
	⑧	(0.886+ 2.632)×12.005×0.5	＝	21.12	
	⑨	6.445× 1.114×0.5	＝	3.59	
	⑩	6.513× 2.031×0.5	＝	6.61	
2階	⑭	19.300×22.218	＝	428.81	498.23
	⑮	(12.385+12.787)× 2.765×0.5	＝	34.80	
	⑯	(1.163+ 2.908)×11.995×0.5	＝	24.42	
	⑨	6.445× 1.114×0.5	＝	3.59	
	⑩	6.513× 2.031×0.5	＝	6.61	
3階		2階計算式より			498.23
4階		2階計算式より			498.23
R階	㉑	6.825×22.150	＝	151.17	154.04
	㉒	2.125× 1.350	＝	2.87	
合計					2,583.42

本体棟増築面積 求積表

号階記		計算式			面積(㎡)
1階	⑪	6.480×7.390	＝	47.89	47.89
2階	⑪	1階計算式より			47.89
3階	⑪	1階計算式より			47.89
4階	⑪	1階計算式より			47.89
合計					191.56

別棟 求積表

号階記		計算式			面積(㎡)
地階	④	9.350×12.450	＝	116.41	116.41
1階	⑬	9.450×12.475	＝	117.89	117.89
2階	⑱	9.450×14.225	＝	134.43	134.43
3階	⑱	3階計算式より			
4階	⑳	9.425× 6.170	＝	58.15	58.15
R階	㉓	9.420× 3.060	＝	28.83	40.83
	㉔	3.860× 3.110	＝	12.00	
合計					602.14

渡り廊下 求積表

号階記		計算式			面積(㎡)
1階	⑬	9.450×12.475	＝	8.25	8.25
2階	⑱	9.450×14.225	＝	8.18	8.18
3階	⑱	3階計算式より			8.18
4階	⑳	9.425× 6.170	＝	8.10	8.10
合計					32.71

建築面積 求積表

	記号	計算式		面積(㎡)
		本体棟2階既存改修面積より		498.23
		本体棟2階増築面積より		47.89
		別棟2階床面積より		134.43
		2階渡り廊下床面積より		8.18
	Ⓐ	5.400× 1.950	＝	10.53
	Ⓑ	1.800×15.850	＝	28.53
	Ⓒ	11.995× 1.750	＝	20.99
合計				748.78

設計番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名 いきいきプラザ：求積図・求積表		縮尺 1:200 (A1) 1:400 (A3)
代表となる設計者(総括)		図面番号 KA004

外部仕上表

本体棟（既存部分）

屋　根	現状	ＡＳ防水層　押えコンクリート厚60　人工芝敷き	パラペット立上：ＡＳ防水層　ラスモルタル塗り パラペット天端：ＡＳ防水層　ラスモルタル塗り		
	改修後	人工芝敷き撤去の上　高圧水洗浄　　ＲＤ廻り　取り外しの上掃除	屋上手スリを解体撤去建物から一部移設する。		
外　壁	現状	東面一部と南面：コンクリート打放し及びＡＬＣ版の上リシン吹付け 北面と東面の一部：コンクリート打放し化粧目地　複層吹付材Ｅ			
	改修後	高圧水洗浄　下地処理の上　仕上塗材（B）　クラック部等エポキシ樹脂シール工法			
建　具	現状	ビル用アルミサッシ　他　スチールドア			
	改修後	東側壁面　ビル用サッシ新設　既存サッシ廻りのシーリング撤去後再施工　北側カーテンウォールの改修 スチールドア　ＯＰ塗替　「延焼のおそれのある部分」既存サッシガラスを網入ガラスに入替			
軒　天	現状	東側：塩ビ鋼鈑スパンドレルφ1.2	竪　樋	現状	ＶＰ100　養生管ＳＧＰ125
	改修後	水洗浄		改修後	下地処理の上　ＯＰ

本体棟（増築新規部分）

屋　根	カラーステンレスφ0.35ヨコ葺き　Ａ．ルーフィング940　木毛セメント板　25雪止Ｌ-50×50×4φ （亜鉛メッキ　屋根色問色塗装品）
破　風	カラーステンレス　φ0.35巻　　雨　樋　：軒樋　塩ビ角型SUS支持金物　竪樋　塩ビカラー管60φ
軒　裏	ＮＲφ6　目透し張り　ＥＰ　（一部有孔品）
外　壁	押出成形セメント中空板φ60（1時間耐火品）ヨコ張り　仕上塗材（Ａ）　仕上塗材（Ａ） 防火サイデングφ12（不燃品、無塗装大判品）通気性防水シート下地（屋根スラブより下ＮＲ　6下地ＲＷ30吹付）φ
地　覆	コンクリート打放し　仕上塗材（Ａ）
建　具	アルミサッシ　ＡＬＣ用　一般ビル用　フロントサッシ
ポーチ	屋根：カラーステンレスφ0.35竪ハゼ葺きＡ．ルーフィング940　木毛セメント板　25下地 φ　雪止Ｌ-50×50×4 天井：軒天仕上げに同じ　床：磁器質150角タイル貼り　モルタル下地　柱型：フッ素樹脂塗装ＧＬ鋼鈑パネル加工
アプローチ庇擁壁	コンクリート打放し及びＡＬＣ版の上リシン吹付け

別　棟（増築部分）

屋　根	現状	ＡＳ防水層　押えコンクリート厚60金ゴテ目地切仕上	パラペット立上：ＡＳ防水層　ラスモルタル塗り パラペット天端：ＡＳ防水層　ラスモルタル塗り		
	改修後	高圧水洗浄　　ＲＤ廻り　取り外しの上掃除			
外　壁	現状	コンクリート打放し　リシン吹付　仕上げ			
	改修後	既存部分高圧水洗浄 シャッター撤去跡新規外壁：防火サイデングφ12ヨコ貼り（不燃　塗装品）RW30吹付け			
軒　天	現状	石綿セメント板φ6　ＥＰ	竪　樋	現状	ＳＧＰ100
	改修後	既存のまま　清掃　等		改修後	既存のまま　清掃　等
建　具	現状	ビル用アルミサッシ　スチールドア　スチールシャッター			
	改修後	スチールシャッター撤去 スチールドア　ＯＰ塗替　「延焼のおそれのある部分」既存サッシガラスを網入ガラスに入替			

註記事項

1.耐火仕様として増築階段室Ｂ・増床部の鉄骨構造部はＲＷ30㎜吹付とする。（1時間耐火仕様）
2.防火区画（面積区画・竪穴区画）部及び建令114条2項の防火壁は
　ＬＧＳ下地ＰＢ12.5+ＧＲ６両面張りで上階スラブまで施工する。
3.耐火区画（水平区画）に接する既存カーテンウォールには、耐火ボード（1時間仕様）を施工する。
4.防火区画に在るアルミEXP.Ｊは耐火仕様品とする。
5.本体棟の居室の既存外壁部は内側に断熱材としてＷＦ　20吹φとする。　（倉庫、便所、湯沸室等は施工しない。）
6.新規外壁の押出成形セメント中空板の内側に断熱材としてＷＦ　20吹φとする。　（居室に面する部分のみ）
7.ＬＧＳ間仕切は特記なき限りＷ６とし、スタッド一重張り@300、二重張り@450とする。
8.ＬＧＳ天井下地は可能な限り既存をそのまま利用する。新規の場合は、外部25型　内部19型とする。
9.1階クリエ厨房、各階集合トイレ床は張物下地で、塗膜防水を施工する。
10.既存コンクリート面・WF断熱材面のＰＢ貼りはＧＬ工法とし防カビ剤入りとする。
11.木材仕様　特記無きは、一般下地材は米松・和室造作材は米ツガ・敷居タタミ寄せ等はメルサワとする。
12.図面内の製品は全て参考品番とする。同等品以上を使用の事。
13. 室内環境汚染を減少させる為、使用する建材、塗装、接着剤等は十分に注意する。
14.床のシートは溶接工法とし、耐水接着剤を利用する。
15.厨房、シャワー室の壁ＮＦ目透し張りはシーリング処理とする。
16.水かかりの室の壁のEPはつや有りとする。
17.直貼用フローリングはシート付きとする。

耐火仕様　防火認定番号

・主体構造　柱　ＲＷφ30	1時間耐火Ｃ-１２１１号
・主体構造　梁　ＲＷφ30	1時間耐火Ｇ-１２１１号
・主体構造　屋根スラブ 床　合成デッキスラブ	1時間耐火Ｆ-１034号
・外壁一般部 「延焼の恐れ」部共	
押出成形セメント中空板φ60	1時間耐火Ｗｎ-１０２９号
不燃防火サイデング+ＲＷφ30 （参考商品ウベボードφ１２）	1時間耐火Ｗｎ-１１１１号
・カーテンウオール等 耐火パネルφ30	1時間耐火Ｗｎ-１０３１号
・間仕切壁　ＰＢφ12.5+ＧＲ　6φ 両面張り	1時間耐火W-１２０１号

防火認定番号

防火サイデングφ12	不燃	第11024号
ＰＢφ１２．５	不燃	第１００３号
ＶＣ（壁装材料第０００５号）＋（無機質壁紙）	ＰＢφ１２．５	
ＰＢ　φ9．5	不燃	第２０１５号
化粧ＰＢφ９．５	不燃	第１００４号
杉柾化粧ＰＢφ９．５	準不燃	第２０１６号
NR　φ6	不燃	第１０６１号
NF　φ	不燃	第１001号
木毛セメント　φ２５	準不燃	第2031号

使用材料　凡例

外装仕上塗材（Ａ）：
　アクリル系仕上塗材（参考：フジワラ　ジュラクペンアート）
外装仕上塗材（Ｂ）：
　防水型複層仕上塗材Ｅ（参考：フジワラ　パスコート）
外装仕上塗材（Ｃ）：外装薄塗材Ｅ（リシン）
内部床　ビニルタイル（Ａ）：　ホモジニアス系　厚2.0
内部床　ビニルタイル（Ｂ）：　コンポジション系　厚2.0
内部床　ビニルタイル（Ｃ）：　ホモジニアス系　厚3.0
　（参考：タジマ　インレイドタイル）
ビニルシート（Ａ）：　厚2.0
　（参考：タジマ　パーマリューム）
ビニルシート（Ｂ）：　重歩行用　厚2.0
　（参考：タジマ　スーラズ程度）
内装仕上塗材：多彩模様塗材（フッコー「モア」程度）

略記号凡例

ＰＢ	：石膏ボード	ＳＬ	：セルフレベリング床材（セメント系）
SPB	：防水石膏ボード	ＵＦ	：ユニットフロアー(システム床組)
Ｇ Ｒ	：ガラス繊維不織布入石膏ボード	B.BOX	：ブラインドボックス　（カーテンボックス）
Ｎ Ｆ	：		
Ｎ Ｒ	：ノンアス　ケイカル板		
Ｖ Ｃ	：ビニール壁紙		
Ｇ Ｗ	：グラスウール		
GWB	：グラスウールボード		
Ｒ Ｗ	：ロックウール		
Ｓ Ｆ	：スタイロフォーム		
Ｗ Ｆ	：現場発泡ウレタン		
LGS	：軽量鉄骨下地		
Ｍ Ｒ	：モルタル		
Ｇ Ｌ	：仕上表以降の図は 。		

塗装記号　等

ＥＰ	：合成樹脂エマルジョンペイント（B種）
ＣＬ	：着色（キシラデコール）クリヤーラッカー（B種）
ＯＰ	：合成樹脂調合ペイント（B種）
ＦＰ	：フッ素樹脂塗料
ＯＳ	：オイルステイン（B種）
ＰＷ	：着色（キシラデコール）ポリウレタン樹脂塗料
ＳＰ	：ステンブルーフ（木材保護塗料）
ＶＰ	：塩化ビニル樹脂エナメル塗

内部仕上表

階	室　名	床	既存撤去状況　等	巾　木	腰壁・他	壁	天　井	廻　縁	天井高	備　考
1階	風除室	150角磁器質タイル貼り　　ＭＲ下地	ビニルタイル撤去 下地モルタル撤去	150角磁器質タイル H=150		仕上塗材　下地ＰＢφ12.5	化粧ＰＢφ9.5張り	塩ビ	2900	視覚障害者誘導床材
	いきいき ふれあいサロン イベントブース 等	下地不陸調整の上　ビニルタイル（Ａ）貼り エスカレーター撤去跡　デッキスラブ床新設	ビニルタイル撤去	ソフト巾木　Ｈ＝75	柱型：仕上塗材　ＰＢφ12.5下地（ＧＬ）	仕上塗材　下地ＰＢφ12.5　（一部　＋ＧＲ６）	化粧ＰＢφ9.5張り 一部ＶＣ貼り　ＰＢφ9.5	同　上	2900 2600 2500	視覚障害者誘導床材　　軽量シャッター
	管理室	下地不陸調整の上　ビニルタイル（Ｂ）貼り	ビニルタイル撤去	同　上		ＥＰ　下地ＰＢφ12.5　（一部　＋ＧＲ６）	化粧ＰＢφ9.5張り	同　上	2400	カウンター　　流し台　吊り戸棚
	クリエ 厨　房	長尺ノンスリップシート　φ2.5貼り　ＭＲ下地	便所タイル撤去　下地モルタル シンダーコンクリート撤去	同　上	調理器具前：SUSφ0.35張り	ＮＦφ5目透し張りＶＰ下地PB　12.5 φ　（一部　＋ＧＲ６）	ＮＲφ6目透し張りＥＰ	同　上	2500	カウンター　　厨房機械　　手洗い
	クリエ 検収室	下地　不陸調整　長尺ビニルシート（Ａ）貼り	機械室　ＭＲ　そのまま	同　上		同　上	化粧ＰＢφ9.5張り	同　上	2400	手洗い　　流し
	クリエ 前　室	同　上	同　上	同　上		ＶＣ貼り　ＰＢφ12.5	同　上	同　上	2400	
	クリエ 便　所	同　上	同　上	同　上		同　上　（一部　＋ＧＲ６）	同　上	同　上	2200	棚
	クリエ 休憩室	へり付化学タタミφ40敷　ＵＦ下地 一部　フローリング張り　ＵＦ下地	ビニルタイルそのまま	タタミ寄　　雑巾摺		同　上　（一部　＋ＧＲ６）	同　上	同　上	2400	
	男子便所	洗面：ビニルタイル（Ａ）貼り　コンクリート即時金ゴテ 便所：擬石調ビニルタイル（Ｃ）貼り　　同上	リフター撤去跡 デッキスラブ床新設	ソフト巾木　Ｈ＝75	小便器前：100角タイル貼り 下地ＳＰＢφ12.5	ＰＢφ12.5　ＥＰ　（一部　＋ＧＲ６）	同　上	同　上	2400	洗面カウンター　　ライニング甲板
	女子便所	洗面：下地不陸調整　ビニルタイル（Ａ）貼り 便所：下地不陸調整　擬石調ビニルタイル（Ｃ）貼り	ビニルタイル撤去	同　上		同　上　（一部　＋ＧＲ６）	同　上	同　上	2400	洗面カウンター
	多目的便所	長尺ビニルシート（Ａ）貼り　　ＭＲ下地	便所タイル撤去　下地モルタル シンダーコンクリート撤去	同　上		同　上　（一部　＋ＧＲ６）	同　上	同　上	2400	収納式ベビーシート（設備工事）
	融雪機械室	コンクリート即時金ゴテ仕上げ		コンクリート立上 型枠外し放し		ＰＢφ12.5 外壁裏現し　　ＧＷＢφ50施工	階段裏　ＷＦφ30吹付 ＧＷＢφ50施工			機械基礎
2階	ＥＶホール 談話ホール	下地不陸調整の上　ビニルタイル（Ａ）貼り 一部　松フローリングφ12張り　木下地	ビニルタイル撤去 増築部下地即時金ゴテ	ソフト巾木　Ｈ＝75		仕上塗材　下地ＰＢφ12.5　（一部　＋ＧＲ６）	化粧ＰＢφ9.5張り	塩ビ	2700	視覚障害者誘導床材　　下足入
	憩いの家 和室	へり付化学タタミφ40敷 一部　松フローリングφ12張り　木下地	ビニルタイルそのまま	タタミ寄　　雑巾摺		ＶＣ貼り　ＰＢφ12.5　（一部　＋ＧＲ６）	杉板化粧ＰＢ φ9.5張り ＶＣ貼り　下地ＰＢ φ9.5	木製	2650 2300	可動間仕切
	ステージ	松フローリングφ12張り　ＵＦ下地	同　上	木製巾木H=75ＣＬ		同　上	化粧ＰＢφ9.5張り	塩ビ	2470	
	高齢者 学習室	下地不陸調整の上　ビニルタイル（Ａ）貼り	ビニルタイル撤去	ソフト巾木　Ｈ＝75		同　上　（一部　＋ＧＲ６）	同　上	同　上	2700	物入　　避難器具
	湯沸室	不具合部　補修	ビニルタイルそのまま	同　上	流し前：100角タイル貼り 下地ＳＰＢ　φ12.5	ＰＢφ12.5　ＥＰ　（一部　＋ＧＲ６）	同　上	同　上	2400	流し台　吊り戸棚
	高齢者 活動室	下地不陸調整の上　ビニルタイル（Ａ）貼り	ビニルタイル撤去	同　上		ＶＣ貼り　ＰＢ φ12.5　（一部　＋ＧＲ６）	同　上	同　上	2700	カウンター
	男女便所	洗面：ビニルタイル（Ａ）貼り　　ＭＲ下地 便所：長尺ビニルシート（Ａ）貼り　　ＭＲ下地	便所タイル撤去　下地モルタル シンダーコンクリート撤去	同　上	小便器前：100角タイル貼り 下地ＳＰＢ　φ12.5	ＰＢφ12.5　ＥＰ　（一部　＋ＧＲ６）	同　上	同　上	2470	洗面カウンター　　ライニング甲板
	車椅子便所	長尺ビニルシート（Ａ）貼り　　ＭＲ下地	同　上	同　上		同　上　（一部　＋ＧＲ６）	同　上	同　上	2400	
	倉　庫 1,2,3	不具合部　補修	ビニルタイルそのまま	同　上		ＰＢφ12.5　（一部　＋ＧＲ６）	ＰＢφ9.5	同　上		

凡例
アスベスト含有箇所

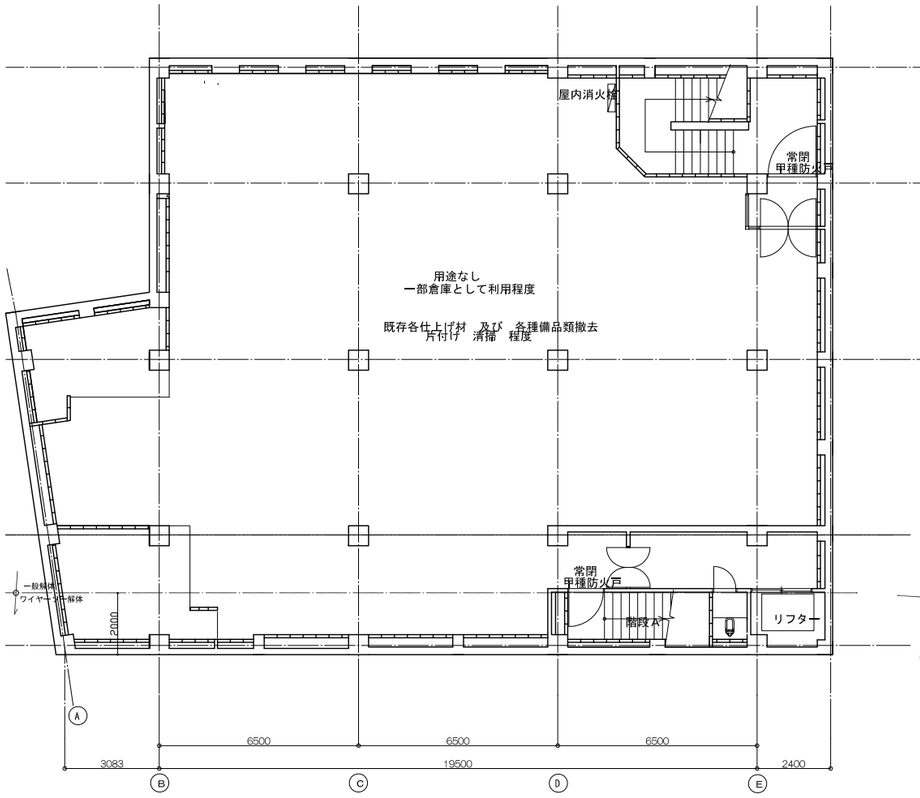
整理番号	工事名称：旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日：R4年12月
図面名：いきいきプラザ：仕上表 1A	1:100(A1) 1:200(A3)	縮尺
代表となる整理者(総括)		図面番号：KA-A005

内部仕上表

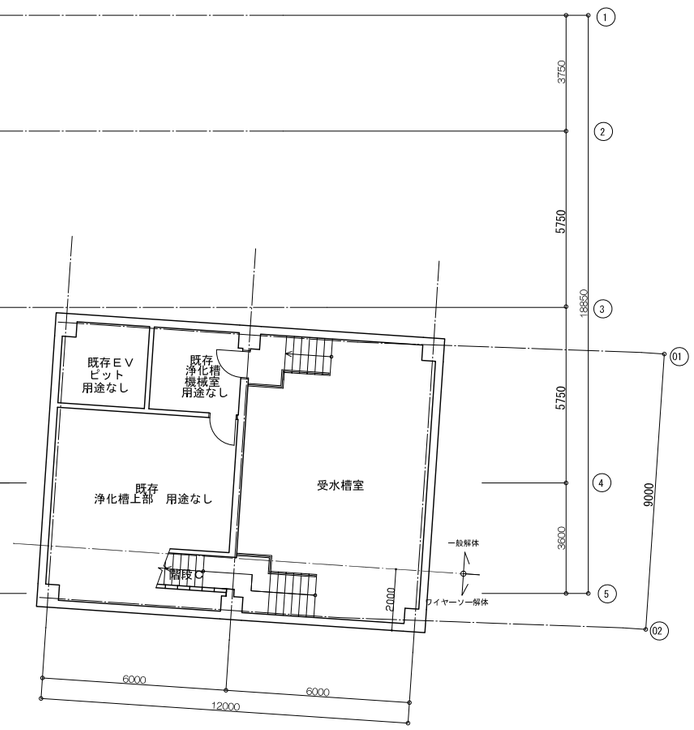
階	室名	床	既存撤去状況　等	巾木	腰壁・他	壁	天井	廻縁	天井高	備考
3階	ＥＶホール 談話ホール	下地不陸調整の上　ビニルタイル（Ａ）貼り 一部　フローリング⑦12張り　木下地	ビニルタイル撤去 増築部下地即時金ゴテ	ソフト巾木　Ｈ＝75		仕上塗材　下地ＰＢ⑦12.5　（一部　＋ＧＲ６）	化粧ＰＢ⑦9.5張り	塩ビ	2700	視覚障害者誘導床材
	スタッフルーム 相談室	下地不陸調整の上　ビニルタイル（Ａ）貼り エスカレーター撤去跡　デッキスラブ床新設	ビニルタイル撤去	同　上		ＶＣ貼り　ＰＢ⑦12.5　（一部　＋ＧＲ６）	同　上	塩ビ	2700	パーテーション　カーテン　カウンター
	乳児コーナー	ヘリ付化学タタミ⑦40敷	ビニルタイルそのまま	タタミ寄		同　上	同　上	同　上	2650	
	プレイルーム	フローリング⑦12　木下地	同　上	ソフト巾木　Ｈ＝75		同　上　（一部　＋ＧＲ６）	同　上	同　上	2650	避難器具　物入
	談話コーナー	同　上	同　上	同　上		同　上	同　上	同　上	2650	柱型コーナーガード
	保健・福祉 ボランティア 活動室	下地不陸調整の上　ビニルタイル（Ａ）貼り	ビニルタイル撤去	同　上		同　上　（一部　＋ＧＲ６）	同　上	同　上	2700	カウンター　パーテーション
	湯沸室	不具合部　補修	ビニルタイルそのまま	同　上	流し前前：100角タイル貼り 下地ＳＰＢ⑦12.5	ＰＢ⑦12.5　ＥＰ　（一部　＋ＧＲ６）	同　上	同　上	2400	流し台　吊り戸棚
	男女便所	長尺ビニルシート（Ａ）貼り　ＭＲ下地	便所タイル撤去　下地モルタル シンダーコンクリート撤去	同　上	小便器前：100角タイル貼り 下地ＳＰＢ⑦12.5	同　上　（一部　＋ＧＲ６）	同　上	同　上	2400	ライニング甲板　女子ブース内　ベビー椅子
	手洗い 幼児便所	同　上	同　上	同　上	同　上	同　上　（一部　＋ＧＲ６）	同　上	同　上	2400	洗面カウンター　水呑流し　ライニング甲板
	倉　庫	不具合部　補修	ビニルタイルそのまま	同　上		ＰＢ⑦12.5　（一部　＋ＧＲ６）	ＰＢ⑦9.5	同　上	2400	
4階	ＥＶホール 玄関ホール	下地不陸調整の上　ビニルタイル（Ａ）貼り 既存ビニルタイルの上　直貼用フローリング⑦11貼り	一部ビニルタイル撤去 増築部下地即時金ゴテ	ガード巾木 H=330		仕上塗材　下地ＰＢ⑦12.5　（一部　＋ＧＲ６）	化粧ＰＢ⑦9.5張り	塩ビ	2700	視覚障害者誘導床材　下足入　手摺
	日常動作訓練室	既存ビニルタイルの上　直貼用フローリング⑦11貼り	ビニルタイルそのまま	同　上		同　上　（一部　＋ＧＲ６）	同　上	同　上	2685	手摺　カウンター　洗面カウンター
	デイルーム	ヘリ付化学タタミ⑦40敷 一部　フローリング張り　木下地	同　上	タタミ寄・雑巾摺		ＶＣ貼り　ＰＢ⑦12.5　（一部　＋ＧＲ６）	同　上	同　上	2650	避難器具　押入　手摺　アコーデオンドア
	寮父母室	下地不陸調整の上　ビニルタイル（Ａ）貼り	ビニルタイル撤去	ソフト巾木　Ｈ＝75		同　上　（一部　＋ＧＲ６）	同　上	同　上	2700	
	湯沸室	下地　不陸調整　長尺ビニルシート（Ａ）貼り 一部ＭＲ下地	便所タイル撤去　下地モルタル シンダーコンクリート撤去	同　上	流し前前：100角タイル貼り 下地ＳＰＢ⑦12.5	ＰＢ⑦12.5　ＥＰ　（一部　＋ＧＲ６）	同　上	同　上	2400	手洗い　流し台　吊り戸棚
	男女便所	長尺ビニルシート（Ａ）貼り　ＭＲ下地	便所タイル撤去　下地モルタル シンダーコンクリート撤去	同　上	小便器前：100角タイル貼り 下地ＳＰＢ⑦12.5	同　上　（一部　＋ＧＲ６）	同　上	同　上	2400	手摺　洗面カウンター
	洗　濯 汚物処理室	不具合部　補修	ビニルタイルそのまま	同　上	流し前前：100角タイル貼り 下地ＳＰＢ⑦12.5	同　上　（一部　＋ＧＲ６）	同　上	同　上	2400	流し
	シャワー	合成樹脂塗床　塗膜防水施工　ＭＲ下地	ビニルタイル撤去 下地モルタル撤去	塗床立上Ｈ＝900		ＮＦ⑦5目透し張りＶＰ　下地PB　9.⑦	ＮＲ⑦6目透し張りＥＰ	同　上	2400	カーテン
	倉　庫	不具合部　補修	ビニルタイルそのまま	ソフト巾木　Ｈ＝75		ＰＢ⑦12.5　（一部　＋ＧＲ６）	ＰＢ⑦9.5張り	同　上	2400	
共通	階段室　Ａ	既存ビニルタイルのまま		既存ソフト巾木のまま		既存ＭＲ　一部ＰＢ⑦12貼り　ＶＰのまま Ｄ通り　新規壁ＰＢ⑦12.5+GR6　ＥＰ	化粧ＰＢ直張りのまま			
	階段室　Ｂ	長尺ビニルシート（Ｂ）貼り　下地ＭＲ		ソフト巾木		壁ＰＢ⑦12.5　ＥＰ　（一部　＋ＧＲ６）	段裏　ＰＢ⑦9.5　ＥＰ 最上階 昇降部　化粧ＰＢ⑦9.5		2400	視覚障害者誘導床材
	物　入 押　入	ラワン合板⑦9　木下地 一部既存ビニルタイルのまま				押入用ＰＢ⑦9.5　（一部PB12.5＋ＧＲ６）	押入用ＰＢ⑦9.5		2400	
屋上階		既存便所・電気室・空調機械室　清掃、片付け　程度とし　仕上改修工事等はなし。								
地下階		各種解体撤去工事　のみとし仕上げ　改修工事等はなし。								
別棟	階段室　Ｃ	既存ビニルタイルのまま	ビニルタイルそのまま	既存ソフト巾木のまま		既存ＭＲ　一部ＰＢ⑦12貼り　ＶＰのまま	既存パーライト吹付まま			
	各階ホール	同　上		同　上		既存ＭＲ　ＥＰの上　ＥＰ再塗装	既存化粧ＰＢの上　ＥＰ		2500	
	1階　通　路	既存ＭＲのまま				既存コンクリート打放しのまま	既存ＳＦ打込み現しの上　ＰＢ新規張り			
	倉　庫	既存ＭＲのまま				同　上	既存コンクリート打放しのまま			
	２階　相談室	既存ビニルタイルのまま	ビニルタイルそのまま	既存ソフト巾木のまま		既存ＭＲ　ＥＰの上　ＥＰ再塗装	既存化粧ＰＢの上　ＥＰ		2500	
	ボランティア研修室 子育て活動室	同　上		同　上		同　上	同　上		2500	
	3階　便所	既存ノンスリップシートのまま		既存ＳＵＳ巾木のまま		既存化粧石綿セメント板のまま	既存化粧ＰＢのまま		2300	
	介護実習室	既存ビニルタイルのまま	ビニルタイルそのまま	既存ソフト巾木のまま		既存ＭＲ　一部ＰＢ貼り　ＥＰの上　ＥＰ再塗装	既存化粧ＰＢの上　ＥＰ		2550	既存　流し台・吊り戸棚等　清掃しそのまま利用
	実技室	既存ビニルタイルの上化学タタミ⑦40敷き	ビニルタイルそのまま	同　上		同　上	同　上		2550	
	脱衣室	既存ビニルタイルのまま	ビニルタイルそのまま	同　上		同　上 新規間仕切　ＰＢ⑦12.5　ＥＰ	新規ＮＲ⑦6目透し張りＥＰ		2200	
	シャワー	ユニットシャワー　2台設置　参考商品：　ＴＯＴＯ「ＪＳＣ０８０８Ｓ」　程度								
	地下階	受水層室　等　仕上げ改修工事等なし								

凡例
アスベスト含有箇所

設計番号	工事名称：旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日：R4年12月
図面名：いきいきプラザ：仕上表　2A		縮尺
代表となる設計者（担当）		図面番号：KA-A006

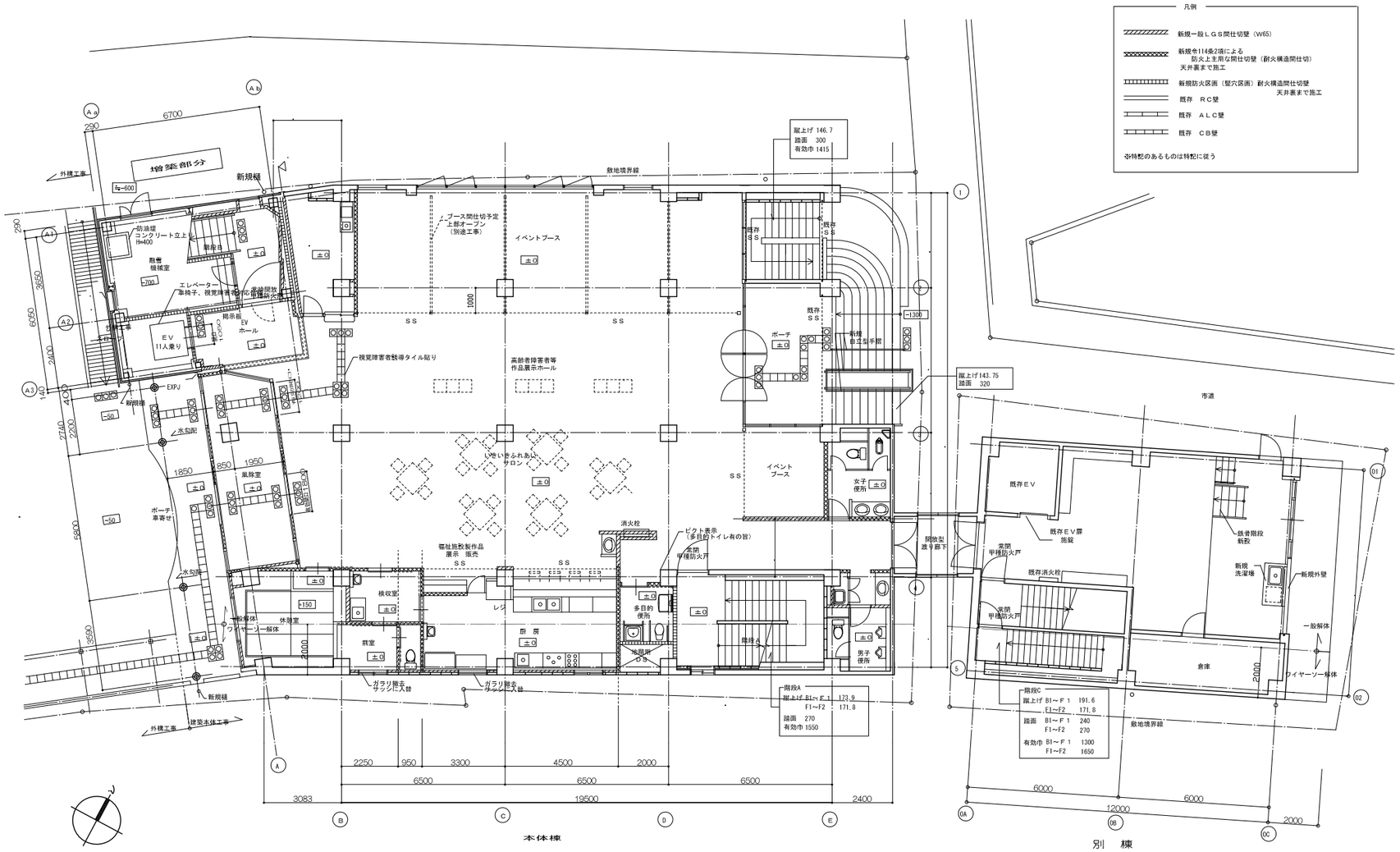


本体棟

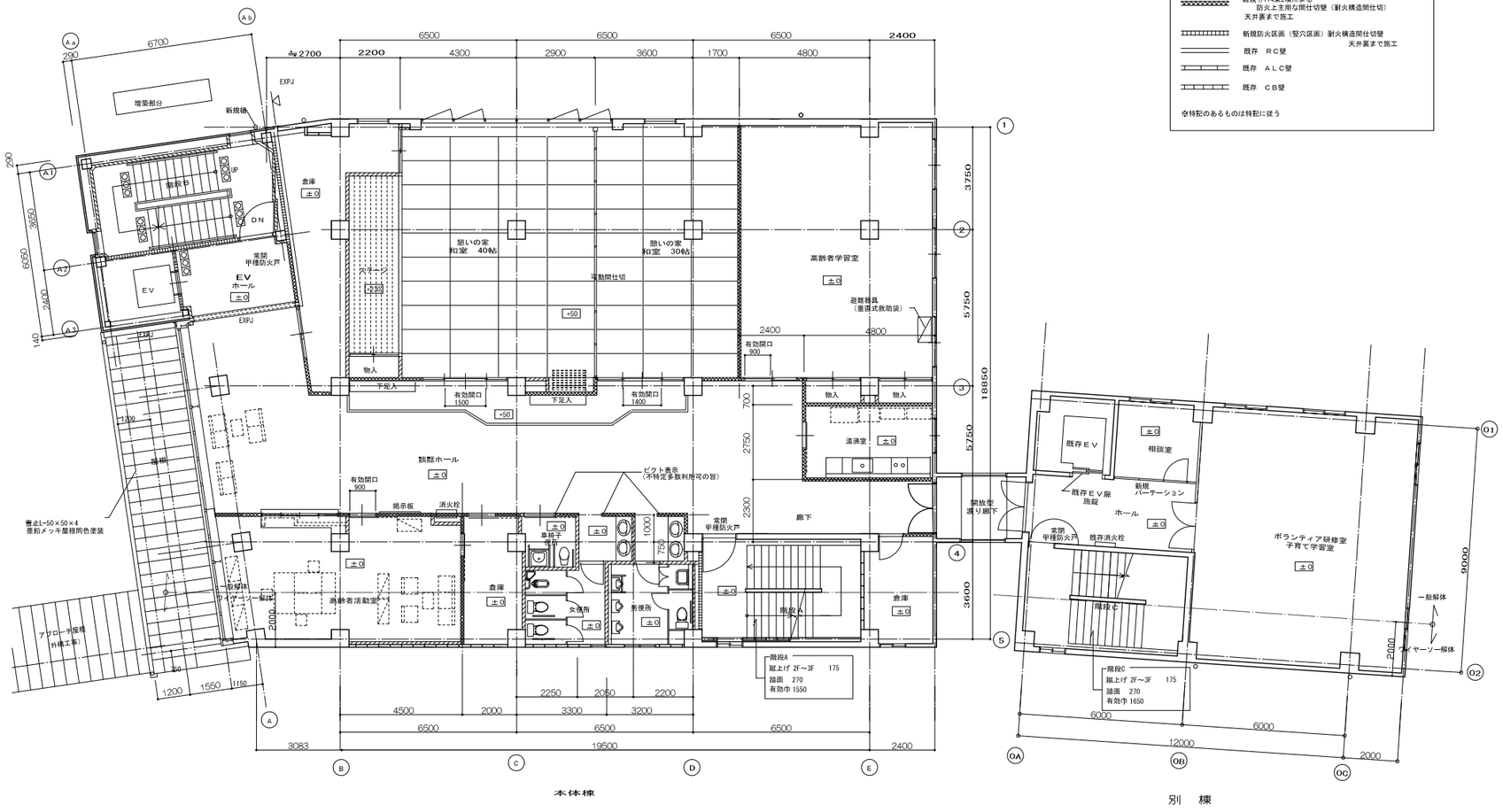


別　棟

設計番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名 いきいきプラザ：地階平面図	1:100(A1) 1:200(A3)	縮尺
代表となる設計者(担当)		図面番号 KA-A007



設計者号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名 いきいきプラザ：１階平面図	1:100(A1) 1:200(A3)	縮尺
代表となる設計者(総括)		図面番号 KA-A008

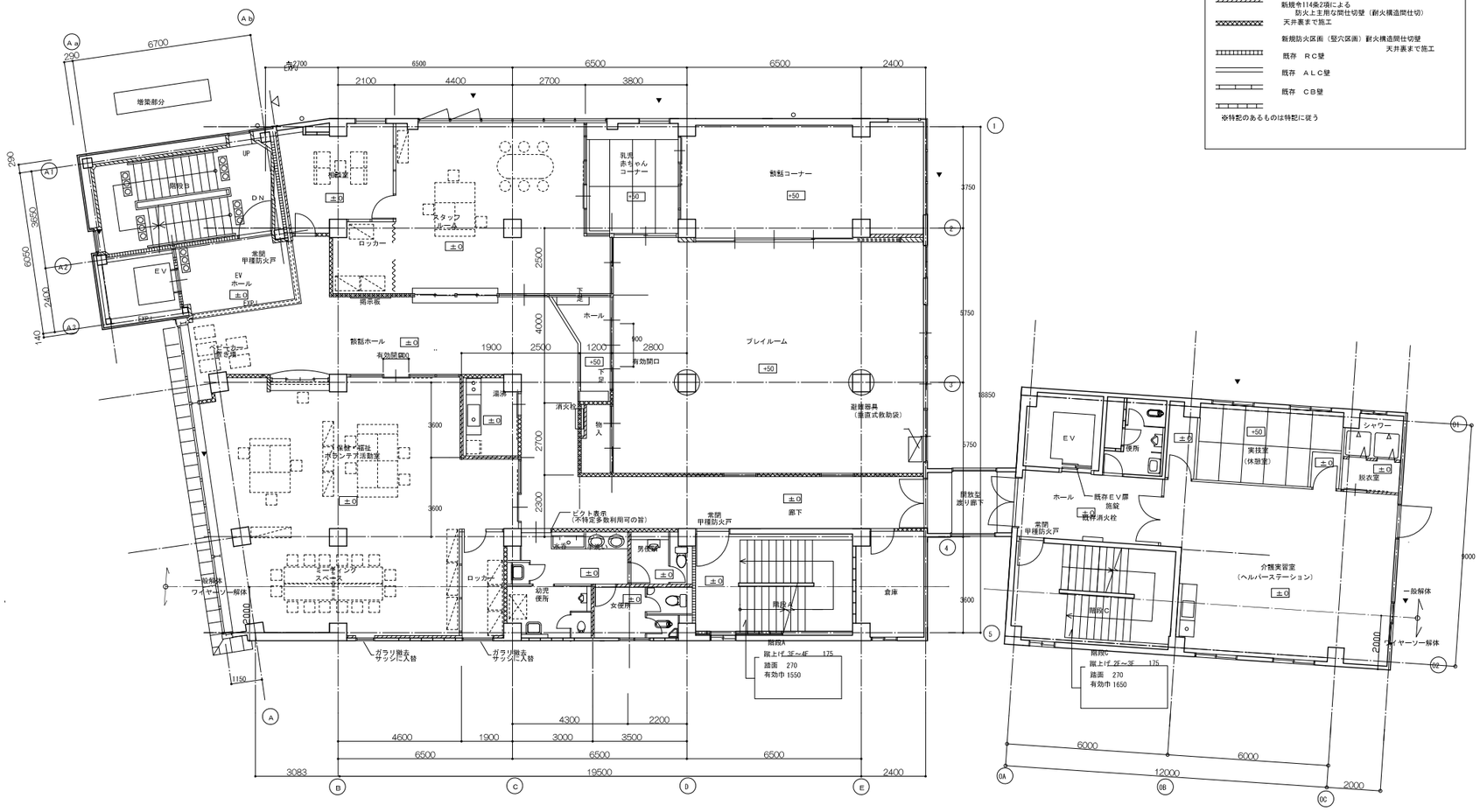


設計番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名 いきいきプラザ：２階平面図	1:100(A1) 1:200(A3)	縮尺
代表となる設計者(総括)		図面番号 KA-A009

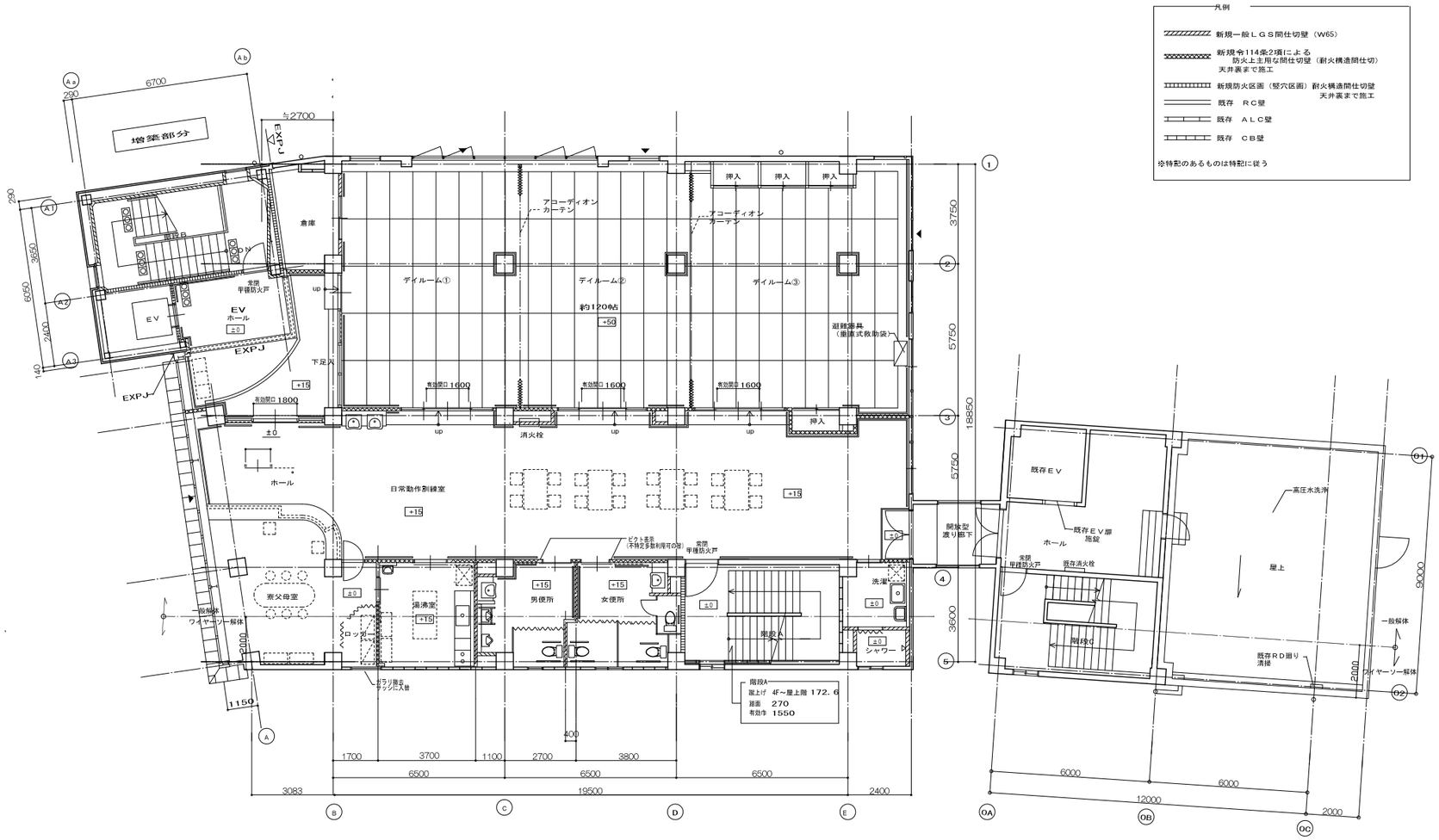
凡例

- 新規一段ＬＧＳ間仕切壁（W65）
- 新規令114条2項による防火上主用な間仕切壁（耐火構造間仕切）天井裏まで施工
- 新規防火区画（竪穴区画）耐火構造間仕切壁 天井裏まで施工
- 既存　ＲＣ壁
- 既存　ＡＬＣ壁
- 既存　ＣＢ壁

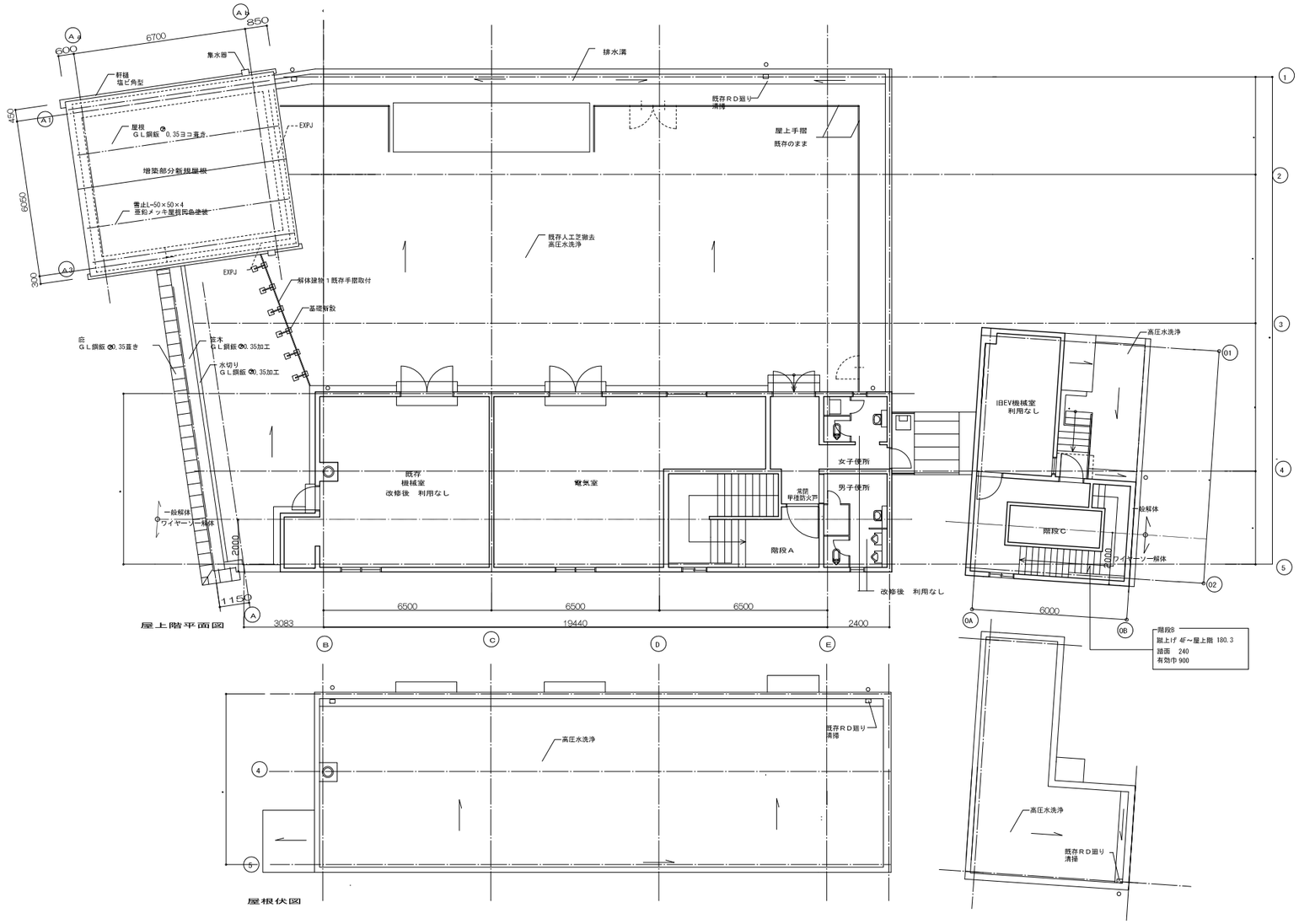
※特記のあるものは特記に従う



設計番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名 いきいきプラザ：３階平面図		縮尺 1:100(A1) 1:200(A3)
代表となる設計者(担当)		図面番号 KA-A010



整理番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名 いきいきプラザ：４階平面図	1:100(A1) 1:200(A3)	縮尺
代表となる整理者(担当)		図面番号 KA-A011



整理番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名 いきいきプラザ：屋上階平面図	1:100(A1) 1:200(A3)	縮尺
代表となる設計者(総括)		図面番号 KA-A012

凡例

- Ⓐ ＧＬ鋼板⊘0.35施工
- Ⓑ 押出成形セメント中空板⊘60ヨコ張り　仕上塗材（Ａ）
- Ⓒ コンクリート打放し　仕上塗材（Ａ）
- Ⓓ 防火サイデング　12⊘大判張り　仕上塗材（Ａ）
- Ⓔ 防火サイデング　12⊘ヨコ張り　塗装品
- Ⓕ 既存下地処理の上　仕上塗材（Ｂ）
- Ⓖ 既存下地処理の上　仕上塗材（Ｃ）
- Ⓗ 既存タテ樋　ＯＰ塗
- Ⓘ 新規タテ樋　塩ビカラー管
- Ⓙ 既存のまま（水洗浄　等の撤除）
- Ⓚ 既存外壁解体、シッター撤去　の上 アルミサッシ新設

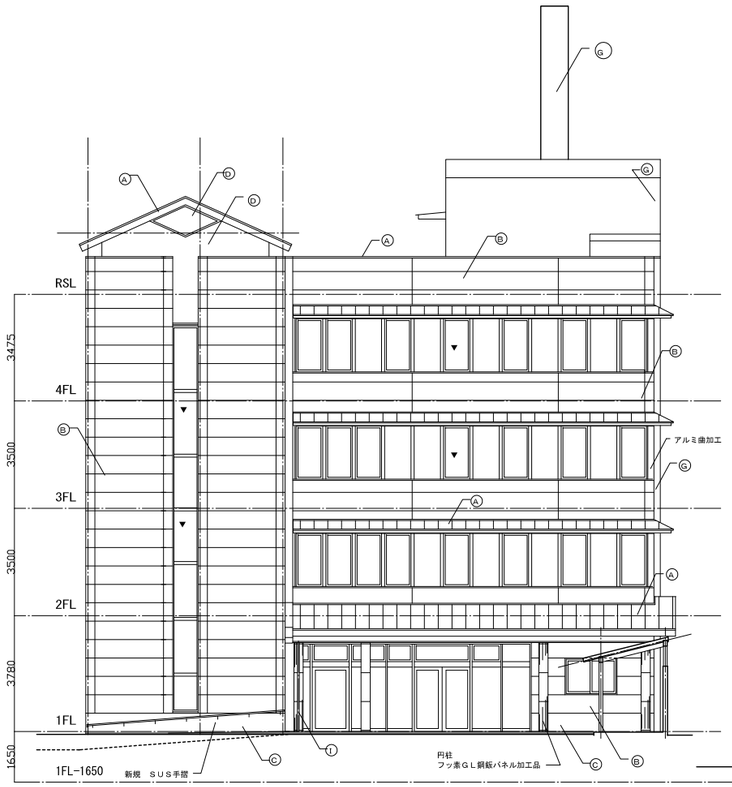
既存ＲＣ外壁のクラック補修ヶ所を示す。

凡例

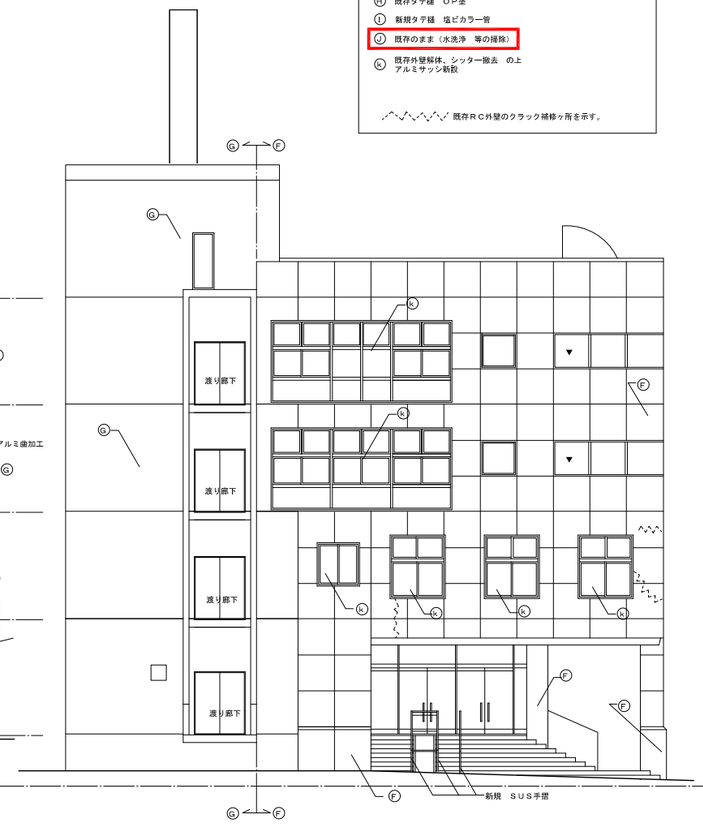
アスベスト含有箇所

別棟　南面　外壁　リシン吹付
別棟　北面　外壁　吹付タイル
※別棟　東面・西面　外壁に関しても含有可能性あり

リシン吹付仕上げ範囲



本体棟　西立面図



本体棟　東立面図

別棟　東立面図

設計番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名 いきいきプラザ：西他立面図	1:100(A1) 1:200(A3)	縮尺
代表となる設計者(総括)		図面番号 KA-A013

凡例

Ⓐ ＧＬ鋼鈑@0.35施工

Ⓑ 押出成形セメント中空板@60ヨコ張り　仕上塗材（Ａ）

Ⓒ コンクリート打放し　仕上塗材（Ａ）

Ⓓ 防火サイデング　12@大判張り　仕上塗材（Ａ）

Ⓔ 防火サイデング　12@ヨコ張り　塗装品

Ⓕ 既存下地処理の上　仕上塗材（Ｂ）

Ⓖ 既存下地処理の上　仕上塗材（Ｃ）

Ⓗ 既存タテ樋　ＯＰ塗

Ⓘ 新規タテ樋　塩ビカラー管

Ⓙ 既存のまま（水洗浄　等の掃除）

既存ＲＣ外壁のクラック補修ヶ所を示す。

凡例

アスベスト含有箇所

別棟　南面　外壁　リシン吹付

別棟　北面　外壁　吹付タイル

※別棟　東面・西面　外壁に関しても含有可能性あり

リシン吹付仕上げ範囲

北　立　面　図

設計番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名 いきいきプラザ：北立面図	1:100(A1) 1:200(A3)	縮尺
代表となる設計者(担当)		図面番号 KA-A014

凡例

Ⓐ ＧＬ鋼鈑㊀0.35施工

Ⓑ 押出成形セメント中空板　60ヨコ張り㊀仕上塗材（Ａ）

Ⓒ コンクリート打放し　仕上塗材（Ａ）

Ⓓ 防火サイデング　12㊀大判張り　仕上塗材（Ａ）

Ⓔ 防火サイデング　12㊀ヨコ張り　塗装品

Ⓕ 既存下地処理の上　仕上塗材（Ｂ）

Ⓖ 既存下地処理の上　仕上塗材（Ｃ）

Ⓗ 既存タテ樋　ＯＰ塗

Ⓘ 新規タテ樋　塩ビカラー管

Ⓙ 既存のまま（水洗浄　等の掃除）

Ⓚ 既存ガラリ等撤去の上
アルミサッシ新設

既存ガラリ、換気扇等撤去跡　外壁復旧
（防火サイディング 12塗装品ＲＷ㊀３０吹付㊀）

既存ＲＣ外壁のクラック補修ヶ所を示す。

凡例

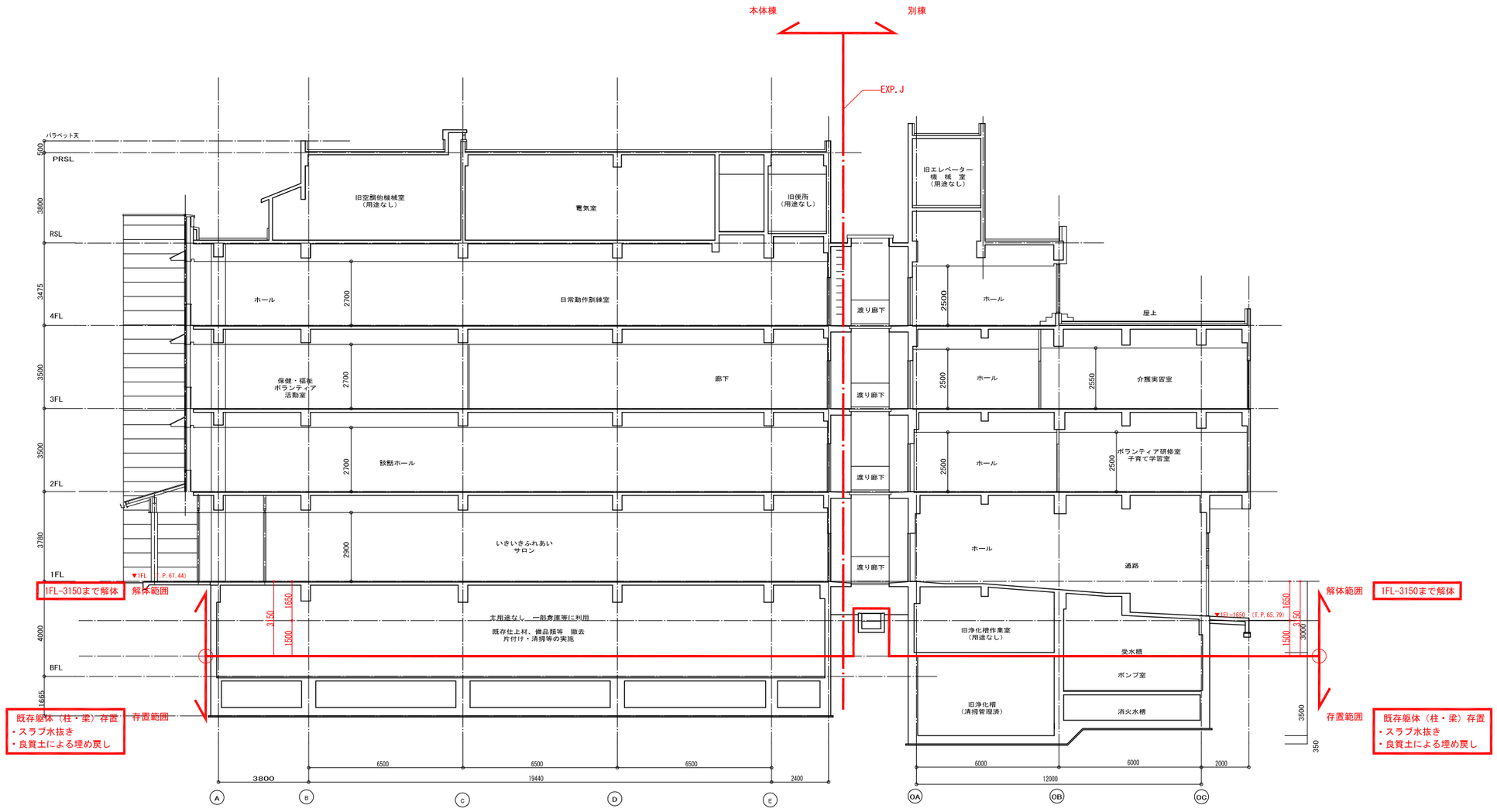
アスベスト含有箇所

別棟　南面　外壁　リシン吹付
別棟　北面　外壁　吹付タイル
※別棟　東面・西面　外壁に関しても含有可能性あり

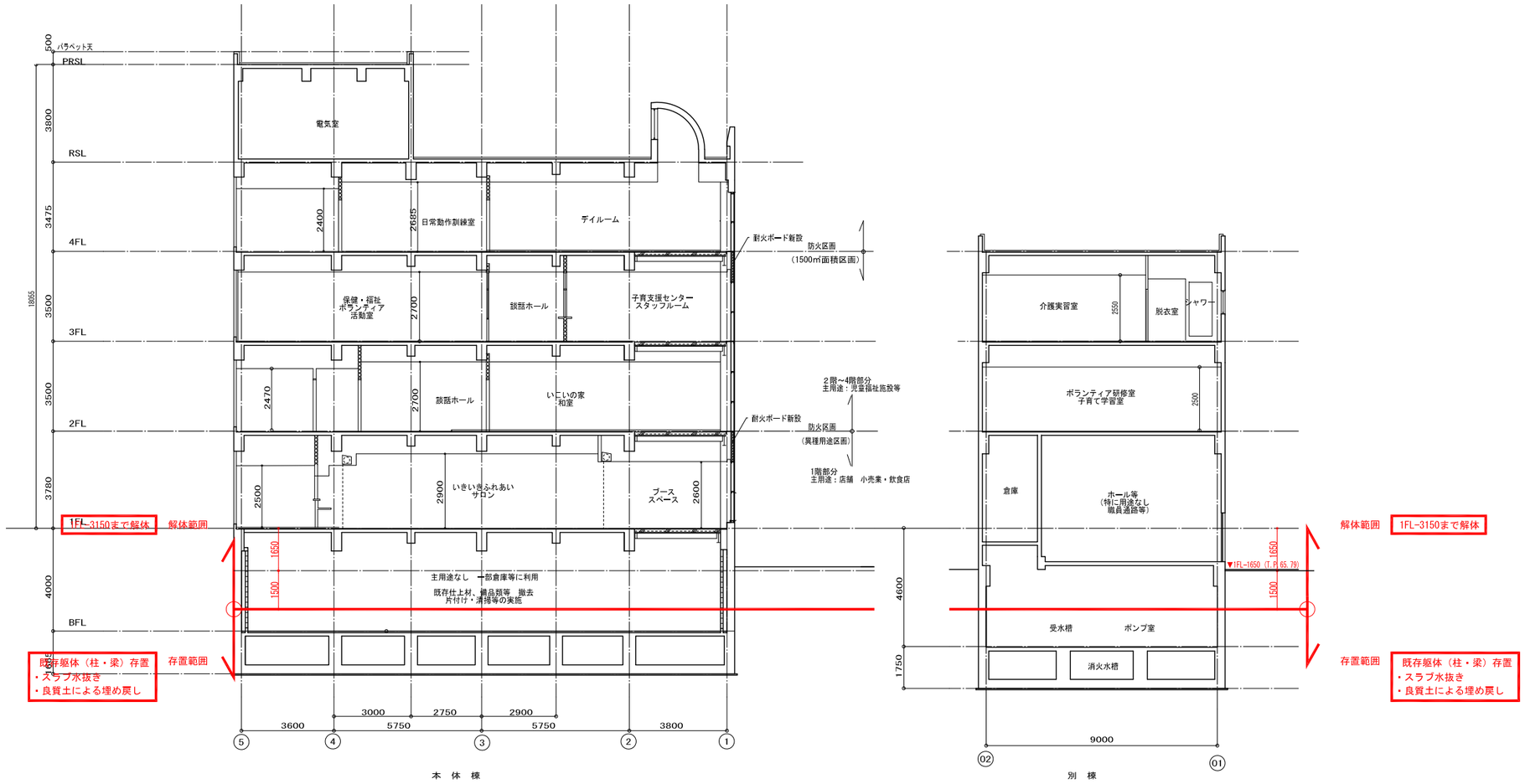
リシン吹付仕上げ範囲

南　立　面　図

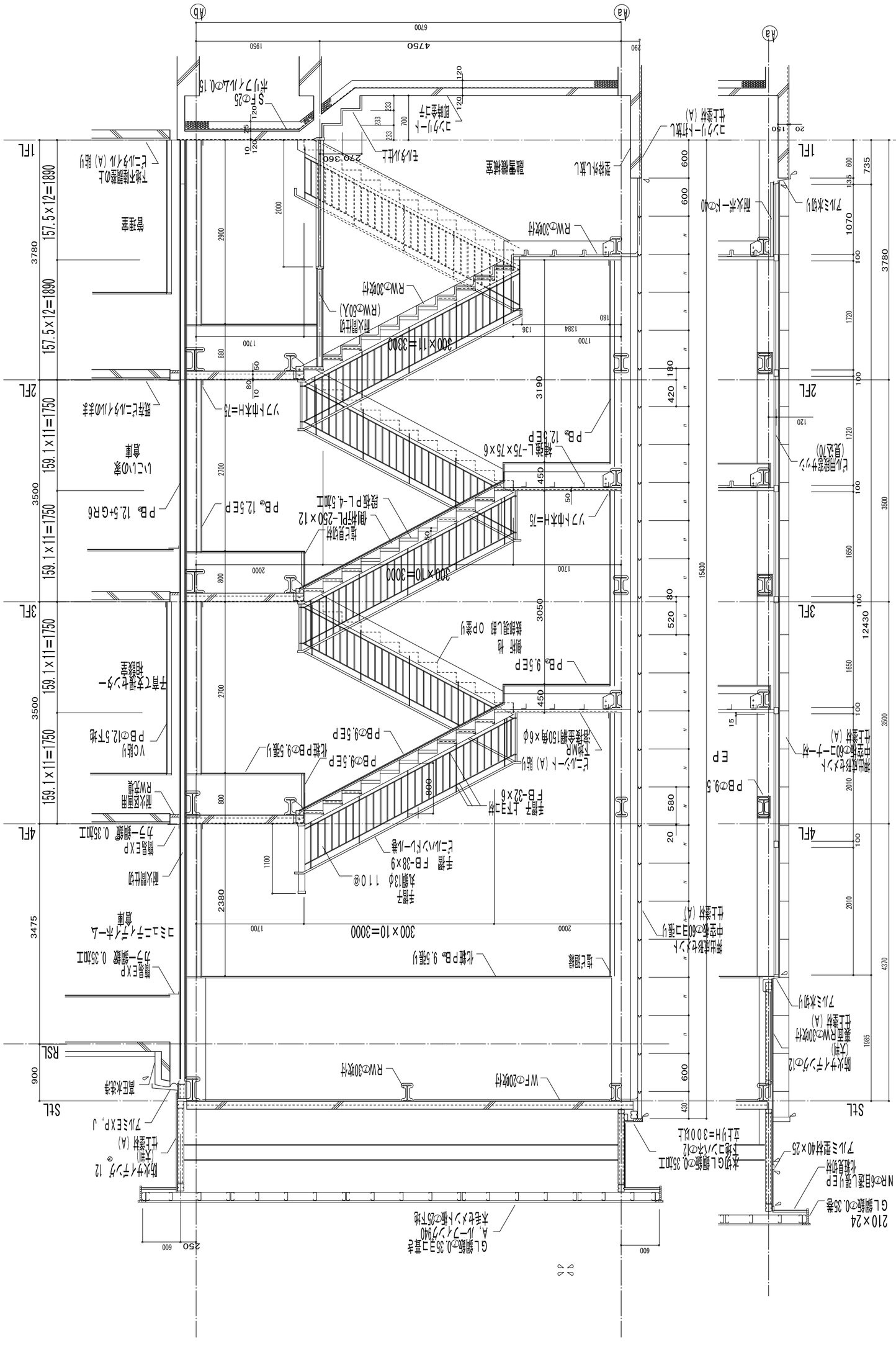
数割番号	工事名称　旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日　R4年12月
図面名　いきいきプラザ：南立面図	1:100(A1) 1:200(A3)	縮尺
代表となる数割者(総括)		図面番号　KA-A015

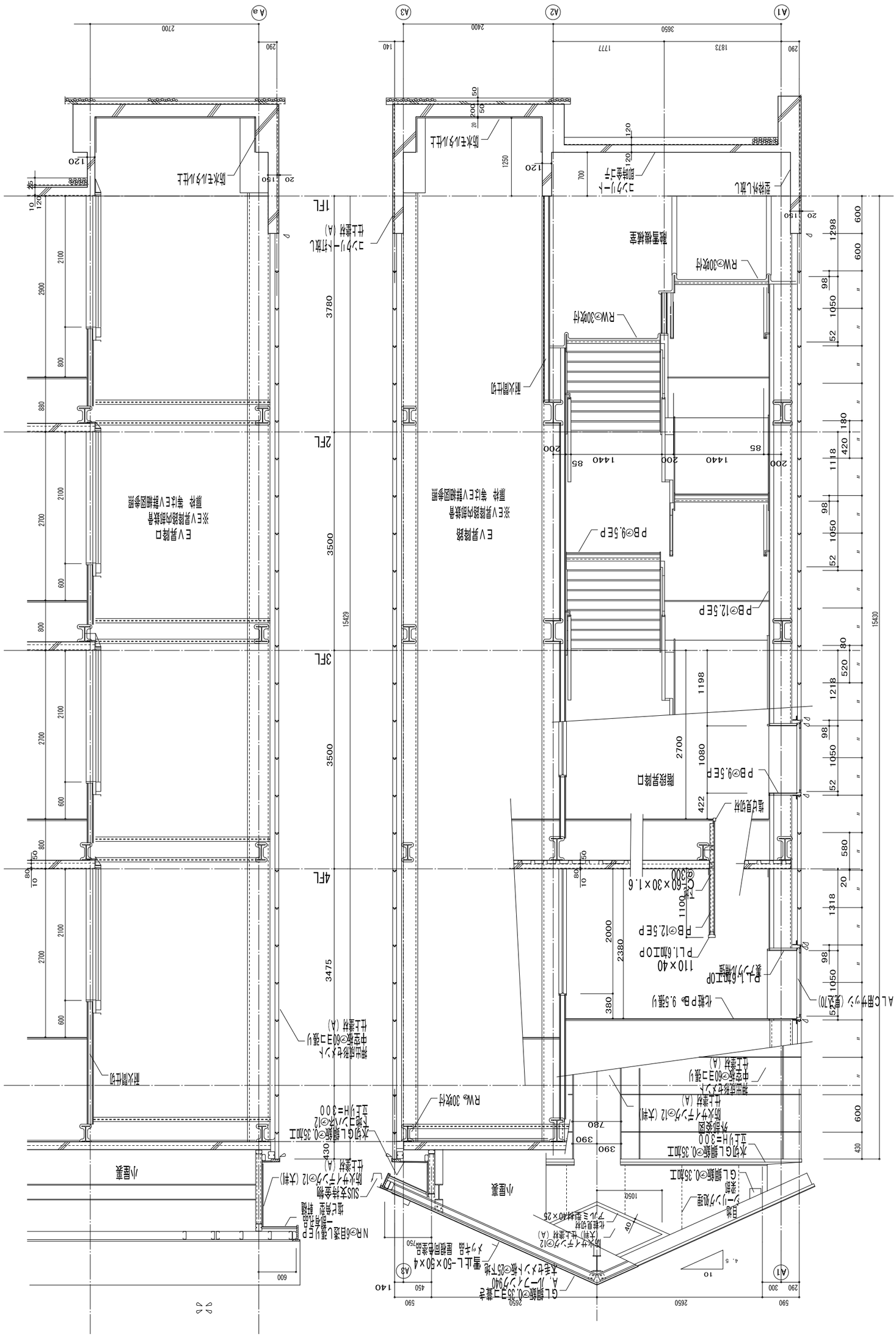


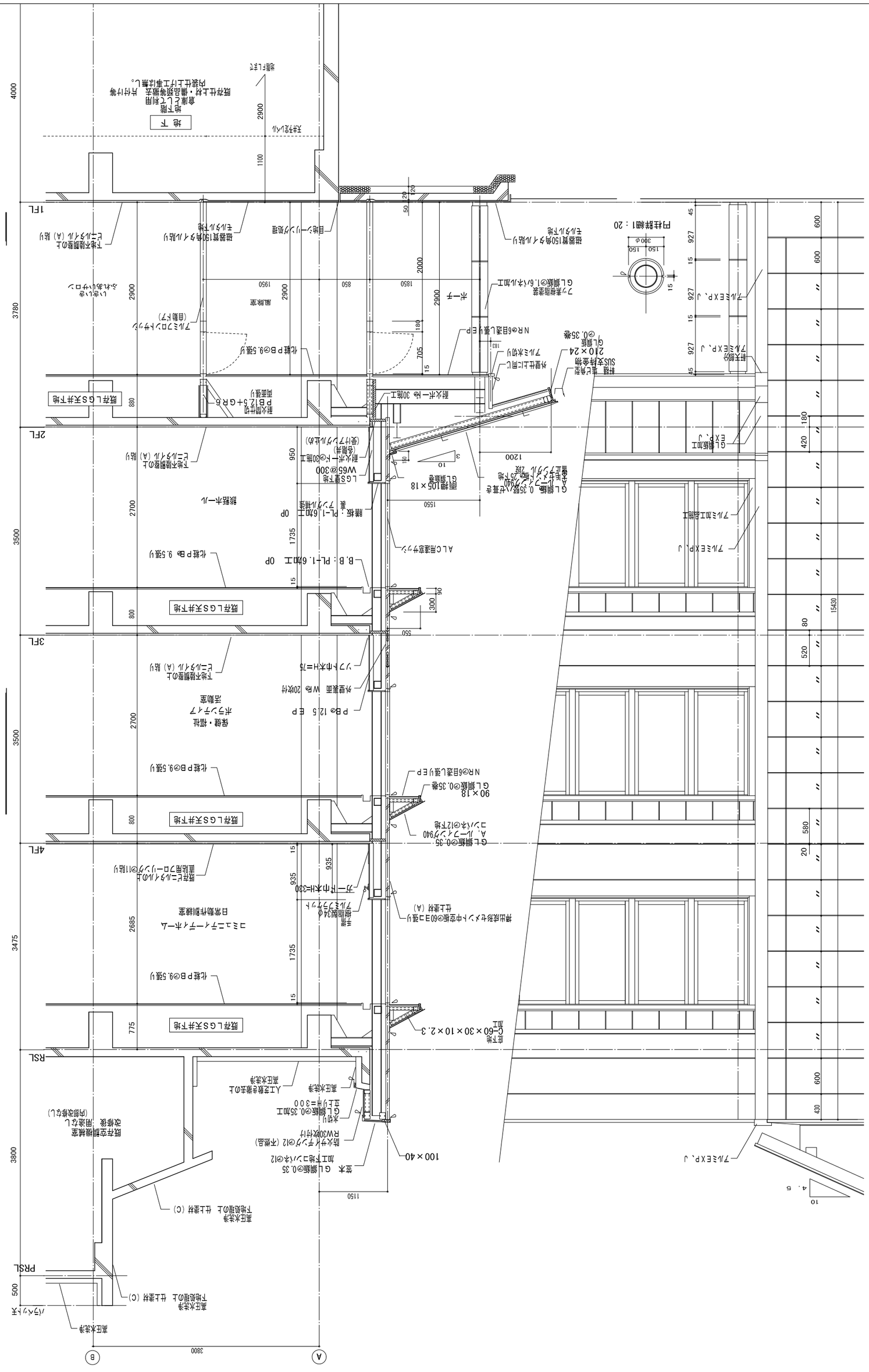
数野番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名 いきいきプラザ：断面図（１）	1:100(A1) 1:200(A3)	縮尺
代表となる数野者(印鑑)		図面番号 KA-A016

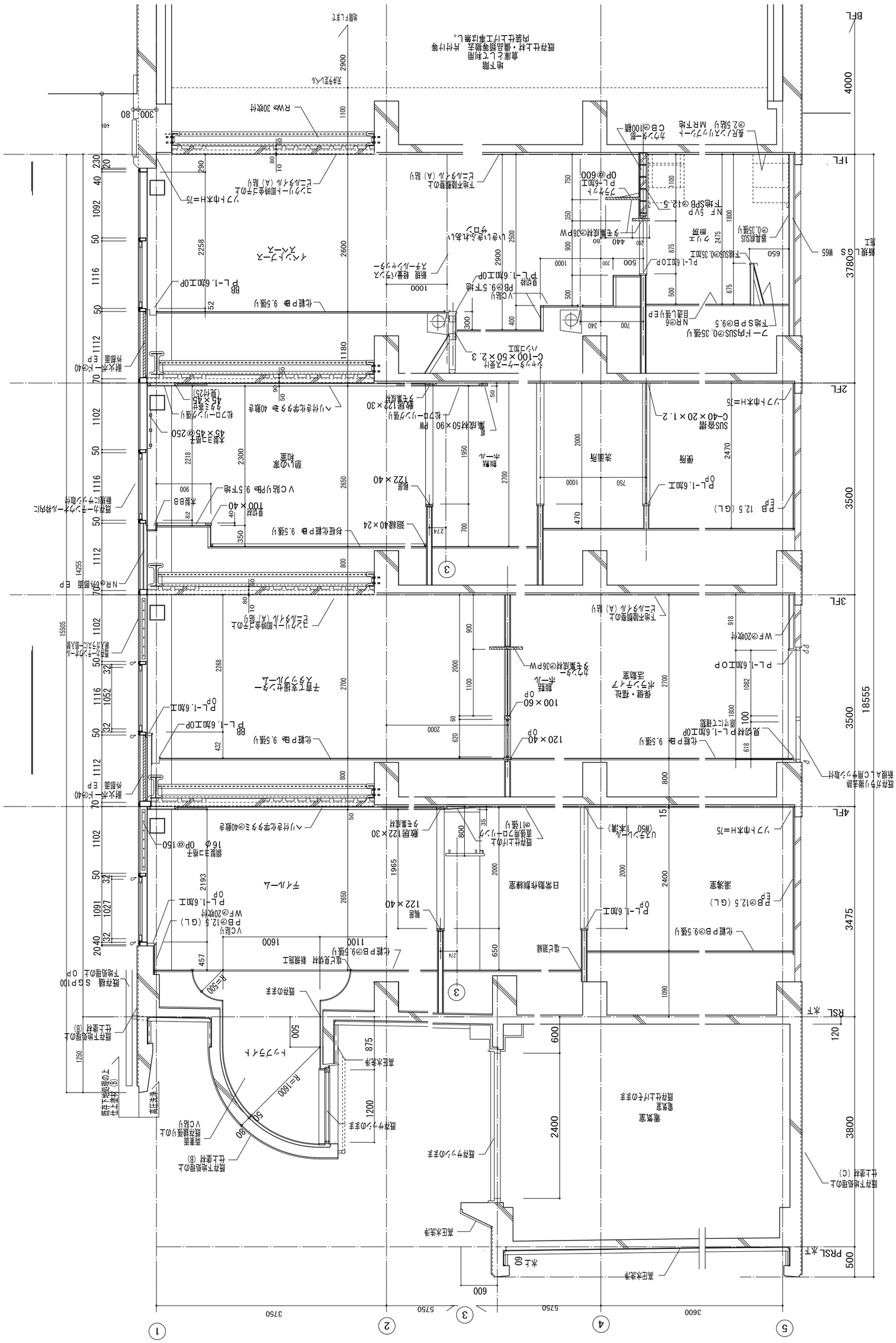


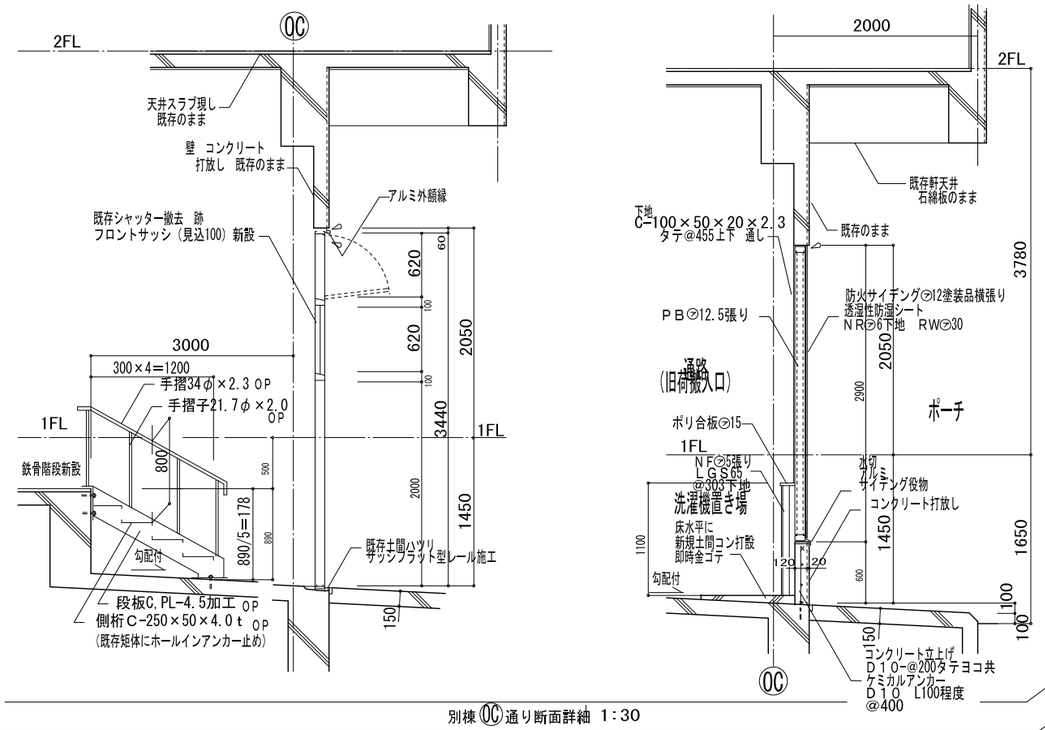
整理番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名 いきいきプラザ：断面図（２）	1:100(A1) 1:200(A3)	縮尺
代表となる整理者(担当)		図面番号 KA-A017


GL鋼板@0.35ヨコ敷
A.J.ーフイシツ940
木毛セメント板@25下地
210×24
GL鋼板@0.35巻
N R@8目透し張りEP
化粧貫切妻
7ルミ型材40×25
本切GL鋼板@0.35加工
下地コンパネ@12
立上り H=300以上
防火サイディング@12
(大判)
仕上塗材(A)
7ルミEXP, J
高圧水洗浄
RSL
SFL
WF@200ダボ付
RW@300ダボ付
防火サイディング@12
(大判)
張間RW@300ダボ付
仕上塗材(A)
7ルミ水切り
造作鋼
化粧P B@ 9.5張り
鋼製EXP
力ラー鋼鈑 0.35加工
コミュニティ不ーム
貫通
300×10=3000
手摺子
丸鋼13φ 110@
手摺 FB-38×9
ビニルハイパール巻
防火間仕切
鋼製EXP
力ラー鋼鈑 0.35加工
RW巻出し
4FL
手摺子 上下3ヨコ付
FB-32×6
ビニルシート(A)貼り
塗装金網150角×6φ
下地MR
P B@9.5EP
化粧P B@9.5張り
P B@9.5EP
中空板@60ヨコ張り
仕上塗材(A)
EP
P B@9.5
4FL
P B@9.5EP
化粧P B@9.5張り
P B@9.5EP
鉄筋 他
鉄部現し部 OP塗り
3FL
P B@ 9.5EP
2FL
ソフトボH=75
段板PL-4.5加工
側板PL-250×12
造作鋼材
P B@ 12.5EP
P B@ 12.5+GR6
ソフトボH=75
鋼材L-75×75×6
P B@ 12.5EP
300×11=3300
防火間仕切
(RW@60入)
RW@300ダボ付
RW@300ダボ付
1FL
モルタル仕上
踏面寸法
蹴上寸法
2270 360
階段踊り場
階段踊り場
1FL
2FL
3FL
4FL
SFL
RSL
1FL
2FL
3FL
4FL
SFL
S F@25
ボルト入れ@0.15
6700
4750
1950
290
20
1950
600
600
600
600
430
1070
1720
1650
1650
2010
2010
1985
4370
12430
15430
3780
3500
3500
3500
3780
3500
3500
3475
900
2380
2900
2700
2700
2000
2000
1700
1700
1700
1700
1100
800
800
880
800
2000
1950
250
600
600
600
600

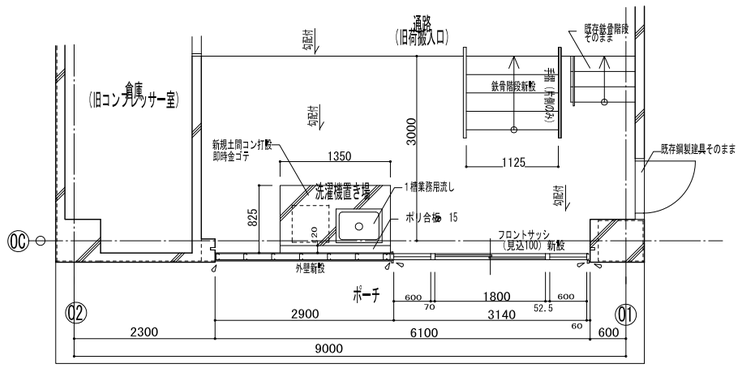

A1
A2
A3
A a
EV昇降路
EV昇降路口
階段昇降口
小屋裏
4FL
3FL
2FL
1FL
15430
15429
3650
2400
2700
3500
3475
3780
RW◎300吹付
PB◎12.5EP
PB◎9.5EP
AlC用ハシゴ（製作70）
化粧PB 9.5張り
防水モルタル仕上
コンクリート打放し
躯体外し施し
鉄筋露出モルタル
鋼製建具
ALC
GL鋼鈑◎0.35加工
水切GL鋼鈑◎0.35加工
立上り H=300
外部金物
防火サイディング◎12（大判）
塗装仕上
中空板◎60ヨコ張り
仕上塗材（A）
鋼製建具
ソーシング加工
GL鋼鈑◎0.35加工
SUS支持金物
防火サイディング◎12（大判）
仕上塗材（A）
鋼製建具
鋼製建具
鋼製建具


旧いきいきプラザ：矩計図（1）
いきいきプラザ解体撤去工事
R4年12月
KA-A020
1:30(A1)
1:60(A3)
地下
倉庫として利用
既存仕上材・備品類等撤去　片付け等
内装仕上げ工事は無し。
地下階
高圧ネオン管
ルーバ上木H=75
ソフト巾木H=75
外壁裏面　WB 20t大付
PB@12.5　EP
保健・福祉
オフィス
活動室
不燃断熱ロックウール
既存LGS天井下地
既存空調機械室
改修後　用途なし
（内部改修なし）
高圧ネオン管
下地処理の上　仕上塗材（C）
既存LGS天井下地
化粧PB@9.5張り
ALC用連窓サッシ
B.B：PL-1.6加工　OP
膳板・PL-1.6加工　OP
乗　フラット棒
LGS軽下地
W65@300
GL鋼板　0.35型入せ蓋付
ルーフ　ルーフ940
鋼上ドライ板25下地
GL鋼板@0.35
ALC鋼板
ALC鋼板
ALC鋼板

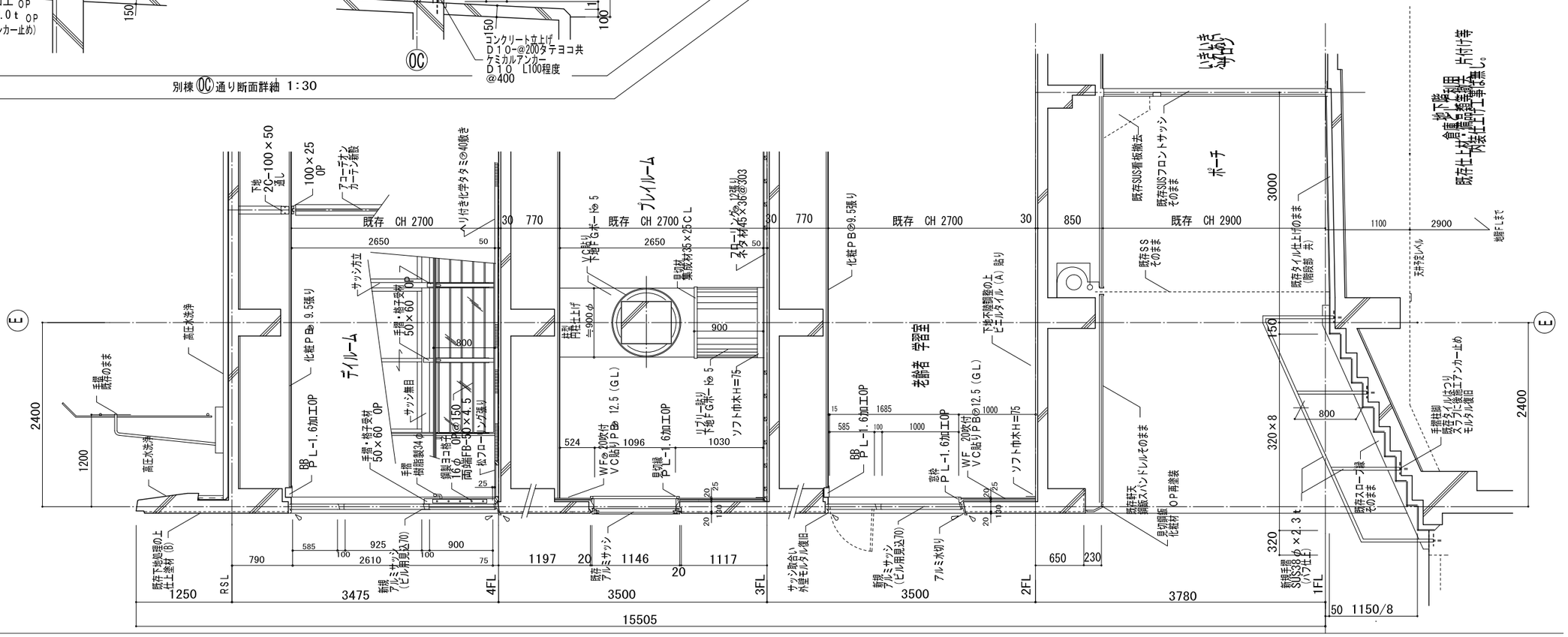

BFL
1FL
2FL
3FL
4FL
RSL 水下
PRSL 水下
電気室
既存仕上げそのまま
既存ケッのまま
高圧水洗浄
既存下地処理の上
仕上塗材(C)
既存下地処理の上
仕上塗材(B)
既存ケッのまま
高圧水洗浄
既存下地処理の上
仕上塗材(B)
既存ケッのまま
高圧水洗浄
トップライト
R=1600
R=300
既存の手洗
既存ケッのまま
既存下地処理の上
仕上塗材(B)
既存下地処理の上
仕上塗材(B)
既存下地処理の上
仕上塗材(B)



別棟 OC 通り断面詳細 1:30

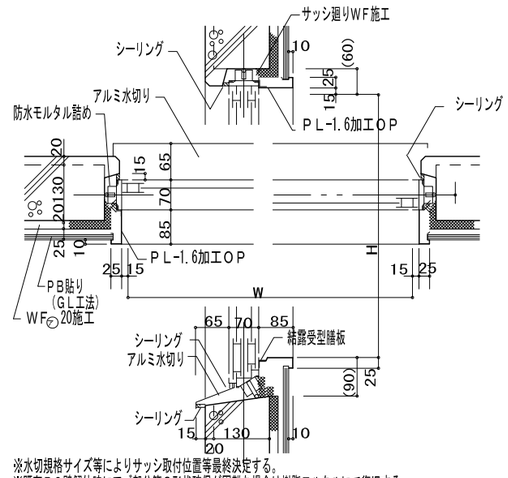


別棟 OC 通り平面詳細 1:50



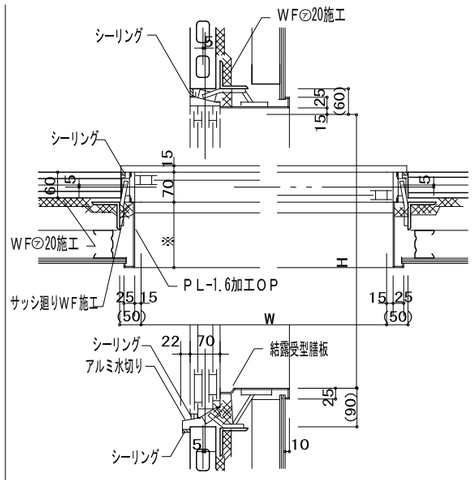
本体棟 東側断面詳細図 1:30

整理番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名 いきいきプラザ：断面詳細（1）	1:30 1:50(A1) 1:60 1:100(A3)	縮尺
代表となる整理番号(総括)		図面番号 KA-A022

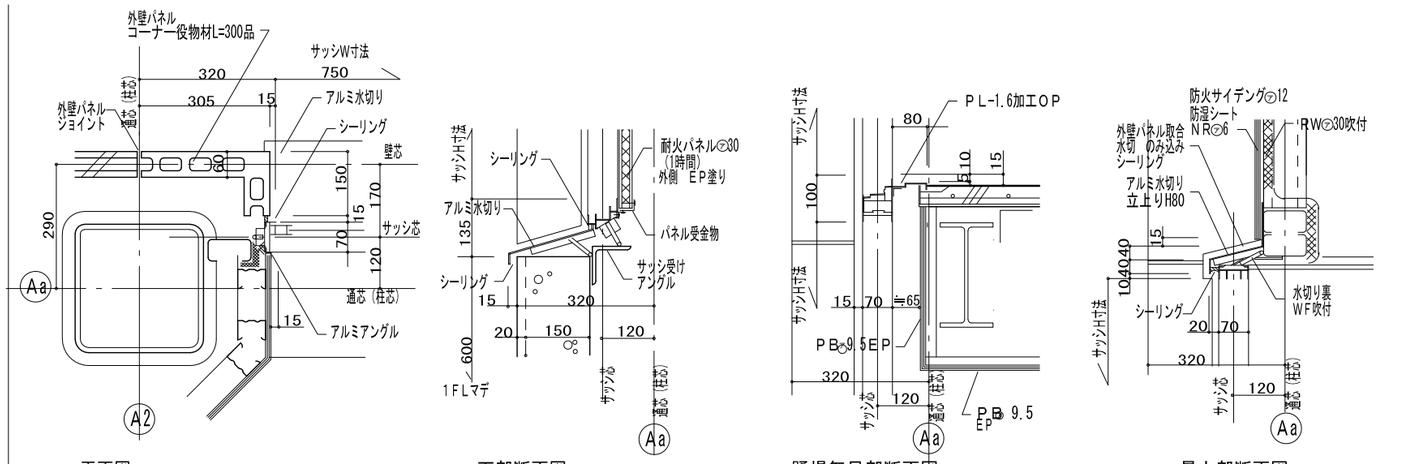


※水切規格サイズ等によりサッシ取付位置等最終決定する。
※既存RC壁躯体時にアゴ部分等の形状確保が困難な場合は樹脂モルタルにて復旧する。

既存RC部分ビル用一般サッシ詳細図　1：7

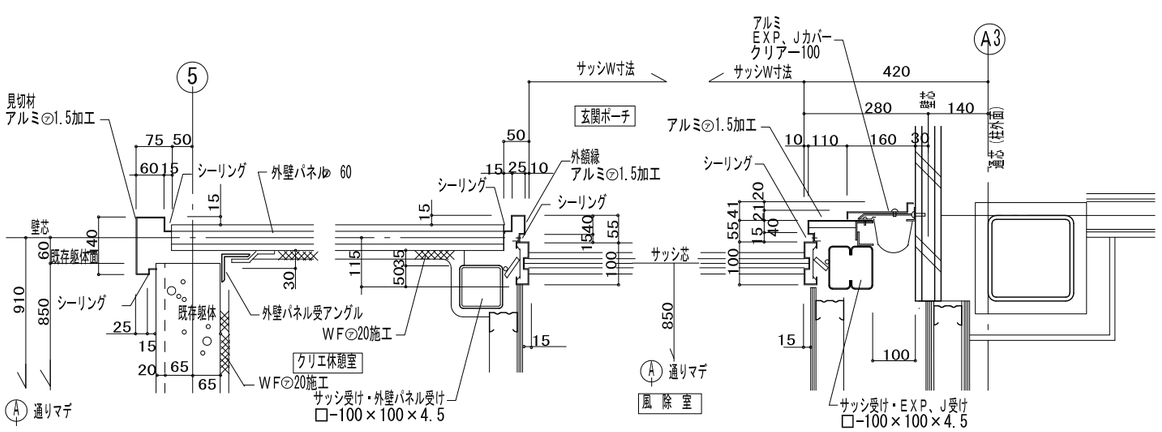


増築部セメント中空板部分ALC用サッシ詳細図　1：7

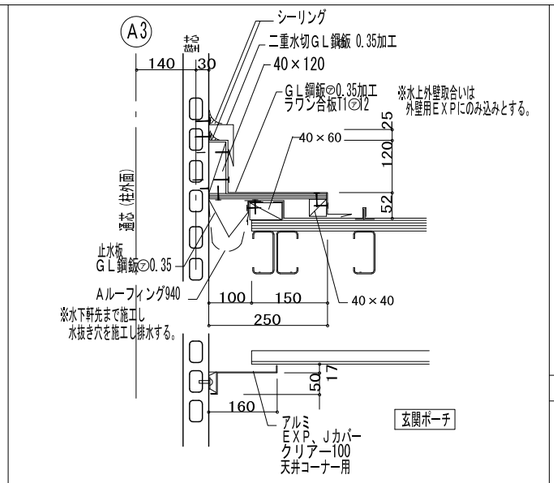


平面図　下部断面図　踊場無目部断面図　最上部断面図

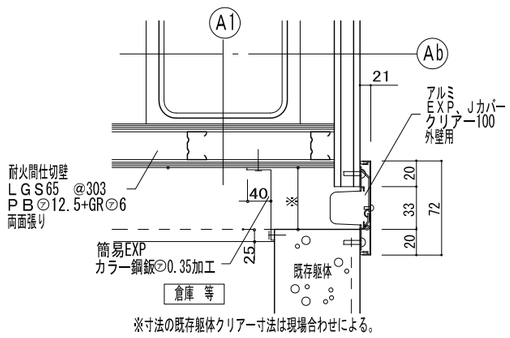
増築階段室段窓部一般サッシ詳細図（AW-9）　1：7



1階玄関サッシ（AD－1）外壁廻り平面詳細図　1：7

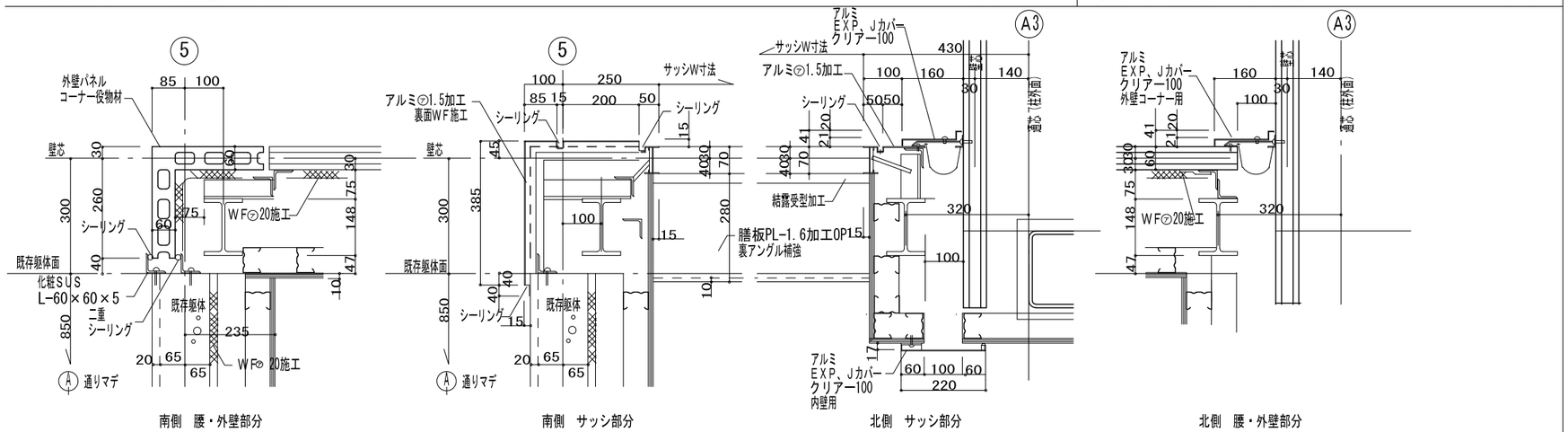


玄関ポーチ　階段室部EXP、J詳細図　1：7



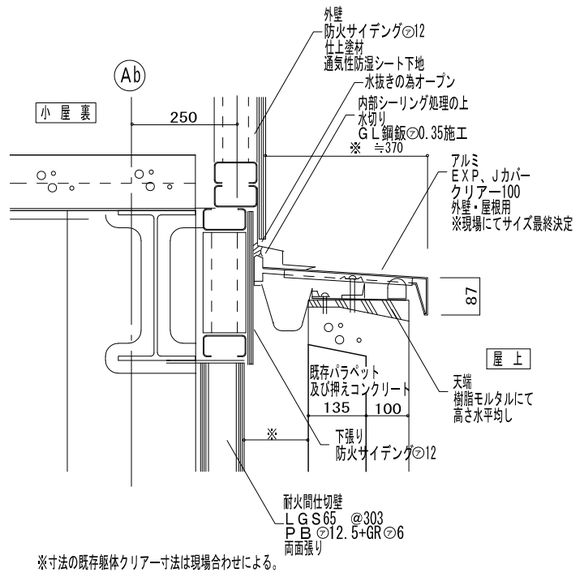
※寸法の既存躯体クリアー寸法は現場合わせによる。

既存部　増築階段室部　壁EXP、J　平面詳細図　1：7



南側　腰・外壁部分　南側　サッシ部分　北側　サッシ部分　北側　腰・外壁部分

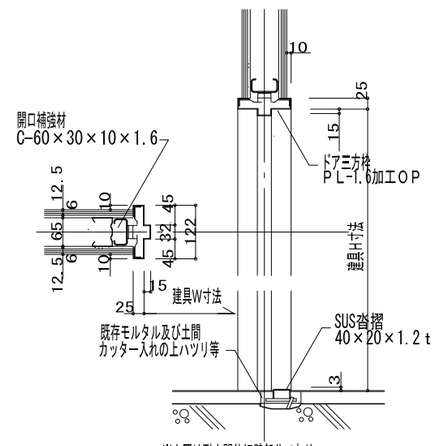
2階～4階正面外壁・サッシ（AW-3）・EXP，J等　詳細図　1：7



※寸法の既存躯体クリアー寸法は現場合わせによる。

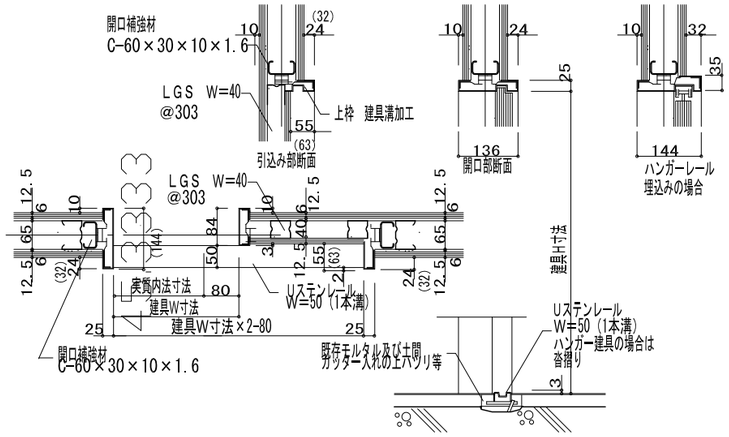
既存部　増築階段室部　屋上屋根EXP、J　断面詳細図　1：7

設計番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名 いきいきプラザ：部分詳細（1）	1:7(A1) 1:14(A3)	縮尺
代表となる設計者(担当)		図面番号 KA-A023



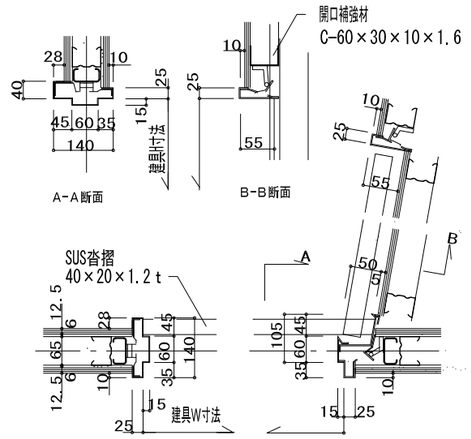
※上図は耐火間仕切壁部分であり、
一般壁部分は、壁仕上げ分だけ見込みを小さくする。

スチールドア枠詳細図　1:7



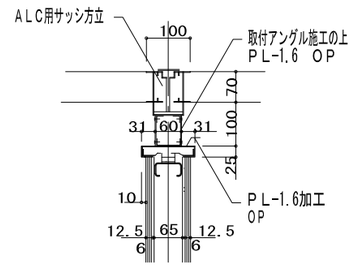
※建具枠は全て　PL-1.6加工　OP塗装とする。

引込み戸スチール枠廻り　詳細図　1:7



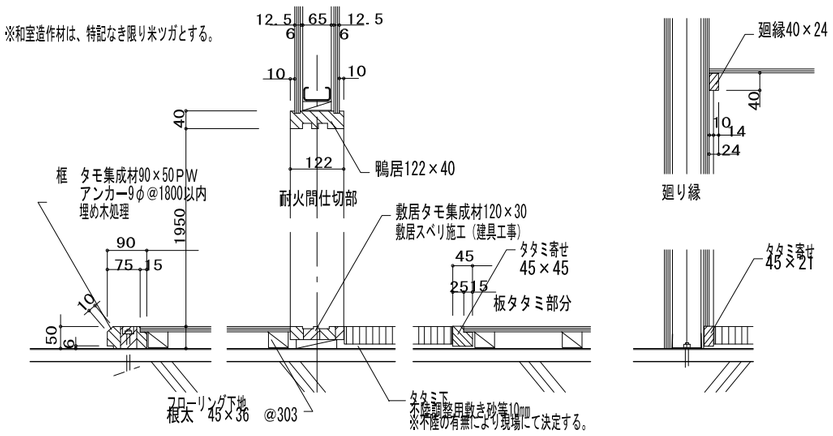
※建具枠は全て　PL-1.6加工　OP塗装とする。

階段室常時開放スチールドア廻り　詳細図　1:7

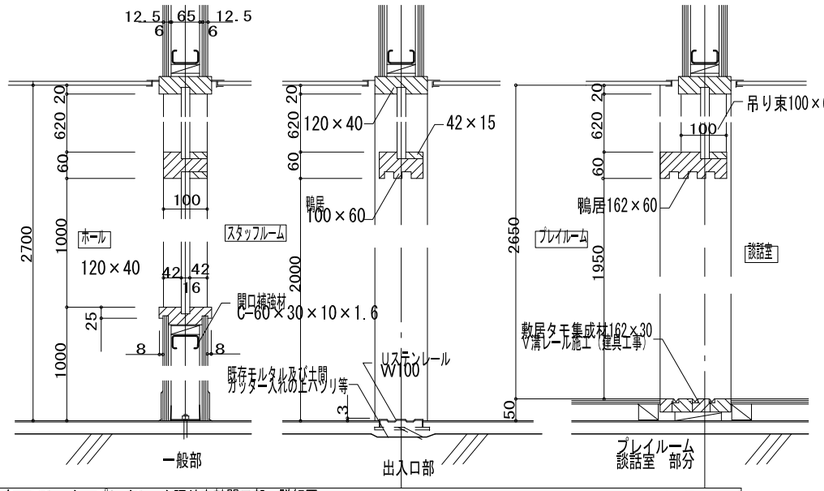


西側ALC用サッシ　間仕切壁取合い詳細図　1:7

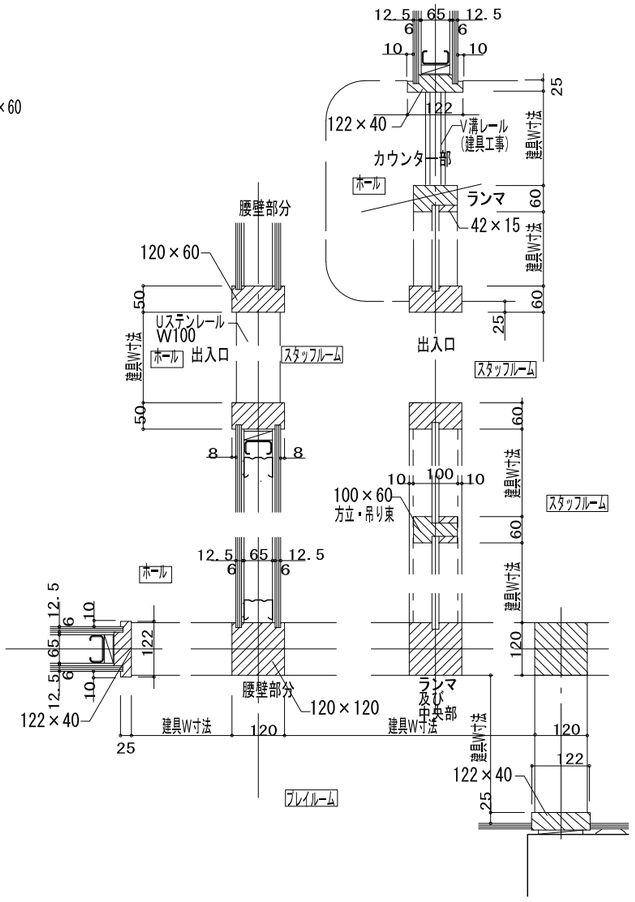
※和室造作材は、特記なき限り米ツガとする。



和室各所　詳細図　1:7

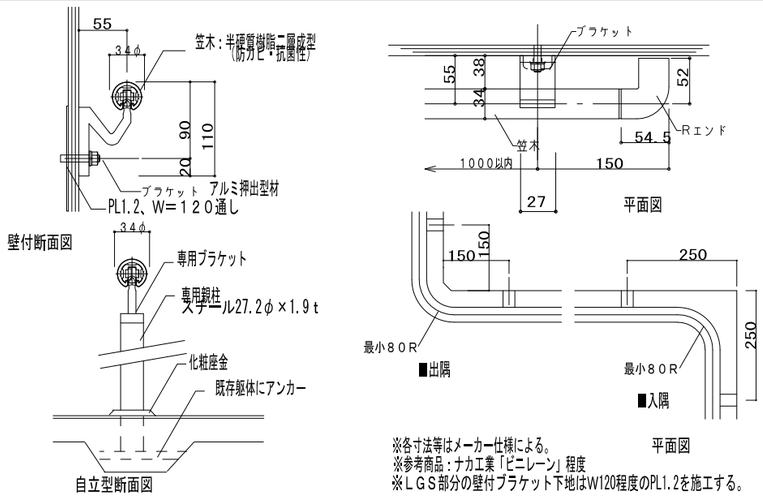


3階スタッフルーム・プレイルーム廻り木軸開口部　詳細図　1:7



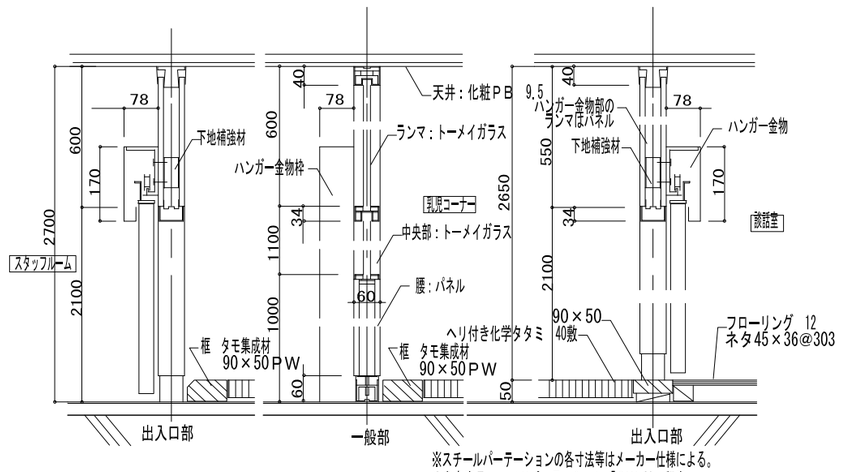
※ランマ・中央部のガラス止め押縁は化粧平ビス止めとする。
※木材　造作材は米ツガとする。
※木部の塗装は、ホール・スタッフルームはOP塗りとし、プレイルーム・談話室はCLとする。

3階スタッフルーム・プレイルーム廻り木軸開口部　詳細図　1:7



※各寸法等はメーカー仕様による。
※参考商品：ナカエ業「ビニレーン」程度
※LGS部分の壁付ブラケット下地はW120程度のPL1.2を施工する。

4階　各所手摺　詳細図　1:7　1:3.5



※スチールパーテーションの各寸法等はメーカー仕様による。
※参考商品：コマツパーテーション「SW-60」程度

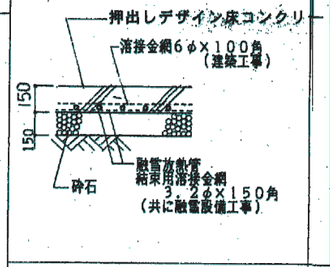
3階スタッフルーム・乳児コーナー・談話室廻りスチールパーテーション　詳細図　1:7

設計者号	工事名称：旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日：R4年12月
図面名：いきいきプラザ：部分詳細（2）		縮尺：1:7(A1) 1:14(A3)
代表となる設計者(担当)		図面番号：KA-A024

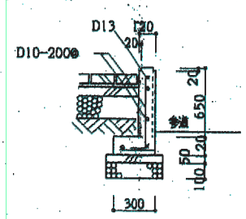
西側敷地　多世代交流広場　外構図

― 外構リスト ―

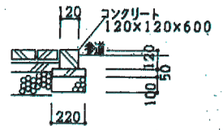
記号	項目		形状、寸法、仕様	施工数量	備考
A	コンクリート舗装		押出しデザイン床コンクリート　T＝150	327 ㎡	
	（融雪有り）		砕石　T＝150		
Aa	同上　融雪　無し			000 ㎡	
B	コンクリート舗装（スロープ）		土間コンクリート　T＝12㎝　砕石 T＝12㎝ ノンスリップ仕上げ 鉄筋：D10－200タテヨコ共	9.5 ㎡	
C	区画線引き		駐車帯 常温ペイント方式W＝10㎝　　障害者用車椅子マーク	一式	
D	視覚障害者誘導床材		磁器質300角　3連　捨コン　据付モルタル	アプローチ 建屋工事に含む	
E	縁石等　見切工	1	コンクリート地先境界ブロック　120×120×600L	8.1 m	
		2	現場打　W＝120　H＝650	10.0 m	
F	スロープ立上り		現場打　W＝120　H＝650	7.1 m	
G	排水溝　のやり替え		道路用落し蓋式　U300A 鋼製グレーチング　T20　@2500　他はコンクリート蓋 細目　ノンスリップ	20.2 m	
H	集水桝		コンクリート製450角	2 ヶ所	
I	排水管		VP管100	17.2 m	
J	浸透桝			2 ヶ所	



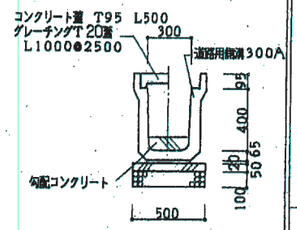
A 詳細図　1:30



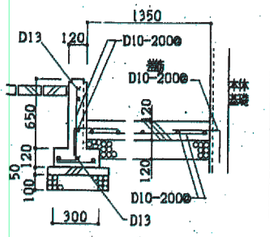
E－2 詳細図　1:30



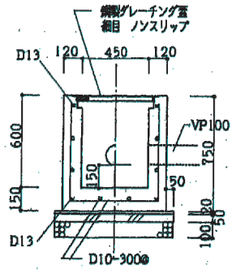
E－1 詳細図　1:30



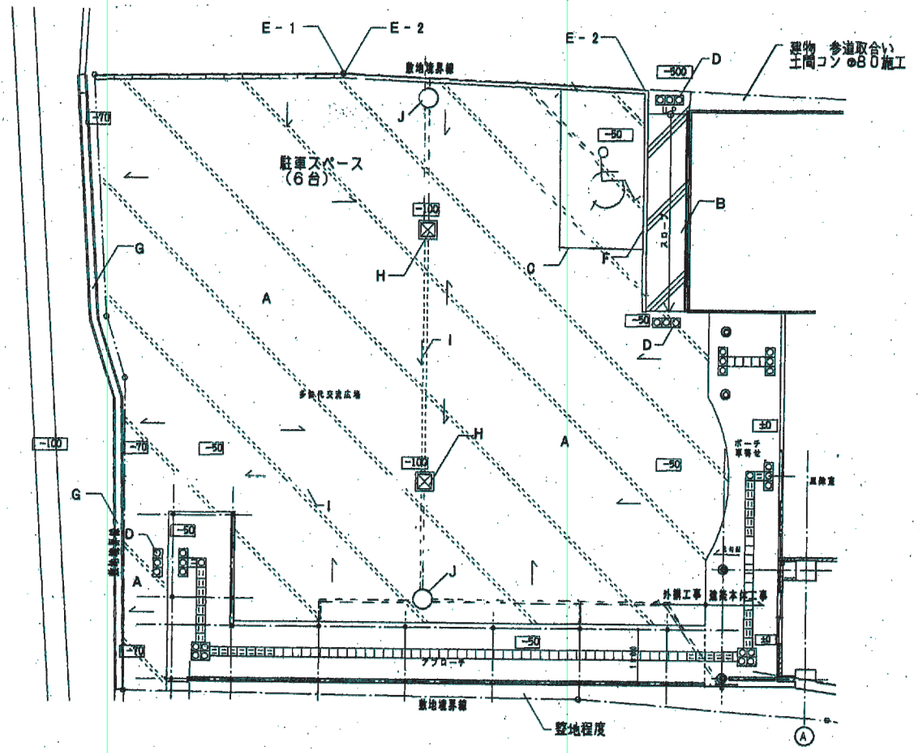
G 詳細図　1:30



B・F 詳細図　1:30



H 詳細図　1:30

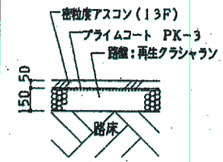


※図中のレベルは概略値であり、既存建物撤去後実測を行い最終決定する。

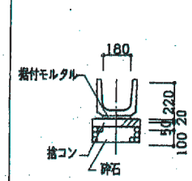
東側敷地　職員駐車場　外構図

― 外構リスト ―

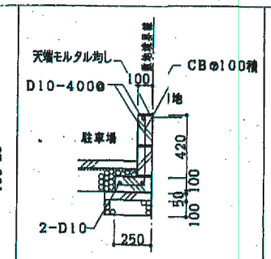
記号	項目		形状、寸法、仕様	施工数量	備考
A	アスファルト舗装		表層：密粒度アスコン（13F）T＝5㎝ 路盤：クラシャランC－40　T＝15㎝ プライムコート　PK－3	186 ㎡	
B	区画線引き		駐車帯 常温ペイント方式W＝10㎝	71.2 m	
C	排水溝		U字溝　W＝180　蓋なし	10.3 m	
D	境界 ブロック積み	1	コンクリートブロック B種@100　2段積み　D10@400	15.0 m	
		2	同上　1段積み	12.9 m	
E	境界杭		BB（規格品）60×60×600 コンクリートブロック	2 ヶ所	



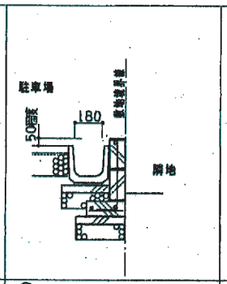
A 詳細図　1:30



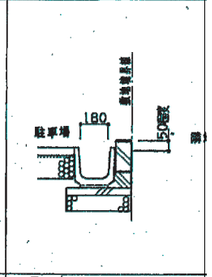
C 断面図　1:30



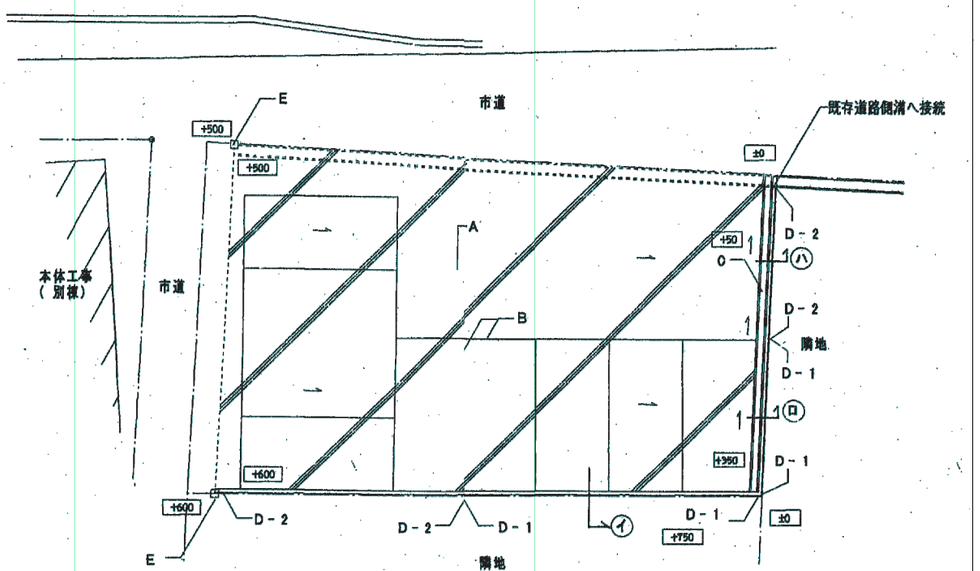
㋑ 断面図　1:30



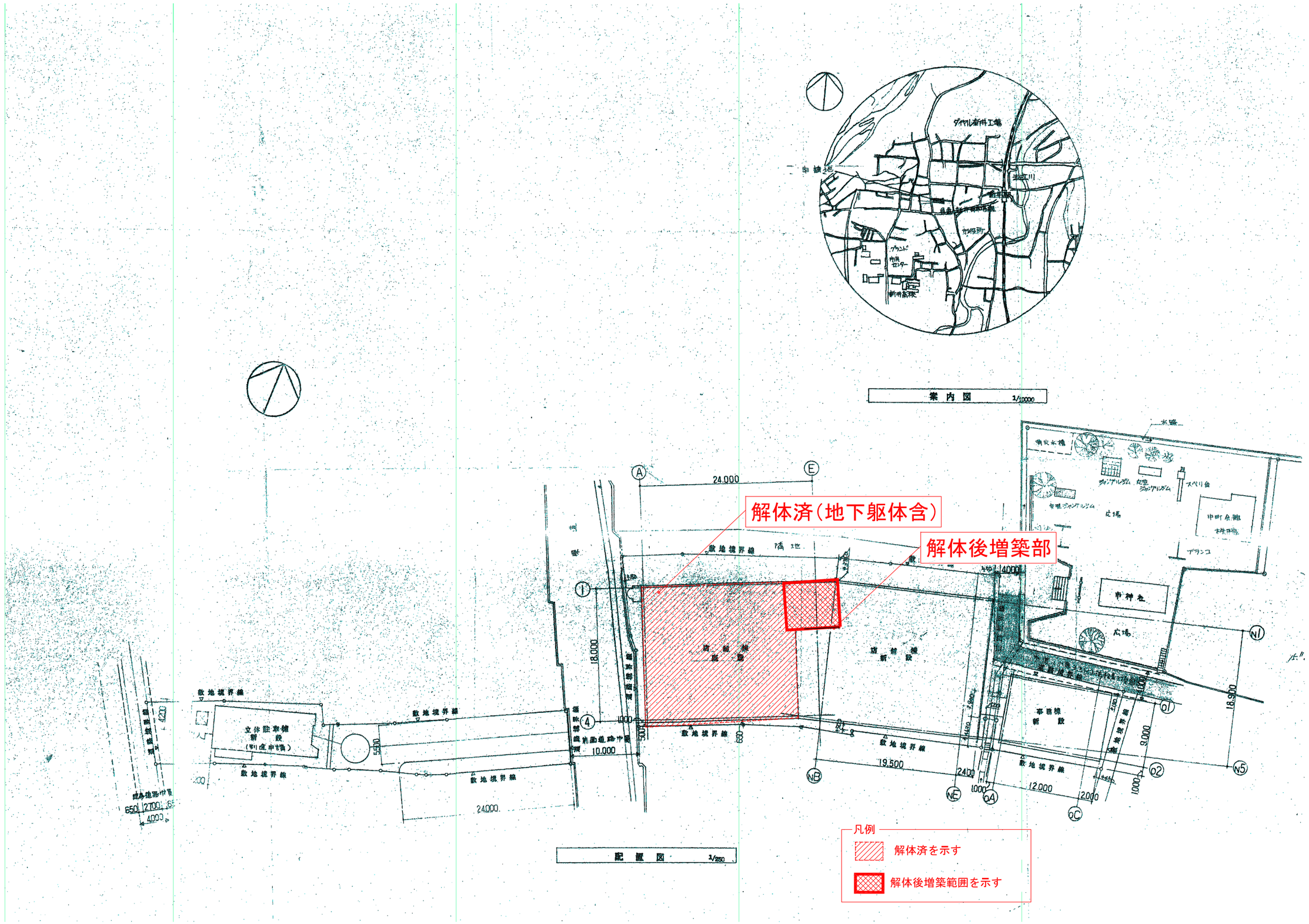
㋺ 断面図　1:30



㋩ 断面図　1



設計者名	工事名称	作成日
	旧いきいきプラザ解体撤去工事	R4年12月
図面名：いきいきプラザ：外構図		縮尺：1:20 1:100(A1)　1:40 1:200(A3)
代表となる設計者（設部）		図面番号：KA-A025



設計番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名 旧越中屋本店：配置図（参考）	1:250 (A1) 1:500 (A3)	縮尺
代表となる設計者（担当）		図面番号 KA-B101

外部仕上表

店舗棟（増築部）

屋根（PR） アスファルト防水 押えコンクリート ⌀60 金ごて 目地
パラペット コンクリート打放し 天端 金ごて押
機械基礎 コンクリート打放し
配管取出し口
煙突 ~~▲鋼管煙突 OP~~ コンクリート打放し 樹脂吸付材E
（R） アスファルト防水 ポリエチレンシート敷 押えコンクリート ⌀60 金ごて 人工芝張り
パラペット コンクリート打放し 一部 防水押えしたが積 モルタル塗 積層吸付材E
トップライト 防水モルタル塗りの上 積層吸付材E
柵 鋼製 OP

外壁（PH共） 東面の一部 及び南面） コンクリート打放し 又はALC版の上 リシン吹付
（北面 及び東面の一部） コンクリート打放し 化粧目地 積層吸付材E

軒天井 ~~ラワン合板 鏡面仕上~~ ▲塩ビ鋼板 ⑩ きくスパットレッド

腰 （東面の一部 及び南面） コンクリート打放し
（北面 及び東面の一部） コンクリート打放し 積層吸付材E

床 （出入口廻り） 磁器タイル
（ど真ん中） アスファルト舗装

その他 竪樋 SGPW OP 排水溝（南側） U-24
庇 天端 防水モルタル 下端 積層吸付材E

店舗棟（既設部）

屋根 既設モルタル防水下地 アスファルト防水 ポリエチレンシート敷 押えコンクリート ⌀60
金ごて 人工芝張り
パラペット コンクリート打放し 一部 防水押えしたが積 モルタル塗 積層吸付材E
排気筒 天端 防水モルタル塗
柵 鋼製 OP
（階段室 エレベーターホール屋根） アスファルト防水 押えコンクリート ⌀60 金ごて
パラペット コンクリート打放し ⌀60 金ごて

外壁 （西 北面 エレベーターホール外面） アルミパネル
（南面2F以上） リシン吹付
（階段室屋上部） 積層吸付材E

軒天井 ラワンパネル 鏡面仕上

腰 （南面） 既設 ハツる
（西 北面） コンクリート打放し 積層吸付材E

床 （出入口廻り） 磁器タイル
（ど真ん中） アスファルト舗装 一部 配管ピット

その他 竪樋（北面） ステンレス化粧面パイプ （その他） SGPW OP

事務所棟

屋根 アスファルト防水 押えコンクリート ⌀60 金ごて 目地
パラペット コンクリート打放し 天端 金ごて

外壁 コンクリート打放し リシン吹付

軒天井 石綿セメント板 VP

腰 コンクリート打放し 北 東面は 積層吸付材

床 出入口廻り コンクリート刷毛引仕上

その他 竪樋 SGPW OP

庇 天端 防水モルタル 下端 リシン吹付

内部仕上表

階	室名	床	巾木	壁	天井	天井高	廊下幅	天井				備考
地階	売場（2～4階）	~~ナイロン~~ ▲VAT	別途	一部 軽鉄下地 PB ⑨12	化粧PB 直張	2700	○	○				
	〃（1階）	ノンスリップシート	別途	別途（準不燃以上）	PB ⑨9下地 岩綿吸音板	2900	○	○				
	〃（B階）	テラタイル	別途	別途（準不燃以上）	化粧PB 直張	2900	○	○				梁下 化粧コーナーボール
	エスカレーターホール（2～4階）	~~ナイロン~~ ▲VAT	ビニル巾木 H=75	PB ⑨12 GL工法張りの上 壁紙張	PB ⑨9 EP	2700						4階 トップライト 一部 鏡張り
	〃（1階）	ノンスリップシート	合上	合上	合上 EP	2900						
	〃（B階）	テラタイル	TB H=100	合上	合上 EP	2900						
	階段 A	~~ナイロン~~ ▲VAT （既に上）	ビニル巾木 H=75	モルタル 一部 PB ⑨12 GL工法張り VP	パーライト吹付（最上階 石綿セメント板下地）	—						ノンスリップ ステンレス ゴムタイヤ入 手摺
	〃 B	磁器タイル （〃）	磁器タイル H=100	▲モルタル塗 積層吸付材E ~~コンクリート手摺 アルマックス~~	~~ラワン合板 鏡面仕上~~ ▲塩ビ鋼板 ⑩12（メスパット） 一般 パーライト吹付	—						磁器 ノンスリップタイル
	〃 C（1～4階）	VAT （〃）	ビニル巾木	モルタル塗 EP	パーライト吹付	—						ノンスリップ ステンレス ゴムタイヤ入
	（B階）	モルタル塗 （〃）	モルタル塗	モルタル塗	石綿セメント板 一部モルタル VP	—						鉄製 手摺 SGP OP
	〃 D.E	~~ナイロン~~ ▲VAT	（ささら打ち ビニル巾木） VP	PB ⑨12 GL工法張り （E階は VP D階は 壁紙張）	石綿セメント板 VP	—						ノンスリップ ステンレス ゴムタイヤ入 手摺 鋼製 塩ビ丸型手摺
	女子 男子 便所	磁器モザイクタイル	陶器質タイル 110°傾き	化粧石綿セメント板張り	石綿セメント板 VP	2400	○					間仕切 ポリエステル化粧板 フラッシュ 一部面化粧合板
	空調機械室	モルタル塗	コンクリート打ちまま H=1200	ロックウール吹付	ロックウール吹付	—						
	飲食店舗 2.	~~ナイロン~~ ▲VAT	別途	別途（準不燃以上）	PB ⑨9	2700						
	〃 厨房	合成樹脂塗床（アスファルト防水下地）	陶器質タイル H=1000	一部 CB ⑩100（化粧不燃）	石綿セメント板	2500	○					グリーストラップ 排水溝
	値付室	VAT	ビニル巾木	PB ⑨12 GL工法張り EP	化粧PB 直張	2500						プライト取付板
	エレベーターホール	~~ナイロン~~ ▲VAT（1階はノンスリップシート）	ビニル巾木	PB ⑨12 GL工法張り 壁紙張	2～4階 化粧PB（不燃）直張 1階 PB ⑨9下地 岩綿吸音板（全体様）	2700 2900	○					
	事務所棟 東階ロビー	VAT	合上	モルタル塗 EP	化粧PB（不燃）	2500						
P	エレベーターホール	~~ナイロン~~ ▲VAT	ビニル巾木	PB ⑨12 GL工法張り 壁紙張	化粧PB	2500						
	機械室	コンクリート金ごて仕上	コンクリート打ちまま H=1200	ロックウール吹付	ロックウール吹付	—						
	電気室	コンクリート金ごて仕上 防塵塗料	合上	合上	合上	—						
	エレベーター機械室	かさ上げコンクリート金ごて仕上	合上	コンクリート打ちまま	ロックウール吹付	—						
4	▲会議室	VAT	ビニル巾木	PB ⑨12 GL工法張り EP	化粧PB	2500		⌒				竹表押 プライト取付板
3	事務室	VAT	ビニル巾木	PB ⑨12 GL工法張り EP	化粧PB	2550						金庫台 流し台 取付期 プライド取付板 押縁台
	応接室	カーペット	木製巾木 C.L.	PB ⑨12 GL工法張りの上 壁紙張り	PB ⑨9下地 岩綿吸音板（全体様）	2200						プライトあり
	電話交換室	VAT	ビニル巾木	吸音PB GL工法張り	化粧PB	2200						プライト取付板
	事務棟 便所	磁器モザイクタイル張り	陶器質タイル 100°傾き	モルタル塗 VP	石綿セメント板 VP	2300						
2	コンピューター室	VAT	ビニル巾木	PB ⑨12 GL工法張り EP	化粧PB	2500						プライド取付板
1	コンプレッサー室	モルタル塗	—	コンクリート打ちまま	ロックウール吹付	—						
	飲食店舗 1	~~ナイロン~~ ▲VAT	別途	別途（準不燃以上）	PB ⑨9	2900						
	〃 厨房	~~ナイロン~~ ▲VAT	モルタル VP H=1000	別途（不燃）	石綿セメント板	2200	○					
	エレベーター機械室	かさ上げコンクリート金ごて仕上 防塵塗料	コンクリート打ちまま 及び ALC版張り H=1200	ロックウール吹付	ロックウール吹付							
	エントランス廻り	磁器タイル	—	—	PB ⑨9下地 岩綿吸音板（一部 全体様）	2900	○					
	リフト前室	VAT	モルタル塗 VP	モルタル塗 VP	パーライト吹付							
	荷捌場	モルタル塗	—	コンクリート打ちまま	スタッコ フォームポリスチレンボード厚20 打込 壁型 コンクリート打ちまま							
B	作業室 1.2	かさ上げコンクリート金ごて仕上 合成樹脂塗床	モルタル塗 VP	モルタル塗 VP	石綿セメント板 VP	2400	○					グリーストラップ 排水溝
	入口ホール	磁器タイル	磁器タイル	モルタル塗 積層吸付材	化粧PB	2700						
	リフト前室 通路	VAT	モルタル塗 VP	モルタル塗 VP	パーライト吹付	—						マンホール
	受水槽室	コンクリート金ごて仕上	—	コンクリートむきだし	コンクリートむきだし	—						排水溝 受水槽基礎 ポンプ基礎 階段 マンホール
	浄化槽機械室	モルタル	コンクリート打ちまま H=1200	ロックウール吹付	ロックウール吹付	—						排水溝 ▲機械基礎のみ設備工事
	〃 作業室		—	コンクリートむきだし	コンクリートむきだし	—						
	▲渡り廊下（2～4F）	ALC版 一部 モルタル下地 ~~ラワン合板~~ 合成樹脂塗床	合成樹脂塗 H=100 ~~ラワン合板~~	コンクリート打ちまま ~~PB ⑨12 GL~~	合上 ~~化粧PB~~	~~2900~~						手摺

表示略号

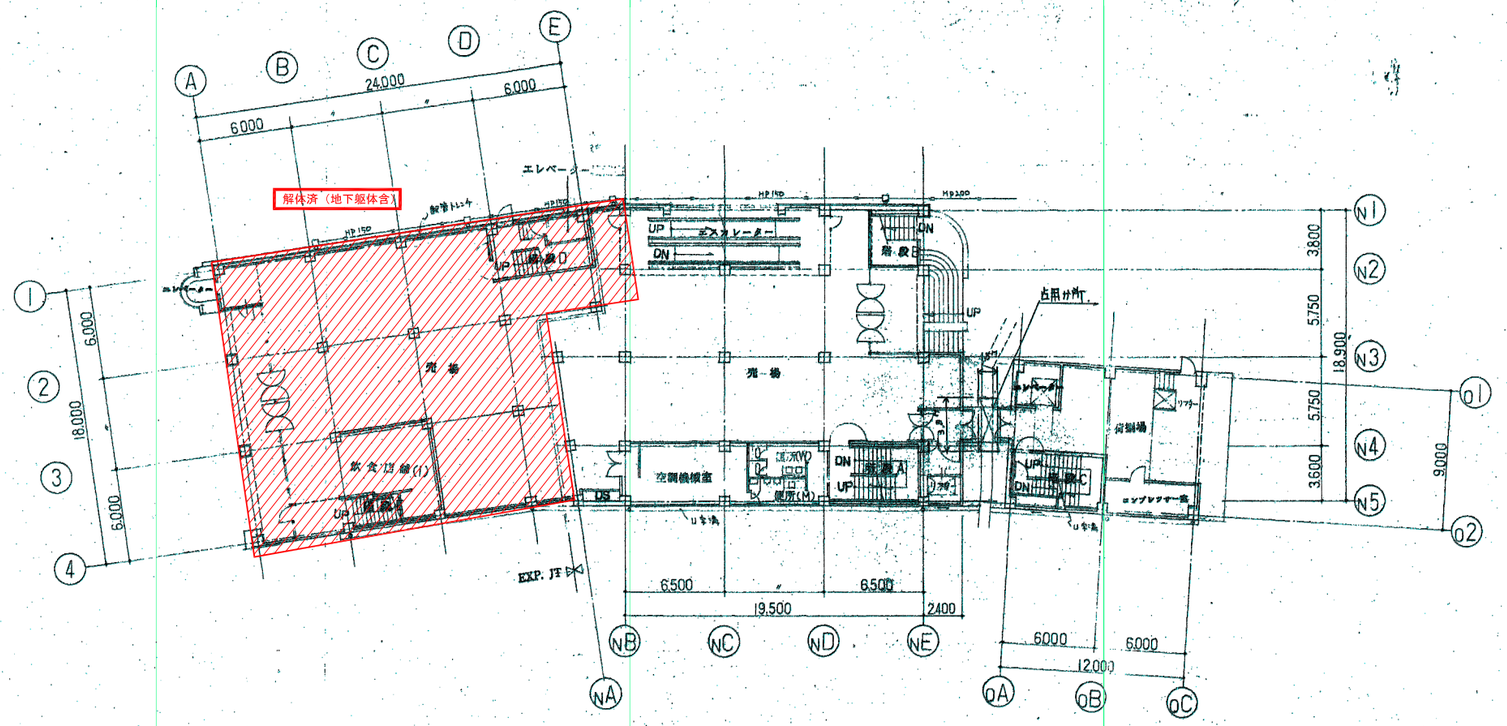
OP	合成樹脂調合ペイント	OSW	油性ステインワックス	PB	せっこうボード	RD	ルーフドレイン
EP	合成樹脂エマルションペイント（酢酸ビニル系）	OSV	油性ステインワニス	TB	テラゾブロック	SUS	ステンレス
AEP	合成樹脂エマルションペイント（アクリル系）	UC	ポリウレタン樹脂系クリヤー	CB	コンクリートブロック	ALC	軽量気泡コンクリートパネル
VP	塩化ビニル樹脂系エナメル			VAT	ビニルアスベストタイル	HP	遠心力鉄筋コンクリート管
MP	多彩模様塗料			VT	ホモジニアスビニルタイル	TP	陶管
SP	京壁塗料（合成樹脂エマルション砂壁状吹付）			SGP	配管用炭素鋼鋼管	VB	ベネッシャンブラインド
CL	クリヤラッカー			VP	硬質塩化ビニル管		

内装材料等記号

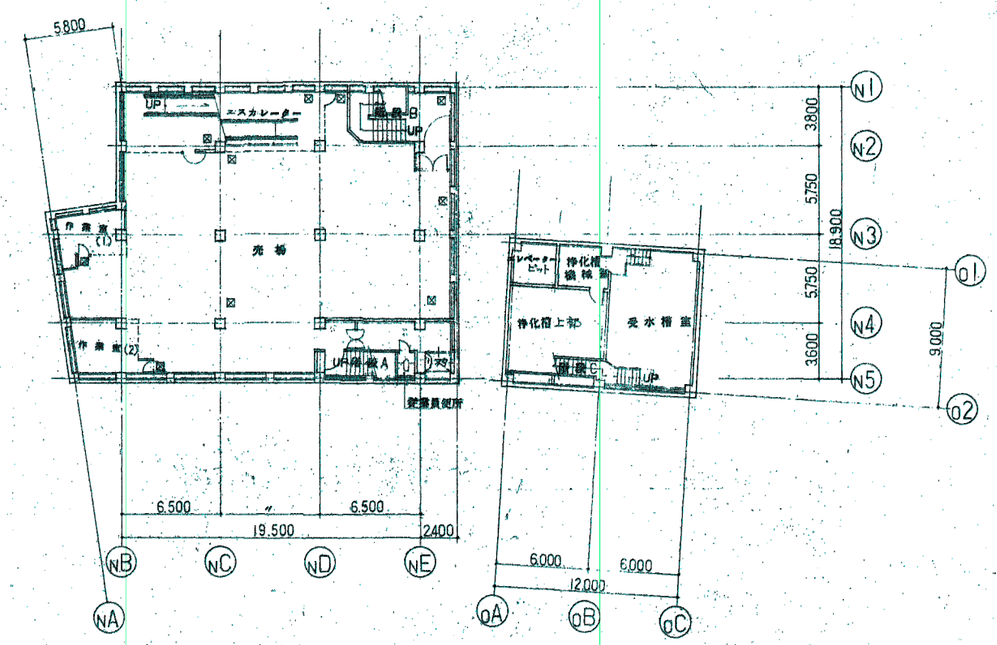
せっこうボード ⑨12	不燃 第1011号	塗料	基材全等 第0001号	下地モルタル目地 出隅は塩ビ成型品			
せっこうボード ⑨12	準不燃 第2004号	多彩模様塗料塗り	〃 第0004号	廊下は塩ビ成型品とする。低い所塗り			
ロックウール吸音板	不燃 第1021号	砂壁塗料塗り	〃 第0004号	不燃			
石綿セメント板	不燃 第1001号	パーライト吹付け	〃 第0004号	化粧PB は特記外 準不燃			
吹付けロックウール	不燃 第1023号	壁装材	防火壁装材				
石綿けい酸カルシウム板	不燃 第1001号, 第1061号	壁紙張	不燃 第1102号				
難燃合板	難燃 第3011号	化粧PB ⑨9	準不燃 第2006号				
〃	〃	〃	準不燃 第2004号				

▲注記

整理番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事		作成日 R4年12月		
図面名 旧越中屋本店：仕上表（参考）			縮尺		
代表となる整計者（総括）			図面番号 KA-B102		



1階平面図



B階平面図

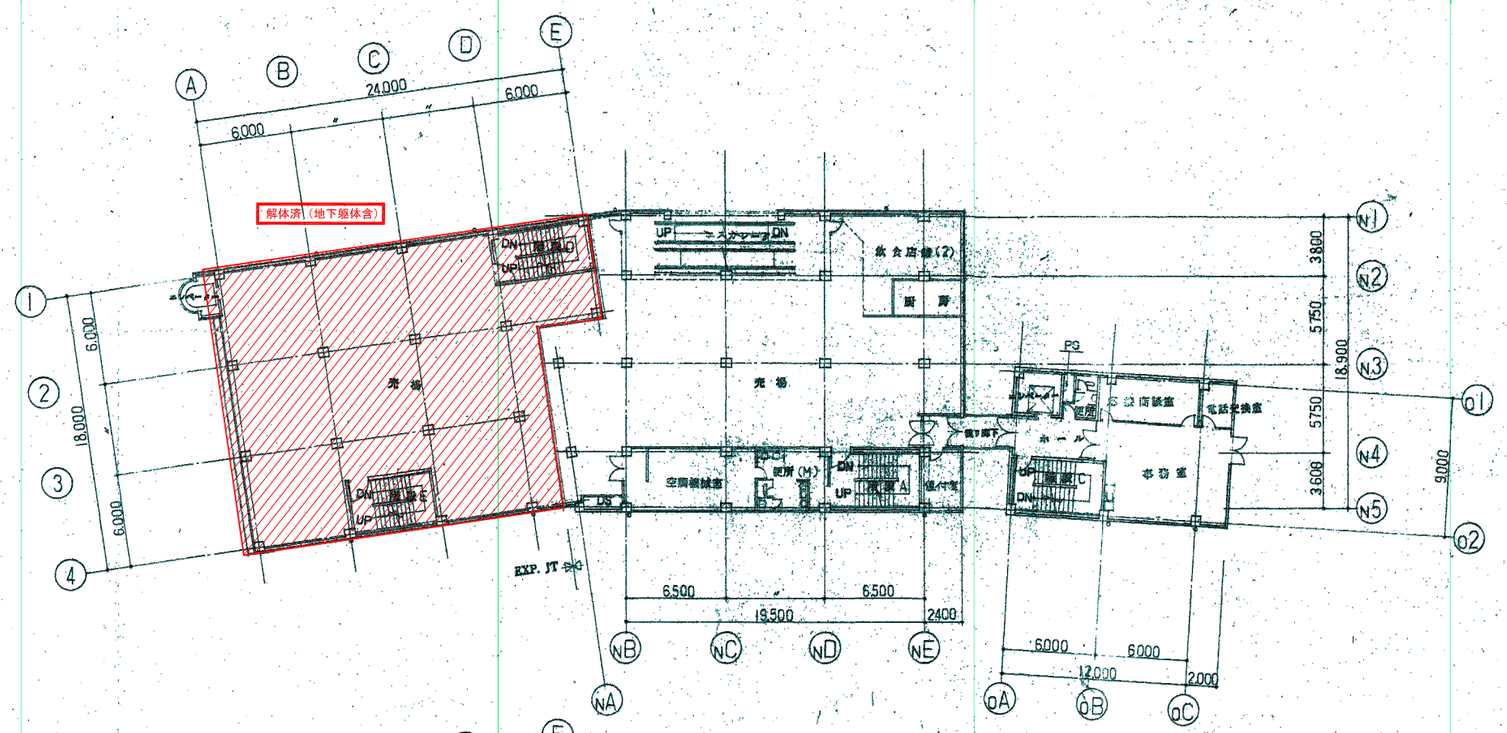
凡例

☒	解体済を示す

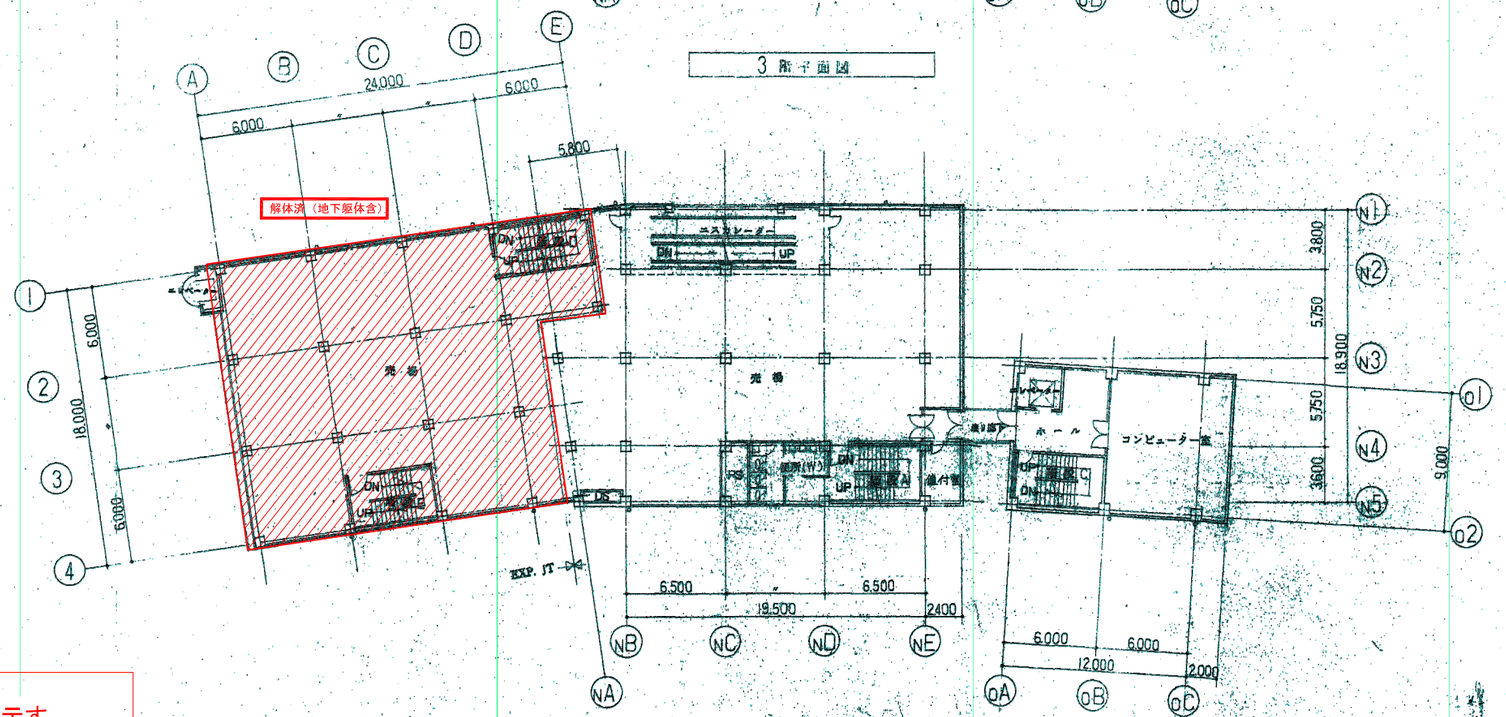
凡例

☒	解体済地下躯体

設計者名	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名 旧越中屋本店：B1・1階平面図（参考）		縮尺 1:200(A1) 1:400(A3)
代表となる設計者(総括)		図面番号 KA-B103



3 階平面図

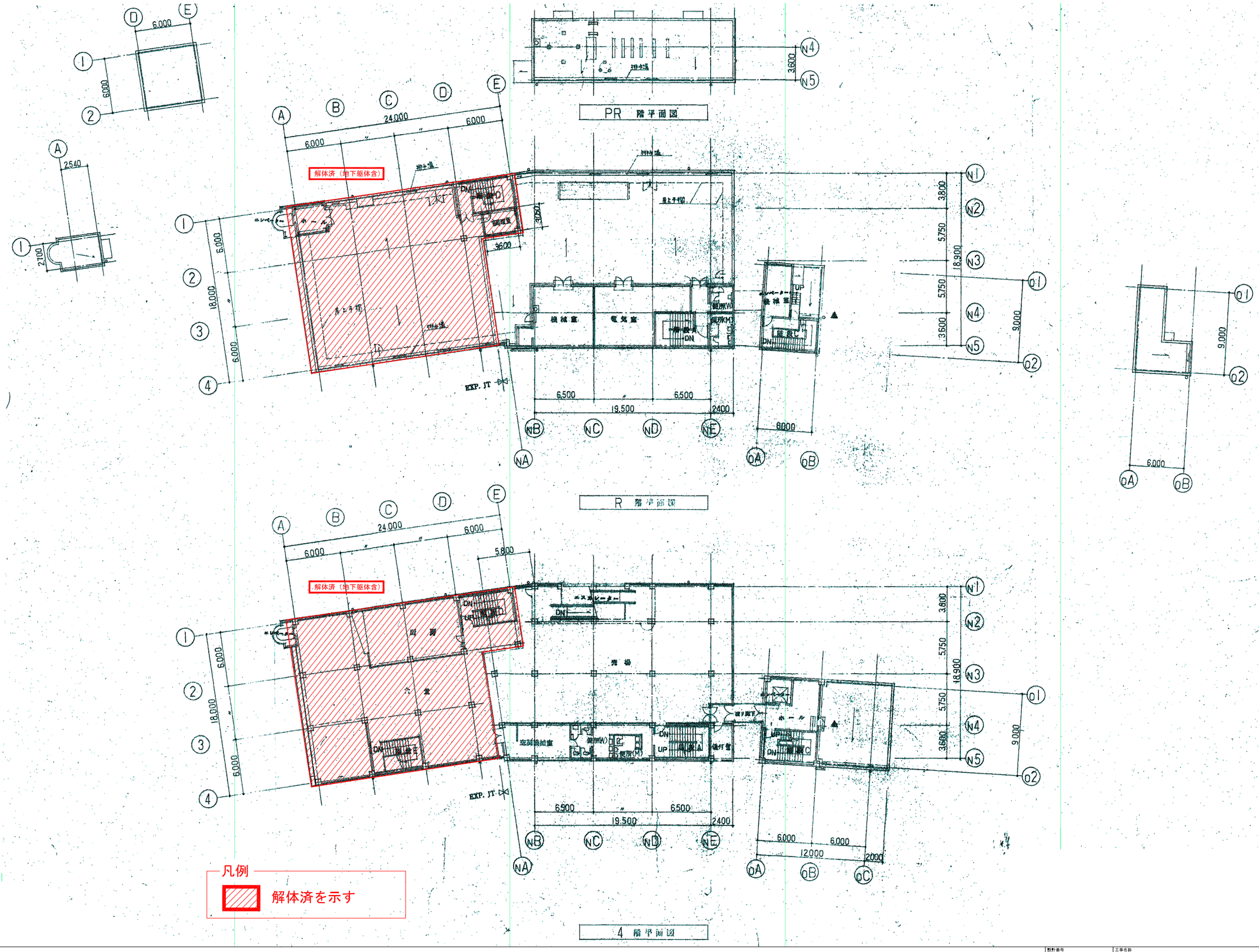


2 階平面図

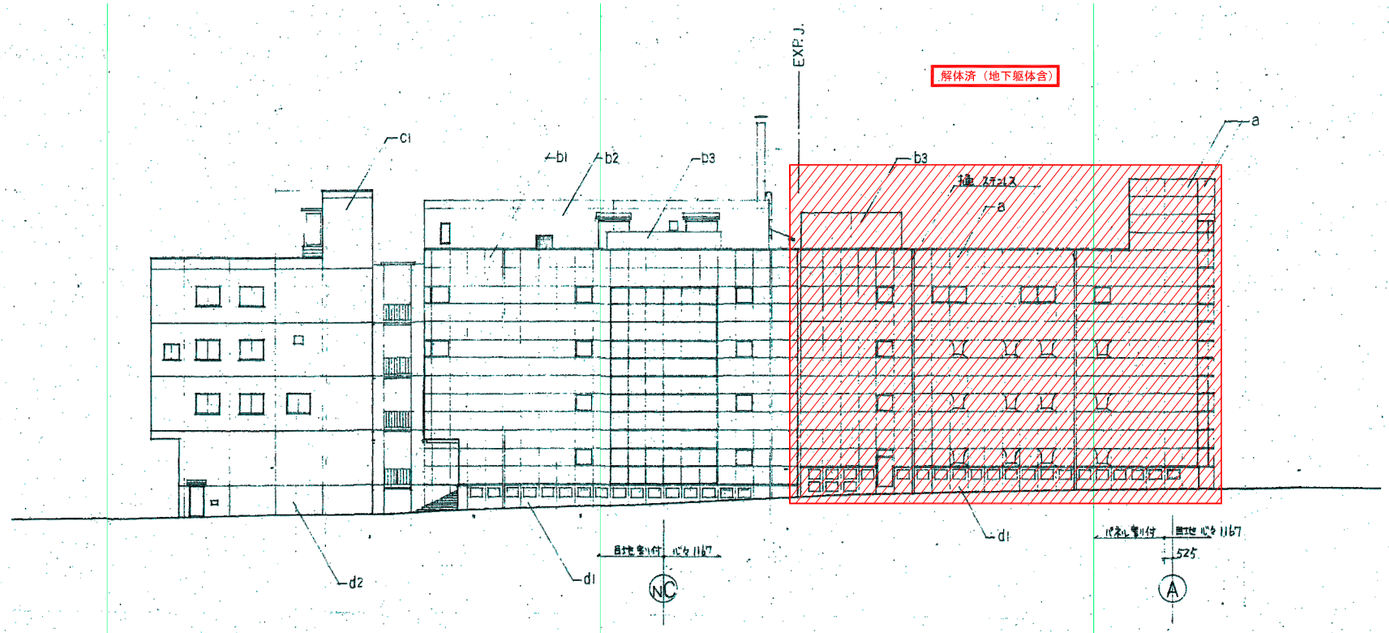
凡例

解体済を示す

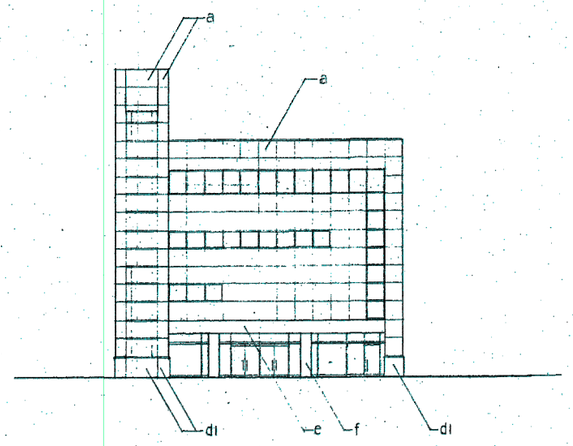
整理番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名 旧越中屋本店：2・3階平面図（参考）	1:200(A1) 1:400(A3)	縮尺
代表となる整理者(総括)		図面番号 KA-B104



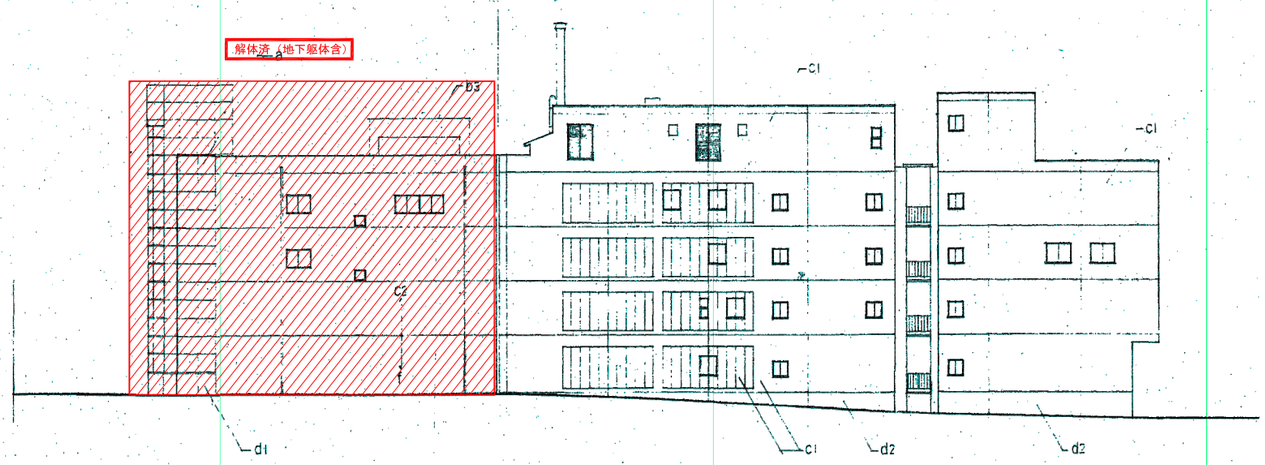
整理番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名 旧越中屋本店：4・P・PR階平面図（参考）	1:200(A1) 1:400(A3)	縮尺
代表となる整理者(総括)		図面番号 KA-B105



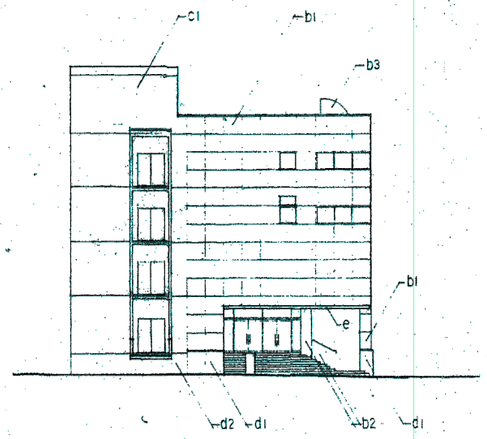
北 面 図 1/200



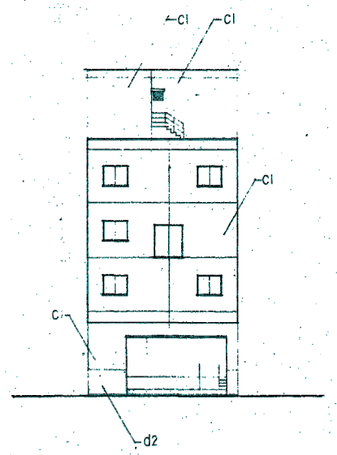
西 面 図 1/200



南 面 図 1/200



店舗棟 東 面 図 1/200



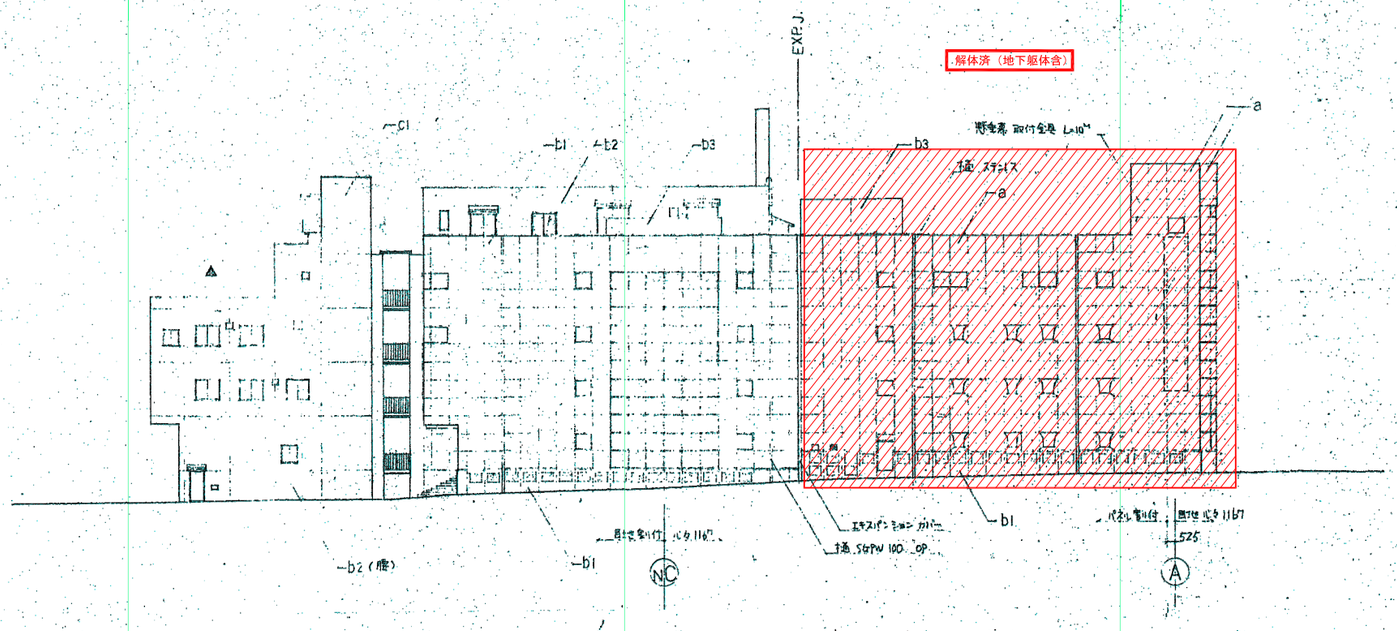
事務所棟 東 面 図 1/200

凡例

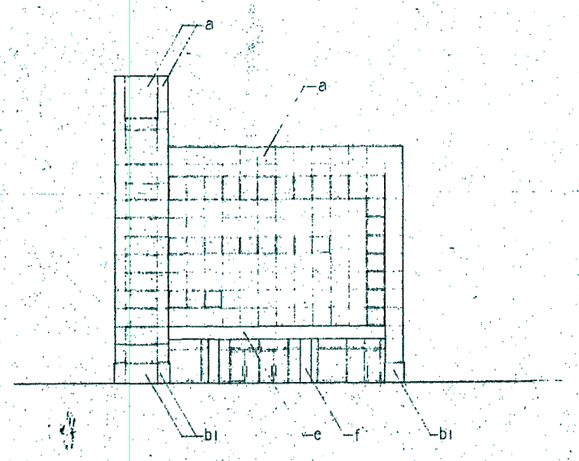
解体済を示す

a	アルミパネル 熱硬化型アクリル樹脂塗装	d2	コンクリート打放し
b1	コンクリート打放し 化粧目地 補修時付材E	e	ステンレスパネル 鏡面仕上
b2	コンクリート打放し 補修時付材E	f	既設のまま
b3	(既設)モルタル下地 補修時付材E		
c1	コンクリート打放し 及び ALC版 リシン吹付		レリーフ板 600×900×60 コンクリート製 凸形押し
c2	既設 モルタル下地 リシン吹付		アルミフード アルミパネルに組込み
d1	コンクリート打放し アクリル		

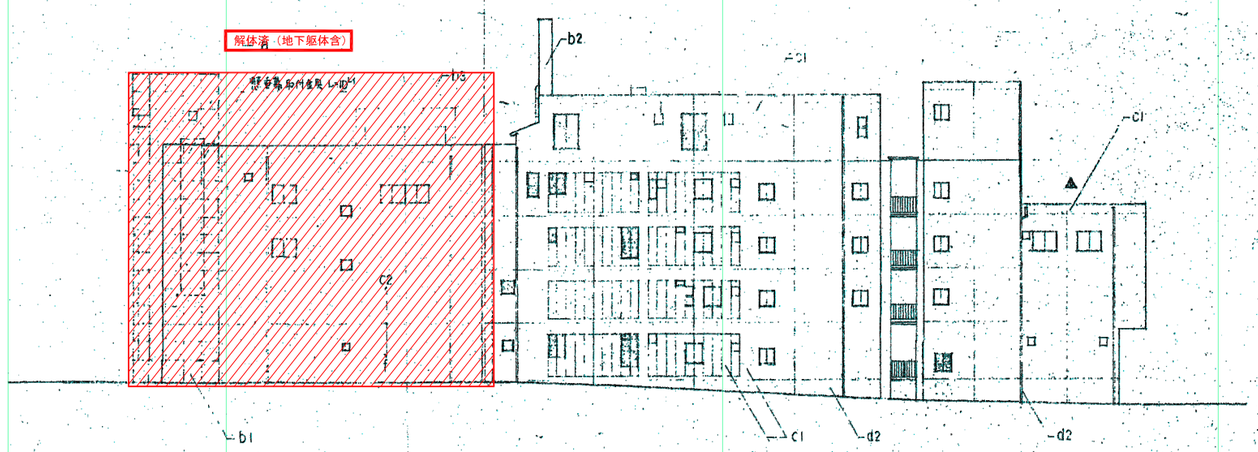
設計者号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名 旧越中屋本店：立面図（１）（参考）		縮尺 1:100(A1) 1:200(A3)
代表となる設計者(局部)		図面番号 KA-B106



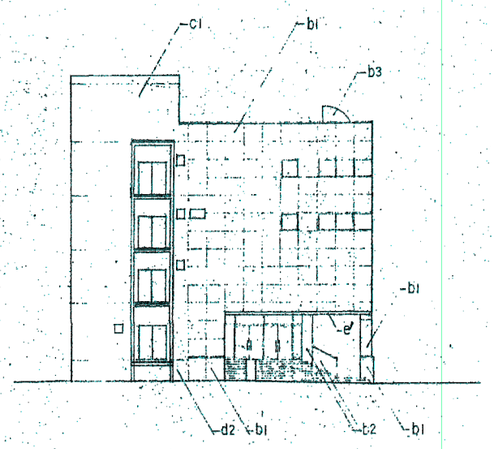
北 面 図 1/200



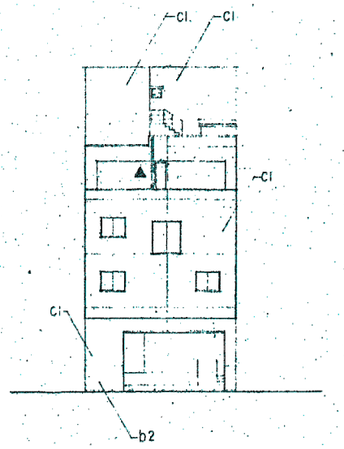
西 面 図 1/200



南 面 図 1/200



店舗棟 東 面 図 1/200



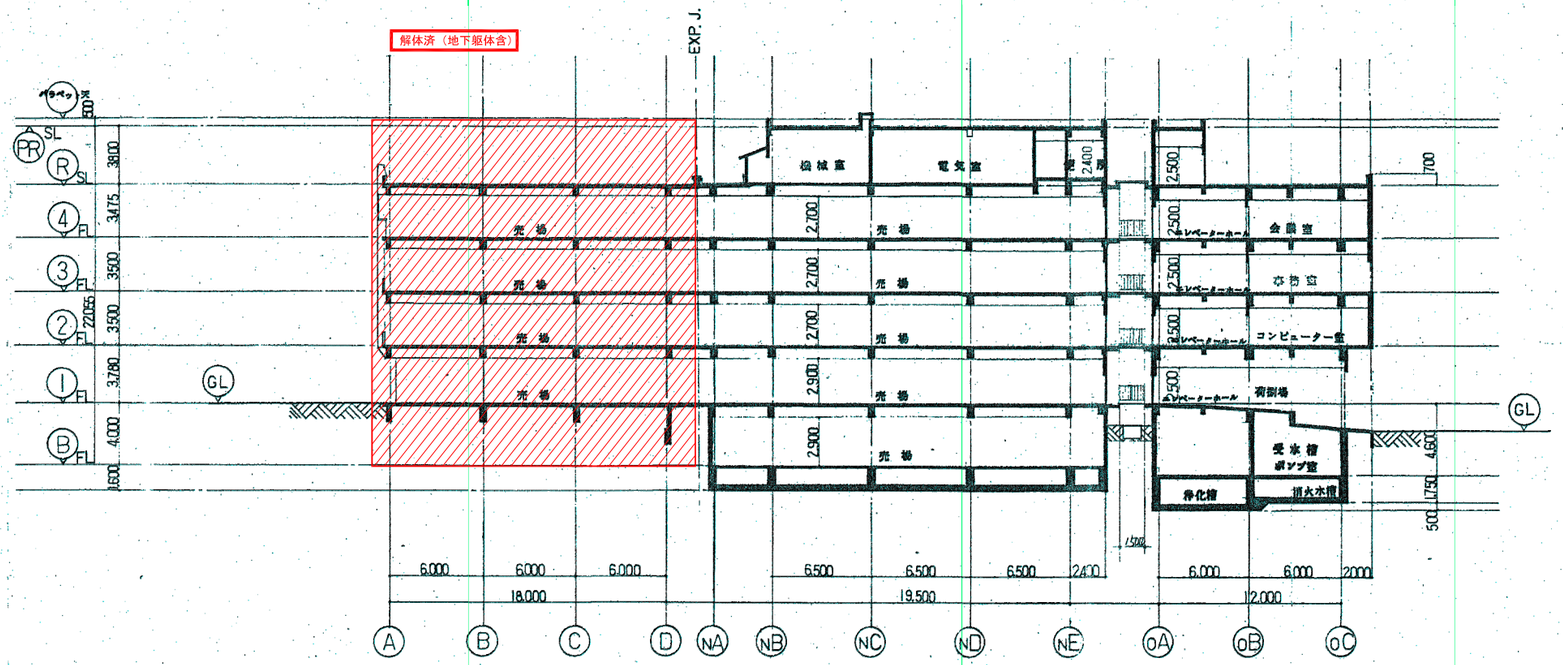
事務所棟 東 面 図 1/200

凡例

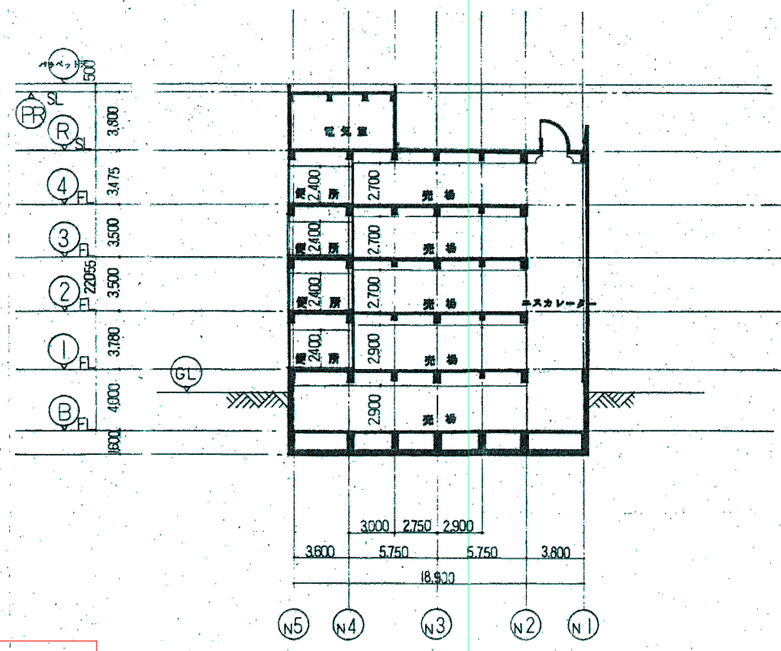
解体済を示す

a —— アルミパネル 熱線反射ガラス入り複層	d2 —— コンクリート打放し
b1 —— コンクリート打放し 仕上塗装	e —— ステンレスパネル 鏡面仕上
b2 —— コンクリート打放し 撥水剤塗付	f —— 既設のまま
b3 —— 既存モルタル下地 複層塗材E	□ —— レリーフ板 600×900×60 コンクリート製
C1 —— コンクリート打放し 及び ALC版下地	⊔ —— アルミフード アルミパネルに埋込み
C2 —— 既設モルタル下地	
d1 —	

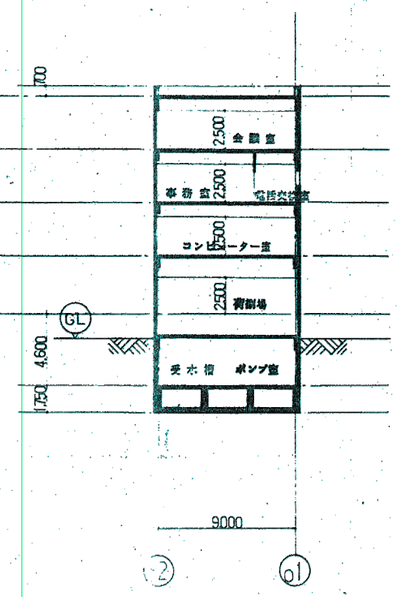
設計番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名 旧越中屋本店：立面図（２）（参考）		縮尺 1:200 (A1) 1:400 (A3)
代表となる設計者(担当)		図面番号 KA-B107



断面図 1/200



断面図 1/200

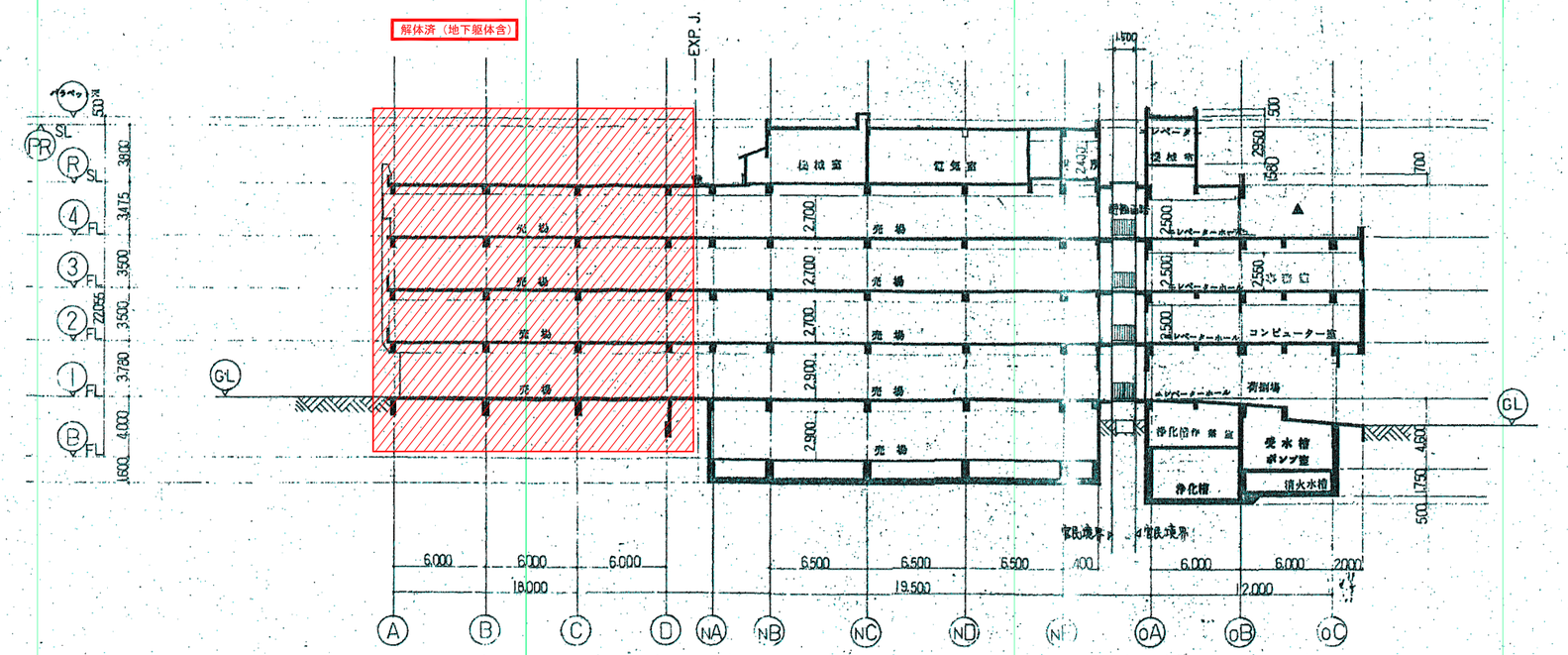


断面図 1/200

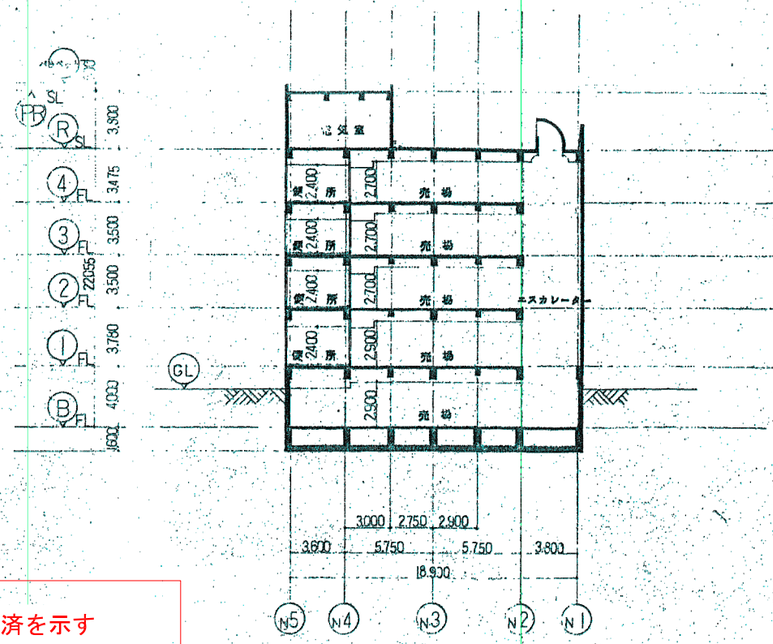
凡例

解体済を示す

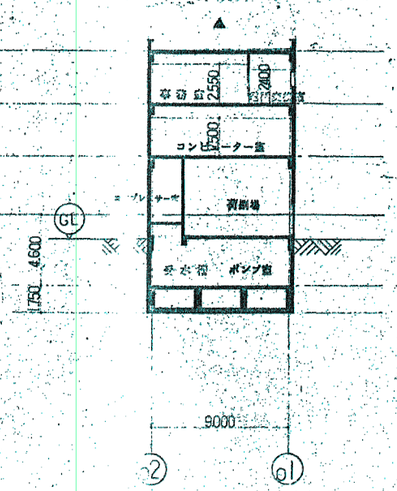
設計番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名 旧越中屋本店：断面図（１）（参考）	1:200 (A1) 1:400 (A3)	縮尺
代表となる設計者(担当)		図面番号 KA-B108



断面図 1/200



断面図 1/200

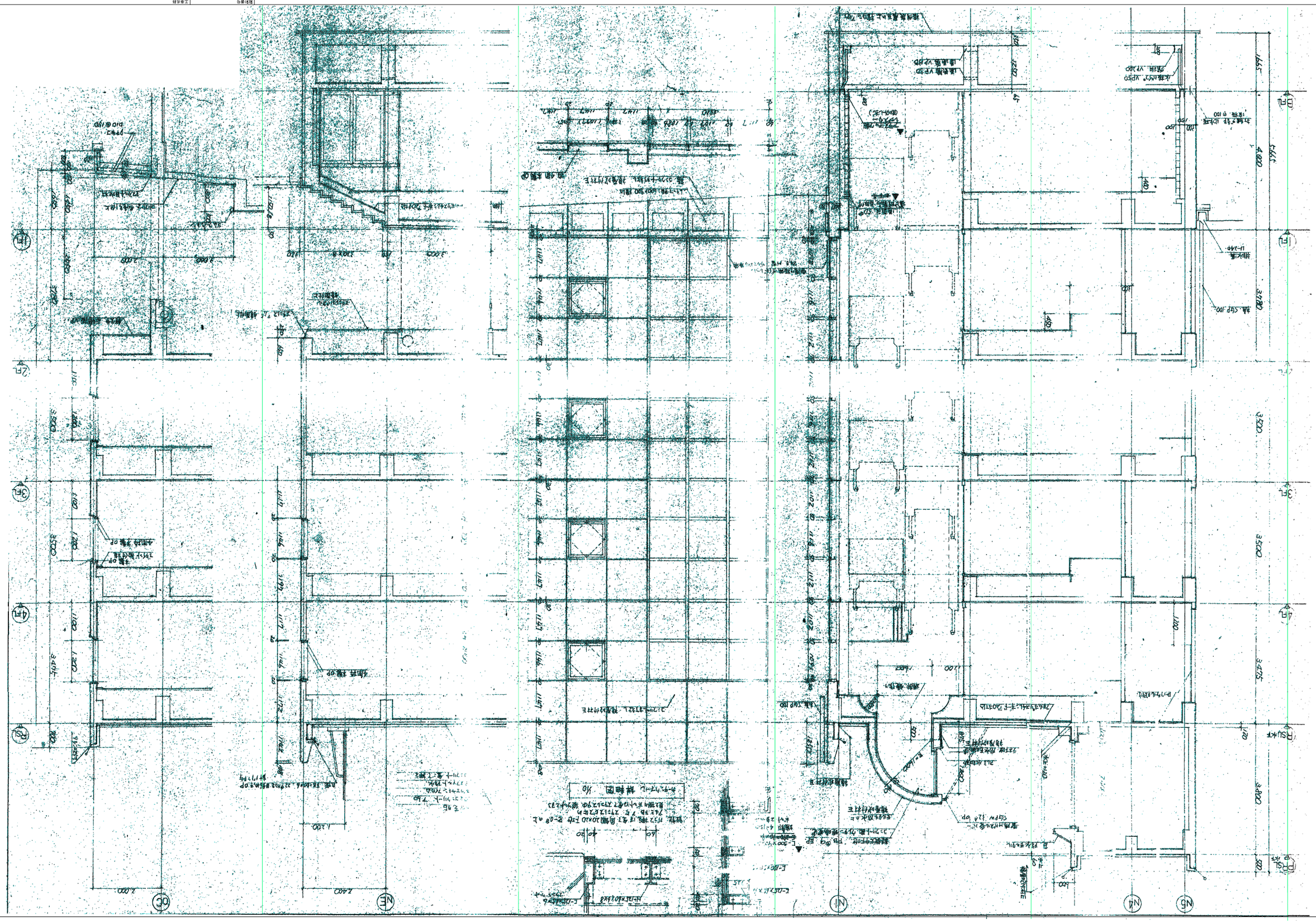


断面図 1/200

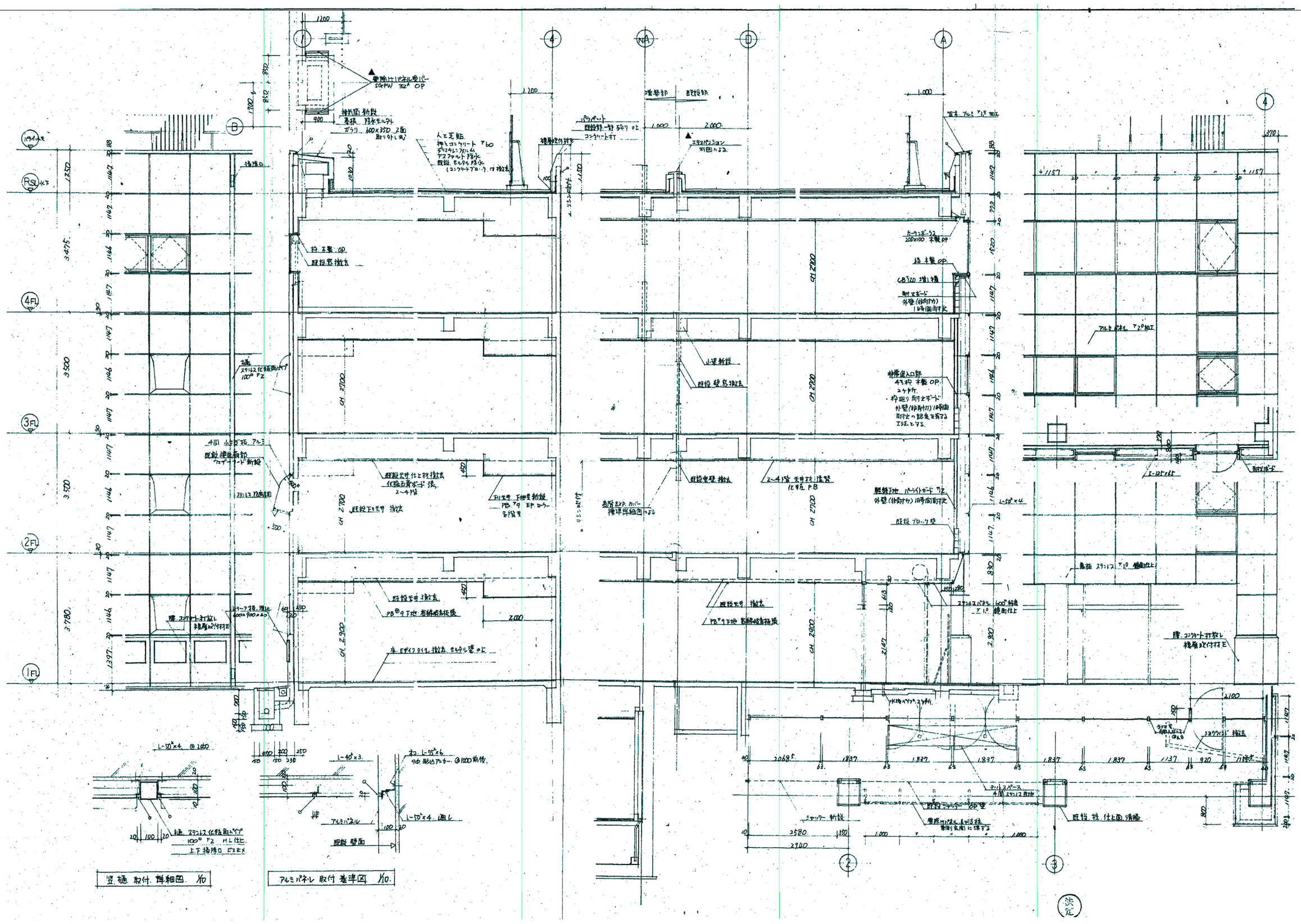
凡例

解体済を示す

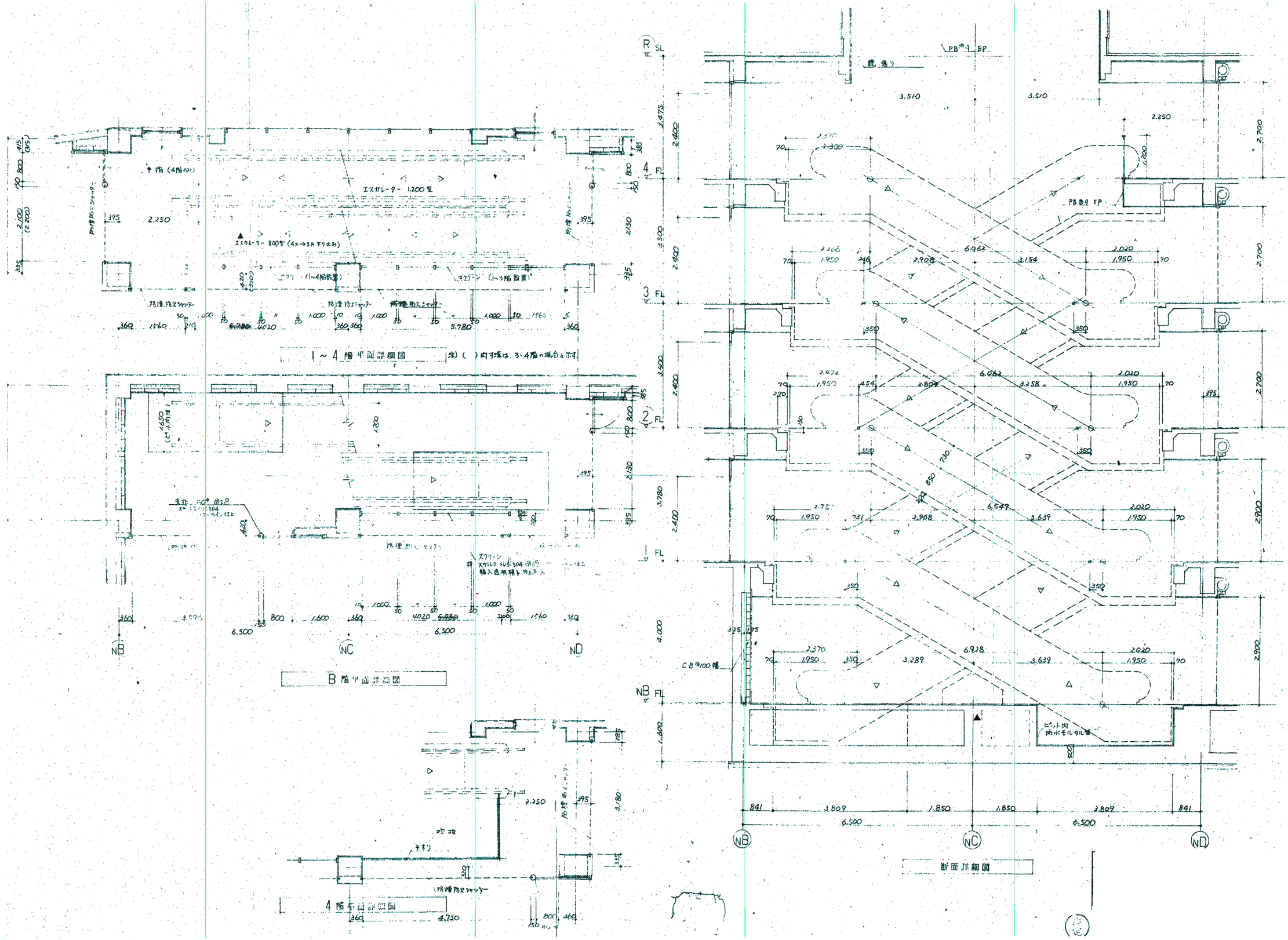
設計番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名 旧越中屋本店：断面図（２）（参考）	1:200(A1) 1:400(A3)	縮尺
代表となる設計者(担当)		図面番号 KA-B109



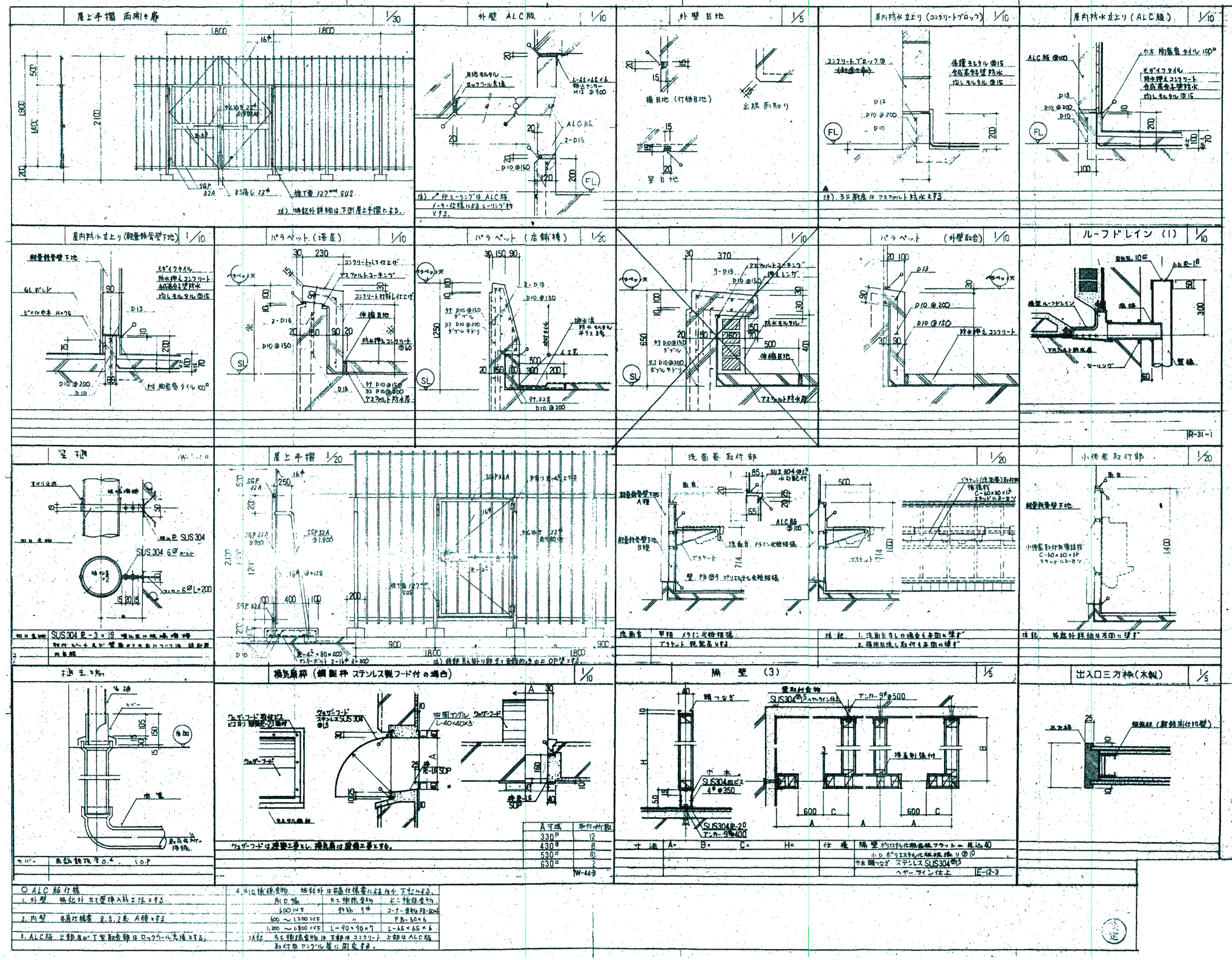
図面名	旧越中屋本店：矩計図（1）（参考）	縮尺	1:50(A1) 1:100(A3)
工事名称	旧しいさしいさ ラ寸保体撤去工事	作成日	R4年12月
発注者名		設計者名	代表取締役 (田辺)
		図面番号	KA-B110



設計番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名 旧越中屋本店：矩計図（２）（参考）	1:50(A1) 1:100(A3)	縮尺
代表となる設計者(設計)		図面番号 KA-B111



整理番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名 旧越中屋本店：エスカレーター廻り群細図（参考）	1:50(A1) 1:100(A3)	縮尺
代表となる整理者(担当)		図面番号 KA-B112



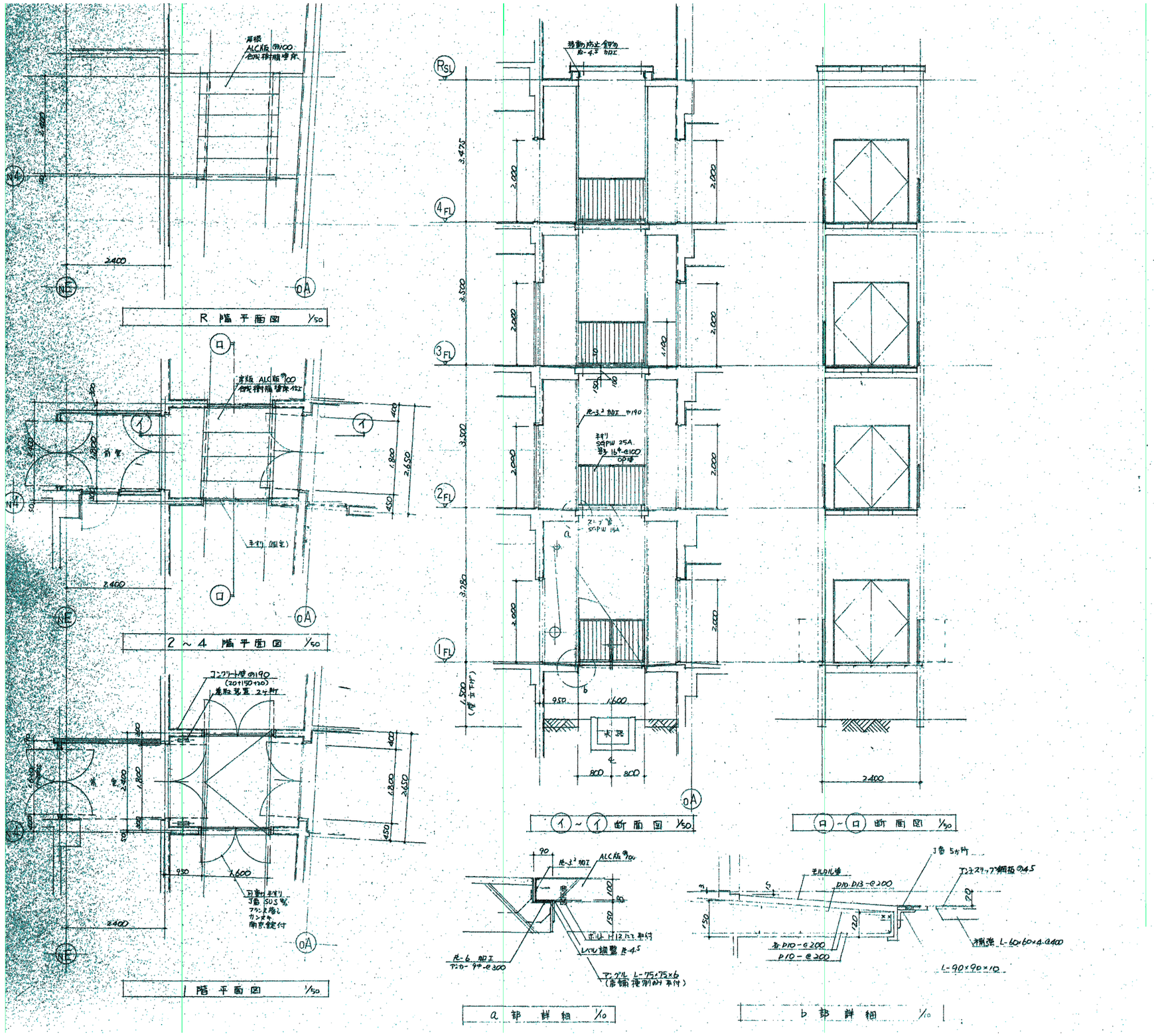
○ALC版仕様

1. 外壁　特記外 たて壁挿入筋工法とする。
2. 内壁　共通仕様書 8.5.2表 A種とする
3. ALC版 上部及び下部取合部はロックウール充填とする。
4. 間口補強金物　特記外は共通仕様書による但し下記とする。

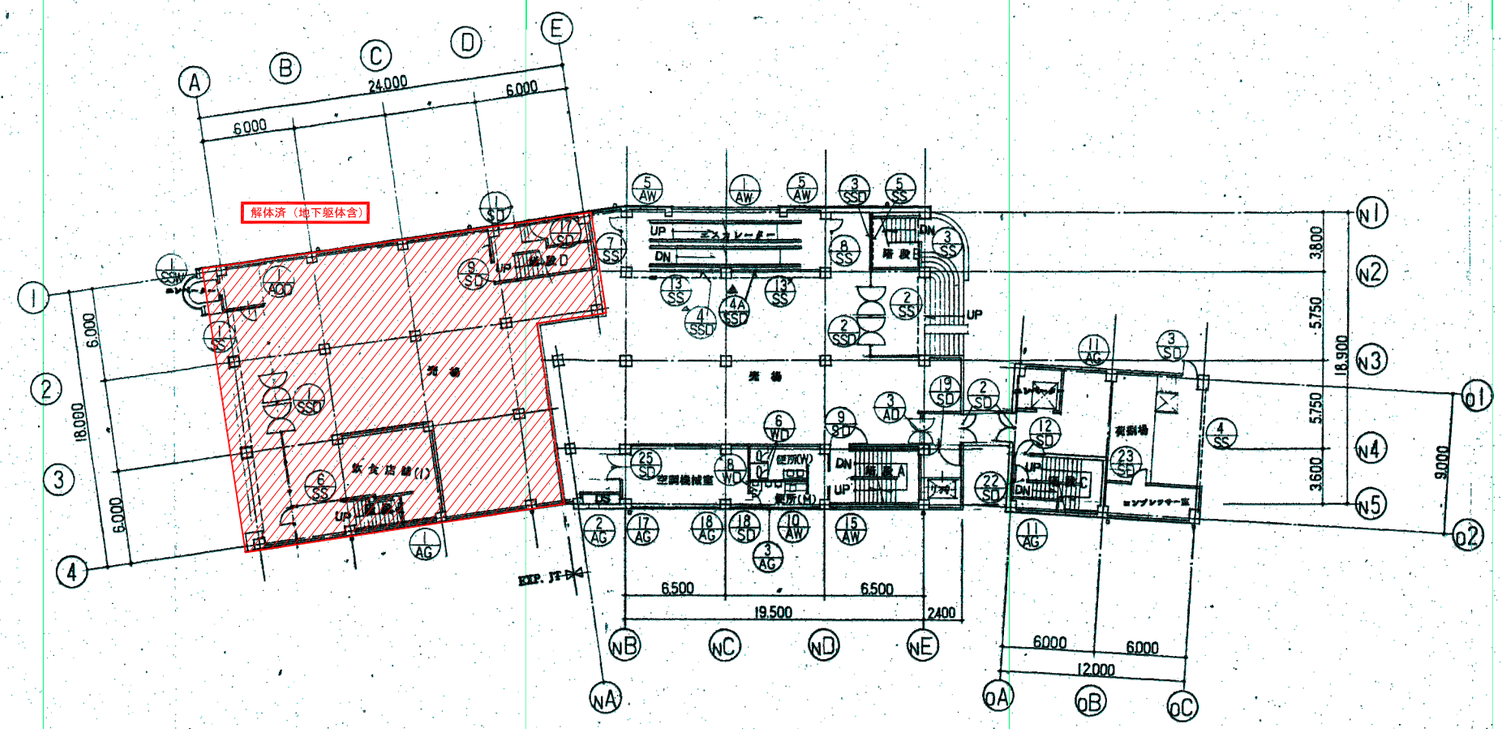
間口幅	たて補強金物	どこ補強金物
600以下	鉄筋 9φ	コーナー金物 FB-50×6
600 ～ 1,200以下	〃	FB-50×6
1,200 ～ 1,800以下	L-90×90×7	L-65×65×6

注記　たて補強金物は下部はコンクリート取付用アンクル筋に固定する。上部はALC版

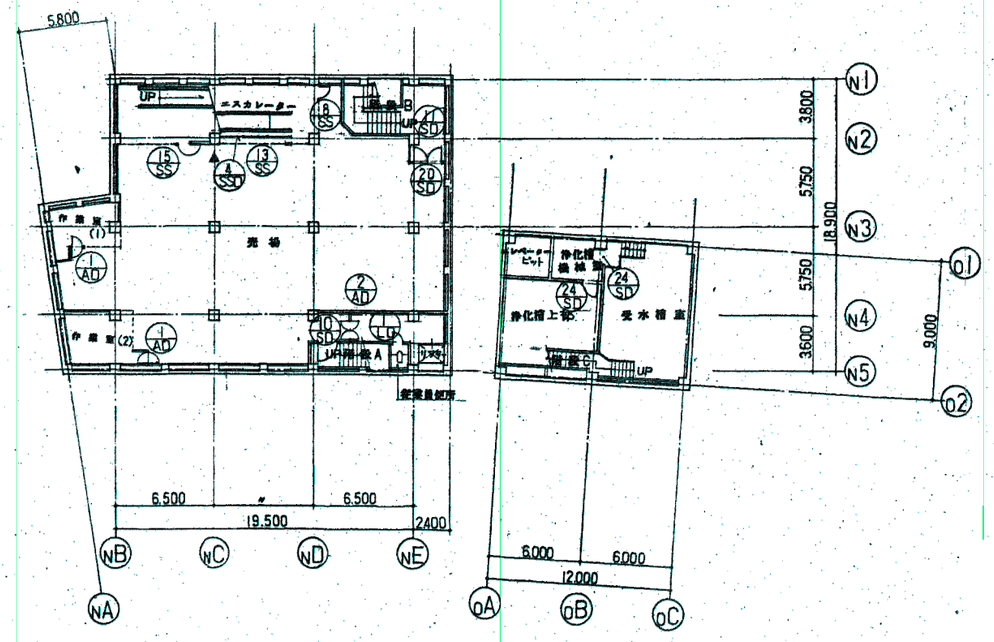
製作番号	工事名称	作成日
	旧いきいきプラザ解体撤去工事	R4年12月
図面名	旧越中屋本店:標準詳細図(参考)	縮尺 —
代表となる製作者(担当)		図面番号 KA-B113



設計番号	工事名称	作成日
	旧いきいきプラザ解体撤去工事	R4年12月
図面名	旧越中屋本店：渡り廊下詳細図（参考）	縮尺 1:100(A1) 1:200(A3)
代表となる設計者(担当)		図面番号 KA-B114



階平面図



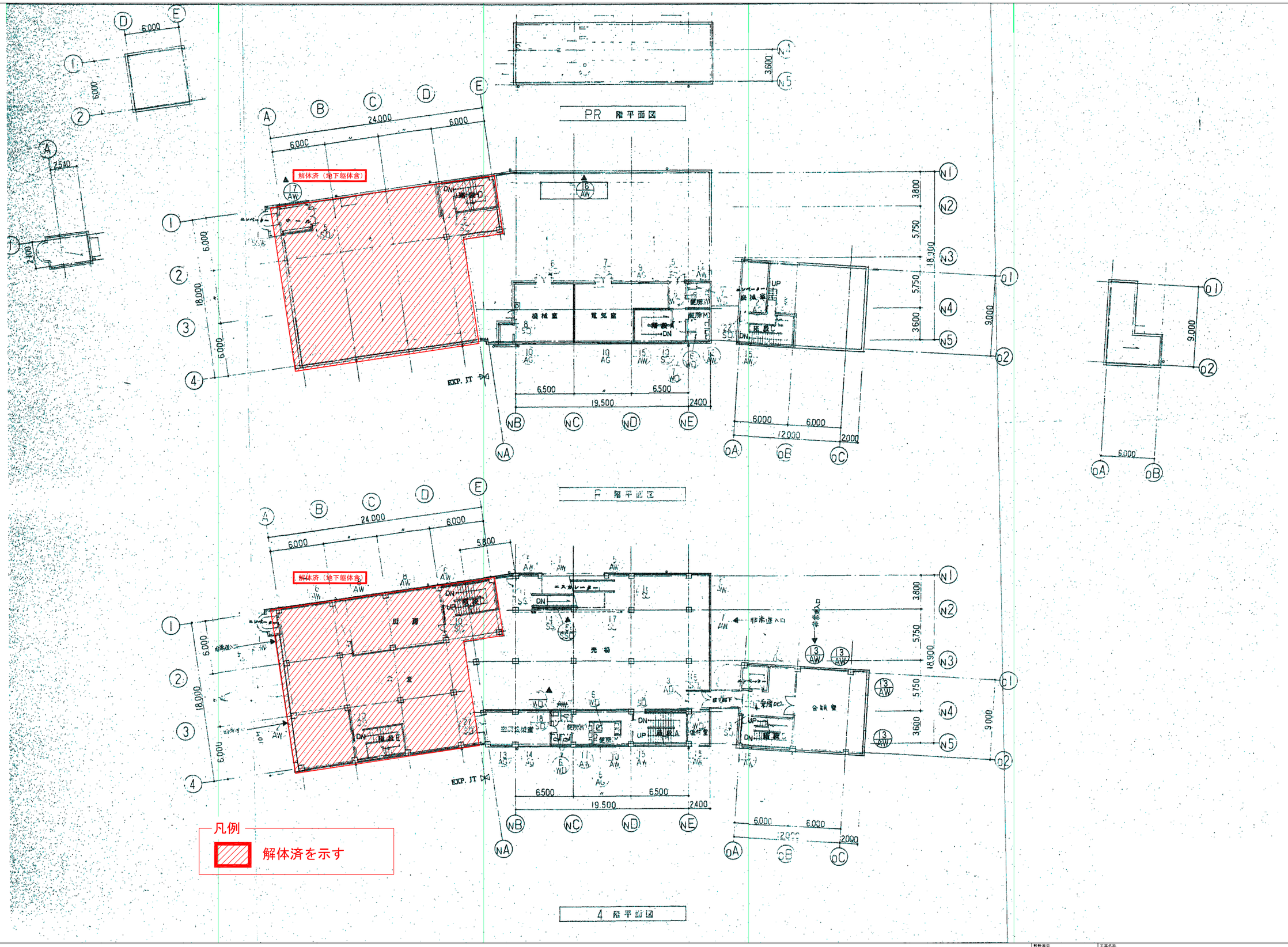
B 階平面図

凡例

解体済を示す

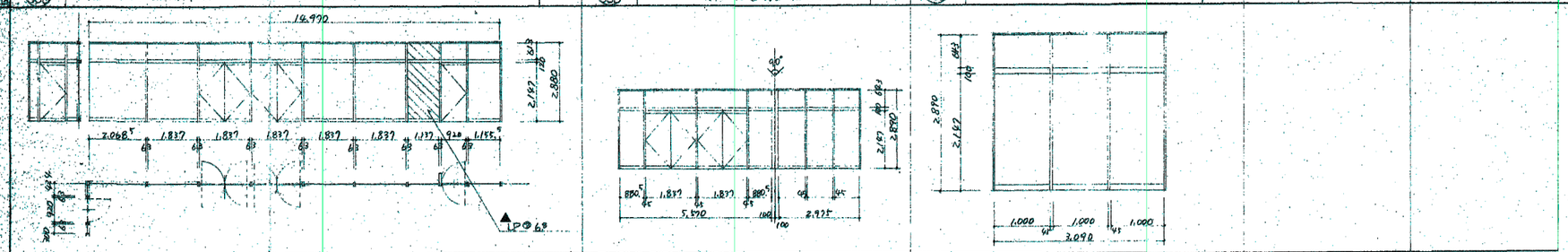
類計書号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名 旧越中屋本店：Ｂ１階建具伏図（参考） 1:200(A1) 1:400(A3)		縮尺
代表となる類計者(総括)		図面番号 KA-B115

整理番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名 旧越中屋本店：２・３階建具伏図（参考）	1:200(A1) 1:400(A3)	縮尺
代表となる整理者(担当)		図面番号 KA-B116

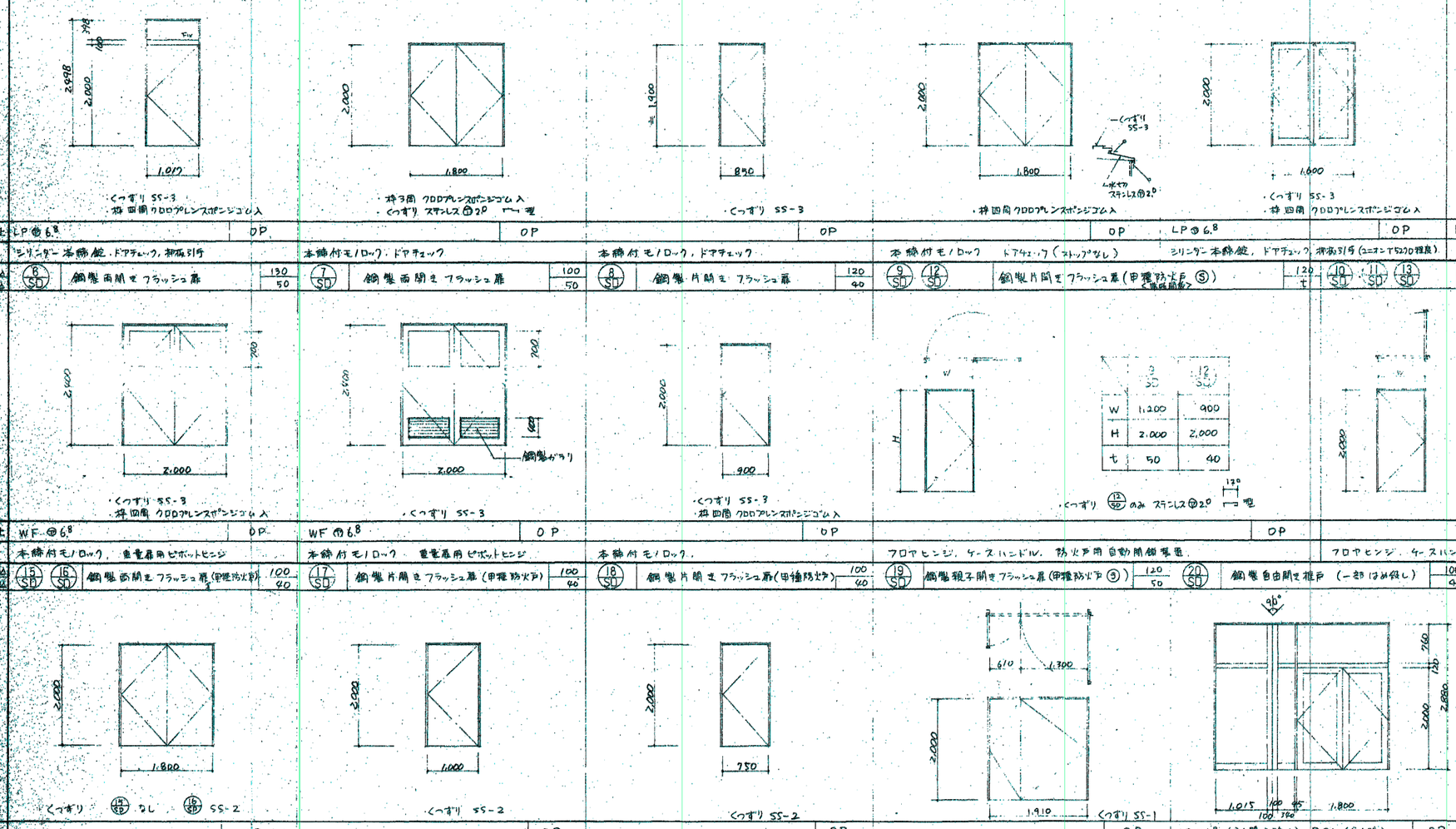


整理番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名 旧越中屋本店：4・R階建具伏図（参考）	1:200(A1) 1:400(A3)	縮尺
代表となる設計者(設計)		図面番号 KA-B117

符号	種類	建具寸法 / 開き勝手	名称	W	仕上	ガラス	備考
1 SSD			強化ガラス自由開戸付 ステンレス製はめ殺し戸	100	T⑫12(開き部分), P⑭8 (はめ殺し部―らん間を除く), P⑭5 (らん間)	HL	フロアヒンジ, シリンダー本締錠, 押板引手 (ユニオン G5270 程度)
2 SSD			強化ガラス自由開戸付 ステンレス製はめ殺し戸	100	同左	同左	同左
3 SSD			ステンレス製はめ殺し戸	100	LP⑭6.8 (はめ殺し部―らん間を除く), P⑭5 (らん間)	HL	
1 SSW			ステンレス製 (鉄骨下地) はめ殺し窓 (一部アルミ枠 アルミ張フラッシュ扉)	120 (70)	LP⑭6.8	ステンレス…鏡面, アルミ…アクリル樹脂塗料焼付	シリンダー本締錠, 取り外し式ハンドル



符号	種類	建具寸法 / 開き勝手	名称	W	仕上	ガラス	備考
1 SD			らん間付 鋼製片開きフラッシュ扉	120 / 40	LP⑭6.8	OP	シリンダー本締錠, ドアチェック, 押板引手
2 SD			鋼製両開きフラッシュ扉	120 / 40	OP		本締付モノロック, ドアチェック
3 SD			鋼製片開きフラッシュ扉	100 / 40	OP		本締付モノロック, ドアチェック
4 SD			鋼製両開きフラッシュ扉	120 / 40	OP		本締付モノロック ドアチェック (ストップなし)
5 SD			鋼製両開き堀戸	120 / 40	OP	LP⑭6.8	シリンダー本締錠, ドアチェック, 押板引手 (ユニオン T5270 程度)
6 SD			鋼製両開きフラッシュ扉	130 / 50	OP		シリンダー本締錠, 取り外し式ハンドル
7 SD			鋼製両開きフラッシュ扉	100 / 50	WF⑭6.8	OP	本締付モノロック, 重電扉用ピボットヒンジ
8 SD			鋼製片開きフラッシュ扉	120 / 40	WF⑭6.8	OP	本締付モノロック, 重電扉用ピボットヒンジ
9 SD, 12 SD			鋼製片開きフラッシュ扉 (甲種防火戸 ⑤) <隣戸間仕切>	120 / t		OP	本締付モノロック,
10 SD, 11 SD, 13 SD			鋼製片開きフラッシュ扉 (甲種防火戸 ⑤) <隣戸間仕切>	120 / t		OP	フロアヒンジ, ケースハンドル, 防火戸用自動閉鎖装置
15 SD, 16 SD			鋼製両開きフラッシュ扉 (甲種防火戸)	100 / 40		OP	本締付モノロック, 重電扉用ピボットヒンジ
17 SD			鋼製片開きフラッシュ扉 (甲種防火戸)	100 / 40		OP	本締付モノロック, 重電扉用ピボットヒンジ
18 SD			鋼製片開きフラッシュ扉 (甲種防火戸)	100 / 40		OP	本締付モノロック,
19 SD			鋼製親子開きフラッシュ扉 (甲種防火戸 ③)	120 / 50		OP	フロアヒンジ, ケースハンドル, 防火戸用自動閉鎖装置
20 SD			鋼製自由開き堀戸 (一部はめ殺し)	100 / 40	LP⑭6.8 (らん間を除く), P⑭5 (らん間)	OP	フロアヒンジ, シリンダー本締錠, 押板引手 (ユニオン T5270 程度) 分銅錠
21 SD			鋼製片開き片面フラッシュ扉	100 / 40		OP	フロアヒンジ, ケースハンドル, 防火戸用自動閉鎖装置



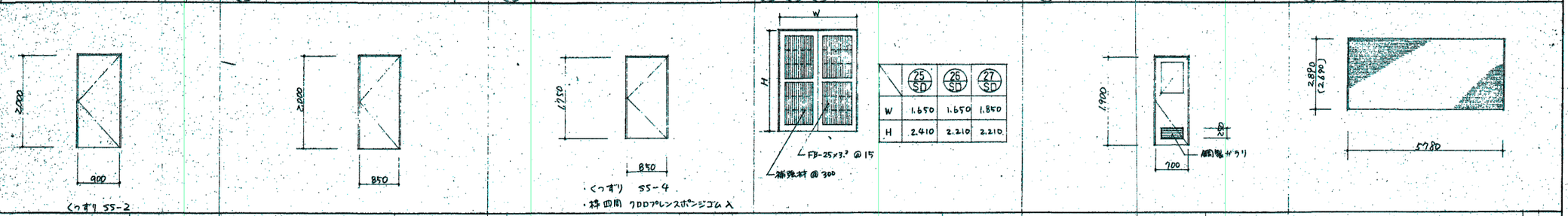
建具符号	扉(D)	窓(W)	ガラリ(G)	シャッター(S)
ステンレス製(SS)	SSD	SSW	SSG	SSS
鋼製(S)	SD	SW	SG	SS(LSS)
アルミニウム製(A)	AD	AW	AG	
木製(W)	WD	WW	WG	
ふすま	H			
障子	P			

ガラス符号							
種類	符号	種類	符号	種類	符号	種類	符号
透明	S	波型	NP	熱線吸収	H	複層	D
磨き	P	網入	W	強化	T	アクリライト	A
型	F	線入	L	合せ	C	ガラスブロック	GB
熱線吸収	LH	網入型	WF	線入磨き	LP		

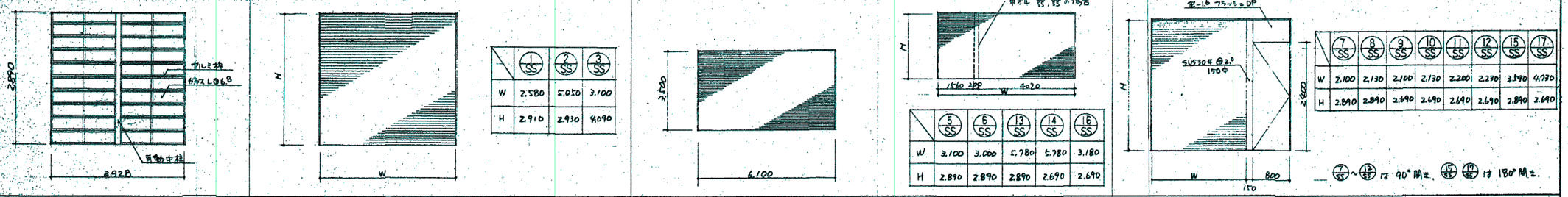
建具の符号及形状							
種類	符号	種類	符号	種類	符号	内部	( )
ステンレス製	SS	黄銅製	B	テラゾー製	T		( )
鋼製	S	木製	W	テラゾブロック製	T.B.		( )
						外部	( )
1	2	3	4	5			( )
							( )
							( )

数字番号	工事名称: 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日: R4年12月	
図面名: 旧越中屋本店：建具表（1）（参考）		縮尺: –	
代表となる数字者(総括)		図面番号: KA-B118	

符号	22 SD	23 SD	24 SD	25 SD / 26 SD / 27 SD	1 LD	13 SS / 14 SS
種類	鋼製片開き フラッシュ扉（甲種防火戸）	鋼製片開き フラッシュ扉	鋼製片開き フラッシュ扉	鋼製両開き グリル扉	鋼製軽量 片開きフラッシュ戸	防火シャッター
内法寸法 W	100	100	120	120	100	
内法寸法 H	40	40	40	40	36	
ガラス・材質仕上	OP	OP	OP	OP	F☆4	OP / OP
特殊金物	本締付モノロック，ドアチェック（ストップなし）	本締付モノロック	握り玉錠	シリンダー錠（ケースハンドル付），重量扉用ピボットヒンジ	表示錠，ドアチェック	

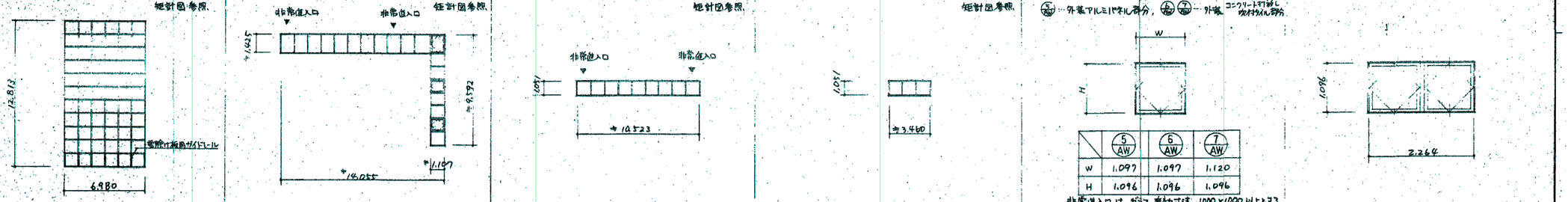


符号	ADD	1 SS / 2 SS / 3 SS	4 SS	5 SS / 6 SS / 13 SS / 14 SS	7 SS / 8 SS / 9 SS / 10 SS / 11 SS / 12 SS / 15 SS / 17 SS
種類	アルミ製 オーバードア（電動式）	電動式 重量シャッター	電動式 重量シャッター	防火防煙シャッター Ⓢ	防火防煙シャッター Ⓢ 及び 鋼製片開きフラッシュ扉（電磁開放甲種防火戸 Ⓢ）
内法寸法 W					100
内法寸法 H					40
ガラス・材質仕上	LP @6.8	OP	OP	OP	ステンレス（HL仕上）を除き OP
特殊金物	施錠装置	施錠装置	施錠装置，ケース付		フロアヒンジ，ケースハンドル，防火戸用自動閉鎖装置



符号	6 AW	2 AW	3 AW	4 AW	5 AW / 6 AW / 7 AW	8 AW
種類	アルミ製 はめ殺し窓（鉄骨下地）	アルミ製はめ殺し窓（一部軸回転窓）	アルミ製 はめ殺し窓	アルミ製 はめ殺し窓	アルミ製 軸回転窓	アルミ製 軸回転窓
内法寸法 W		70	70	70	70	70
内法寸法 H	矩計図参照	矩計図参照	矩計図参照	矩計図参照	矩計図参照	
ガラス・材質仕上	LP @6.8	C（R @6 ＋LP @6.8）	C（R @6 ＋LP @6.8）	C（R @6 ＋LP @6.8）	LP @6.8	LP @6.8
特殊金物	アルミ・アクリル樹脂焼付塗装 鉄部 OP	アクリル樹脂焼付塗装	アクリル樹脂焼付塗装	アクリル樹脂焼付塗装	アクリル樹脂焼付塗装	アクリル樹脂焼付塗装

5 AW … 外装アルミパネル部分，6 AW 7 AW … 外壁 コンクリート打放し 吹付けタイル部分



非常使入口は ガラス有効寸法 1000×1000 以上とする。

符号	9 AW	10 AW	11 AW	12 AW	13 AW	14 AW
種類	アルミ製 はめ殺し窓	アルミ製とり出し窓 及び はめ殺し窓（ALC用）	アルミ製とり出し窓 及び はめ殺し窓（ALC用）	アルミ製とり出し窓 及び はめ殺し窓	アルミ製 引違い窓（網戸付）	アルミ製 軸回転窓（ALC用）
内法寸法 W	70	70	70	70	70	70
ガラス・材質仕上	LP @6.8	WF @6.8	WF @6.8	WF @6.8	LP @6.8	LP @6.8
特殊金物	アクリル樹脂焼付塗装	アルミ水切付	アルミ水切付	アルミ水切付	アルミ水切付	排煙用オペレーター装置，アルミ水切付

備考 番号
⑨ 煙感知器連動

建具符号	扉（D）	窓（W）	ガラリ（G）	シャッター（S）
ステンレス製（SS）	SSD	SSW	SSG	SSS
鋼製（S）	SD	SW	SG	SS（LSS）
アルミニウム製（A）	AD	AW	AG	
木製（W）	WD	WW	WG	
ふすま	H			
障子	P			

ガラス符号 種類	符号	種類	符号	種類	符号	種類	符号
透明	S	波型	NF	熱線吸収	H	複層	D
磨き	P	網入	W	強化	T	アクリライト	A
型	F	線入	L	合せ	C	ガラスブロック	GB
線入熱線吸収	LH	網入型	WF	熱線反射	R		
		線入型	LP				

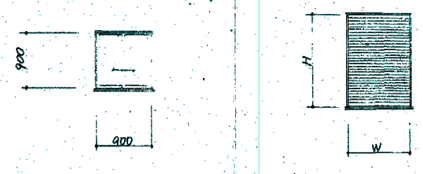
音響の符号及形状 種類	符号	種類	符号	種類	符号
ステンレス製	SS	黄銅製	B	テラゾー製	T
鋼製	S	木製	W	テラゾブロック製	T.B.

1 2 3 4 5

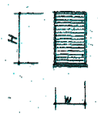
内部	（　）
	（　）
	（　）
外部	（　）
	（　）
	（　）
	（　）

設計番号	
工事名称	旧いきいきプラザ解体撤去工事
作成日	R4年12月
図面名	旧越中屋本店：建具表（２）（参考）
縮尺	—
代表となる設計者（担当）	
図面番号	KA-B119

符号	機構	仲見込					
		(15) AW	アルミ製引違い窓	70	(1) AG (2) AG (4) AG (5) AG (7) AG (8) AG (9) AG (10) AG (11) AG (13) AG (14) AG (15) AG (16) AG (17) AG (18) AG	アルミ製 固定ガラリ	70
		(3) AG (6) AG	アルミ製 固定ガラリ	70	(—)		



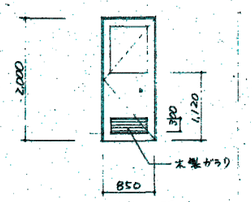
	1 AG	2 AG	4 AG	5 AG	7 AG	8 AG	9 AG	10 AG	11 AG	13 AG	14 AG	15 AG	16 AG	17 AG	18 AG
W	450	600	800	200	500	300	1,500	1,500	1,000	650	1,100	500	1,100	1,100	1,100
H	500	600	800	200	500	250	2,000	2,200	1,100	1,200	1,200	1,300	1,800	1,350	1,900



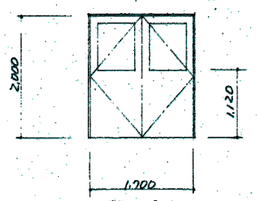
	3 AG	6 AG
W	500	500
H	300	500

ガラス 材質仕上	LP ⊕6.8 アルマイト	アルマイト	アルマイト		
特殊金物	アルミ水切	ダクト接続用フランジ [-60×30×2.3, ステンレス防虫網	ダクト接続用フランジ [-60×30×2.3, ステンレス防虫網		

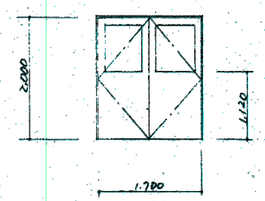
符号	機構	特見込 扉見込															
			(1) WD	木製片開き フラッシュ扉	110 / 40	(2a) WD	木製両開き フラッシュ扉	110 / 40	(2b) WD	木製両開き フラッシュ扉	110 / 40	(3) WD	木製片開き フラッシュ扉	110 / 40	(4) WD	木製片開き フラッシュ扉	110 / 40	(5) WD	木製片開き フラッシュ扉	165 / 40



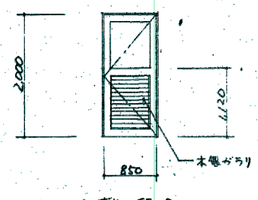
・くつずり SS-1
・枠 鋼鈑 t2-1.6 OP



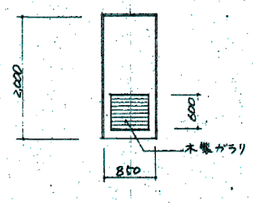
・くつずり SS-1
・枠 鋼鈑 t2-1.6 OP



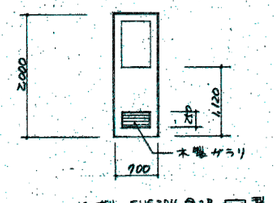
・くつずり SS-1
・枠 鋼鈑 t2-1.6 OP



・くつずり SS-2
・枠 鋼鈑 t2-1.6 OP



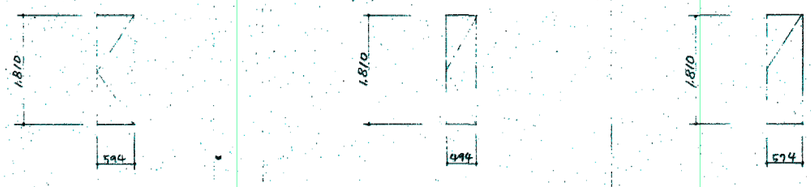
・枠 鋼鈑 t2-1.6 OP

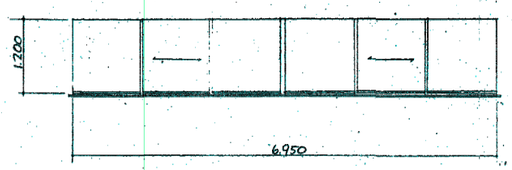


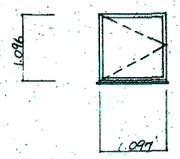
・くつずり SUS304 ⊕2.0 ⊂型
・枠 鋼鈑 t2-1.6 OP

ガラス 材質仕上	F ⊕4	OP	F ⊕4	OP	S ⊕3	OP	F ⊕4	OP		OP	F ⊕4	OP
特殊金物	本締付モノロック・ドアチェック		本締付モノロック・ドアチェック		本締付モノロック ドアチェック		本締付モノロック・ドアチェック		本締付モノロック		ドアチェック、押板引手（ユニオンT5111）	

符号	機構	特見込 扉見込															
			(6) WD	木製片開き フラッシュ扉（便所扉）	40	(7) WD	木製片開き フラッシュ扉	40	(8) WD	木製片開き フラッシュ扉	40	(16) AW	アルミパイプス 2連窓		(17) AW	アルミ 外開き窓	

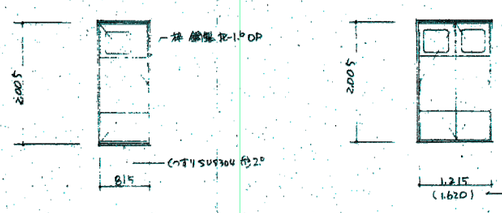


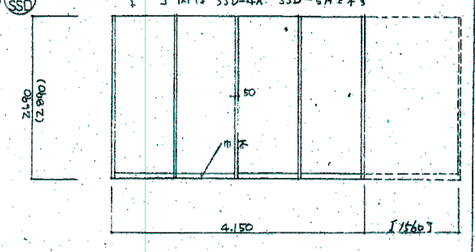




ガラス 材質仕上	ポリエステル樹脂化粧合板，小口：ポリエステル樹脂化粧板張り	同左	同左	LP⊕6.8	アルマイト仕上	フレキシブルボード ⊕6 両面VP，軟質化粧アクリル樹脂塗装
特殊金物	ラバトリーヒンジ，表示錠，戸当り電子錠サ	ラバトリーヒンジ，押り玉	ラバトリーヒンジ，押り玉	外締り錠	アルミ水切付	面付錠

符号	機構	特見込 扉見込															
			(1) AD	アルミ製 自由開き扉（日本ユニフロー販売KK イージースイングドア）（SCP-5型）	110 / 23	(2) AD (3) AD	アルミ製 自由開き扉（日本ユニフロー販売KK イージースイングドア）（SCP-5型）	110 / 23				(4) SSD (5) SSD	スクリーン				
												(4A) SSD (5A) SSD	( ) 内寸法は SSD-4を示す [ ] 内は SSD-4A. SSD-5Aを示す				





ガラス 材質仕上	A	標準仕様	A	標準仕様	LP⊕6.8	ステンレス H.L 見込100 水仕見付50
特殊金物	標準仕様		標準仕様		巾木 ステンレス H.L	

建具符号	扉(D)	窓(W)	ガラリ(G)	シャッター(S)
ステンレス製(SS)	SSD	SSW	SSG	SSS
鋼製(S)	SD	SW	SG	SS(LSS)
アルミニウム製(A)	AD	AW	AG	
木製(W)	WD	WW	WG	
ふすま	H			
障子	P			

ガラス符号									
種類	符号	種類	符号	種類	符号	種類	符号	種類	符号
透明	S	波型	NP	熱線吸収	H	複層	D		
磨き	P	網入	W	強化	T	アクリライト	A		
型	F	線入	L	合せ	C	ガラスブロック	GB		

告知の符号及形状									
種類	符号	種類	符号	種類	符号				
ステンレス製	SS	黄銅製	B	テラゾー製	T				
鋼製	S	木製	W	テラゾブロック製	T.B.				
1	2	3	4	5					

内部	( )
	( )
	( )
外部	( )
	( )
	( )
	( )

(決定)

整理番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名 旧越中屋本店：建具表（3）（参考）		縮尺 —
代表となる設計者(総括)		図面番号 KA-B120

構造設計標準仕様

⊙ 印は適用項目を示す。

１．建築物の構造内容

（１）工事名称　（仮称）いきいき福祉交流プラザ整備事業建築工事
　建築場所　新井市仲町
（２）工事種別　・新築　⊙増築　・増改築　・改築
（３）構造種別
・木造　・補強コンクリートブロック造　⊙鉄骨造
・鉄筋コンクリート造　・混構造
・鉄骨鉄筋コンクリート造　・プレキャスト鉄筋コンクリート造
・壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造
（４）階数　地下　階　地上４階　塔屋　階
（５）主要用途　福祉施設
（６）屋上付属物
・広告塔　・高架水槽　t
・煙突　・キュービクル　t
（７）増築計画　・有　⊙無
（８）付帯工事　・門塀　・擁壁
（９）特殊荷重
⊙エレベーター　１１人乗（・ロープ式　・油圧式　⊙自走式）
・リフト　t　・走行クレーン　t・ホイスト　t
・受水槽　t
（１０）その他

２．使用構造材料

（１）コンクリート

適用場所	種　類	設計基準強度N／mm2	スランプ cm	備考
捨てコンクリート	(普通)	(18) 21	15	
土間コンクリート	(普通)	(18) 21	15	
基礎・基礎梁	(普通)	18 (21)	15	+-3N／mm2
躯体	(普通　軽量)	18 (21)	15	+-3N／mm2
デッキスラブ	(普通　軽量)	(18) 21	15	
ラップルコンクリート	(普通　軽量)	(18) 21	15	

（２）コンクリートブロック
・A種　・B種　・C種　厚さ・１００　・１２０　・１５０

（３）鉄　筋

	種　別	径	使用ヶ所	継ぎ手
⊙異形鉄筋	⊙SD295A	D16以下	STR・HOOP	⊙重ね継ぎ手 D16以下
	・SD295B			
	⊙SD345	D19以上	主　筋	⊙ガス圧接 D19以上
	・			
・丸　鋼	・SR235			・特殊継ぎ手
・溶接金網				

（４）鉄　骨

	種　別	使用ヶ所	現場溶接	備　考
鋼　材	⊙SS400　・SM400	梁・小梁等	・有　⊙無	
	・SN400A		・有　・無	
	・SN400B　・SN490B		・有　・無	
	・SN400C　・SN490C		・有　・無	
	⊙STKR400・STKR490	柱	⊙有　・無	
	・BCP235　・BCP325		・有　・無	
	・BCR295		・有　・無	
	⊙STK400　・STK490		・有　・無	
	⊙SSC400	胴縁・たる木	・有　⊙無	

（５）ボルト類
⊙高力ボルト・普通◯・Ｆ８Ｔ（亜鉛メッキ部）　⊙特殊　Ｓ１０Ｔ
⊙中ボルト　φ＝１２
⊙アンカーボルト　⊙ＳＳ４００　・ＳＮＲ４００
⊙スタッドボルト　１９φ　Ｈ＝８０

（６）屋根・床・壁
・ＡＬＣ版　厚　・折版
⊙デッキプレート　型式 QL-99-50-12同等品　厚＝1.2

３．地　盤

（１）地盤調査資料
⊙有　⊙ボーリング調査　・平板載荷試験　・地盤水平反力係数測定
・無　・調査予定（・有　・無）

（２）地盤調査計画
・ボーリング調査　・静的貫入試験　・標準貫入試験　・地盤水平反力係数測定
・土質試験　・物理試験　・平板載荷試験

（３）特殊事項
・地盤調査、試験杭及び試験堀の結果により杭長・杭種、直接基礎の深さ、形状に変更が生じる場合もある。

４．基礎工事

（１）直接基礎　・べた基礎　・布基礎　⊙独立基礎　・試験堀（有・無）
長期許容支持力　392kN／㎡

（２）杭基礎　支持層－玉石混じり砂礫

杭　種	材　料	工　法	備　考
・RC杭 ・PHC杭 ・摩擦杭 ・鋼管杭	・A種　・B種　・C種 ・STK400 ・STK490	・打ち込み ・埋め込み	
・場所打ち杭	・コンクリート ・鉄　筋	・オールケーシング ・リバースサーキュレーション ・アースドリル ・BH	・日本建築センター 第　号 年　月　日

試験杭　・有（　本）　・無

杭　径	設計支持力	杭先端の深さ	本　数	特記事項

※杭の施工に関し、工事監理者に提出し承認を必要とするもの
・杭施工計画書　・杭施工結果報告書

５．コンクリート工事

（１）コンクリート
⊙コンクリートはＪＩＳ認定工場の製品とし施工に関してはＪＡＳＳ５による。
⊙セメントはＪＩＳ　Ｒ５２１０の普通ポルトランドセメントを標準とする。
⊙調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得る。
⊙寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に該当する場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事管理者の承認を得ること。
⊙コンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（財）国土開発技術研究センター評定を受けた測定器を用い、試験結果の記録及び測定器の表示部一回の測定ごとに撮影したカラー写真を保管し承認を得る。試験回数は、通常の場合、一日一回以上とし一回の試験における測定は、同一試料から取り分けて３回行い、その平均値を試験値とする。
⊙圧縮強度試験供試体（ＪＡＳＳ５Ｔ－６０３）は、現場水中養生または現場封かん養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごととする。また打設量が１５０m³を越える場合は１５０m³ごとにまたはその端数ごとに一回を標準とする。一回に採取する供試体は適当な間隔をおいた３台の運搬車からその必要数を採取する。なお、供試体の数は指示なき場合は６本以上とし、その内４週強度用に３本を用いる。

⊙ポンプ打ちコンクリートは、打ち込み位置に出来るだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技師または同等以上の技量を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打ち継ぎ時間間隔の限度は、外気温が２５°Ｃ未満の場合は１５０分、２５°以上の場合は１２０分以内とする。

（２）鉄　筋
⊙鉄筋は、ＪＩＳ　Ｇ３１１２の規格品を標準とする。
⊙鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継ぎ手位置、継ぎ手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１），（２）」による。
⊙Ｄ１６以下は、重ね継ぎ手とする。ガス圧接（Ｄ１９以上）をする場合は、日本圧接協会「鉄筋ガス圧接工事標準仕様書」による。
・ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接ヶ所ごと（２００を越える場合は２００ヶ所ごと）に１回行い、１回の試験は５本以上とする。
　外観検査　・有　・無　引張試験　・有　・無
　超音波探傷試験　・有　・無
・柱　HOOPの加工方法
　・㊀型（タガ型）　・W型（溶接型）　・S型（スパイラル型）
・コンクリート及び鉄筋の試験は、「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取り扱要綱」第４条の試験機関で行うこと。

（３）型　枠
⊙材料　合板厚　１２mmを標準とする。
⊙型枠存置機関

種類		せき板				支柱		
部位		基礎、梁側、柱、壁		スラブ下、梁下		スラブ下		梁下
セメント種類 / 構造物の重要度		早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種
気象条件（日平均気温）	15°C以上	2	3	4	6	8	17	28
	5°～15°C	3	5	6	10	12	25	28
	5°C未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度		５０ｋｇ／ｃｍ²		設計基準強度の５０%		設計基準強度の８５%		設計基準強度の１００%

注）１．片持ち梁、庇、スパン９．０m以上の梁下は、工事監理者の指示による。
注）２．大梁の支柱の盛りかえは行わない。またその他の梁も同様とする。
注）３．支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
注）４．盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材またはこれに代わるものを置く。
注）５．支柱の盛りかえは、小梁終了後スラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って盛りかえを行ってはならない。
注）６．上記以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

６．鉄骨工事

（１）鉄骨工事は指示のない限り下記基準等による。
⊙日本建築学会　「ＪＡＳＳ６」「鉄骨精度基準」「鉄骨工事技術指針」
⊙鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」

（２）工事監理者の承認を必要とするもの
⊙制作工場（全構連Mグレード以上）⊙制作要領書
⊙工作図　⊙施工計画書
　材料規格証明書または試験成績書
⊙鋼材　・◯高力ボルト　・◯特殊ボルト　◯スタッドボルト　⊙社内検査表

（３）工事監理者が立ち会う検査項目
・印以外の項目の検査結果等については、工事監理者に報告すること。
⊙現寸検査　・組立開先検査　・製品検査
・超音波探傷検査　・建て方検査

（４）接合部の溶接は下記による。
⊙東京都アーク溶接工事監理規準（建築構造設計指針第１２章）
⊙鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱（建築構造設計指針第１２章）
⊙日本建築学会「溶接工作規準、同解説Ｉ～IX」

（５）接合部の検査　社内検査・第三者検査共、結果は後日工事監理者に必ず報告すること。

検査ヶ所	検査方法	検査率または検査数 社内	第三者	工事監理者	備考
⊙突き合せ溶接部	超音波探傷試験	１００ %箇	３０ %箇	% 箇	
	外観（目視）検査	１００ %	３０ %	%	
	マクロ検査・その他	個	個	個	
第三者検査機関	ＣＩＷ認定業者とする。				
	第三者検査機関とは、工事施工者が、受け入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社を言う。				

注）現場溶接部については原則として第三社による全数検査を行う。

⊙高カボルトはＪＩＳ　Ｂ１１８６の高力ボルトを標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを座金外径約２倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛けにより除後、屋外放置により発生した赤錆状態であること。ただしブラスト処理で表面粗さが５０Ｓ以上の場合は赤錆は発生しない状態でよい。

⊙高カボルト締め付け用の器具は、よく調製されたものを使用し、締め付け順序は部材が十分密着するように注意して行う。また締め付けは２度締めとする。

⊙トルシア型高カボルトを用いた場合は、ピンテールが破断するまで確実に締め付けを行う。

（６）防錆塗料
⊙防錆塗料の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止め塗料は、ＪＩＳ　Ｋ５６２１、２回塗りを標準とする。
⊙現場における高力ボルト接合部の素地調製は入念に行い、塗装は工場塗料と同じ錆止ペイントを使用し２回塗りとする。

（７）溶融亜鉛メッキ処理
メッキの種類と品質

適用種別	規　格	種　類	記　号	付着量（g／㎡）
⊙形鋼・鋼板類	ＪＩＳ Ｈ８６４１	２種	HDZ55	５５０以上
・高力六角ボルト			HDZ55	５５０以上
・ボルト・ナット類			HDZ35	３５０以上
⊙アンカーボルト類			HDZ35	３５０以上

７．設備との関係

・特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。設ける場合は設計者の承認を得ること。
・設備機器の架台および基礎については、工事監理者の承認を得ること。
・床スラブ内に設備配管等を埋め込む場合はスラブ厚さの１／３以下とし、管の間隔を５ｃｍ以上とする。

８．その他

⊙諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
⊙必要とされる各試験は公的試験機関にて行い、工事監理者に報告すること。
⊙本仕様書および各標準図になき場合は、「建築工事共通仕様書」による。

設計者号	工事名称　旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日　R4年12月
図面名　いきいきプラザ（構造）：構造関係特記仕様書		縮尺　－
代表となる設計者（総括）		図面番号　KA-SA201

鉄筋コンクリート構造配筋基準

1. 鉄筋加工，かぶり

（1）鉄筋の折曲げ（末端部）

折曲げ角度	折曲げ図		SD295A，SD295B SD345 SDR295，SDR345 D16以下	SD295A，SD295B SD345 SDR295，SDR345 D19～D38	SD390 D10～D38	使用個所
180°	4d以上	D	3d以上	4d以上	5d以上	柱・梁の主筋 基礎梁のベース筋 D16以上の鉄筋
135°	4d以上	D	3d以上	4d以上	5d以上	あばら筋、帯筋、スパイラル筋 D13以下の鉄筋
90°	8d以上	D	3d以上	4d以上	5d以上	T形及びL形の梁のあばら筋
135°及び90°	4d以上	D	3d以上	4d以上	5d以上	幅止め筋

鉄筋の折曲げ（中間部）

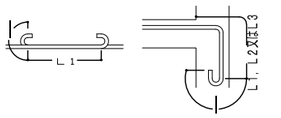
折曲げ角度	折曲げ図		SD295A，SD295B SD345， SD390 SDR295，SDR345 D16以下	SD295A，SD295B SD345， SD390 SDR295，SDR345 D19～D25	SD295A，SD295B SD345， SD390 SDR295，SDR345 D29～D38	使用個所
90°以下		D	3d以上	4d以上	——	あばら筋、帯筋 スパイラル筋
90°以下		D	4d以上	6d以上	8d以上	その他の鉄筋

（注）a．Dは、曲げ内法直径を示す。
b．dは、呼び名に用いた数値を示す。

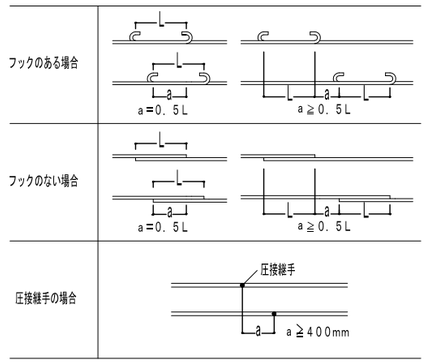
（2）鉄筋の継手及び定着の長さ

鉄筋の種類	設計基準強度 Fo [N/mm2]	フックなし L1	フックなし L2	フックなし L3 小梁	フックなし L3 床版	フックあり L1	フックあり L2	フックあり L3 小梁	フックあり L3 床版
SD295A SD295B SD345 SDR295 SDR345	21以上27未満	40d	35d	25d	10dかつ150mm以上	30d	25d	15d	——
SD390	21以上27未満	45d	40d	25d	10dかつ150mm以上	35d	30d	15d	——

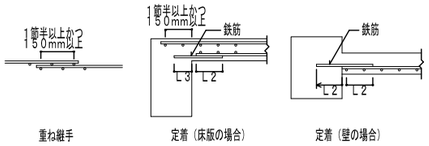
（注）a．L1：継手並びにb．及びc．以外の定着長さ。
b．L2：割裂破壊のおそれのない箇所への定着長さ。
c．L3：小梁及び床版の下端筋の定着長さ。ただし、基礎耐圧版、これを受ける小梁は除く。
d．フックのある場合のL1，L2及びL3は，下図に示すようにフック部分lを含まない。



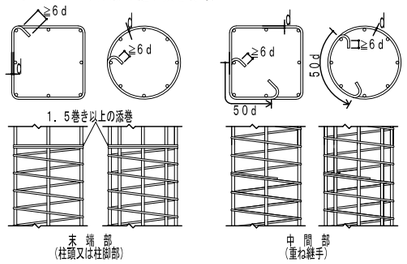
（3）隣合う継手の位置



（4）溶接金網の継手及び定着



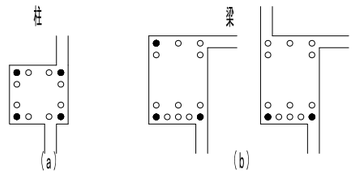
（5）スパイラル筋の継手及び定着



（6）鉄筋の末端部には、次の場合にフックをつける。

a．柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合。（下図（a）の●印で示す鉄筋）

b．梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合。ただし、基礎梁を除く。（下図（b）の●印で示す鉄筋）



（7）設計かぶり厚さの規準値（mm）

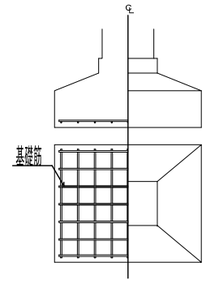
部位			設計かぶり厚さ［JASS5］（1997） 仕上げあり＊1	設計かぶり厚さ［JASS5］（1997） 仕上げなし＊2	最小かぶり厚さ［JASS5］（1997） 仕上げあり＊1	最小かぶり厚さ［JASS5］（1997） 仕上げなし＊2	建築基準法施行令（かぶり厚さの最小値）
土に接しない部分	床スラブ 屋根スラブ 非耐力壁	屋内	30	30	20	20	20
		屋外	30	40	20	30	
	柱 梁 耐力壁	屋内	40	40	30	30	30
		屋外	40	50	30	40	
	擁壁		——	50＊3	40＊3	40＊3	——
土に接する部分	柱・梁・床スラブ 耐力壁		——	50＊4	40＊4	40＊4	40
	基礎・擁壁		70＊4	70＊4	60＊4	60＊4	60
煙突など高熱を受ける部分			70	70	60	60	50

（注）＊1．耐久性上有効な仕上げあり。
＊2．耐久性上有効な仕上げなし。
＊3．品質・施工法に応じ，工事管理者の承認で10mm減の値とすることができる。
＊4．軽量コンクリートの場合は，10mm増しの値とする。

2．基礎

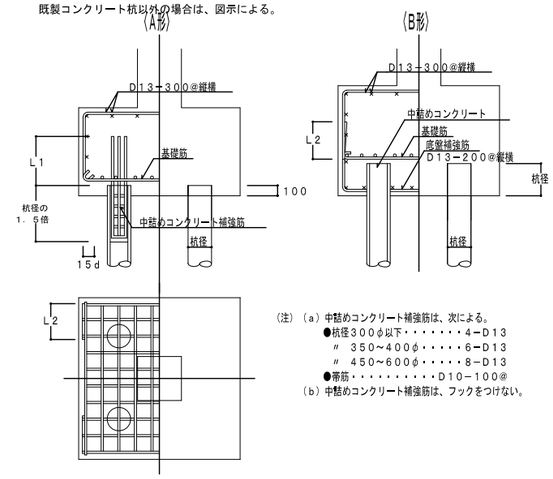
（1）基礎の配筋及び杭頭補強の方法

a．直接基礎の場合



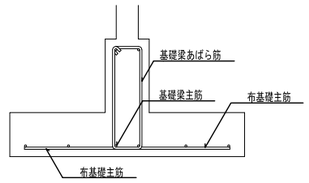
b．杭基礎の場合

既製コンクリート杭の杭頭補強の方法は、下図のA形又はB形とし、適用は、図示による。
図示がなければA形とする。
なお、中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートと同じ配合のコンクリートを使用する。
既製コンクリート杭以外の場合は、図示による。

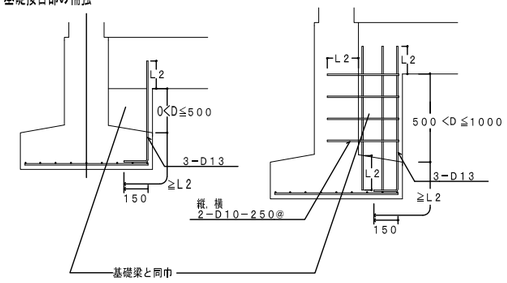


（注）（a）中詰めコンクリート補強筋は、次による。
●杭径300φ以下・・・・・・・4－D13
〃 350～400φ・・・・・6－D13
〃 450～600φ・・・・・8－D13
●帯筋・・・・・・・・・・D10－100@
（b）中詰めコンクリート補強筋は、フックをつけない。

c．布基礎の場合



d．基礎接合部の補強

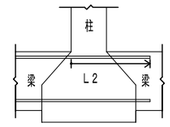


3．基礎梁

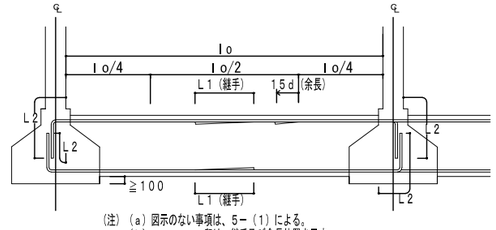
（1）基礎梁主筋の継手及び定着

a．一般事項

（a）上端主筋の定着は、やむを得ない場合、上向きにすることができる。
（b）梁筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、右図による。
（c）梁筋を柱内に定着する場合は、梁筋は柱の中心軸を越えてから定着する。

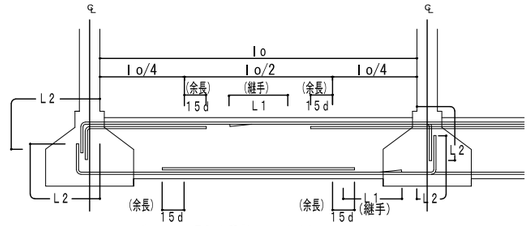


b．基礎梁に床版がつかない独立基礎の場合



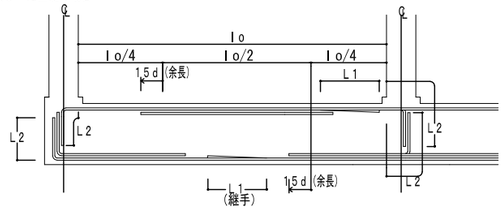
（注）（a）図示のない事項は、5－（1）による。
（b）　　印は、継手及び余長位置を示す。
（c）破線は、柱内定着の場合を示す。

c．基礎梁に床版がつく独立基礎の場合



（注）（a）図示のない事項は、5－（1）による。
（b）　　印は、継手及び余長位置を示す。
（c）破線は、柱内定着の場合を示す。

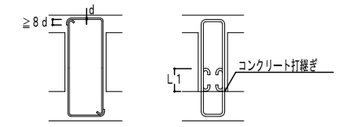
d．連続基礎及びべた基礎の場合



（注）（a）図示のない事項は、5－（1）による。
（b）　　印は、継手及び余長位置を示す。
（c）破線は、柱内定着の場合を示す。

（2）あばら筋，腹筋及び幅止め筋

a．あばら筋
（a）あばら筋の径及び間隔は、図示による。
（b）あばら筋組立ての形及びフックの位置は、5－（2）による。ただし、梁せいが1．5m以上の場合は、下図によることができる。



b．腹筋，幅止め筋及びあばら筋の割付は、5－（2）による。

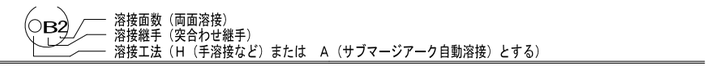
（3）打ち増し補強筋は、5－（3）による。

整理番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名 いきいきプラザ（構造）：鉄筋コンクリート構造配筋基準		縮尺 －
代表となる整理者（総括）		図面番号 KA-SA202

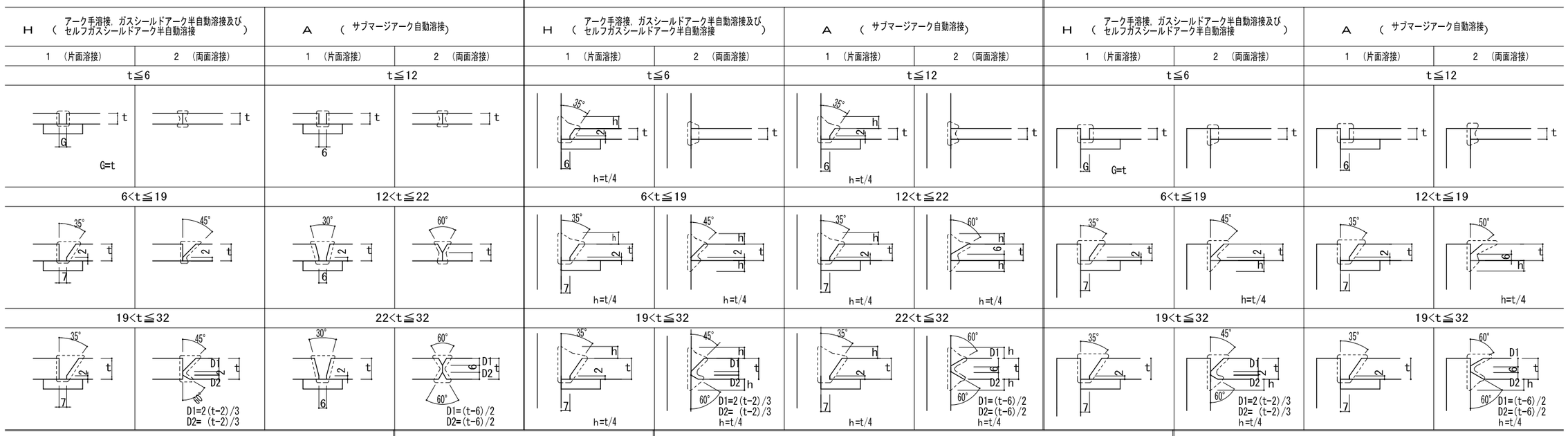
溶接継手の種類別開先標準

T（T形継手），L（かど継手）及びP（部分溶込み溶接）には，余盛（高さh）の付加も示す。

図示における溶接記号の例



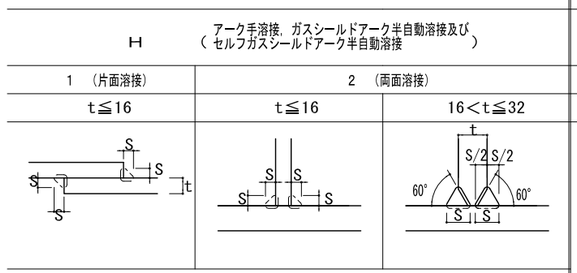
B （突合わせ継手）



T （T形継手）

L （かど継手）

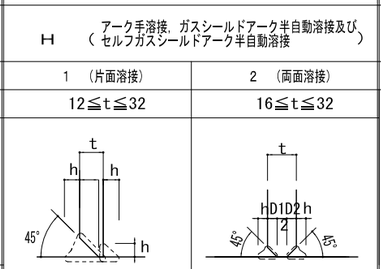
F （隅肉溶接）



隅肉溶接のサイズ(S)

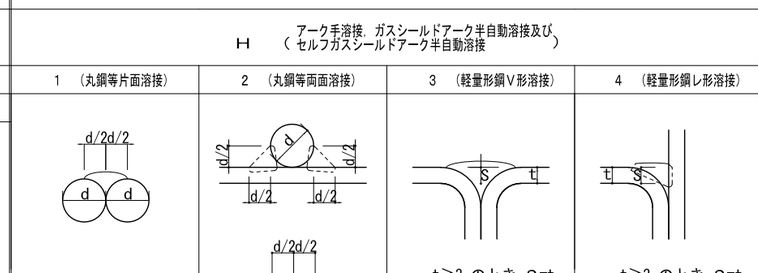
t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	28	30	32
S	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12	10	11	11	12	13	13	14	14	15	16	17	18	19

P （部分溶込み溶接）

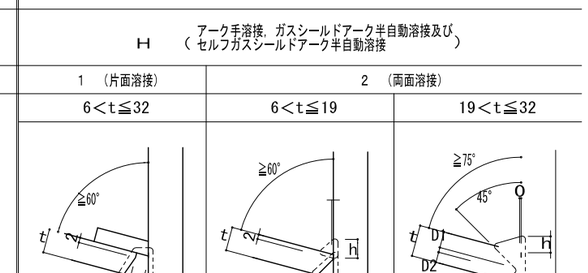


t	12	16	19	22	25	28	32
D	10	11	12	13	13	14	15

FL （フレア溶接）



ハンチ部等の溶接



溶接施工

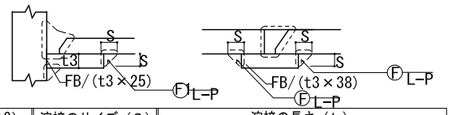
1．裏はつり

突合わせ溶接における両面溶接は，原則として裏はつりを行う。裏はつりは，健全な溶着部分が現れるまではつり取った後，裏溶接を行う。ただし，自動溶接において完全溶込みが得られたことが超音波探傷試験等で確認できる場合は，裏はつりを省略することができる。

2．裏当て金

突合わせ溶接の片面溶接に用いる裏当て金は，原則としてフランジ内側に設置し，取付方法は，下図による断続隅肉溶接とし，溶接間隔は溶接部に支障を与えない程度とする。

裏当て金の材質は，原則として母材と同等以上のものとする。

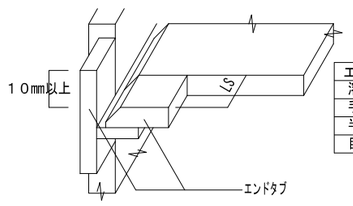


裏当金の厚さ（t3）	
溶接工法	t3
手 溶 接	6以上
半自動溶接	9以上
自動溶接	12以上

溶接のサイズ（S）		溶接の長さ（L）		
裏当金の厚さ	S	t3	手溶接，半自動溶接	自動溶接
t3≦9	5	t3≦3．2	30程度	40程度
t3＞9	9	3．2<t3<25	40程度	50程度
		25≦t3	50程度	70程度

3．エンドタブ

エンドタブの材質は，母材と同等以上のものとし，形状は同厚・同開先のものを用い，長さは下図の通りとする。ただし，あらかじめ溶接付加試験によって溶接端部に欠陥が生じ無いことが確認された材質及び形状のものを使用に関しては，工事監理者との協議による。

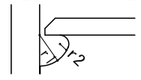


エンドタブの長さ LS	
溶接工法	LS
手 溶 接	35以上
半自動溶接	38以上
自動溶接	70以上

4．スカラップ

スカラップの円弧の曲線は，フランジに滑らかに接するように加工する。

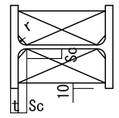
r1は35mm程度，r2は10mm程度とする。なお，複合円は滑らかに仕上げること。



5．スニップカット

スニップカット（Sc）で処理する場合の標準寸法は，鋼材の板厚に応じて下表によるものとし，スニップカット部は，溶接により埋めることとする。ただし，既成形鋼のスニップカットは，Sc＝r＋2 により求めるものとする。

t	6	9	12	16以上
Sc	10	12	14	15



6．余盛

突合わせ継手，かど継手，T形継手，部分溶込み溶接，隅肉溶接およびフレア溶接には下表の余盛を行う。

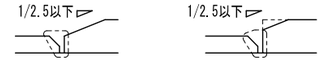
このときの許容差は，JASS6付則6「鉄骨精度検査基準」による。

溶 接 継 手	余盛 h
突合わせ継手，かど継手	0以上
T 形 継 手 部分溶込み溶接	t≦40の場合 h＝t。S t＞40の場合 h＝10
隅 肉 溶 接	0以上
フレア 溶 接	0以上

7．溶接部の段差

突合わせ溶接される部材の板厚が異なる場合には，溶接表面が薄い方の材から厚い方の材へ滑らかに移行するように溶接する。

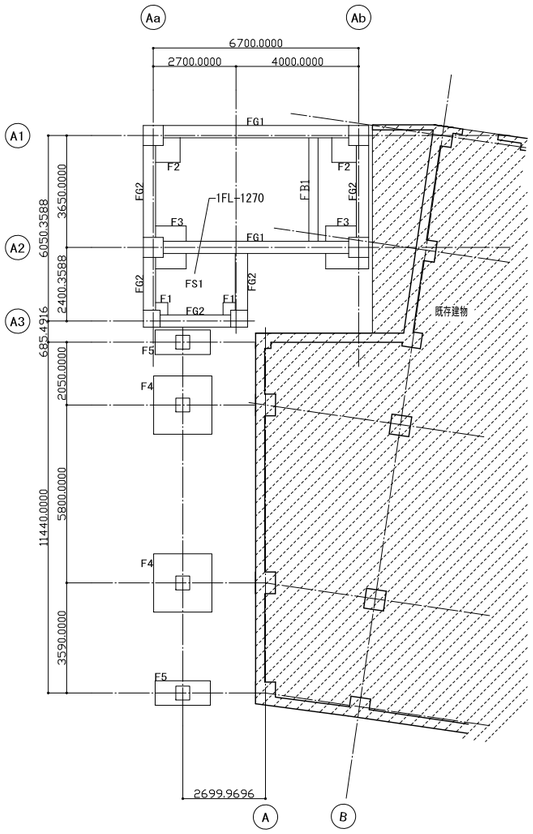
段違いが10mmを超える場合，又はクレーンガーダーの場合には，厚い方の材を1／2．5以下の傾斜に加工し，開先部分で薄い方と同一の高さにする。



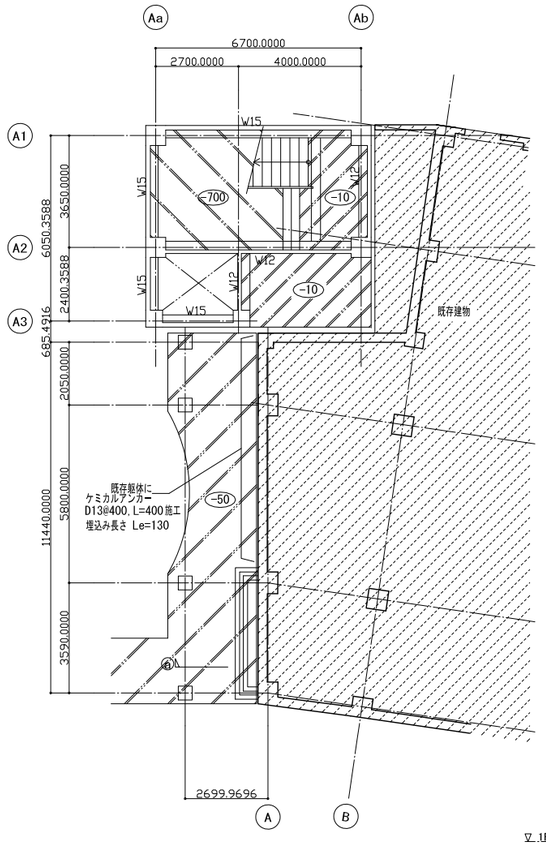
a)あらかじめテーパーをつける。　b)溶接後テーパーをつける。

設計番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月	
図面名 いきいきプラザ（構造）：溶接基準図		縮尺 -	
代表となる設計者(担当)		図面番号 KA-SA203	

基礎伏図　1:100

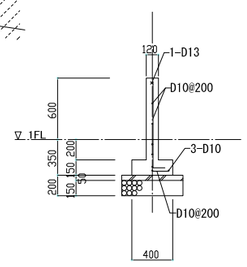


1階梁伏図　1:100



構造概要		
1．使用材料	コンクリート	躯　体　；　２１Ｎ／mm²(+3N/mm²)
		ラップル，土間，デッキ；　１８Ｎ／mm²
	鉄　筋	SD295A（Ｄ１６以下，重ね継手）
		SD345　（Ｄ１９以上，ガス圧接）
	鉄　骨	SS400, STKR400, STK400, SSC400
2．設計積雪量　250cm（長期）		
3．設計地耐力　392kN/m²（40t/m²）		

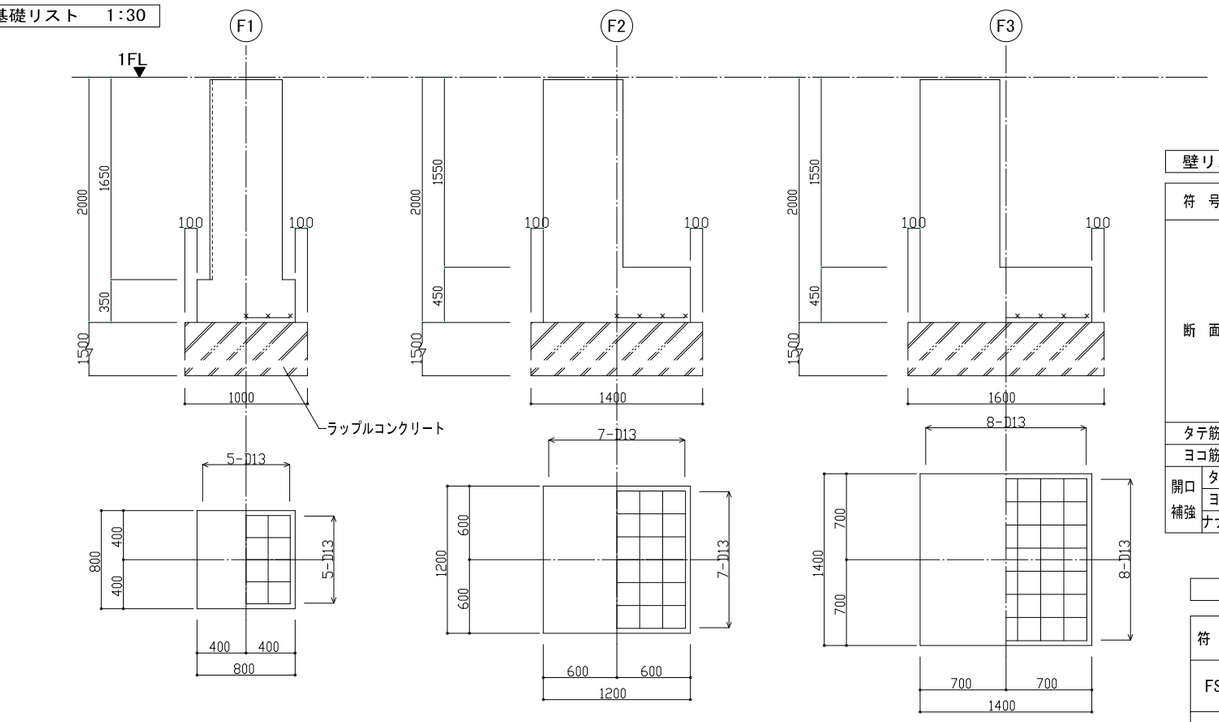
◯は、FLからの土間天端を示す。
基礎梁天端は、１ＦＬ－950とする。

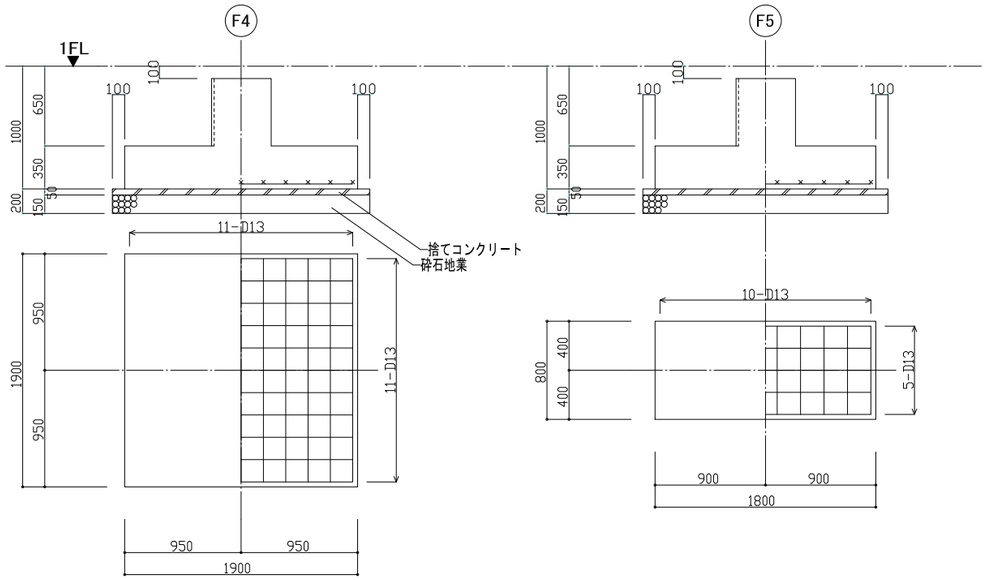


ⓐ SEC

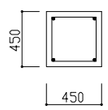
設計書号	工事名称　旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日　R4年12月
図面名　いきいきプラザ(構造)　：基礎１階梁伏図	1:100(A1) 1:200(A3)	縮尺
代表となる設計者(担当)		図面番号　KA-SA204

基礎リスト　1:30





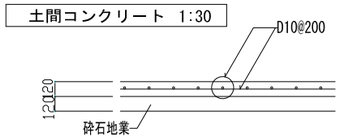
F4,F5立ち上がり



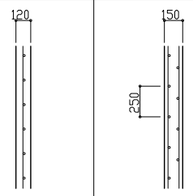
主 筋　4-D19

HOOP　□-D10@100

土間コンクリート　1:30

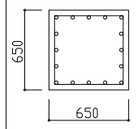
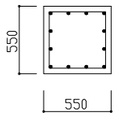


壁リスト　1:30

符　号		W12	W15
断　面			
タテ筋		D10 @200（シングル）	D10 @250（チドリ）
ヨコ筋		D10 @200（シングル）	D10 @250（チドリ）
開口補強	タテ	2-D13	4-D13
	ヨコ	2-D13	4-D13
	ナナメ	2-D13	4-D13

根巻きリスト　1:30

土に接する部分はフカシ２０とする。

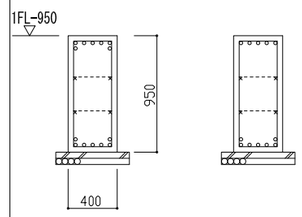
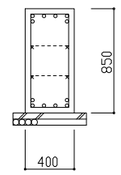
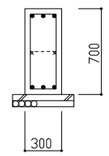
符　号	1C1	1C2
断　面		
主　筋	16-D22	12-D19
HOOP	□-D13@100	□-D13@100
天端レベル	1FL-20	1FL-20

スラブリスト

符　号	厚　さ	位　置	短辺方向		長辺方向	
			端部	中央	端部	中央
FS1	300	上端筋	D13　@200	D13　@200	D13　@200	D13　@200
		下端筋	D13　@200	D13　@200	D13　@200	D13　@200

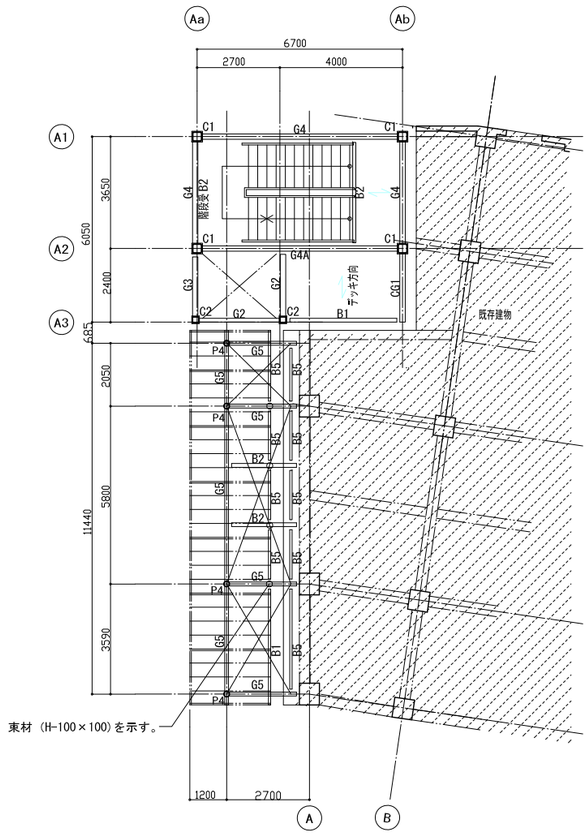
基礎梁リスト　1:30

幅止め筋:D10@１０００

符　号	FG1		FG2	FB1
位　置	端　部	中　央	全断面	全断面
断　面				
上端筋	7-D22	5-D22	6-D22	3-D19
下端筋	7-D22	7-D22	6-D22	3-D19
STR	□-D13@150		□-D13@200	□-D10@200
腹　筋	4-D13		4-D13	2-D13

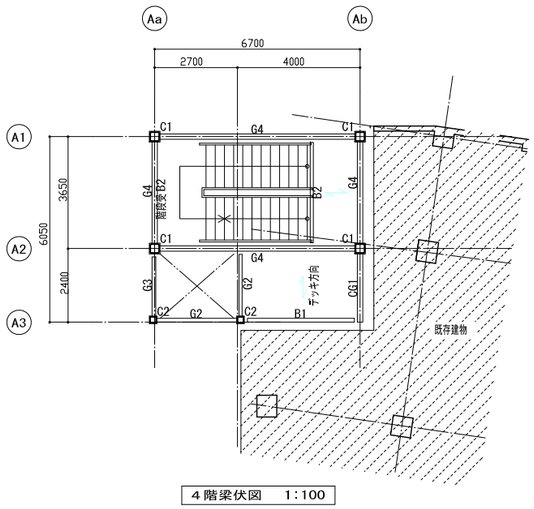
設計番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事		作成日 R4年12月
図面名 いきいきプラザ（構造）：基礎リスト		1:25(A1) 1:50(A3)	縮尺
代表となる設計者(担当)			図面番号 KA-SA205

２階梁伏図　1:100

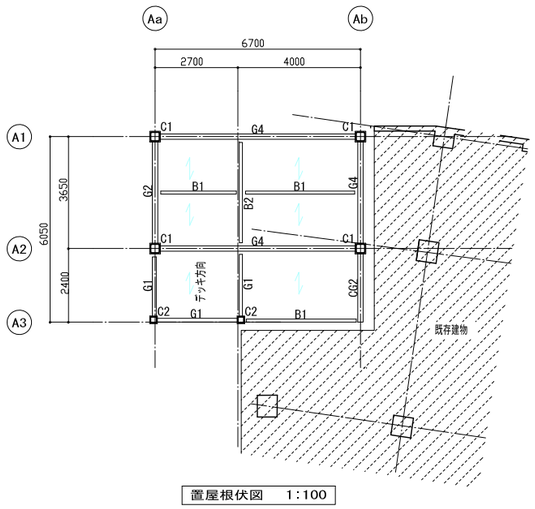


デッキコンクリート天端は、ＦＬ－１４０とする。

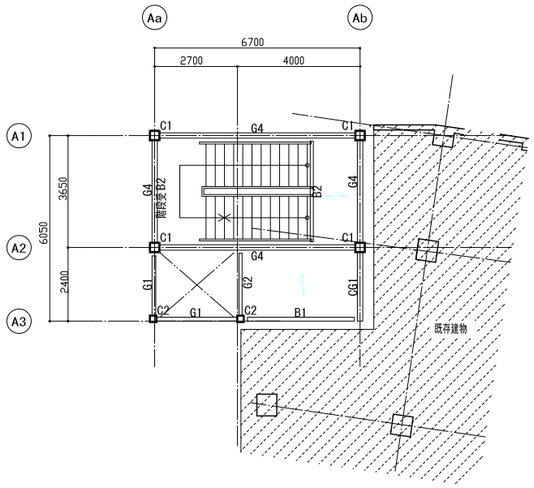
３階梁伏図　1:100



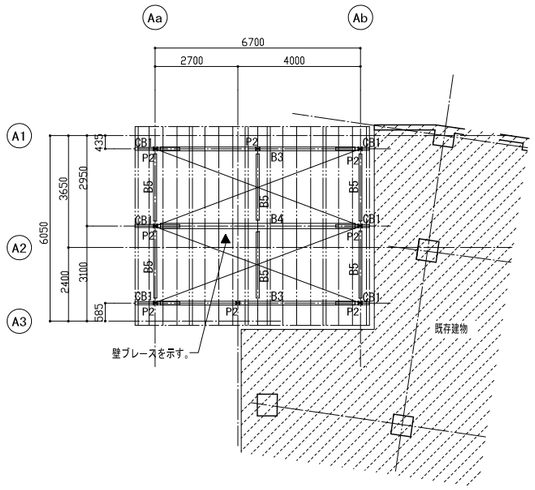
Ｒ階梁伏図　1:100



４階梁伏図　1:100

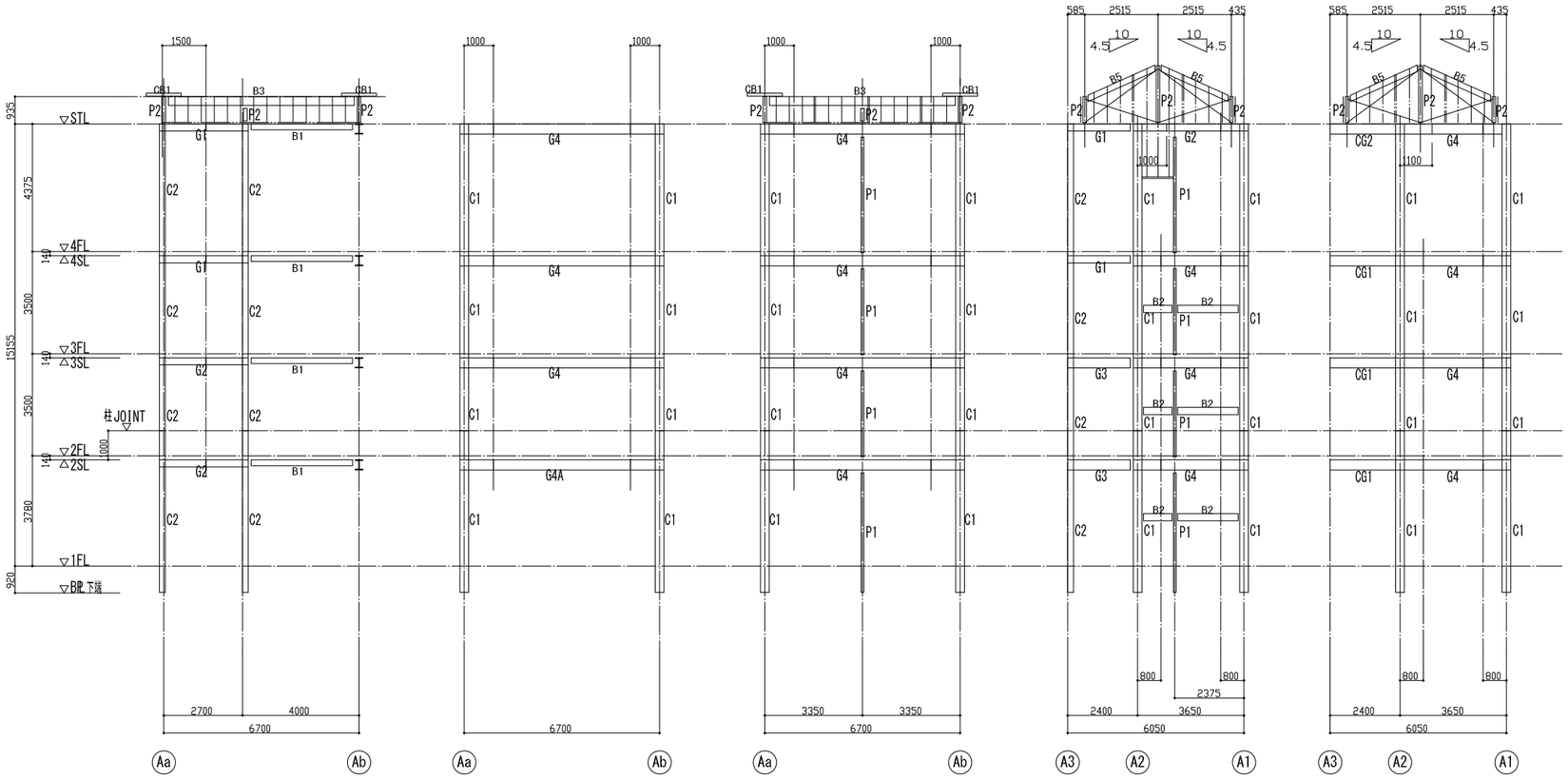


置屋根伏図　1:100



設計番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事		作成日 R4年12月
図面名 いきいきプラザ（構造）：各階伏図		1:100(A1) 1:200(A3)	縮尺
代表となる設計者(担当)			図面番号 KA-SA206

軸組図　1:100



Ａ３通り　Ａ２通り　Ａ１通り　Ａａ通り　Ａｂ通り

設計番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名 いきいきプラザ（構造）：軸組図	1:100(A1) 1:200(A3)	縮尺
代表となる設計者(担当)		図面番号 KA-SA207

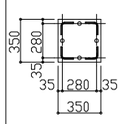
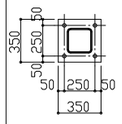
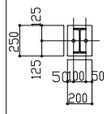
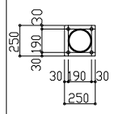
鉄骨部材リスト

鉄骨加工業者は、建設省告示1103号に適合する工場とする。

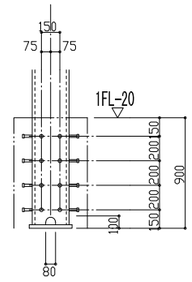
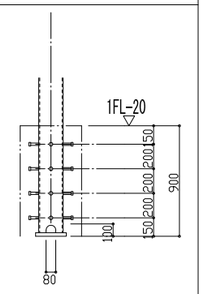
符号	部材断面		フランジ S.PL	フランジ H.T.B	ウェブ S.PL	ウェブ H.T.B	備考
C1	1階	□ − 300 × 300 × 16					
	2〜4階	□ − 300 × 300 × 12					
C2	1〜4階	□ − 200 × 200 × 9					
G1		H − 250 × 125 × 6 × 9	PL−12×125×410	6−M16	2PL− 6×170×290	4−M16	ピン接合部 GPL− 9 HTB 3−M20
G2		H − 244 × 175 × 7 × 11	PL− 9×175×290	4−M20	2PL− 6×140×170	2−M20	ピン接合部 GPL−12 HTB 3−M20
G3		H − 350 × 175 × 7 × 11	PL− 9×175×290 2PL− 9×70×290	4−M20	2PL− 6×260×170	3−M20	ピン接合部 GPL−12 HTB 4−M20
G4		H − 340 × 250 × 9 × 14	PL−12×250×530 2PL−12×100×530	8−M20	2PL− 9×200×290	6−M20	
G4A	端部	BH − 340 × 250 × 9 × 19					
	中央	H − 340 × 250 × 9 × 14	PL−12×250×530 2PL−12×100×530	8−M20	2PL− 9×200×290	6−M20	
G5		H − 250 × 125 × 6 × 9	PL−12×125×410	6−M16	2PL− 6×170×290	4−M16	
CG1		H − 350 × 175 × 7 × 11					
CG2		H − 340 × 250 × 9 × 14					
B1		H − 200 × 100 × 5.5 × 8			GPL− 6	2−M20	
B2		H − 250 × 125 × 6 × 9			GPL− 9	3−M20	
B3		H − 300 × 150 × 6.5 × 9			GPL− 9	3−M20	
B4		H − 350 × 175 × 7 × 11			GPL− 9	4−M20	
B5		H − 150 × 75 × 5 × 7			GPL− 6	2−M16	
CB1		2[− 100 × 50 × 5 × 7.5			GPL− 6	2−M16	ツヅリ材 PL−6×120×120@500
b1		H − 200 × 100 × 5.5 × 8			GPL− 6	2−M20	
b2		H − 350 × 175 × 7 × 11			GPL− 9	4−M20	
b3		[− 200 × 75 × 6					後施エアンカー 16φ@500,L=150

符号	部材断面	ピン接合 G.PL	ピン接合 H.T.B	備考
P1	H − 200 × 100 × 5.5 × 8	GPL− 6	2−M20	
P2	H − 125 × 125 × 6.5 × 9	GPL− 6	2−M16	
P3	H − 148 × 100 × 6 × 9	GPL− 6	2−M16	
P4	φ − 190.7 × 5.3			
H1	□ − 125 × 125 × 6	GPL− 9	2−M20	端部 CT−150×150×6.5 ×9 溶接
屋根ブレース	1 − M22	GPL−12	1−M22	FB−9×75
壁ブレース	1 − M22	GPL−12	1−M22	FB−9×75
たる木	C − 120 × 60 × 20 × 2.3 @455	GPL−4.5	中ボルト 2−M12	2C−100×50×20×2.3 @1820
置屋根胴縁	C − 100 × 50 × 20 × 2.3 @455	GPL−4.5	中ボルト 2−M12	2C−100×50×20×2.3 @1820
デッキプレート	合成スラブ用 H=50,t=1.2	コンクリート山上 80 溶接金網 6φ−150×150		

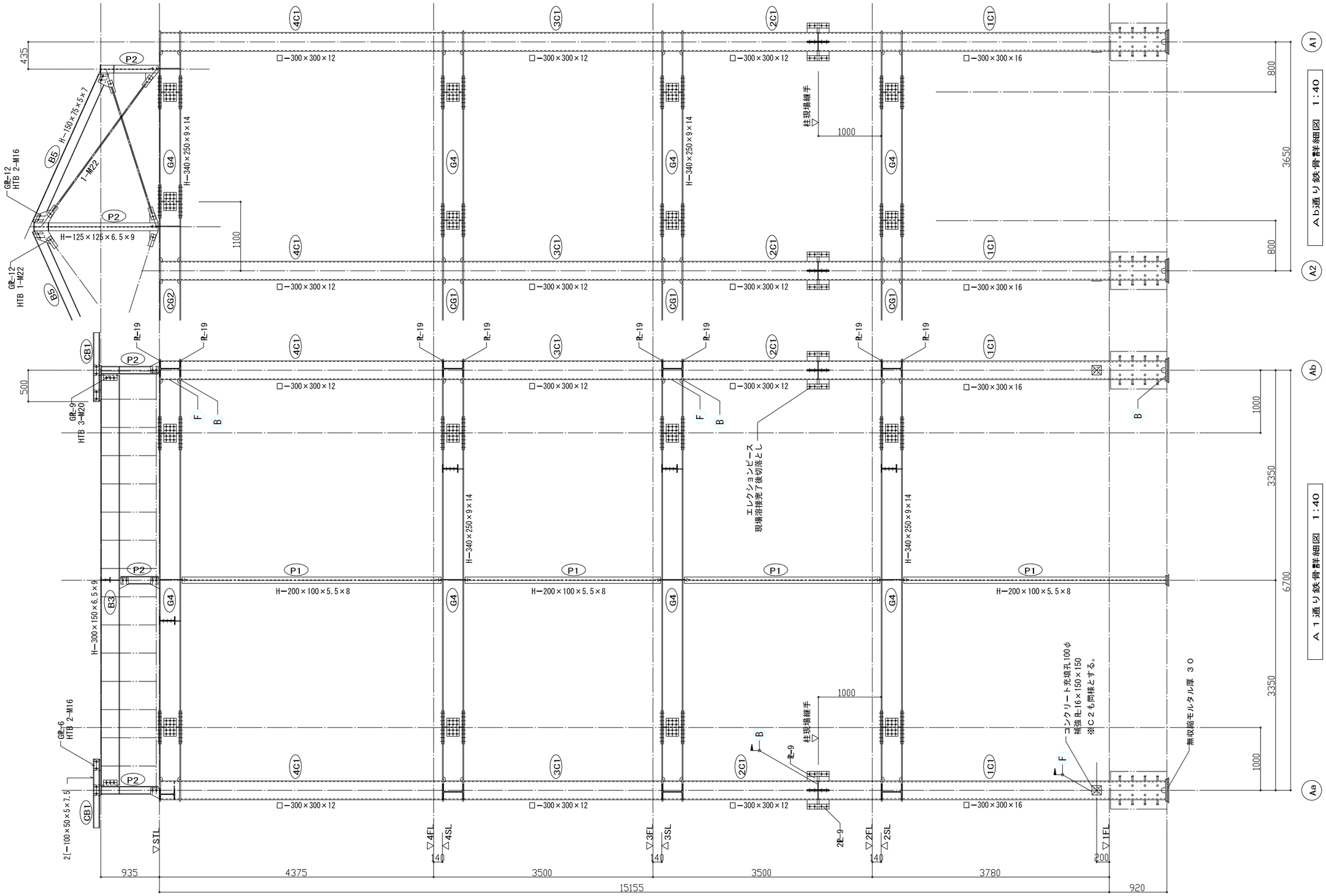
柱脚リスト 1:30

符号	C1	C2	P1	P4
平面				
BASE. PL	22×350×350	19×350×350	19×200×250	19×250×250
A. BOLT	4−M20 (L=600)	4−M16 (L=500)	2−M16 (L=500)	4−M16 (L=500)

柱脚スタッド

符号	C1	C2
断面		
スタッド	32−19φ,H=80	16−19φ,H=80

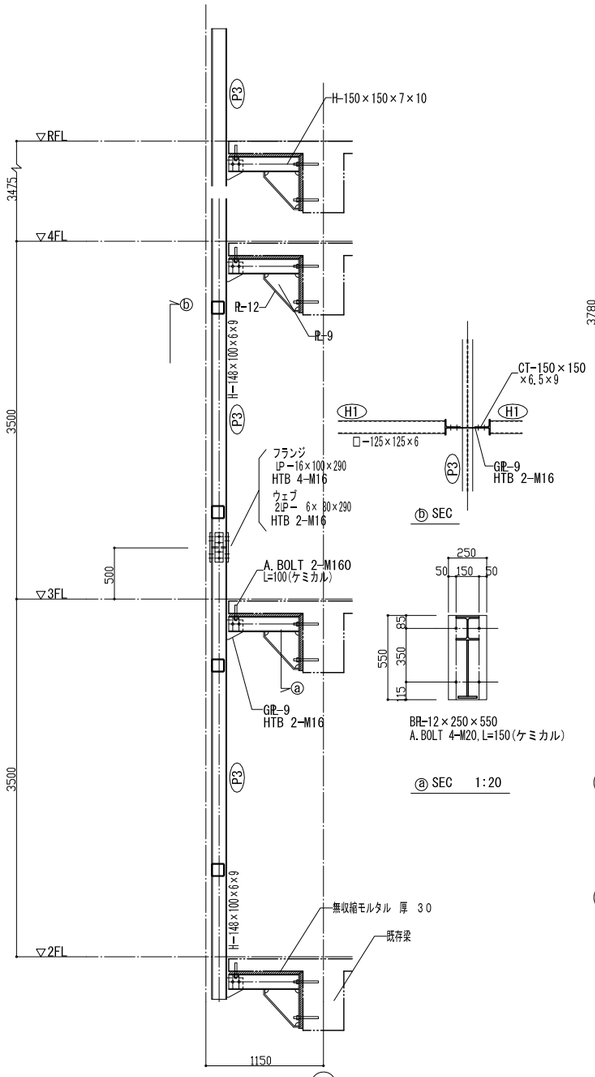
設計事務所	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名 いきいきプラザ（構造）：骨部材・柱脚リスト	1:25(A1) 1:50(A3)	縮尺
代表となる設計者(担当)		図面番号 KA−SA208



Ab通り鉄骨詳細図 1:40

A1通り鉄骨詳細図 1:40

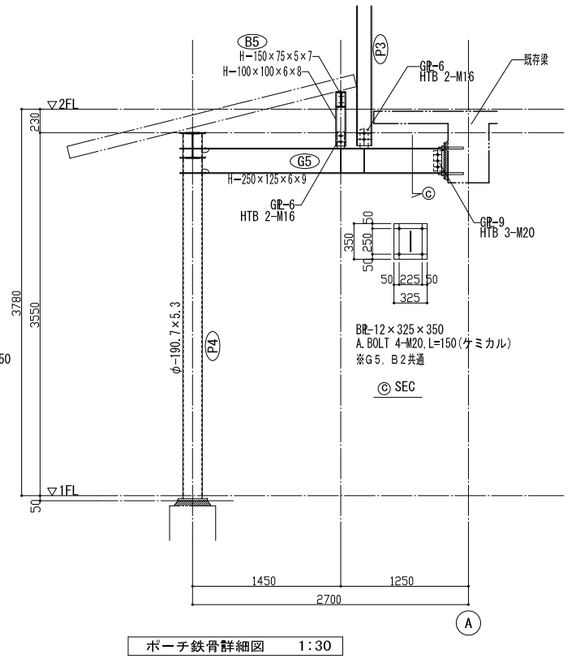
設計番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名 いきいきプラザ（構造）：鉄骨詳細図	1:30(A1) 1:60(A3)	縮尺
代表となる設計者(担当)		図面番号 KA-SA209



既存Ａ通り外壁下地群細図　1:30

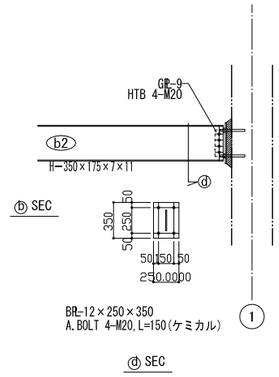
ⓑ SEC

ⓐ SEC　1:20



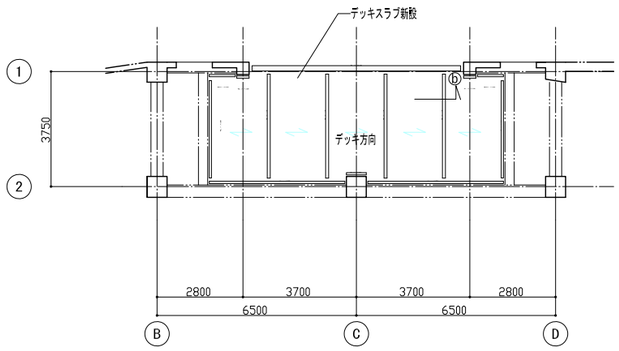
ⓒ SEC

ポーチ鉄骨群細図　1:30



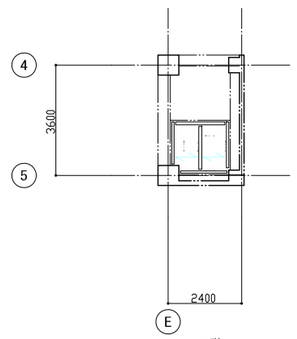
ⓑ SEC

ⓓ SEC



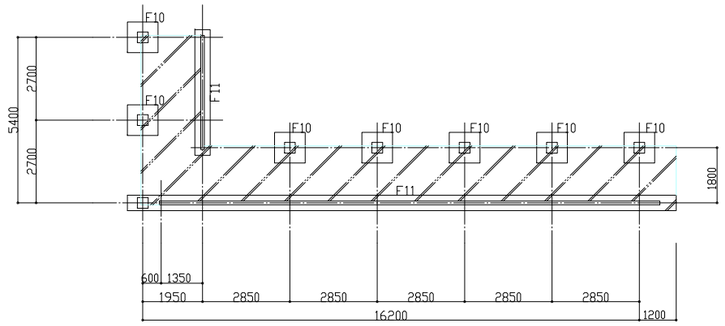
１～４階
エスカレーター撤去部

新設デッキ床伏図　1:100

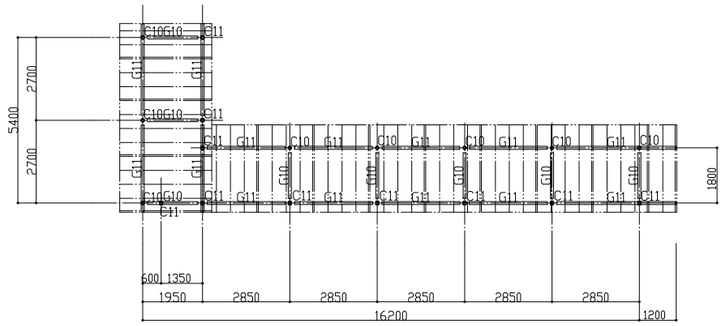


１階
リフト撤去部

設計番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名 いきいきプラザ（構造）：雑群細図	1:30(A1) 1:60(A3)	縮尺
代表となる設計者(総括)		図面番号 KA-SA210



基礎伏図　1:100

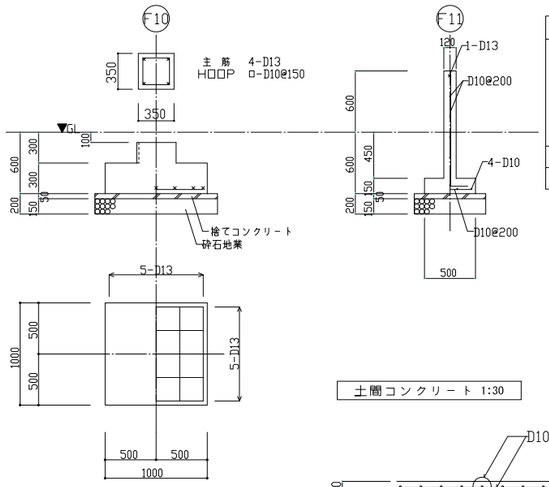


屋根伏図　1:100

部材リスト　外部露出部分は、溶融亜鉛メッキ処理とする。

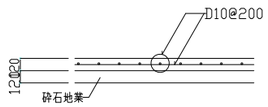
符号	部材断面	ピン接合		備考
		G.P	H.T.B	
C10	φ - 114.3x 6			
C11	□ - 100 x 100 x 6			
G10	H - 100 x 100 x 6 x 8	GP-9	2-M16	
G11	H - 148 x 100 x 6 x 9	GP-9	2-M20	
たる木	C - 100 x 50 x 20 x 3.2 @455	GP-5	中ボルト2-M12	2C-100×50×20×2.3 @1820
たて胴縁	C - 100 x 50 x 20 x 3.2 @455	GP-5	中ボルト2-M12	

基礎リスト　1:30

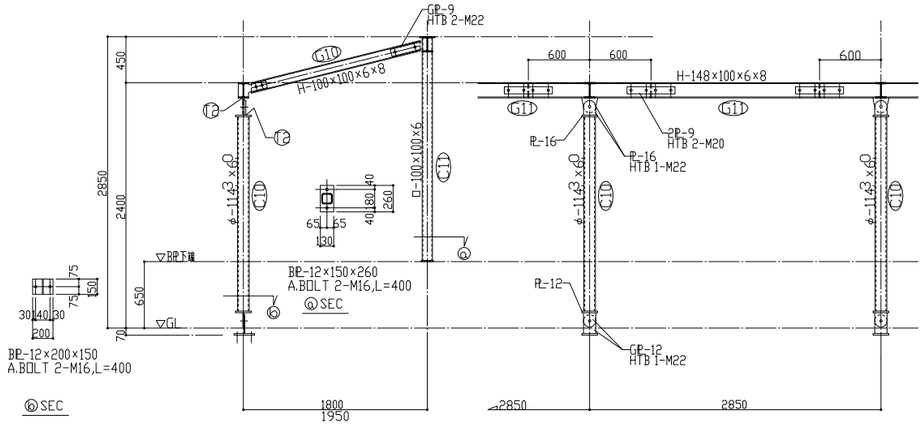


構造概要		
1．使用材料	コンクリート	躯　体；21N／mm²(+3N／mm²)
		土　間；18N／mm²
	鉄　筋	SD295A（D16以下,重ね継手）
		SD345（D19以上，ガス圧接）
	鉄　骨	SS400,STKR400,STK400,SSC400
2．設計積雪量	250cm（長期）	
3．設計地耐力	49kN／m² （5t／m²）	

土間コンクリート 1:30



架構詳細図　1:30



設計者号	工事名称	旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名	いきいきプラザ（構造）：外構アプローチ構造図	1:100(A1) 1:200(A3)	縮尺
代表となる設計者(担当)			図面番号 KA-SA211

1. 総　則　及　び　地業工事

総　則

本仕様書に記載なき事項は下記による。

1. ~~日本建築家協会編「建築工事共通仕様書」（　年度版）~~
   ⊙建設省建設大臣官房官庁営繕部制定「建築工事共通仕様書」（56年度版）（以下 ㊞ とする。）
   ⊙建設省建設大臣官房官庁営繕部制定「鉄筋コンクリート構造配筋要領」（56年版）

本仕様書の各項目で⊙印のある場合はその項を、⊙印なき場合は㊞印の項を適用する。

本仕様書の係員は、㊞の監督員によみかえるものとする。

砂利地業

砂利地業厚さ　：　㊞ 150 ㎜　（地下部分不要）　突固め

捨てコンクリート

捨てコンクリート厚さ：　50 ㎜

既製杭地業

既製コンクリート杭

- 遠心力鉄筋コンクリート杭　（RC杭）　JIS A 5310
- プレテンション方式遠心力プレストレストコンクリート杭（PC杭）　JIS A 5335
- 高温高圧蒸気養生高強度遠心力プレストレストコンクリート杭（AC杭）
- その他

鋼ﾟ杭

- 鋼管杭　JIS A 5525　STK 41
- H形鋼杭　JIS A 5526　SS 41

杭種・類						
杭長（m）						
杭径（mm）						
本数（本）						
長期設計支持力（t/本）						
ひび割れモーメント t.m PC杭・AC杭	上杭					
	下杭					

杭打工法

- 打撃工法　・デイーゼル ハンマー　・ドロップ ハンマー
- プレオーガー工法　（オーガー掘削長　m，打撃　m）
- プレオーガー，ベントナイト併用工法（オーガー掘削長　m，打撃　m）
- その他（　　）　・係員の指示

杭の継手

- 溶接継手　・JASPPジョイント（鋼管杭）

試験杭

杭伏図に記載

施工会社の指定

場所打コンクリート杭地業

工　法

- アースドリル工法
- ベノト工法
- リバースサーキュレーション工法

安定液

- 要（　　）　・不要

杭種類					
杭長（m）					
杭径（mm）					
本数（本）					
長期設計支持力（t/本）					

その他

施工会社の指定：

山止め地業

工法（施工会社）：

安定液

- 要（　　）　・不要

杭の鉛直載荷試験

・要　　・不要

1. 測定項目　杭先端，中間，杭頭について応力測定、変位測定
2. 試験方法　土質工学会発行「クイの鉛直載荷試験・同解説」による。
3. 載荷方法　・急速　・緩速
4. 荷重段階　〔　　〕cycle
5. 最大荷重　〔　　〕ton
6. 提出書類等　載荷試験計画書を提出係員の承認を得ること。
   報告書（　）部

2. コンクリート工事（1）

コンクリートの種類

コンクリート工事については特記なき限りJASS 5による。

	種類	設計基準強度	スランプ	気乾比重	施工範囲
○	普通	210 kg/cm²	18 cm	2.3 t/m³	下記以外の躯体
○	水槽	210	15 cm以下	2.3	○梁・H梁共 1階床版コンクリート上端より下部の躯体
	軽量1種	210		1.9	
	軽量2種	210		1.6	
○	土間	210	15	2.3	出入口廻り
○	無筋	135	15	2.3	捨てコンクリート，基礎上ヒゲコンクリート，内水押さえコンクリート

㊞ 特記なき限り「常用コンクリート」とする。

材　料

セメントの種類

- ⊙ポルトランドセメント（JIS R 5210）　㊞普通，早強，中庸熱
- 高炉セメント（JIS R 5211）　A種，B種，C種
- シリカセメント（JIS R 5212）　A種，B種，C種
- フライアッシュセメント（JIS R 5213）　A種，B種，C種

骨材

- 軽量骨材　JIS A 5002（構造用軽量コンクリート骨材）に規定するもの。
- ⊙砕石　JIS A 5005（コンクリート用砕石）に規定するもの。
- ⊙細骨材　JIS A 1105（砂の有機不純物試験）に合格するもの。
  JIS A 1103（骨材洗い試験）に合格するもの。

水，JIS A 5308（レディミクストコンクリート）2.3「水」による。

材料試験

㊞要　係員の指示に従い下記の試験項目について行なう。　・不要

1. コンクリート強度試験　JASS 5 5.16.3
2. セメントの物理試験　JIS A 5201
3. 骨材ふるい分け試験　JIS A 1102
4. 骨材の洗い試験　JIS A 1103
5. 砂の有機不純物試験　JIS A 1105
6. 係員の指示があるとき、塩分，酸，アルカリ，油，有機物の定量分析試験
7. 塩分含有量が、0.04 %を超え0.1 %以下の細骨材を使用する場合は次のイ）及びロ）に適合すること。
   イ）水セメント比が55 %以下で且つスランプを18 ㎝以下、又は水セメント比が50 %以下でスランプが21 ㎝以下
   ロ）防錆剤を使用のこと、又は床の下端筋のかぶり厚さが3 ㎝以上でありAE減水剤を使用のこと
8. 塩分含有量が0.1 %を超え0.2 %以下の細骨材を使用する場合は、次のイ）ロ）及びハ）に適合すること。
   イ）水セメント比が50 %以下でスランプが18 ㎝以下
   ロ）防錆剤を使用のこと
   ハ）鉄筋のかぶり厚さが、柱及び梁にあっては㎜以上、床の下端筋にあっては3 ㎝以上とし、AE減水剤を使用のこと

混和材料

	種類	商品名	製造会社	備考
○	AE剤	係員の承認を得ること。		
○	減水剤			
	防錆剤			
	収縮補償剤			
	防水剤			

コンクリート工事（2）

調　合

1. コンクリートの調合は所要の強度，ワーカビリチ，均一性及び耐久性が得られるように定める。
2. コンクリートにAE剤，分散剤，その他混和剤を使用するときは、係員の承認を要する。
3. コンクリートの強度はJIS A 1180（コンクリートの圧縮強度試験）による材令28日の圧縮強度を基準とする。
4. 所要空気量
   構造用軽量コンクリート　5 %（標準）
   普通コンクリート　4 %（標準）
5. 構造用軽量コンクリートには表面活性剤を用いる。

製　造

レディミクスト　コンクリート

- 本工事は原則としてレディミクストコンクリートを使用すること。
- ⊙JIS A 5308

荷卸し地点におけるコンクリートの品質

所要スランプ（cm）	スランプの許容値（cm）レディミクストコンクリート
8　未満	± 1.5
8以上18以下	± 2.5
18　以上	± 1.5

- コンクリートのスランプと所要スランプの差が上表より大きい場合又は、コンクリートが分離したり、流動性が乏しくて打込みにくい場合は、水セメント比を変えずに骨材量を増減して調合を調整する。
- 上表のコンクリートスランプはポンプ車使用の場合は、ホースの口のコンクリートスランプの値とする。

空気量の許容差

コンクリートの種類	許容差（%）
普通コンクリート	± 1.0
軽量コンクリート	± 1.5

運搬及び打込み

コンクリートの運搬及び打込みに先だって下記(1)～(6)の事項を定めて係員の承認を得ること。

1. 運搬及び打込みの方法，用いる機械器具
2. 運搬及び打込みのための労務組織
3. コンクリートの練りまぜ開始から打終わりまでの時間の限度
4. 打込み区画，及び打込み順序
5. 単位時間当りの打込み量
6. 品質の変化したコンクリートの措置

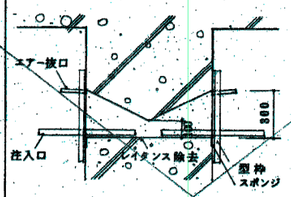
打ち継ぎ

- 打ち継ぎは梁及び床スラブ，屋根スラブでは、そのスパンの中央付近柱及び壁は床スラブまたは基礎の上端に設け水平又は垂直とする。
- 片持梁等では原則として打継ぎを設けない。
- 壁の打継ぎ個所には打継目地を設ける。

打ち継ぎ面の処理

- 打ち継ぎ面はレイタンス等を取除き清掃し、コンクリート打込み前に水湿しを行うこと。

逆打ち工法の場合の柱打ち継ぎ面



上記打ち継ぎ面の処理の後左図の要領で無収縮剤混入高強度モルタル（1：1）を注入のこと。

フロー値　250 ㎜
混和剤

養　生

収縮補償剤混入コンクリートの場合は、散水その他の方法で湿潤状態に保つ期間を7日以上とする。

検　査

1. コアーサンプル採取強度試験　㊞要　⊙不要
   試験方法：JIS A 1107による
   試験位置：採取位置は、各ヂLより1.5 mの位置の厚150～180 ㎜及び個所　の壁とする。（採取径は100 ㎜とする）　個所
2. シュミットハンマーによる強度測定　㊞要　⊙不要

コンクリート工事（3）

型　枠

- 打放し用
  せき板　：品質（㊞ 12 ㎜ 合板 JAS.規格品）
  緊張材　：品質（ボルト状）
- 一般用
  せき板　：品質（杉，合板，鋼製）
  さん，押角：品質（　）
  下ごしらえ：せき板の継手　㊞ 傍木実
  さん　㊞ 2面プレーナー加工
  押角　㊞ 2面加工
- 表面の仕上げ：㊞面　木目　立体模様（　）
- 剥離剤：　塗布回数（　）
- 打継ぎ個所：目地切
- 目地：化粧目地仕様
- 出隅面木：柱，梁などは原則として面取りし，面木目地巾は30 ㎜

せき板の存置期間を定めるためのコンクリートの圧縮強度および材令

部位	セメントの種類	コンクリートの圧縮強度	コンクリートの材令(日) 平均気温20℃以上	平均気温10℃以上20℃未満
基礎 はり側 柱 壁	早強ポルトランドセメント	50 kg/cm²	2	3
	普通ポルトランドセメント 高炉セメント　A種 シリカセメント　A種 フライアッシュセメント　A種		4	6
	高炉セメント　B種 シリカセメント　B種 フライアッシュセメント　B種		5	8
床スラブ下 屋根スラブ下 はり下	早強ポルトランドセメント	設計基準強度の50 %	4	5
	普通ポルトランドセメント 高炉セメント　A種 シリカセメント　A種 フライアッシュセメント　A種		7	8
	高炉セメント　B種 シリカセメント　B種 フライアッシュセメント　B種		8	10

平均気温10°C未満の場合は原則として圧縮強度試験による。
支保工の存置期間は床スラブ下，屋根スラブ下は設計基準強度の85 %以上，はり下は設計基準強度の100 %以上の圧縮強度が得られたことが確認されるまでとする。

型枠コンクリート

㊞に特記なき限りJASS5による。

壁中コンクリート

㊞に特記なき限りJASS5による。

打放しコンクリート

- 調合：セメント使用量　㊞ 300 kg/m³以上
  水セメント比　㊞ 60（　）%以下
- コンクリートのふかし厚さ：　㊞20

軽石コンクリート（玉石コンクリート）

コンクリート：
軽　石：

防水押えコンクリート 断熱材及びこれに準じる軽量コンクリート

㊞パーライトコンクリート　比重 1.5 t/m³以下，強度 80 kg/cm²以上
気泡コンクリート　比重（　）t/m³　強度（　）kg/cm²

現場打ち気泡コンクリート

設計者号	工事名称	旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名	旧越中屋本店（構造）：構造関係特記仕様書（1）（参考）		縮尺 —
代表となる設計者(担当)			図面番号 KA-SB301

	・SR 30			
	・			
異形鉄筋	⊙SD 30	D10,D13,D16	下記以外	
	⊙SD 35	D19,D22,D25	柱・梁の主筋	
	・SD 40			
	・			

材　料

規　格

⊙JIS G 3112（鉄筋コンクリート用棒鋼）規格品。

・規格に合格するもの。

・係員の承認による。

材料試験

⊙ 要　　JIS G 3112 による寸法の許容差，引張試験，曲げ試験

・ 不 要　（但し，規格証明書を提出し，係員の承認を受けた場合）

　　ほ，これを省略できる。

加工，かぶり厚さ　㊟による。

継　手　㊟ガス圧接継手

㊟日本建築学会発行「溶接工作規準書・同解説－ガス圧接」による。

・ガス圧接が許される母材

種　類	径（㎜）	規　格
SR 24，SR 30	9～32	規格品
SD 30，SD 35，SD 40	D10～D32	同　上

・上記　種類，径，規格以外の鉄筋の圧接は試験を行ない，係員の承認を得て圧接すること。

・柱・梁の主筋　D19　以上は原則としてガス圧接継手とする。

・施工業者

㊟ 専門業者の責任施工とする。

・抜取り検査日本建築学会溶接工作規準III・同解説「ガス圧接」による

㊟ 要

㊟ 圧接試験報告書の提出

・その他の継手工法

（　　）

溶接金網　・JIS G 3551 に規定する素線の径が 4 ㎜以上のもの。

組立異形鉄筋格子　・規　格　　SD30,SD35

・製造会社の指定：

スパイラル筋　・規　格　　SD30,SR30

・製造会社の指定：

土間コンクリート配筋　図示

設備工事による貫通孔及び開口補強　図示

スペーサー　・片持スラブの上端筋のスペーサーは，鋼製スペーサーとする。

帯筋の溶接及び検査　・帯筋の溶接は，係員の承認する工場で行なう。

・工場で溶接された帯筋の検査は，係員の指示する所及び200本に1ヶ所行なう。

・検査は，溶接部の引張試験を行ない，母材で破断することを確認する。

・鉄筋の曲げ加工は，冷間曲げ加工とする。

（加工業者）

・鋼材形状：鋼材はすべて形状正しく直線をなすもので有害なキズ，錆しいサビのないもの

・鋼材寸法：断面寸法は下記に規定された鋼材の標準寸法と許容差に適合するもの但し，JIS G 3444 については肉厚 6 ㎜以下のものは(－)の誤差を認めない

⊙JIS G 3191（熱間圧延棒鋼とバーインコイルの形状，寸法，重量ならびに許容差）

⊙JIS G 3192（熱間圧延形鋼の形状，寸法，重量ならびに許容差）

⊙JIS G 3193（熱間圧延鋼板と鋼帯の形状，寸法，重量ならびに許容差）

・JIS G 3194（熱間圧延平鋼の形状，寸法，重量ならびに許容差）

・JIS G 3444（一般構造用炭素鋼鋼管）

・JIS G 3350（建築構造用冷間成形軽量形鋼）

・JIS G 3466（一般構造用角形鋼管）

・鋼材材質：材質は下記の規格に適合する規格品

㊟JIS G 3101（一般構造用圧延鋼材）　2 種（SS41）

・JIS G 3106（溶接構造用圧延鋼材）　1 種（SM41 A,B,C）

・JIS G 3106　2 種（SM50 A,B,C）

・JIS G 3444（一般用構造用炭素鋼鋼管）2 種（STK41）

・JIS G 3444　4 種（STK50）

・JIS G 3350（一般構造用軽量形鋼）（SSC41）

・耐火被覆材：使用材料　・吹付材　・貼付材　・塗材

耐火時間：

製造会社の指定：

・高力ボルト：ボルト，ナット及び座金はJIS B 1186 の規格に適合するもの

・種　別　特殊高力ボルト F10T 大臣認定品とする。

・すべり係数　：㊟ 0.45　・0.225（薄板）

・すべり係数試験：㊟要　⊙不　要

試験方法

1.試験片の各部材寸法は現場によるものと同一と見なしうるもの

2.試験片はボルト孔例に各3個とする

3.試験片の表面状態は現場と同一と見なしうるもの

4.すべりは次のいずれかの状態が認められた時発生したと判断する

a）すべり音の発生，b）負荷重の静止又は下降，c）D.G.の指針が急変，d）試験体のずれをけがき線により確認したとき

5.算定式：すべり係数＝すべり荷重／(締付力×ボルト本数×摩擦面の数)

6.上記以外は監督員の指示による

・製造会社の指定：

・ボルト，ナット：材　質（アンカーボルトもこれに準ずる。）

JIS G 3101（一般構造用圧延鋼材）に定める 2 種（SS41）の規格品とする

・リベット：形　状

JIS B 1213（冷間成形リベット）JIS B 1214（熱間成形リベット）の規格に適合するもの

・リベット：材　質

㊟JIS G 3104（リベット用圧延鋼材）に定める 2 種甲（SV41A）の規格に適合するもの

・特　記

リベットピッチは図面による

・材料試験：JIS G 0303（鋼材の検査通則）による

但し，規格品でJISマークの表示のあるもの又は規格証明書のある材料は係員の承認を得て材料試験を省くことができる。

工作一般　・製作工場の承認：製作を行なう工場については経歴，機械器具，技術者，工員，研究所，試験室などにつき必要な事項を記載した書類をあらかじめ係員に提出する。

・工作に先立ち鉄骨工作図を提出し承認をうけた後各部の現寸図を作製し係員の検査を受ける。

工作精度　・日本建築学会「建築工事精度規準・同解説」による。

製品検査　・社内検査：製品全数につき実施し製品検査記録表を提出のこと。

・立会検査：上記製品検査記録表のもとで製品より係員の指示する ケ所を抜き取り係員の立会にて実施すること。

溶接検査　検査方法

・超音波探傷検査

（方法及び合否の判定は日本建築学会発行「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準・同解説」による。）

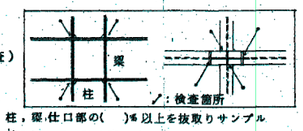
・放射線透過検査

（方法及び合否の判定は JIS Z 3104「鋼溶接部の放射線透過試験方法および透過写真の等級分類方法」による。

・浸透試験

検査の実施者

抜取り検査要領（工場検査）



・2回抜取り形式とする。

第1回抜取り検査：　柱，梁仕口部の（　）%以上を抜取りサンプルとし，上図に示す箇所に対して検査を実施する。

第2回抜取り検査：　第1回抜取り検査の結果，合格率が（　）%以下の場合は，第2回抜取り検査として残り仕口部の（　）%以上のサンプルに対して検査を実施すること。

・その他

抜取り検査要領（現場検査）

・梁現場溶接部検査は工場溶接検査に準ず。

・柱現場溶接部検査は全数検査を原則とする。但し，係員の指示により抜取り検査形式とできる。

不合格溶接部の手直し

欠陥を有する溶接部全面にわたって完全にはつり取り，再溶接実施後上記検査により欠陥の有無を確認のこと。

検査結果の報告：

防　錆　・塗装工事による。但し組立て後塗装出来ない部分は（　　）回塗り

アンカーボルト　・埋込み工法　⊙固定埋込み工法

・可動埋込み工法

・埋込み長さ　図示

柱脚均しモルタル　・無収縮モルタル　　強度　　㎏/㎠ 以上

・混和材：

ALC版　その指示による。

・適用範囲：高温高圧蒸気養生された軽量気泡コンクリート屋根，および外壁に使用する場合に適用

・材　料：建設省住指発第 288「ALC構造設計基準」指定されたもの。

・形状寸法：住指発第 288 号および建築工事共通仕様

・施　工：原則として責任施工とする。

ALCブロック　・ブロックの気乾状態における平均重量は 600 ㎏/㎥ と

・形状寸法は下表による。

長さ（㎜）	高さ（㎜）	厚さ（㎜）	用
600	300	75	厚さ 75 はインシュレ
	400	100	
		125	厚さ 100 以上はイン
	600	150	および隔壁，耐力

・施　工：原則として責任施工とする。

補強コンクリートブロック工事　・材　料：JIS A 5406（空胴コンクリートブロッ

もので，割れ，ひずみ，傷のない1級品

見本品を提出して係員の承認を受ける。

レンガ工事　・材　料：JIS R 1250（普通レンガ）JIS R 121

規定に合格するもの，耐火レンガは特記

（粘土質耐火レンガ）の規定に合格する

・特記：

断熱レンガは JIS R 2611（耐火断熱レ

するもの。

製図番号	工事名称	旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名	旧越中屋本店（構造）：構造関係特記仕様書（２）（参考）		縮尺 －
代表となる設計者(総括)			図面番号 KA-SB302

ボーリング番号	NO.1
調査名	旧越中屋本店敷地地盤調査工事
工事主体名	株式会社 東畑倉庫事務所
所在地	新潟県新井市中町4-16
調査年月日	S.57.11.9 ～ 11.13
標比高	-1.43m　基準
ボーリング機械名及工法	BELL-2型 ロータリー式ハンドフィード型
実施者名	株式会社 日さく　担当 吉田源次
備考	

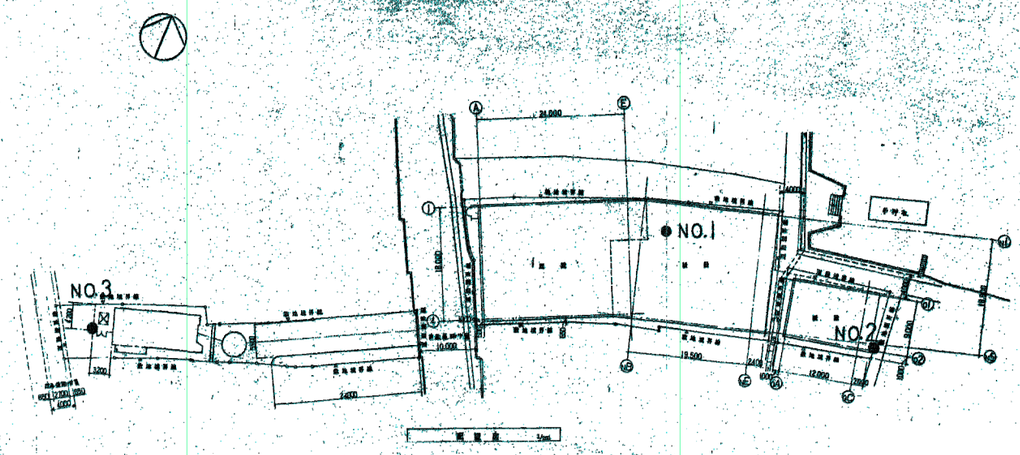
標尺(m)	標比高(m)	深度(m)	孔内水位(m)	層厚(m)	試料採取位置(m)	土質記号	色調	土質名	記事	相対密度又はコンシステンシー	標尺	N値	10cm毎の打撃回数 10	20	30	打撃回数 10 20 30 40 50
0	1.23	0.80		1.53			灰	地下コンクリート	0～0.25m間 コンクリート		1	1/31	1/1	1	2	
	2.42	1.10		0.50	1.15		茶褐	粘土	0.25～0.80m間 五石	中位						
					1.45				含水少ない。							
					2.15				含水少ない。							
	5.63	3.00		1.40			茶褐	シルト質細砂	粘土(0.0～2.0m)層とやや混在する。	中位						
					3.45											
					3.60				砂礫(5～10mm径の円礫主に)20～30mm径の五石をやや多く含む。	中位						
					4.00											
					5.00				風化粘土小礫少し含む。							
5					6.00											
					7.00				礫径 大部分50～95%位							
			平7.00													
	9.15	8.05		5.02	8.00		暗褐	砂礫	五石混り 全層色調ムラあり。セメントクリンカ状の作業粘土							
10																

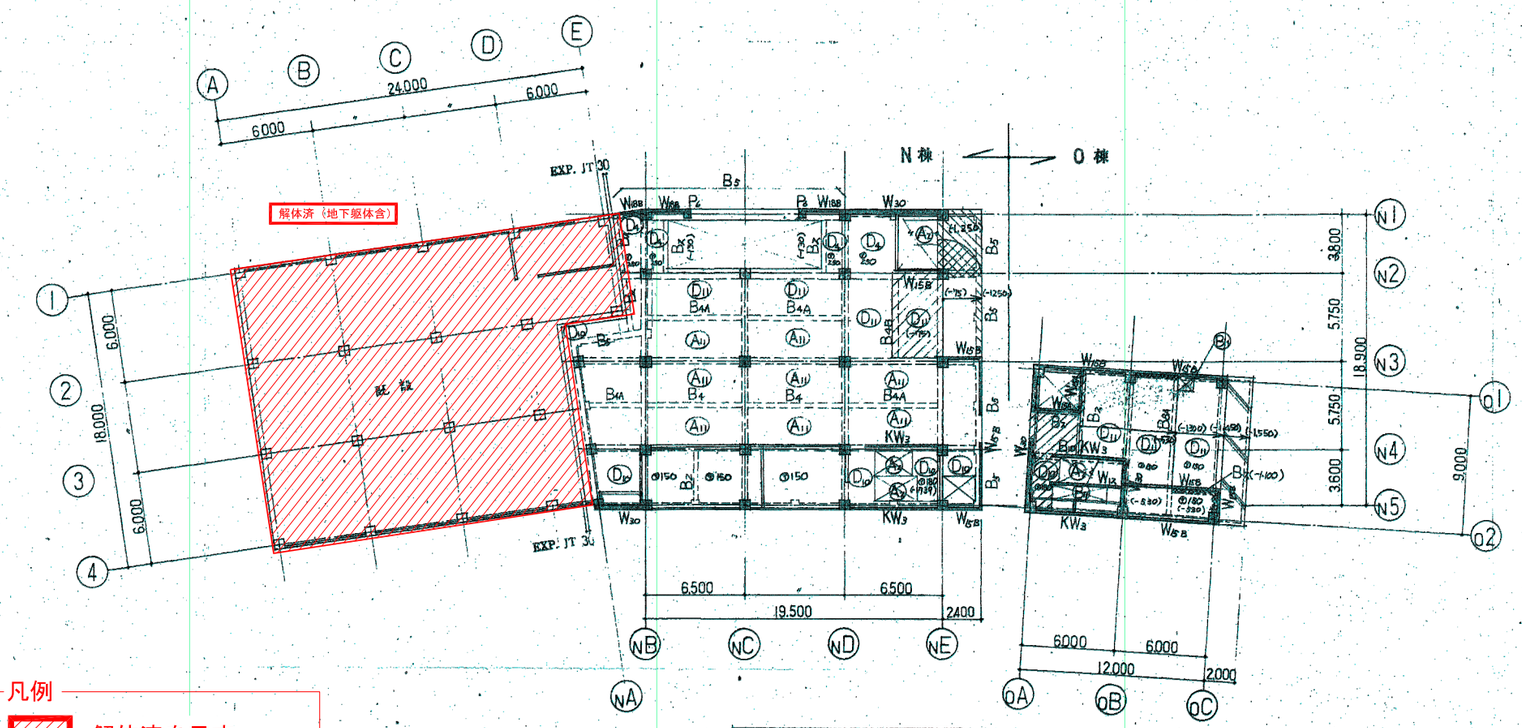
ボーリング番号	NO.2
調査名	旧越中屋本店敷地地盤調査工事
工事主体名	株式会社 東畑倉庫事務所
所在地	新潟県新井市中町4-16
調査年月日	S.57.11.4 ～ 11.5
標比高	+0.84m　基準
ボーリング機械名及工法	BELL-2型 ロータリー式ハンドフィード型
実施者名	株式会社 日さく　担当 吉田源次
備考	

標尺(m)	標比高(m)	深度(m)	孔内水位(m)	層厚(m)	試料採取位置(m)	土質記号	色調	土質名	記事	相対密度又はコンシステンシー	標尺	N値	10cm毎の打撃回数 10	20	30	打撃回数 10 20 30 40 50
0	0.24	0.60		0.60			暗褐	五石混り粘土	粘土に五石が多く混入する。	中位	1	5	1	2	2	
					1.15				色ボソボソ							
					1.45											
					2.15				小礫が多く混入する。							
	2.16	3.00		2.40	2.45		茶褐	粘土	砂礫(5～10mm径の円礫主に)20～30mm径の五石をやや多く含む。	硬い	2	6	2	2	2	
					3.55											
					4.00						3	50/11	41	9/1		
					5.00				520～530mm間粘土状化 礫径>40 80～90%位		4	50/8	50/3			
					6.00				砂礫(礫径5～10mm)やや多く混入 4個位		5	50/6	50/6			
					7.00				650～700mm間 780～800mm間		6	50/3	50/3			
	9.18	8.02	平7.10	5.62	8.00		暗褐	砂礫	五石多い 全層色調		7	50/3	50/3			
											8	50/2	50/2			
10											9					
											10					

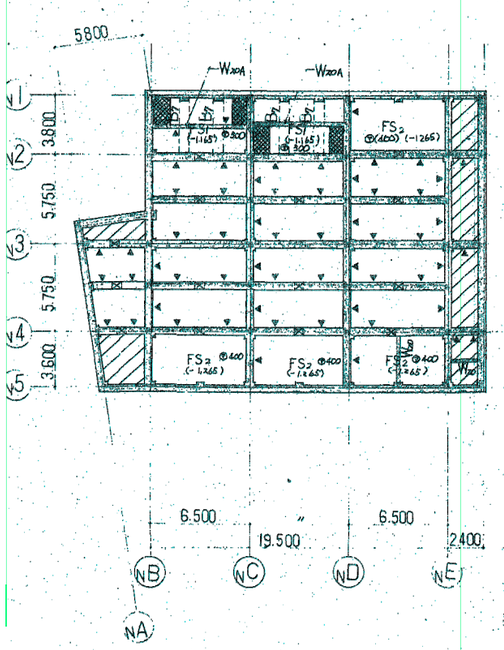
ボーリング番号	NO.3
調査名	旧越中屋本店敷地地盤調査工事
工事主体名	株式会社 東畑倉庫事務所
所在地	新潟県新井市中町4-16
調査年月日	S.57.11.6 ～ 11.8
標比高	-1.65m　基準
ボーリング機械名及工法	BELL-2型 ロータリー式ハンドフィード型
実施者名	株式会社 日さく　担当 吉田源次
備考	

標尺(m)	標比高(m)	深度(m)	孔内水位(m)	層厚(m)	試料採取位置(m)	土質記号	色調	土質名	記事	相対密度又はコンシステンシー	標尺	N値	10cm毎の打撃回数 10	20	30	打撃回数 10 20 30 40 50
0	-2.15	0.50		0.50			暗褐色	土	上部15mm程のマルタ。0.5～4.20m間、礫石0.20～0.50m間、粘土	中位	1	8	2	3	3	
					1.15											
	3.69	2.04		1.50	2.45		茶褐	粘土	含水少ない 中砂を少し混入する。	中位、中位	2	5	1	2	2	
					2.75											
	-5.15	3.50		1.50	3.45		茶褐	細砂	含水少ない。		3	13	4	4	5	
					4.00						4	50/1	50/2			
					5.00				砂礫(5～10mm径の円礫主に)20～30mm径の五石をやや多く含む。		5	50/19	21	29/3		
5					6.00						6	50/5	33/5			
					7.00				マトリックスは風化小礫主に粘土シルトが少し混入する。		7	50/4	33/2			
			平3.50								8	50/3	33/3			
	-7.60	4.00		4.50	8.00		暗褐	砂礫	五石多い 礫径小 全層80～90%位		9					
10											10					

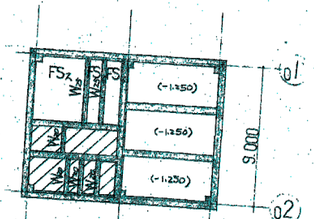

NO.1
NO.2
NO.3
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
24,000
19,500
12,000
10,000
1,400
1,200
2,400
2,000
1,000
1,000
1

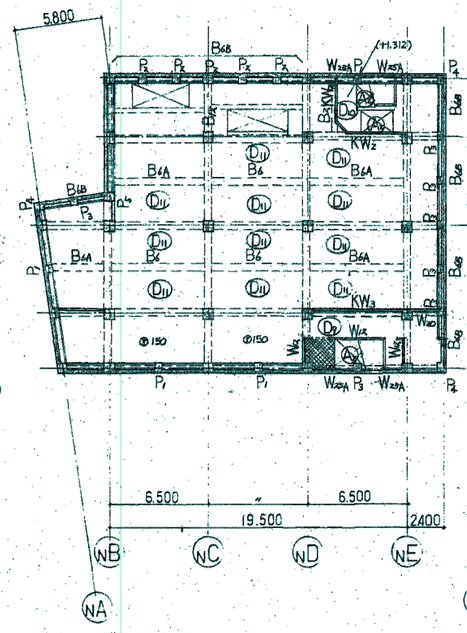


1 階 伏 図



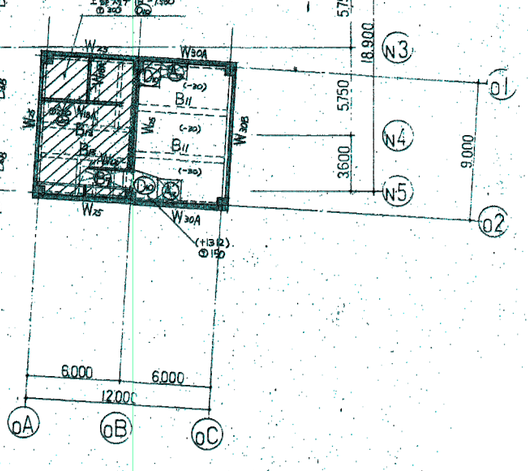
NB，OB 階 伏 図（下部）





NB，OB 階 伏 図

NBFL = IFL − 4,000
OBFL = IFL − 4,600



○ 各階伏図内の表示記号及び略号は、図面内に特記なき限り下記の事項を示す。

- ( ) 内の数値は、各階のFL±0を基準としたときの床版又は梁コンクリート上端位置を示す。
- ◯ 内は（図5.2.9の）床版配筋割を示す。
- ◯ 内は（図5.2.10の）階段　〃　〃
- Ⓣ は、床版コンクリート厚さを示す。
- ▨ は、土間コンクリート範囲を示す。
- ▩ は、増打コンクリート　〃
- ⊠ は、床開口又は階段・段部を示す。
- 施工に先立ち柱ほぼ大架芯割図を作成し採寸の承認を得ること。
- Ⓐ₂ 階段のスラブ厚は、130とする。

共 通 事 項

特記なき限り下記による。

○ 1階伏図

N棟，O棟共通

- スラブは、Ⓓ₁₀とする。
- 〃　Ⓣ 130とする。
- 〃　(−30)とする。
- 梁コンクリート上端は、スラブコンクリート上端に同じ。

O棟

- 斜線部は、(−130)とする。
- G×5のコンクリート上端は(−1,450)とする。

○ NB，OB 階伏図

N棟，O棟共通

- スラブは、Ⓓ₁₀とする。
- 梁コンクリート上端は、スラブコンクリート上端に同じ。

N棟

- スラブは、Ⓣ 130とする。
- 〃　(−45)とする。
- 壁は、W₂₅とする。

O棟

- スラブは、Ⓣ 150とする。
- 斜線部は、(+1,600)とする。
- G78のコンクリート上端は(+1316)とする。

○ NB，OB 階伏図

N棟，O棟共通

- 底版は、FS₁とする。又斜線部は、FS₃とする。
- 〃　Ⓣ 350とする。

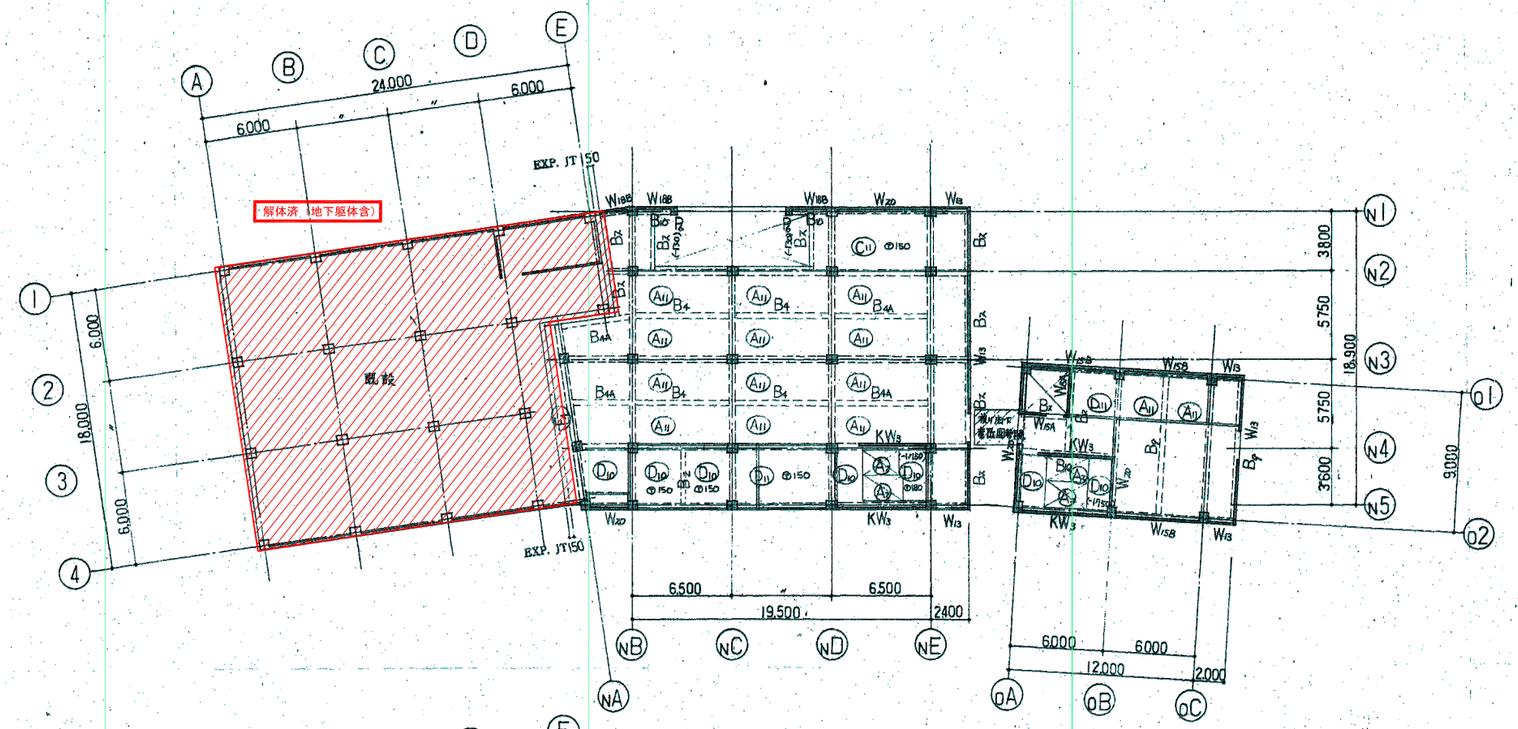
N棟

- スラブは、(−4,315)とする。

O棟

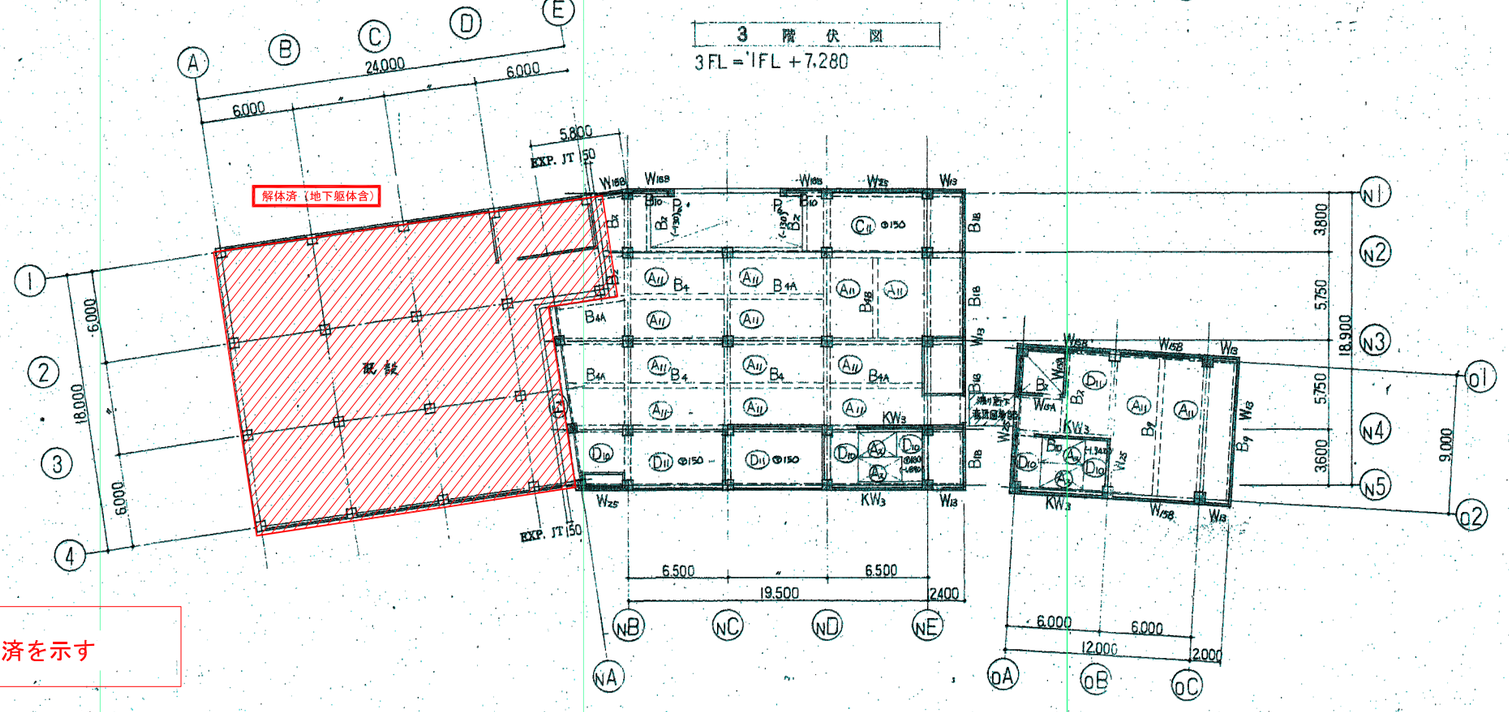
- スラブは、(−4,900)とする。

設計番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名 旧越中屋本店（構造）：B１・１階伏図（参考）	1:200(A1) 1:400(A3)	縮尺
代表となる設計者(担当)		図面番号 KA-SB304



3 階 伏 図

3FL = 1FL + 7,280



2 階 伏 図

凡例

解体済を示す

共 通 事 項

特記なき限り

○3階伏図及び2階伏図

N棟、O棟共通

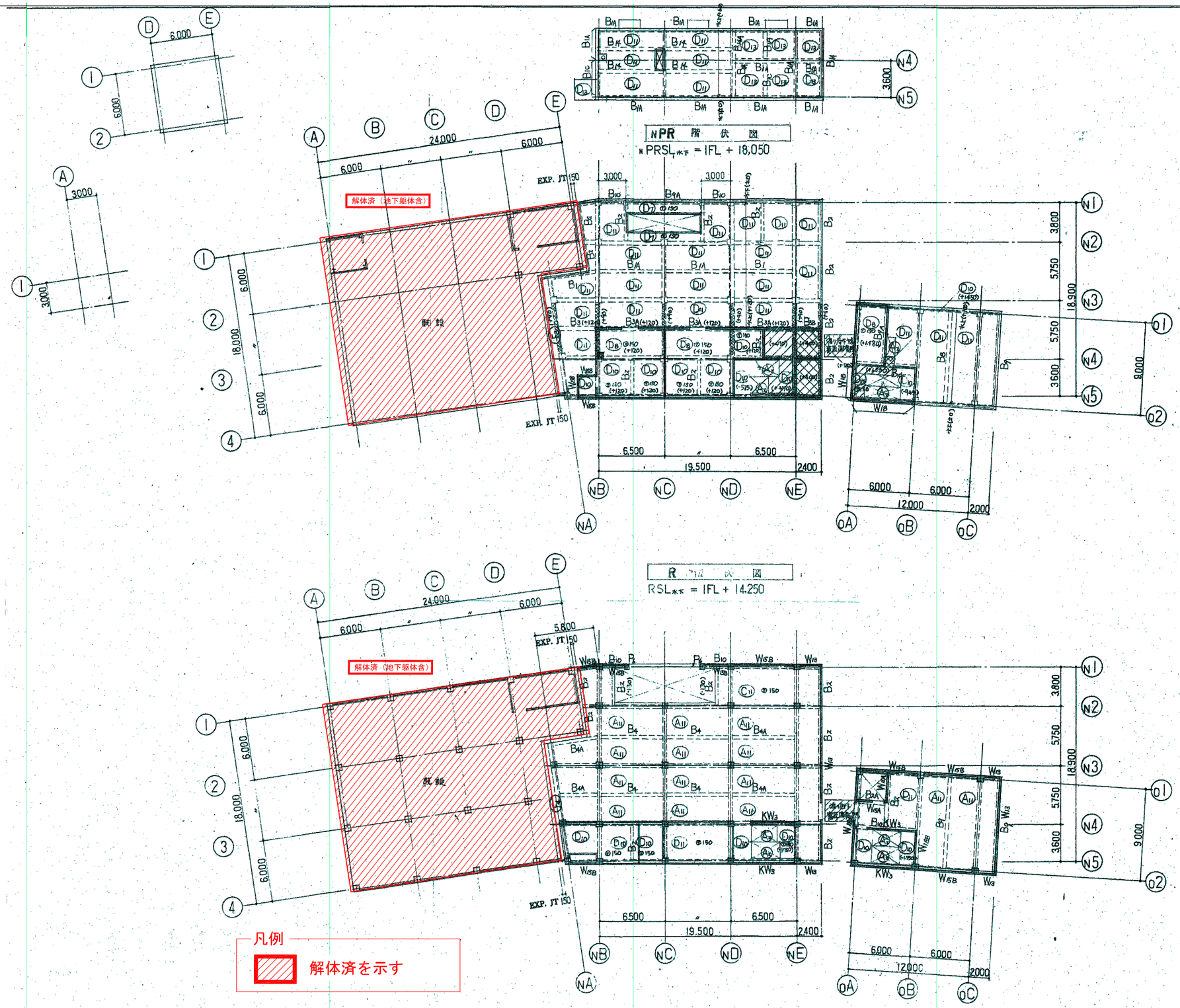
・スラブは、D13 とする。

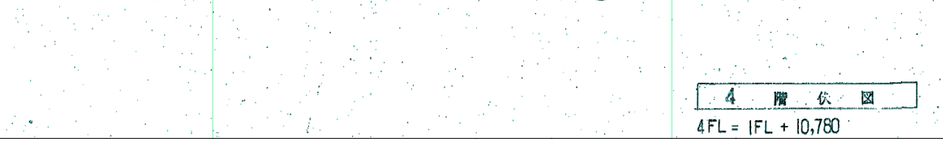
・〃 @150 とする。

・〃 (-30) とする。

・梁コンクリート上端は、スラブコンクリート上端に同じ。

設計番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事		作成日 R4年12月
図面名 旧越中屋本店（構造）：2・3階伏図（参考）		1:200(A1) 1:400(A3)	縮尺
代表となる設計者(担当)			図面番号 KA-SB305





共通事項

特記なき限り下記による

○NPR階伏図及び○PR階伏図

・スラブは、φ130とする。
・梁コンクリート上端は、スラブコンクリート上端に
・スラブコンクリート上端は、水勾配に合わせる
・（　）内数値は、PRSL水下±0を基準とした
又は、梁コンクリート上端位置を示す。

○R階伏図

N棟、O棟共通

・スラブは、φ130とする。
・梁コンクリート上端は、スラブコンクリート上端に
・スラブコンクリート上端は、水勾配に合わせ
・（　）内数値は、RSL水下±0を基準とした
床版又は、梁コンクリート上端位置を示す。
・スラブは、D13とする。
・壁はW18Bとする。

○4階伏図

N棟、O棟共通

・スラブは、D13とする。
・〃　φ130とする。
・〃　(-20)とする。
・梁コンクリート上端は、スラブコンクリート上
同じ。

整理番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名 旧越中屋本店（構造）：4・R階伏図（参考）	1:200(A1) 1:400(A3)	縮尺
代表となる製作者(総括)		図面番号 KA-SB306

大梁断面リスト

1/50

階	名称	GX1, GX1A, GX1B			GX2		GX3, GX3A			GX4		GY1, GY1A		
	位置	外端	中央	内端	両端	中央	外端	中央	内端	両端	中央	外端	中央	内端
R	断面	(**1)		(**1)										
		<>内は GX1B を示す ()内は GX1A を示す					()内は GX3A を示す							
	b×D	400 × 700 (350×700)			400 × 700		400 × 700			400 × 700		400 × 700		
	上端筋	4-D25	3(4)-D25	4-D25	4-D25	3-D25	4-D25	3(4)-D25	4-D25	4-D25	3-D25	4-D25	5-D25	5-D25
	下端筋	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25
	Stirrup	D10 @150			D10 @150		D10 @150			D10 @150		D13 @150		
4	断面	(**2)		(**2)										
		<>内は GX1B を示す ()内は GX1A を示す					()内は GX3A を示す							
	b×D	400 × 700 (350×700)			400 × 700		400 × 700			400 × 700		400 × 700		
	上端筋	4-D25	3(4)-D25	4-D25	4-D25	3-D25	6-D25	3(5)-D25	5-D25	5-D25	3-D25	5-D25	4-D25	4-D25
	下端筋	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	4-D25	4-D25	4-D25
	Stirrup	D10 @150			D10 @150		D10 @100			D10 @100		Ⅲ-D13 @150		
3	断面													
		<>内は GX1B を示す ()内は GX1A を示す					()内は GX3A を示す							
	b×D	400 × 700 (350×700)			400 × 700		400 × 700			400 × 700		400 × 700		
	上端筋	5-D25	3(5)-D25	5-D25	5-D25	3-D25	7-D25	4(5)-D25	6-D25	6-D25	3-D25	6-D25	5-D25	5-D25
	下端筋	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	6-D25	3(5)-D25	5-D25	5-D25	3-D25	4-D25	4-D25	4-D25
	Stirrup	D13 @150			D13 @200		D13 @100			D13 @150		Ⅲ-D13 @100		
2	断面	(***1)												
		(**2)		(**2)										
		<>内は GX1B を示す ()内は GX1A を示す					()内は GX3A を示す							
	b×D	400 × 750 (350×750)			400 × 750		400 × 750			400 × 750		400 × 750		
	上端筋	6-D25	3(5)-D25	5-D25	5-D25	3-D25	7-D25	4(5)-D25	6-D25	6-D25	3-D25	6-D25	5-D25	5-D25
	下端筋	4-D25	4-D25	3-D25	3-D25	3-D25	6-D25	3(5)-D25	5-D25	4-D25	3-D25	5-D25	4-D25	4-D25
	Stirrup	D13 @100			D13 @200		D13 @100			D13 @150		Ⅲ-D13 @100		
1	断面													
		()内は GX1A を示す					()内は GX3A を示す					GY1A の腹筋は 4-D13 とする		
	b×D	400 × 850 (350×850)			400 × 850		400 × 850			400 × 850		400 × 850		
	上端筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	5-D25	3(5)-D25	5-D25	5-D25	3-D25	4-D25	4-D25	4-D25
	下端筋	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25
	Stirrup	D13 @150			D13 @150		D13 @200			D13 @200		D13 @100		
B1	断面	b D												
							()内は GX3A を示す							
	b×D	450 × 1600			450 × 1600		500 × 1600			500 × 1600		450 × 1600		
	上端筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	4-D25	4-D25	4-D25
	下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	5-D25	5(6)-D25	8-D25	8-D25	5-D25	4-D25	4-D25	4-D25
	Stirrup	D13 @150			D13 @150		D13 @150			D13 @150		D13 @150		

階	名称	GY2, GY2A		GY3, GY3A			GY4, GY4A		GY5			GY6		
	位置	両端	中央	外端	中央	内端	両端	中央	N2端	中央	N3端	外端	中央	内端
R	断面													
		()内は GY2A を示す		()内は GY3A を示す			()内は GY4A を示す							
	b×D	400 × 700 (750)		400 × 700 (800)			400 × 700 (750)		400 × 700			400 × 700		
	上端筋	8-D25	4-D25	4-D25	6-D25	6-D25	7-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	3-D25	4-D25
	下端筋	6-D25	6-D25	3-D25	3-D25	4-D25	7-D25	7-D25	4-D25	4-D25	5-D25	3-D25	3-D25	3-D25
	Stirrup	Ⅲ-D13 @150		D13 @100			Ⅲ-D13 @100		Ⅲ-D13 @150			D13 @200		
4	断面													
	b×D	400 × 700		400 × 700			400 × 700		400 × 700			400 × 700		
	上端筋	4-D25	3-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	3-D25	5-D25	3-D25	5-D25	4-D25	3-D25	4-D25
	下端筋	3-D25	3-D25	4-D25	4-D25	4-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25
	Stirrup	D13 @150		Ⅲ-D13 @150			D13 @100		D13 @100			D13 @150		
3	断面													
	b×D	400 × 700		400 × 700			400 × 700		400 × 700			400 × 700		
	上端筋	5-D25	3-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	3-D25	6-D25	3-D25	6-D25	5-D25	3-D25	5-D25
	下端筋	3-D25	3-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	3-D25	5-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25
	Stirrup	D13 @150		Ⅲ-D13 @100			D13 @100		D13 @100			D13 @150		
2	断面													
	b×D	400 × 750		400 × 750			400 × 750		400 × 750			400 × 750		
	上端筋	5-D25	3-D25	6-D25	4-D25	6-D25	6-D25	3-D25	6-D25	3-D25	6-D25	5-D25	3-D25	5-D25
	下端筋	3-D25	3-D25	5-D25	4-D25	4-D25	3-D25	3-D25	5-D25	3-D25	4-D25	4-D25	3-D25	3-D25
	Stirrup	D13 @100		Ⅲ-D13 @100			D13 @100		D13 @100			D13 @100		
1	断面													
	b×D	400 × 850		400 × 850			400 × 850		400 × 850			400 × 850		
	上端筋	4-D25	3-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	3-D25	5-D25	3-D25	5-D25	4-D25	4-D25	4-D25
	下端筋	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25
	Stirrup	D13 @100		D13 @100			D13 @150		D13 @150			D13 @150		
B1	断面						GY5に同じ		N2, N4端	中央	N3端			
	b×D	500 × 1600		600 × 1600					600 × 1600			450 × 1600		
	上端筋	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	7-D25			9-D25	11-D25	13-D25	4-D25	4-D25	4-D25
	下端筋	6-D25	5-D25	5-D25	7-D25	7-D25			9-D25	7-D25	13-D25	4-D25	4-D25	4-D25
	Stirrup	D13 @150		D13 @100					Ⅲ-D13 @150			D13 @150		

階	名称	CG1		CG2		CG3	
	位置	端部	先端	端部	先端	端部	端部
R	断面						
	b×D	400 × 700		480 × 700		400 × 800	
	上端筋	6-D25	4-D25	8-D25	4-D25	5-D25	3-D25
	下端筋	6-D25	4-D25	7-D25	4-D25	3-D25	3-D25
	Stirrup	D10 @150		D10 @100		D10 - @150	
4	断面					同上	
	b×D	400 × 700		480 × 700			
	上端筋	6-D25	4-D25	8-D25	4-D25		
	下端筋	3-D25	3-D25	7-D25	4-D25		
	Stirrup	D10 @150		D10 @100			
3	断面	同上		同上		同上	
	b×D						
	上端筋						
	下端筋						
	Stirrup						
2	断面						
	b×D	400×750	400×600	400×750	400×600	400 × 850	
	上端筋	6-D25	4-D25	8-D25	4-D25	5-D25	3-D25
	下端筋	3-D25	3-D25	7-D25	4-D25	3-D25	3-D25
	Stirrup	D10 - @150		D10 - @100		D10 - @150	
1	断面						
	b×D	450 × 600		400 × 600			
	上端筋	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25		
	下端筋	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25		
	Stirrup	D13 - @150		D13 - @150			
B1	断面						
	b×D	450 × 1600		500 × 1600			
	上端筋	4-D25	4-D25	5-D25	5-D25		
	下端筋	4-D25	4-D25	8-D25	5-D25		
	Stirrup	D13 @150		D13 @150			

共通事項

大梁断面リスト

・1FL, B1FLの腹筋の定着板ではLとする，継手長さは L_1 とする。

・腹筋は，X付 D13，・付 D10とする。

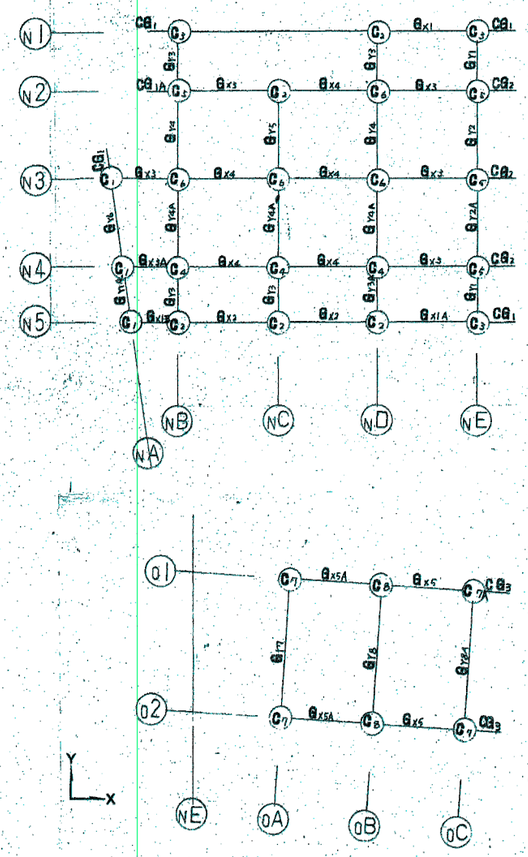
整理番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月	
図面名 旧越中屋本店（構造）：大梁断面リスト（1）（参考）		縮尺 -	
代表となる整理者(担当)		図面番号 KA-SB307	

大梁断面リスト 1/50

階	名称	G_{X5}, G_{X5A}			G_{Y7}		G_{Y8}, G_{Y8A}	
	位置	外端	中央	内端	両端	中央	両端	中央
5	断面							
	b×D	400×800			400×800		400×800	
	上端筋	4-D25	3-D25	4-D25	4-D25	3-D25	4-D25	3-D25
	下端筋	3-D25	4-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	4-D25
	Stirrup	D13 @200			D13 @200		D13 @200	
4	断面							( )内はG_{Y8A}を示す
	b×D	400×800			400×850		400×850	
	上端筋	6-D25	3-D25	5-D25	5-D25	3-D25	7-D25	4-D25
	下端筋	6-D25	4-D25	3-D25	4-D25	4-D25	7-D25	4-D25
	Stirrup	D13 @150			D13@200	D13@100	D13 @100 (D13 @200)	
3	断面							( )内はG_{Y8A}を示す
	b×D	400×800			450×850		450×850	
	上端筋	7-D25	4-D25	6-D25	6-D25	3-D25	8-D25	4-D25
	下端筋	7-D25	4-D25	5-D25	5-D25	4-D25	8-D25	4-D25
	Stirrup	D13 @150			D13@200	D13@100	D13 @100 (D13 @200)	
2	断面							( )内はG_{Y8A}を示す
	b×D	400×850			500×900		500×900	
	上端筋	7-D25	4-D25	6-D25	7-D25	4-D25	9-D25	5-D25
	下端筋	7-D25	4-D25	5-D25	6-D25	4-D25	9-D25	5-D25
	Stirrup	D13 @150			D13 @100		D13 @100 (D13 @200)	
1	断面							( )内はG_{Y8A}を示す
	b×D	450×800			500×800		500×800	
	上端筋	7-D25	4-D25	6-D25	7-D25	4-D25	8-D25	4-D25
	下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	7-D25	4-D25	8-D25	5-D25
	Stirrup	D13 @150			D13 @150		D13 @100 (D13 @150)	
B1	断面	(.)内はG_{X5A}を示す 腹筋は2-D13 @200			腹筋は2-D13@200		G_{Y8}は、G_{Y7}に同じ (但しb×D=400×2710) G_{Y8A}は、G_{X5}に同じ	
	b×D	400×1,600(400×3,000)			400×3,000			
	上端筋	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25		
	下端筋	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25		
	Stirrup	D13 @150			D13 @150			

柱断面リスト 1/50

階	名称	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7, C_{7A}	C_8
4	断面								
	b×D	650×550	650×550	650×550	650×550	650×550	650×550	600×600	600×600
	主筋	12-D22	12-D22	12-D22	16-D22	14-D22	12-D22	12-D25	14-D25
	Hoop								
3	断面								
	b×D	650×550	650×550	650×550	650×550	650×550	650×550	700×600	700×600
	主筋	14-D22	12-D22	12-D22	18-D22	14-D22	18-D22	12-D25	18-D25
	Hoop	□D13 @75			□D13 @75	□D13 @75	□D13 @75		□D13 @75
2	断面								
	b×D	650×650	650×650	650×650	650×650	650×650	650×650	700×750	700×750
	主筋	18-D22	14-D22	12-D22	22-D22	16-D22	20-D22	10-D25	18-D25
	Hoop	□D13 @75	□D13 @75		□D13 @75	□D13 @75	□D13 @75		□D13 @75
1 柱脚	断面								
	b×D	650×650	650×650	650×650	650×650	650×650	650×650	700×750	700×750
	主筋	20-D22	16-D22	12-D22	24-D22	16-D22	20-D22	14-D25	18-D25
	Hoop	□D16 @75	□D16 @100	□D16 @100	□D16 @75	□D16 @100	□D16 @100	□D13 @75	□D13 @75
1 柱脚	断面							C_{7A}は、C_8に同じ	
	b×D	650×650	650×650	650×650	650×650	650×650	650×650	700×750	700×750
	主筋	24-D22	20-D22	14-D22	24-D22	16-D22	20-D22	22-D25	26-D25
	Hoop	□D16 @75	□D16 @100	□D16 @100	□D16 @75	□D16 @100	□D16 @100	□D13 @75	□D13 @25
B1	断面							C_{7A}は、C_8に同じ	
	b×D	650×650	650×650	650×650	650×650	650×650	650×650	700×750	700×750
	主筋	14-D22	14-D22	12-D22	16-D22	12-D22	12-D22	14-D25	16-D25
	Hoop								



KEY PLAN

共通事項

- 柱断面リスト
  - 柱脚は3F梁下端による。
  - Hoopは□D13-@100とする。
  - ハチは割り付け筋を示す。
  - Hoopは、㊐ S.2.3の W-1形による。
    但し、柱・梁仕口内のHoopは、H形とする。
- 1F、2F、3Fの柱・梁仕口内のHoopは、□D13-@100とする。

設計番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事		作成日 R4年12月
図面名 旧越中屋本店（構造）：大梁断面リスト（2）・柱断面リスト（参考）			縮尺 -
代表となる設計者（総括）			図面番号 KA-SB308

小梁断面リスト 1/30

名称	B1, B1C			B1A, B1B		B2		B3			B3A		B3B	
位置	外端	中央	内端	両端	中央	両端	中央	外端	中央	内端	内端	外端	端部	先端
断面	( )内は、B1Cを示す B1Cの主筋は、壁内にL型定着のこと			( )内は、B1Bを示す.										
b×D	300×600 (300×650)			300×600 (300×650)		300×500		400×800			400×800		400×800	
上端筋	3(3)-D22	3(3)-D22	5-D22	3(3)-D22	3-D22	3-D22	3-D22	4-D25	4-D25	7-D25	7-D25	4-D25	7-D25	4-D25
下端筋	4(4)-D22	4(4)-D22	3(3)-D22	3-D22	3(3)-D22	3-D22	3-D22	5-D25	5-D25	7-D25	7-D25	3-D25	7-D25	3-D25
Stirrup	D10-@150							D13-@150			D13-@150		D10-@100	

名称	B4, B4B		B4A			B5	B6		B6A			B6B	B7	
位置	両端	中央	外端	中央	内端	全断面	両端	中央	外端	中央	内端	全断面	N1端	N2端
断面	( )内は、B4Bを示す.													
b×D	300×550		300×550			腹筋4-D13	腹筋 6-D13		腹筋 6-D13			腹筋4-D13		
上端筋	4(3)-D19	2-D19	3-D19	3-D19	4-D19	450×600	500×1,600		500×1,600			450×1,600	900×500	
下端筋	3-D19	4-D19	4-D19	4-D19	3-D19	4-D22	5-D25	7-D25	7-D25	7-D25	3-D25	8-D25	4-D25	9-D25	7-D25
Stirrup						D13-@150	D13-@150		D13-@150			D13-@150	D13-@150	

名称	B8, B8A		B9, B9A		B10	B11		B12		B13		B14, B14A		
位置	両端	中央	両端	中央	全断面	両端	中央	外端	内端	両端	中央	外端	中央	内端
断面	( )内は、B8Aを示す.		( )内は、B9Aを示す.			腹筋 6-D13		腹筋 6-D13		腹筋 2-D13 @200		( )内は、B14Aを示す 主筋は、壁内にL型定着のこと		
b×D	350×800 (350×920)		350×700		350×700	550×1,600		600×1,600		350×3,000		350×650		
上端筋	4-D22	3-D22	3(4)-D22	3-D22	3-D22	6-D25	11-D25	5-D25	7-D25	4-D25	6-D25	3(4)-D22	3(7)-D22	5(7)-D22
下端筋	4-D22	7-D22	4-D22	6(4)-D22	3-D22	6-D25	6-D25	5-D25	7-D25	2-D25	2-D25	3(4)-D22	5(7)-D22	5(7)-D22
Stirrup						D13-@150		D13-@150		D13-@100		D10-@150 (D10-@100)		

共通事項

特記なき限り Stirrup は D10-@200 とする.
腹筋は 2-D10 とする
巾止筋は D10-@1,000 とする

スラブ配筋リスト

配筋種別		短辺方向・主力筋 全域	長辺方向・配力筋 全域
FS1	上端筋	D16-@200	D16-@200
	下端筋	D16-@150	D16-@200
FS2	上端筋	D16-@150	D16-@200
	下端筋	D16-@100	D16-@150
FS3	上端筋	D16-@200	D16-@200
	下端筋	D16-@200	D16-@200

共通事項

○巾止筋は、凵型 D13-@1,000 とする.

間柱断面リスト 1/30

名称	P1	P2	P3	P4	P5	P6
断面(柱頭)						
b×D	350×650	800×500	500×500	500×500	500×650	400×400
主筋	10-D22	12-D25	12-D22	8-D22	12-D22	8-D19
Hoop		D13-@100				
断面(柱脚)	同上		同上	同上	同上	同上
b×D		800×500				
主筋		20-D25				
Hoop		D13-@100				

共通事項

特記なき限り Hoop は D10-@100 とする.
柱脚の主筋は座ぐりフック付とする.
Hoop は H形とする.

壁断面リスト 1/30

名称	W13	W18	W20	W25	W25A	W30
断面(平面)	130	180	200	250	250	300
縦筋	D10-@150 シングル	D13-@150 ダブル	D13-@200 ダブル	D13-@200 ダブル	D13-@200 ダブル	D13-@200 ダブル
横筋	D10-@100 シングル	D10-@150 ダブル	D13-@200 ダブル	D13-@200 ダブル	D13-@200 ダブル	D13-@200 ダブル
開口部周囲、端部補強筋	2-D13	4-D13	4-D13	4-D16	4-D16	4-D16
隅部斜補強筋	2-D13	2-D13	2-D13	2-D16	2-D16	2-D16
巾止筋	⊓ D10-@1,000	⊓ D10-@1,000	⊓ D10-@1,000	⊓ D10-@1,000	⊓ D10-@1,000	⊓ D10-@1,000

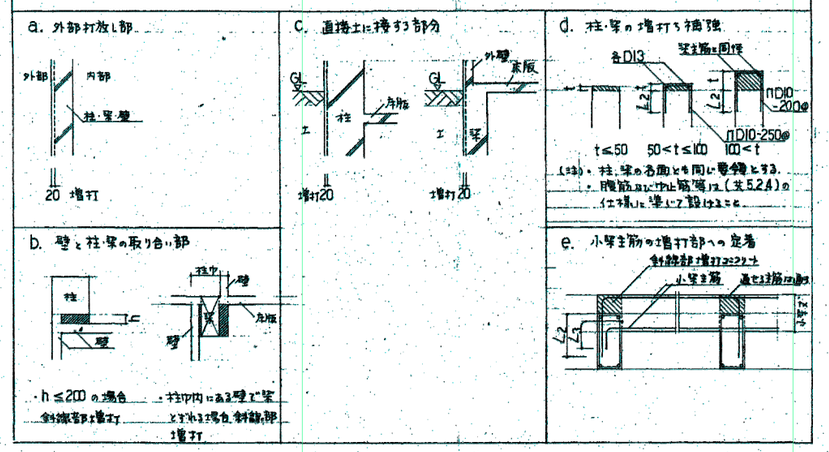
名称	W30A	W30B	KW3
断面(平面)	300	300	200 ※鉄筋は構造外周に配筋する
縦筋	D13-@150 ダブル	D13-@100 ダブル	D13-@100 ダブル
横筋	D13-@200 ダブル	D13-@200 ダブル	D10-@200 ダブル
開口部周囲、端部補強筋	5-D16	5-D16	4-D13
隅部斜補強筋	2-D16	2-D16	2-D13
巾止筋	⊓ D10-@1,000	⊓ D10-@1,000	⊓ D10-@1,000

共通事項

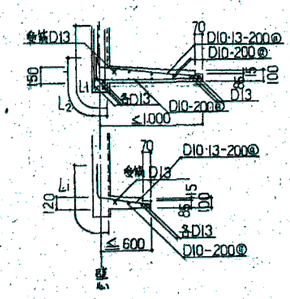
○特記なき限り壁の基準配筋は建築工事共通仕様書(以下(共)とする)S.2.6表による.
○W18 及び W13 は、片面打壁とし開口部の補強は(共)S.2.9表A形とする. 又上記以外は全て両打壁とし特記なき限り壁開口部の補強は(共)S.2.10表B形とする.

設計番号	工事名称	旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名	旧越中屋本店（構造）：その他部材断面リスト（参考）		縮尺 —
代表となる設計者(総括)			図面番号 KA-SB309

コンクリート増打ち要領 及び 補強

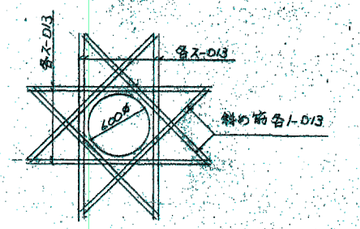


底の配筋



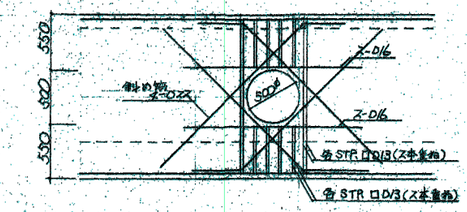
B階マンホール床開口補強

注、起筋長は開口より L とする。



店舗棟 B階梁貫通孔補強

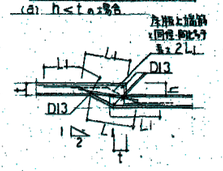
注、特記なき限り鉄筋コンクリート構造配筋要領付録 Z. はり貫通孔の補強による。



斜め筋	4-4-D22
たて	4-Z-D13
よこ	Z-Z-D16
上・下STP	8-Z-D13

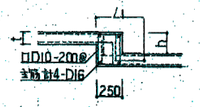
床版の段違い部補強

(a) h<t の場合



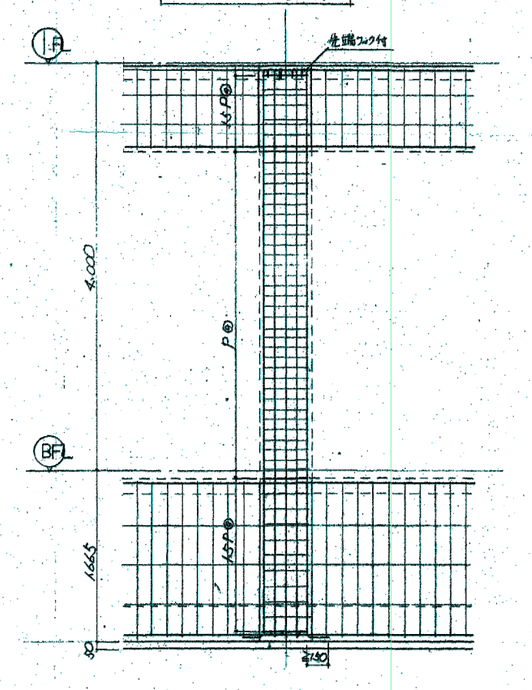
(b) h≧t の場合

・床版筋の梁形への定着長は全てL1とする。

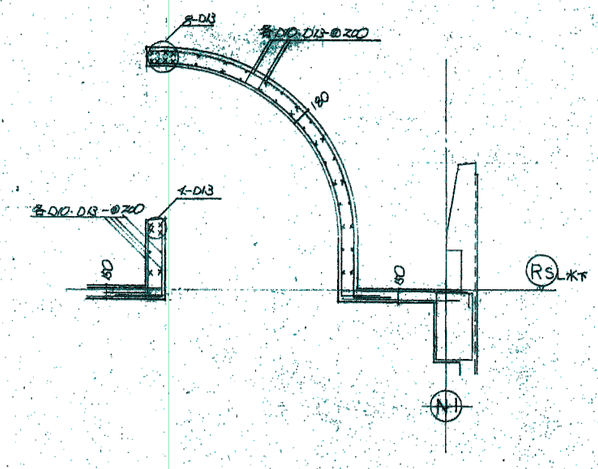


・梁形は、両端又は大梁又は小梁に取り付けサレ、定着のこと

間柱配筋要領

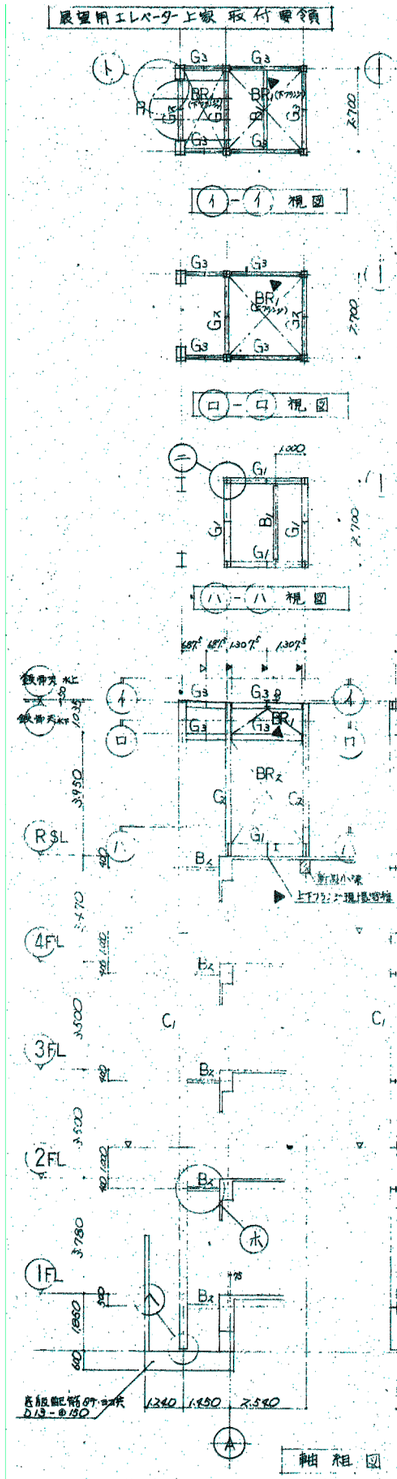


天窓配筋



設計番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事		作成日 R4年12月
図面名 旧越中屋本店（構造）：雑配筋図（参考）			縮尺 —
代表となる設計者(総括)			図面番号 KA-SB310

展望用エレベーター上屋 取付要領



鉄骨部材リスト

名称	サイズ	剛接合 フランジ S肌	剛接合 フランジ 高力ボルト	剛接合 ウェブ S肌	剛接合 ウェブ 高力ボルト	ピン接合 S肌 G肌	ピン接合 高力ボルト
▶ G1	H-400×200×8×13	現場溶接		2SR-9×165×260	4-M20		
G2	H-300×150×6.5×9	2SR-9×144×285	16-M20	2SR-6×165×260	6-M20		
G3	H-194×150×6×9	2SR-9×144×285 4SR-9×84×285	16-M20	2SR-6×165×440	4-M20	2SR-6×165×440	4-M20
B1	H-194×150×6×9					GR-6	2-M20
▶ B2	H-194×150×6×9					GR-9	2-M20
C1	H-440×300×11×18	2SR-12×394×435 4SR-12×104×435	32-M20(4ボリ)	2SR-9×320×465	10-M20		
C2	H-200×200×8×12					▼	
P1	[-100×50×5					2コ L-80×75×9 SR-6×165×80	2-M16
▶ BR1	L-65×65×6					GR-6	3-M16
▶ BR2	L-75×75×6					GR-6	4-M16

高力ボルトのピッチ・入りあき・はしあき

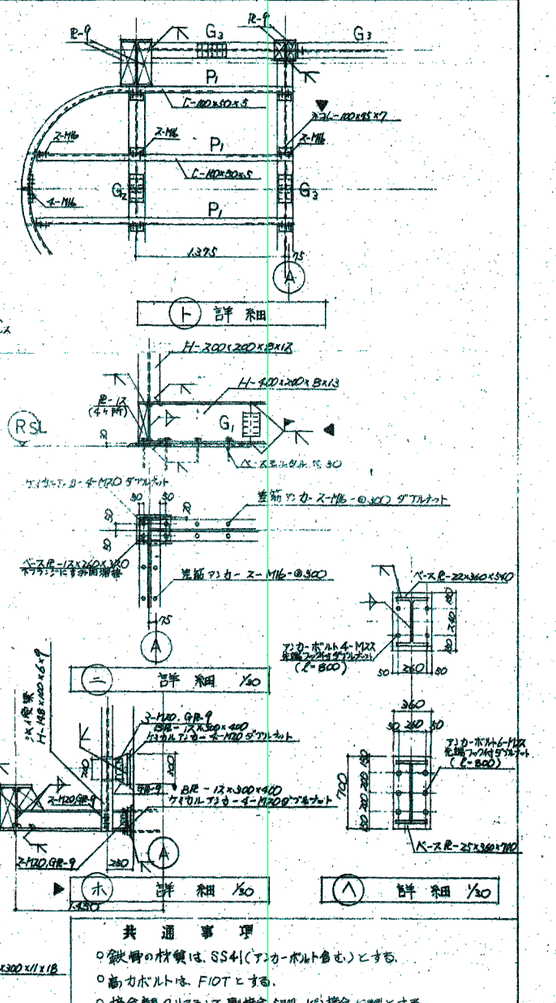
	最小ピッチ	最小入りあき	最小はしあき	標準ピッチ
M16	30	40	60	
M20	35	40	60	

スミ肉のサイズ

七	6	9	12	16	
S	6	7	10	12	

七は、七1、七2のうちいずれか小寸法に従う。

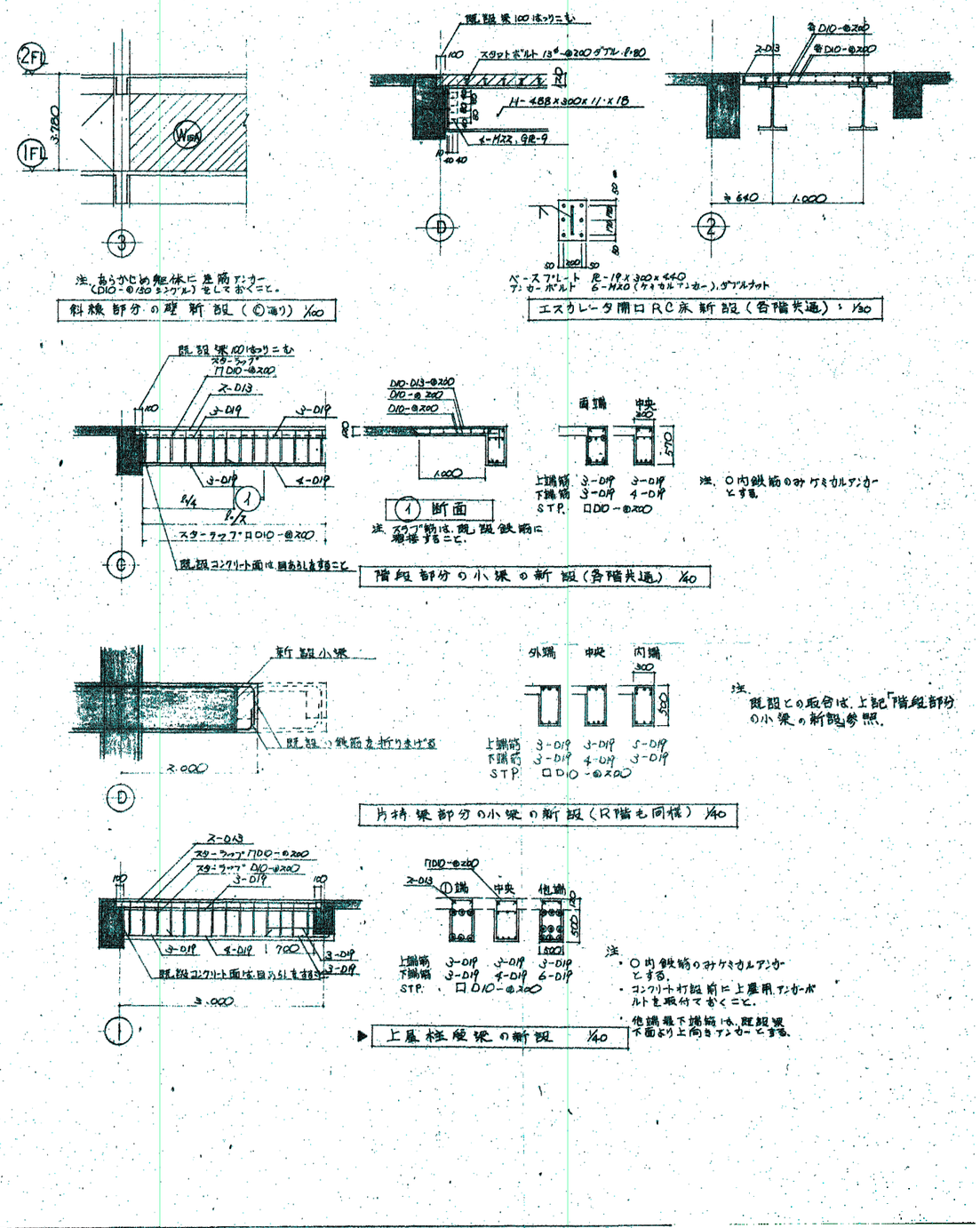
注.
- 図面内の▷印は、剛接合位置を示す。
- ▶印は、ピン接合位置を示す。



共通事項

- ○鉄骨の材質は、SS41(アンカーボルト含む)とする。
- ○高力ボルトは、F10Tとする。
- ○接合部クリアランス 剛接合 5mm、ピン接合 10mmとする。
- ○開先形状については、日本建築学会「鉄骨工事技術指針」の開先形状を標準とする。

既設部分補修要領



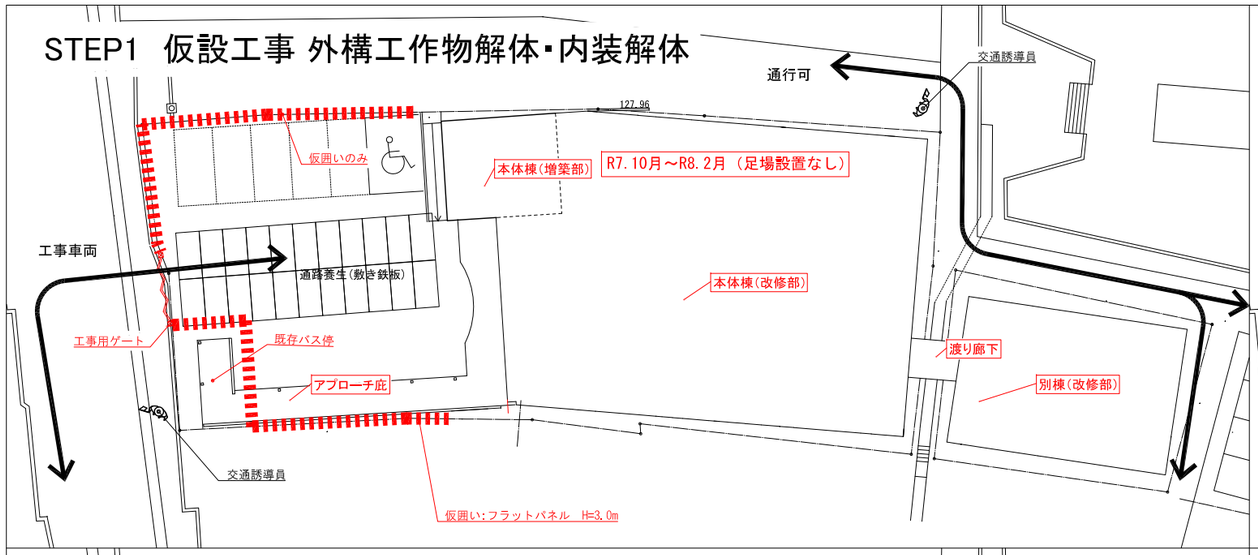
注. 既設との取合は、上記「階段部分の小梁の新設」参照。

共通事項

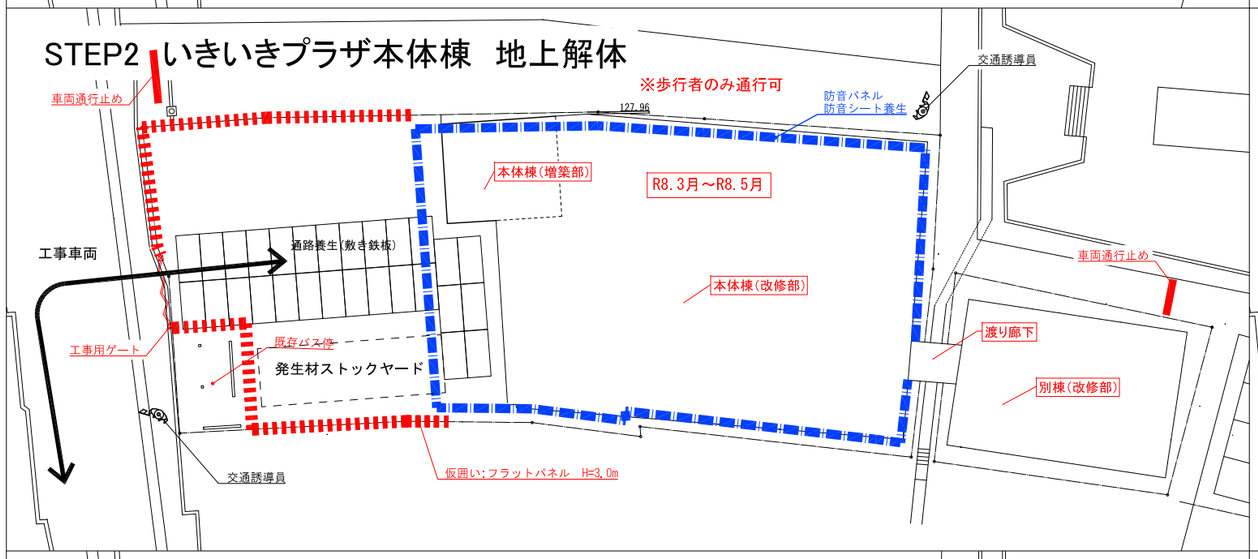
- ○コンクリート強度は、$F_c=210$ kg/cm² とする。
- ○鉄筋の材質は、D19 SD35, D10, D13 SD30とする。
- ○鉄骨の材質は、SS41(アンカーボルト含む)とする。
- ○ボルトは、高力ボルトF10Tとする。
- ○既設コンクリート面は、十分に目荒らし を行ない、打継不良が生じない様にすること。
- ○施工前に施工計画書を提出し、監督員の承認を得ること。
- ▶○打継面にクリートボンド塗布すること。
- ▷鉄骨部 ロックウール吹付 ⊕30.(1時間耐火)

設計番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事		作成日 R4年12月
図面名 旧越中屋本店（構造）：既存部分補修要領（参考）			縮尺 —
代表となる設計者(担当)			図面番号 KA-SB311

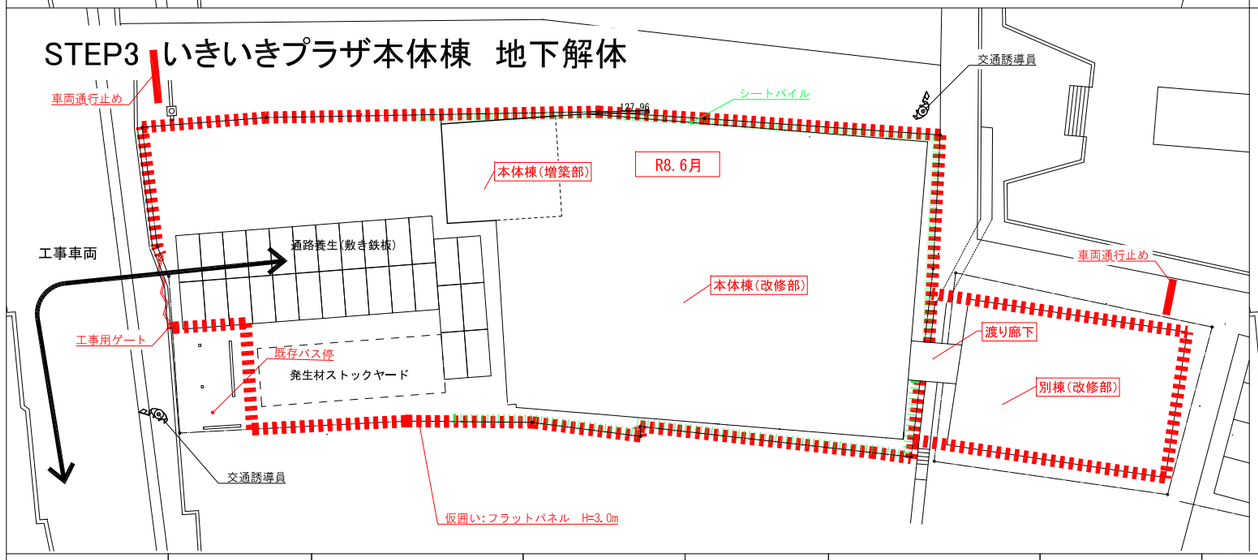
STEP1 仮設工事 外構工作物解体・内装解体



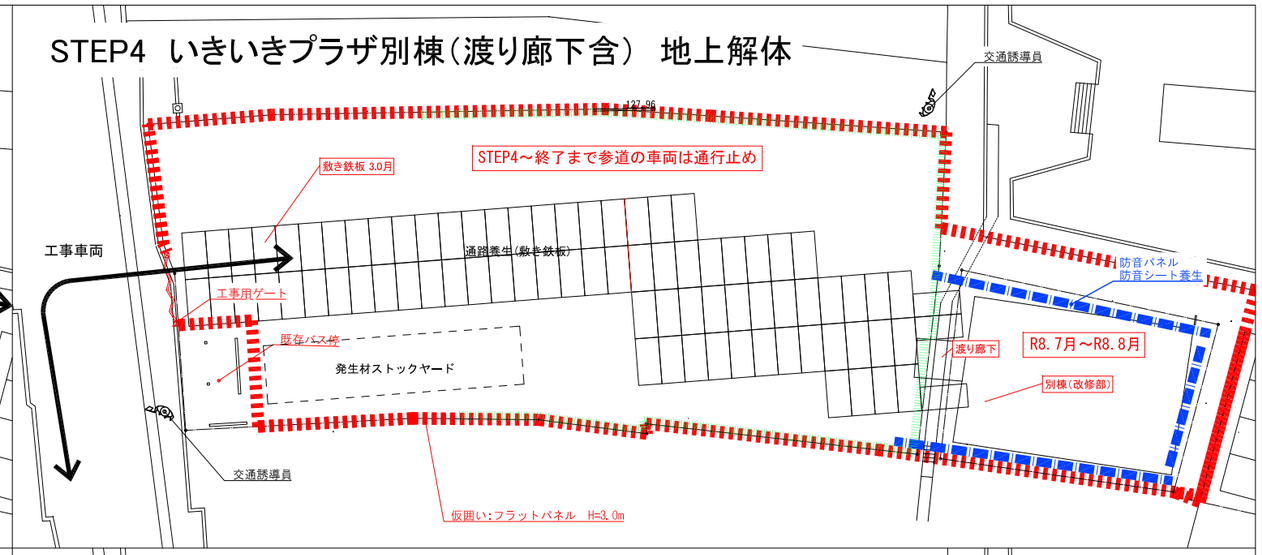
STEP2 いきいきプラザ本体棟 地上解体



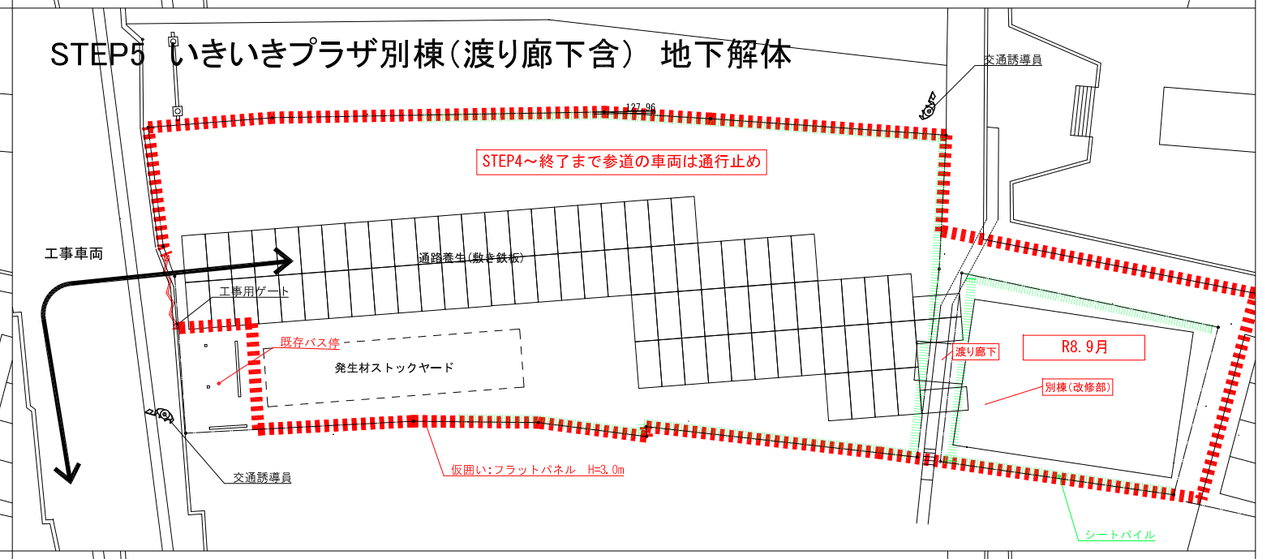
STEP3 いきいきプラザ本体棟 地下解体



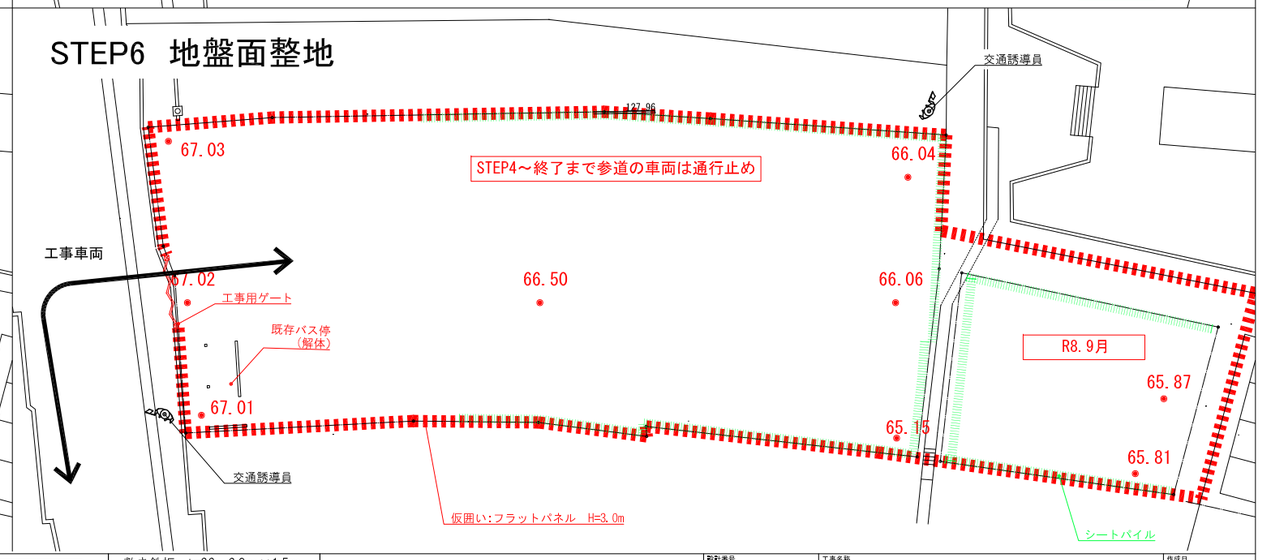
STEP4 いきいきプラザ別棟（渡り廊下含） 地上解体



STEP5 いきいきプラザ別棟（渡り廊下含） 地下解体



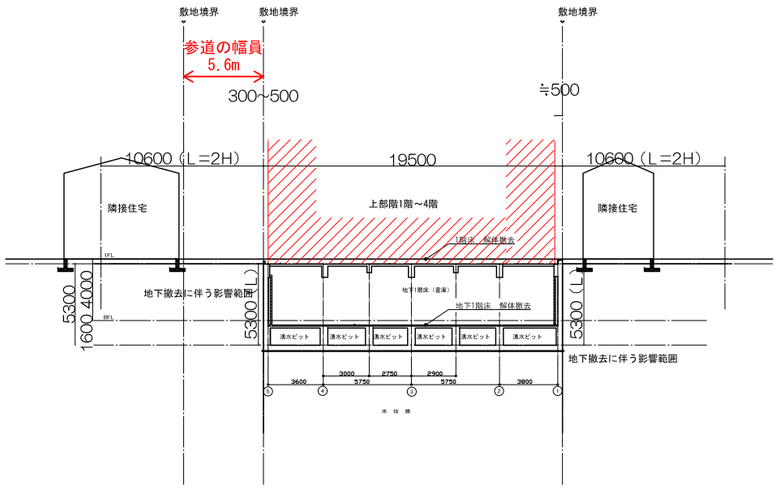
STEP6 地盤面整地



仮囲い		フラットパネル H=3.0m	パネルゲート		W=6.0m	通路養生		敷き鉄板 t=22 3.0m×1.5m（地盤改良を行った上で鉄板敷）
防音パネル又は防音シート（解体用枠組み足場）		防音パネル又は防音シート	工事車両動線			埋め戻しの地盤レベル		
シートパイル		W=400（有効幅）	交通誘導員		常時1～2名 必要に応じて増減すること			

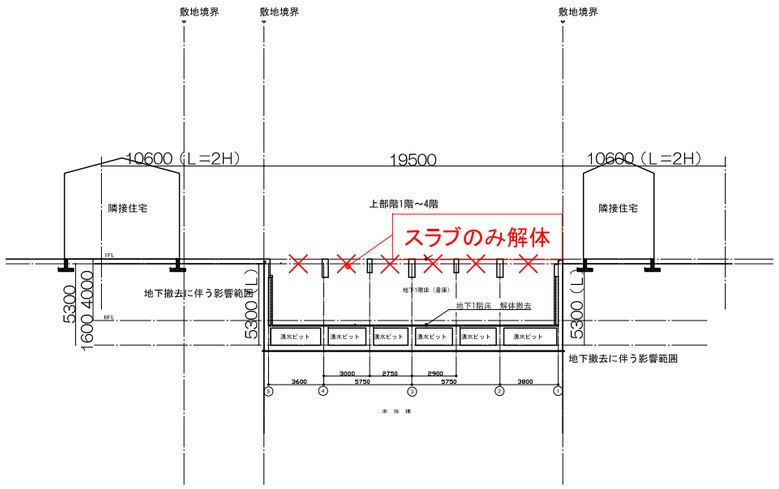
設計番号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事		作成日 R4年12月
図面名 いきいきプラザ：解体ステップ図（参考）		1:200 (A1) 1:400 (A3)	縮尺
代表となる設計者(担当)			図面番号 KA501

STEP A　上部解体



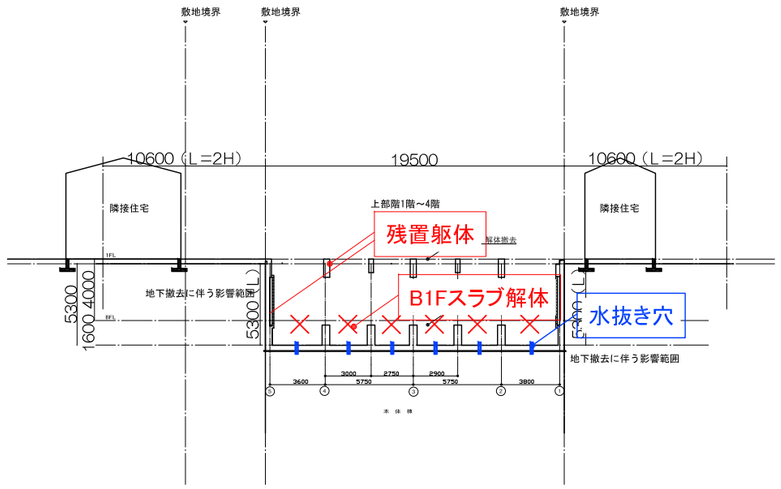
S-1/200

STEP B　1階スラブ解体



S-1/200

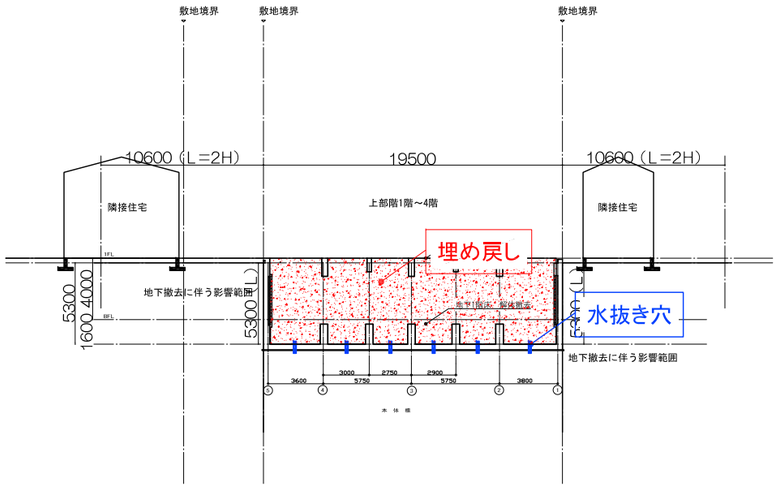
STEP C　B1階スラブ解体 ※最下層スラブに水抜き穴を設ける。



S-1/200

STEP D　良質土による埋め戻し ※良質土もしくは流動化処理土

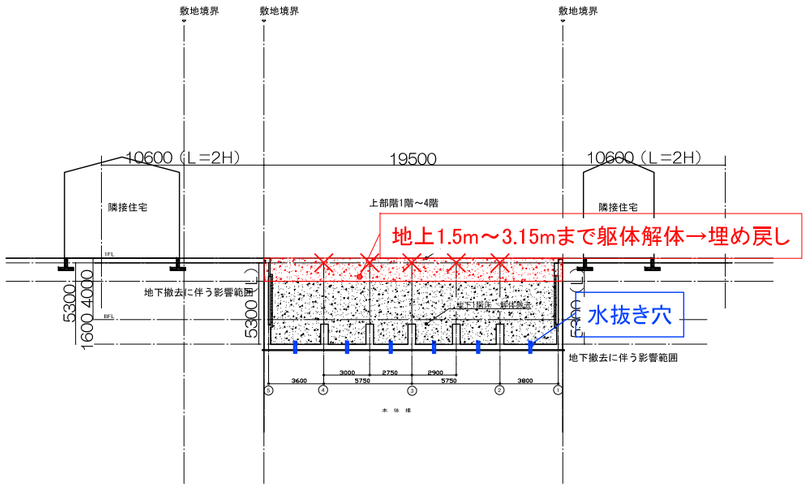
※構造体（柱・梁）は残したまま、スラブのみ撤去（切梁は設置しない。）



S-1/200

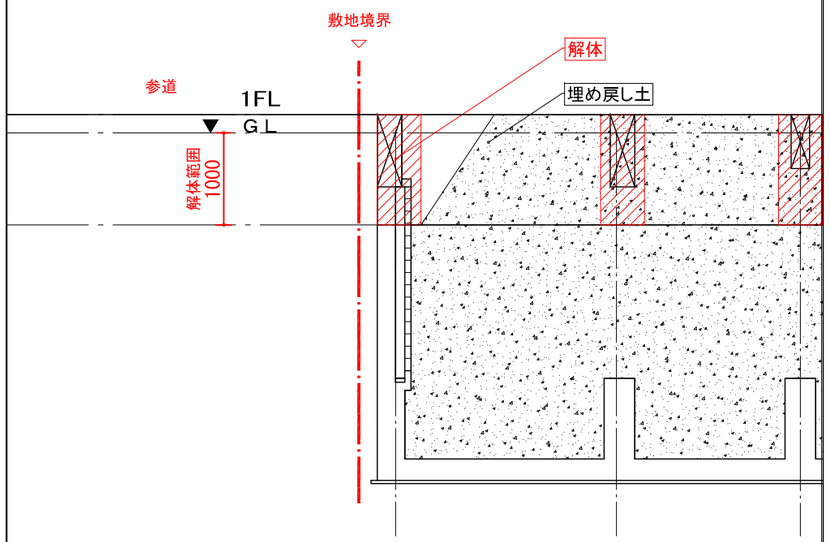
STEP E　地表面解体+埋め戻し ※地上1.5m（～3.15m）深程度解体（地下構造躯体含む）

※地上部（地上1.5m（～3.15m）深程度）の解体+埋め戻しを行う。



S-1/200

※STEP4の埋め戻し後、STEP5において地上1.5m（～3.15m）深さまでは柱梁を撤去



設計書号	工事名称 旧いきいきプラザ解体撤去工事	作成日 R4年12月
図面名 いきいきプラザ：地下躯体解体ステップ図（参考）		縮尺 -
代表となる設計者（総括）		図面番号 KA502